

鳥取県消防学校 実火訓練棟建替工事

NO.	図面名称	備考	NO.	図面名称	備考	NO.	図面名称	備考
A-01	特記仕様書(1)		A-21	吊戸詳細図(SD-1)	"	S-11	軸組図(2)	"
A-02	特記仕様書(2)					S-12	部材断面リスト	"
A-03	特記仕様書(3)		A-22	解体工事工程表・平面図・立面図	b2 【解体】	S-13	配筋詳細図	"
A-04	特記仕様書(4)		A-23	仕上表・天井伏図・建具表	"			
A-05	解体特記仕様書		A-24	矩計図	"	E-01	電気設備工事 特記仕様書(1)	
A-06	付近見取図・工事概要・全体配置図		A-25	平面詳細図・展開図	"	E-02	電気設備工事 特記仕様書(2)	
A-07	求積図・工事工程表・仮設計画図		A-26	伏図・軸組図・部材リスト・基礎詳細図	"	E-03	電気設備工事 付近見取図・全体配置図・工事概要	
A-08	外構図・外構詳細図1(屋外消火実験場・オイルトラップ)		A-27	鉄骨架構詳細図	"	E-04	電気設備工事 構内配線図	
A-09	外構詳細図2(物置2・防音フェンス)		A-28	各部詳細図	"	E-05	電気設備工事 電灯コンセント設備 1・2階平面図(建替後)	
A-10	内部仕上表・平面図・断面図	b6 【新築】						
A-11	外部仕上表・屋根伏図・立面図	"	S-01	構造関係共通事項(1)	b6 【新築】	M-01	機械設備工事 特記仕様書(1)	
A-12	断面詳細図(A・B・C)、内部仕上断面詳細図	"	S-02	構造関係共通事項(2)	"	M-02	機械設備工事 特記仕様書(2)	
A-13	断面詳細図(D・E)	"	S-03	構造関係共通事項(3)	"	M-03	機械設備工事 付近見取図・全体配置図・工事概要	
A-14	断面詳細図(F・G)、ヤグラ・架台詳細図	"	S-04	構造関係共通事項(4)	"	M-04	機械設備工事 排水設備 1・2階平面図(建替後)、各樹寸法表	
A-15	平面詳細図	"	S-05	壁式構造配筋標準図(1)	"	M-05	機械設備工事 排水設備 1階平面図(建替前)	
A-16	展開図(1)	"	S-06	壁式構造配筋標準図(2)	"			
A-17	展開図(2)	"	S-07	構造伏図(1)	"			
A-18	天井伏図、流し台・焚火台・灰受詳細図	"	S-08	基礎リスト	"			
A-19	建具表	"	S-09	構造伏図(2)	"			
A-20	吊戸詳細図(FD-1)	"	S-10	軸組図(1)	"			

その建築設計事務所
令和7年3月

<p>5 砂利地業 (4.6.2.3)</p> <p>6 捨てコンクリート地業 (4.6.4)</p> <p>7 床下防湿層 (4.6.2.5)</p> <p>8 地盤改良工法</p>	<p>材料 ※ 再生クラッシュラン G ・ 切込み砂利及び切込み砕石</p> <p>厚さ及び使用範囲</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">使用範囲</th></tr> <tr><td>※ 60</td><td>基礎下 ・ 基礎床下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下</td></tr> <tr><td>○ 100</td><td>基礎下 ○ 基礎床下 ○ 土間コンクリート下 ○ 土に接するスラブ下</td></tr> </table> <p>コンクリートの仕様 ※ 6コンクリート工事 6無筋コンクリートによる</p> <p>厚さ及び使用範囲</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">使用範囲</th></tr> <tr><td>※ 60</td><td>基礎下 ・ 土に接するスラブ下</td></tr> <tr><td>○ 50</td><td>基礎下 ・ 土に接するスラブ下</td></tr> </table> <p>施工範囲 ※ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）</p> <p>施工方法 ※ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上</p> <p>防湿層の位置 ※ 図示による</p> <p>工法 ○ 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は構造図による。 ・ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は構造図による。</p>	使用範囲		※ 60	基礎下 ・ 基礎床下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下	○ 100	基礎下 ○ 基礎床下 ○ 土間コンクリート下 ○ 土に接するスラブ下	使用範囲		※ 60	基礎下 ・ 土に接するスラブ下	○ 50	基礎下 ・ 土に接するスラブ下	<p>11 梁貫通孔の補強形式</p> <p>※ H形 構造関係共通事項 表11.11による (※ 全て ・ 構造図による)</p> <p>・ M形 図示による (※ 全て ・ 構造図による)</p> <p>・ MH形 図示による (※ 全て ・ 構造図による)</p> <p>・ 構造図による</p>	<p>12 構造（耐震）スリット</p> <p>耐震スリットの設置箇所 ※ 構造図による</p> <p>方式 ※ 完全 ・ 部分</p> <p>形状 ※ 構造図による</p> <p>耐火、遮音、防水処理への配慮</p> <p>適用箇所 ※ 意匠図による</p> <p>仕様 ※ 意匠図による</p> <p>耐震スリット部詳細 ※ 図示による</p>	<p>13 特殊な鉄筋継手</p> <p>(5.5.3.5) (5.6.3.5)</p>	<p>6 コンクリート工事</p>	<p>1 コンクリートの種類 (6.2.1)</p> <p>2 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等 (6.2.1~4) (6.3.2) (6.10.1.2)</p> <p>3 セメント (6.3.1)</p> <p>4 骨材 (6.3.1)</p> <p>5 混和剤 (6.3.1)</p> <p>6 無筋コンクリート (6.3.1) (6.14.1)</p> <p>7 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6.6.4) (6.8.1)</p> <p>8 コンクリートの仕上げ (6.2.5)</p> <p>9 打増し厚さ (6.8.1)</p> <p>10 型枠 (6.8.2)</p> <p>11 コンクリートの試験 (6.9.1~5)</p>	<p>7 鉄骨工事</p> <p>1 鉄骨の製作工場 (7.1.3)</p> <p>2 施工管理技術者 (7.1.4)</p> <p>3 鋼材 (7.2.1)</p> <p>4 高力ボルト (7.2.2) (7.3.2) (7.4.2)</p> <p>5 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.3.2) (7.12.4)</p> <p>6 普通ボルト (7.2.3) (7.3.2) (7.3.8)</p> <p>7 アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2) (7.10.3)</p> <p>8 ターンバックル (7.2.6)</p> <p>9 デッキプレート (7.2.7) (7.7.8)</p> <p>10 スタッポルト (7.2.8)</p> <p>11 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3)</p> <p>12 製作精度 (7.3.3)</p>	<p>製作工場の加工能力</p> <p>※ 建築基準法第77条の56第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (株)日本教育評価センター及び、(株)全国鉄骨評価機構(日)社(全国鋼構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(・)J・R ※M・H・S)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場</p> <p>・ 監督職員の承諾する製作工場(標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)</p> <p>※ 適用する ・ 適用しない</p> <p>鋼材の材質</p> <table border="1"> <tr><th colspan="3">表7.2.1</th></tr> <tr><th>種類の記号</th><th>使用箇所</th><th>規格等</th></tr> <tr><td>STK400</td><td>ヤグラ</td><td>※ JIS規格による</td></tr> <tr><td>SN400C</td><td>ベースプレート</td><td>※ JIS規格による</td></tr> <tr><td>SPA-H</td><td>内壁(燃焼室)</td><td>※ JIS規格による</td></tr> </table> <p>高力ボルトの種類</p> <p>※ トルシア形高力ボルト 2種(S10T) 建築基準法に基づき認定を受けたもの</p> <p>・ JIS形高力ボルト 2種(F10T)</p> <p>高力ボルトの径 ※ 構造図による</p> <p>ボルトの繰進距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>※ 構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-1繰進距離及びボルト間隔による ・ 構造図による</p> <p>摩擦面の処理方法等</p> <p>※ プラスト処理(表面粗度50μmRz以上)又はりん酸塩処理 ・ 構造図による</p> <p>・ すべり試験の実施 ※ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験</p> <p>試験方法等 ※ 構造図による</p> <p>すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(7)又は(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと</p> <p>セットの種類</p> <p>※ 1種(F8T相当) 建築基準法に基づき認定を受けたもの</p> <p>溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径</p> <p>・ 大臣認定を受けた内容による</p> <p>ボルトの繰進距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>・ 構造関係共通事項による</p> <p>摩擦面の処理</p> <p>※ プラスト処理(表面粗度50μmRz以上)</p> <p>・ プラスト以外の特別な処理 ・ 構造図による</p> <p>・ すべり試験の実施 ※ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験</p> <p>試験方法等 ※ 構造図による</p> <p>すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(7)又は(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと</p> <p>ボルト及びナットの材料等</p> <p>・ 標準仕様書 表7.2.3 (JIS付属書品)による</p> <p>・ 標準仕様書 表7.2.3 (JIS付属書品)又はJIS本体規格品(130規格)による (JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径×内径又は呼び径×外径とし、ナットの種類を六角ナット-Cの鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの外径の最大寸法は、ボルト径の2倍以下とする。)</p> <p>産金 ※ 標準仕様書 表7.2.3(d)による</p> <p>ボルトの繰進距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>・ 構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-1繰進距離及びボルト間隔 ・ 構造図による</p> <p>母屋又は副棟の取付けに使用するボルトの孔径</p> <p>※ ねじの呼び径+1.0mm ・ 構造図による</p> <p>適用</p> <p>○ 構造用アンカーボルト</p> <p>セットの種類(JIS B1220)</p> <p>○ ABR400 ・ ABR490</p> <p>形状、寸法 ※ 構造図による</p> <p>・ 建方用アンカーボルト</p> <p>種類 ・ SS400 ・ ()</p> <p>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</p> <p>※ 標準仕様書 表7.2.3による ・ ()</p> <p>・ 構造図による</p> <p>・ 標準仕様書7.4.2以外のアンカーボルト</p> <p>適用箇所 ・ 図示による()</p> <p>種類SS400</p> <p>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</p> <p>※ 標準仕様書 表7.2.3による</p> <p>ボルトの繰進距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>※ 構造図による</p> <p>種類</p> <p>建築用ターンバックル鋼 ※ 割付式</p> <p>建築用ターンバックルボルト ※ 羽子板ボルト</p> <p>ねじの呼び ※ 構造図による</p> <p>工法の種別</p> <p>・ 合成スラブ(適用箇所) ※ 構造図による ()</p> <p>・ 床型枠用(適用箇所) ※ 構造図による ()</p> <p>・ ()</p> <p>材質、形状及び寸法 ※ 構造図による</p> <p>床型枠を使用する場合において、受注者は施工に先立ち安全性を確認するものとする。</p> <p>鉄骨部材への溶接方法 ※ 構造図による</p> <p>耐火認定 ・ 有り(耐火時間) ※ 図示による () ・ 無し</p> <p>※ 鋼付スタッド(JIS B 1198)</p> <table border="1"> <tr><th>径(呼び名)</th><th>長さ(呼び長さ) mm</th><th>適用箇所</th></tr> <tr><td>16φ</td><td>・ 80 ・ 100 ・ 120</td><td></td></tr> <tr><td>19φ</td><td>・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150</td><td></td></tr> <tr><td>22φ</td><td>・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150</td><td></td></tr> </table> <p>モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル</p> <p>無収縮モルタルの材料及び割合</p> <p>※ 標準仕様書7.2.9(2) (ア)から(エ)による</p> <p>※ 標準仕様書7.3.3及びH12建設第1464号第二号イによる</p> <p>通しダイヤフラムの許容誤差</p> <p>・ ダイヤフラムをH12建設第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り</p> <p>補強方法</p> <p>・ 「突合わせ継手の食い違い仕口の検査・補強マニュアル」による</p> <p>・ 全てのダイヤフラムはH12建設第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること</p>	表7.2.1			種類の記号	使用箇所	規格等	STK400	ヤグラ	※ JIS規格による	SN400C	ベースプレート	※ JIS規格による	SPA-H	内壁(燃焼室)	※ JIS規格による	径(呼び名)	長さ(呼び長さ) mm	適用箇所	16φ	・ 80 ・ 100 ・ 120		19φ	・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150		22φ	・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150	
使用範囲																																															
※ 60	基礎下 ・ 基礎床下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下																																														
○ 100	基礎下 ○ 基礎床下 ○ 土間コンクリート下 ○ 土に接するスラブ下																																														
使用範囲																																															
※ 60	基礎下 ・ 土に接するスラブ下																																														
○ 50	基礎下 ・ 土に接するスラブ下																																														
表7.2.1																																															
種類の記号	使用箇所	規格等																																													
STK400	ヤグラ	※ JIS規格による																																													
SN400C	ベースプレート	※ JIS規格による																																													
SPA-H	内壁(燃焼室)	※ JIS規格による																																													
径(呼び名)	長さ(呼び長さ) mm	適用箇所																																													
16φ	・ 80 ・ 100 ・ 120																																														
19φ	・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150																																														
22φ	・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150																																														
<p>その建築設計事務所</p> <p>一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号</p> <p>〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17</p> <p>TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101</p> <p>一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹</p>	<p>件名</p> <p>鳥取県消防学校 火災訓練棟建替工事</p> <p>図名</p> <p>特記仕様書(2)</p> <p>作図</p> <p>承認</p> <p>承認</p> <p>承認</p> <p>図面番号</p> <p>A-02</p> <p>令和7年3月-日</p>	<p>鳥取県 令和6年度 J2400101 総務部管轄課</p>																																													

13	仮組	仮組を行う範囲 ・ 構造図による			
14	高力ボルト接合	スプライスプレートの材質 ※ 鋼材の種類及び引張強さによる区分は母材と同等とする ファイアプレート材質 ※ SS400とする			
15	溶接作業を行う技能資格者の数量付加試験	※配置する ・ 配置しない			
16	溶接部の試験	1 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※ 構造関係共通事項による ・ 図示による 適用箇所 ※ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・ 図示による			
17	溶接部の試験	平12建令第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 突入検査による ・ 抜き取り検査1 ・ 抜き取り検査2 JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付3「溶接」に関する試験方法等 ・ JASS 6 付則 6 [突入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※ 行う ・ 行わない			
18	耐火被覆	種類及び性能 種別	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)
19	建方精度	※ (社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則6 [鉄骨精度検査基準] 付表5 [工事現場]による			
20	アンカーボルトの保持及び埋込み工法	構造用アンカーフレーションの形状及び寸法 ※ 図示による 埋込み用アンカーフレーションの保持及び埋込み工法 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 ※標準仕様書 表7.10.2 (※A種[モルタル厚さ50] ○B種[モルタル厚さ30])による			
21	錆止め塗装	塗料の種類 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 SOPの場合 ※ 標準仕様書 表18.3.2のA種 DPの場合 ※ 標準仕様書 表18.3.2のB種 EP-0の場合 ※ 標準仕様書 表18.3.2のC種 耐火被覆材の接着する面への塗装 ・ 行う 適用箇所 ※ 図示による ・ 行わない			
22	溶融亜鉛めっき工法	種別等 ※ 表14.2.2			
23	梁貫通孔の補強	補強方法 ・ 補強プレート法 ・ 補強トラス法 適用箇所 ・ 構造図による			

8	1	補強コンクリートブロック造	ブロックの種類 断面形状及び圧縮強さ による区分 ※空気ブロック-16 ・ モルタルの割合 (容積比) ※ 標準仕様書表8.2.11による ・ (セメント ()) ・ 砂 ()) 各部の配筋 ※ 図示による モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 ※ 図示による 目地仕上げ ・ 押し目地仕上げ ・ 化粧目地仕上げ
2	2	コンクリートブロック	ブロックの種類 断面形状及び圧縮強さによる区分 ※空気ブロック-16 ・ ※特殊ブロック-20 ○ 空洞ブロック08 モルタルの割合 (容積比) ※標準仕様書表8.2.11による ・ セメント () ・ 砂 () ・ 礫の厚さ ※ 礫の高さが2m以下の場合120mm、礫の高さが2mを超える場合150mm 壁鉄筋の継手、定着及び束端部の折り曲げ形状 ※ 図示 各部の配筋 ※ 図示
3	3	A L Cパネル	パネルの区分 単位荷重 (N/m ²) 厚さ (mm) 長さ (mm) 幅 (mm) 耐火性能 表面加工 構法の種別
4	4	押出成形セメント板 (ECP)	パネルの種類 表面形状 厚さ (mm) 幅 (mm) 工法の種別 備考
9	1	アスファルト防水	アスファルトの種類 3種 防水層の下のモルタル塗り 屋根保護防水

11	1	タイル工事	(品質・性能) 分類・規格 寸法 (mm) 寸法の許容差 出荷時の含水率 曲げ強さ・曲げモーメント (N・cm) 単位幅10cmあたりの曲げモーメント 吸水率 (%) 吸水による長さ変化率 (%) 難燃性 耐凍結融解性能 耐衝撃性能 剛性 (E×1) 試験方法 1) 寸法の測定方法 2) 曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築物用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。 3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。 4) 難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。 5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40mm×長さ160mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 1464「塩化カルシウム(試薬)」に規定する塩化カルシウム又はJIS K 1464「工業用乾燥機」に規定する品質に適合するシリカゲルで調製したデジケートに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の縦線間隔が140mmになるように縦線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて縦線間の長さを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験片の長さ方向を水平にばらして、その一端が水平約30mmとなるように保持して、常温の水の中に浸せきする。 24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び縦線間の長さ(L2)を測る。 吸水による長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。 (ΔL) = (L2 - L1) / L1 × 100 ΔL: 吸水による長さ変化率 (%) L1: 乾燥時の縦線間の長さ (mm) L2: 吸水時の縦線間の長さ (mm) 6) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「産業系サイディング」の凍結水中融解法によって行う。 100、200、300サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(産業系パネルⅠ類は200サイクルまでとする。) -20±3℃の空气中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。 7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築物用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。おもりは鋼製のなす形おもりとし、記号(W-1000)、質量1000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体の中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部(自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大ほみ強さを測定する。
7	7	シーリング	シーリング 下表以外は、標準仕様書表9.7.11による ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

1	1	伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	位置 ※標準仕様書表11.1.11による ・ 図示
2	2	見本焼き試験施工	見本焼き ・ 行う ※ 行わない 試験張り ・ 行う ※ 行わない
3	3	セメントモルタルによるタイル張り	タイルの形状、寸法等 施工 ※ 図示による 目地 ※ 図示による 段昇 ※ 図示による
4	4	品質性能等	保水率: 70%以上 単位容積質量: 1.8kg/L以上 接着強さ: 標準時 0.6N/mm ² 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm ² 以上 長さ変化率: 0.2%以下 曲げ強さ: 4.0N/mm ² 以上 試験方法 イ) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準値より換算し、所定量の試料とする。 繰り返しは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」9.11に規定する繰り返し試験機を使用し、繰り返しに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間攪拌混ぜて試料とする。 ロ) 保水率 JIS R 5202「フロートガラス及び磨きガラス」に規定するみがき板(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P 3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5層ろ紙(直径11cm)をのせ、その中心部に真ちゅうリング型(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を設置し、(1)で調製した試料を平滑に詰む。 その後、直ちにリング型(上部にガラス板を当てて上下を密に押し、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをもつノギスを用いて、1mmの単位で測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率=50/平均値×100 (注) 50: リング型わくの直径 mm ハ) 単位容積質量 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 ニ) 接着強さ(標準時) 1 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 (試験体の作成) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちにイ)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付する。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装モザイクタイルで乾式成形の1類(施ゆう)「小口タイル(108mm×60mm×12mm)」を4枚2列、計8枚を接着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿潤養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) JIS A 6909「建築用仕上塗料」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm ² 以上) 2 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 (試験体の作成) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちにイ)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付する。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装モザイクタイルで乾式成形の1類(施ゆう)「小口タイル(108mm×60mm×12mm)」を4枚2列、計8枚を接着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿潤養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 ホ) 接着強さ(温冷繰り返し後) (試験体の作成) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々ニ)標準時の接着強さの試験方法の「試験体」と同様とする。 (温冷繰り返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗料」の7.10温冷繰り返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする。操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び筋のの有無を目標によって調べ。(温冷繰り返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰り返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm ² 以上) ヘ) 長さ変化率 JIS A 6203「セメント混和ポリマーディスページョン及び再乳化粉体樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 ト) 曲げ強さ JIS A 6916「建築用下地調整塗料」7.11曲げ強さ試験に準ずる。
5	5	既設適合目地材	品質性能等 保水率: 30%以上 長さ変化率: 0.2%以下(収縮) 吸水量: 50g以下 単位容積質量: 1.8kg/L以上 試験方法 イ) 試験の条件 試験室は、温度20±2℃、湿度65±5%RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いて使用する。 ロ) 試料の調製 正味質量と標準値より換算し、1.0~1.2Lの試料を繰り返し上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より増した材料に相当する量の繰り返し混ぜ水を計算して用意する。繰り返し混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」10.11に規定する繰り返し試験機を使用し、繰り返しに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間攪拌混ぜて試料とする。

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号
〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名
鳥取県消防学校
火災訓練棟建替工事

図名
特記仕様書(3)

作図

承認
承認
承認

図面番号
A-03



令和7年3月-日

ハ) 保水性 (ろ紙法)
JIS R 3202 「フロート板ガラス及び硝子板ガラス」に規定する硝子板ガラス (縦200mm、横200mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801 「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5種ろ紙 (直径18.5cm) をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、ロ) で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へじみ出した水分の広がり量が最大と認められた方向とこれに直交する方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。試験は回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率 (%) = 50 / 平均値 × 100 注) 50: リング型わくの径 (mm)

二) 単位容積質量
ロ) で練り混ぜた試料を、JIS A 1171 「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。

ホ) 長さ変化率
ロ) で調製した試料を用いてJIS A 1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。

ヘ) 吸水量
ロ) で調製した試料を用いてJIS A 1404 「建築用セメント防水剤の試験方法」10.1に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

13 屋根及びとい工事

4 とい (13.5.2.3) (表13.5.4)

この材料種 ・配管用鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管
とい受け金物及び足金物の材質、形状及び取付間隔
※ 標準仕様書表13.5.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの
多雪地域 ・適用する ○適用しない
防露材のホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆
鋼管製といの防露巻き ・適用する (工法: ※ 標準仕様書表13.5.4による) ・適用しない

ルーフトレン

種別	施工箇所
○ろく屋根用 ○機型 ・横型	屋上
○バルコニー用	ベランダ、屋外階段
・バルコニー中継用	

14 金属工事

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.1) (表14.2.1)

種別	色合等	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)
	・標準色 () ・特注色 ()	
	・標準色 () ・特注色 ()	

種別酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色

2 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2) (表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所 (手摺、タラップ以外)
溶融亜鉛めっき	○A種	ベースプレート
	○B種	ヤグラ
	○C種	アンカーボルト
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

3 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2~4) (表14.4.1)

野縁等の種類
屋外 (※ 25形 ・ 19形) 屋内 (※ 19形 ・ 25形)
・ 屋外の軒天井、ピロティ天井等

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ・ 図示 ・
周辺部の継からの間隔 ・ 図示 ・
野縁の間隔 ・ 図示 ・
・ 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※ 図示 ・
・ 天井のふところ高が3.0mを超える場合
補強方法 ※ 図示 ・
・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ※ 高さが6mを超える天井、それ以外は図示
補強方法 ※ 「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」(平成25年 国土交通省告示第771号) 第3第2項第二号に適合させる。
・ 図示

15 左官工事

1 モルタル塗り (15.3.2.5) (表15.3.2.5)

モルタル ※現場調合材料 ・既調合材料 (材料)
既製目地材 ・ 図ける 施工箇所 () 形状 (※図示)
・ 図けない
床の目地 ○図ける (目地割り) ※ 2㎡程度 (最大目地間隔 3m程度) (種類 ※押し目地)
・ 図けない
外壁タイル張り下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験 ・適用する ・適用しない
建具類等の充填モルタルに使用する防水剤 (品質 ・性能)
(試験方法) JIS A 1404 「建築用セメント防水剤試験方法」による。

項目	品質 ・性能
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	(凝結時間) 始発: 10時間以上 終結: 10時間以内 (安定性) 収縮性: 膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないもの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したもの、しないもの吸水比 95%以下
透水性	防水剤を混入したもの、しないもの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 ⁵ Paと1時間行う。

2 ラス系下地 (15.2.4)

ラス系下地の種類及び材料
・ 二層下地通気構法 (材料 ・ 波形ラス (W700) ・ コぶラス (X800) ・ 力骨付きラス (BP700)
換気口部の措置 ※ 本通気仕様書11.4.3(2) (イ)による
・ 単層下地通気構法 (材料 ・ リプラスC (RC800) に裏打ち材と一体化したラス)
・ 直張り工法ラスモルタル下地 (材料)
・ 直張りラスシートモルタル下地 (材料)
建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定 ()

3 床コンクリートの直均し仕上 (6.2.5) (表15.4.2)

標準仕様書表6.2.5による	施工箇所
平坦たさの種類	
a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し 合仕上、フリーアクセフロア (置敷式) ()
b種	カーベット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り ()
c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセフロア (支柱調整式) ()

4 セルフレベリング材料塗り (15.5.2) (表15.5.1)

5 仕上げ塗材仕上げ (15.6.2)

建築内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆
・薄付け仕上げ塗材 (表15.5.1~2)

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
			・適用する	・不燃材
			・適用する	・

・薄付け仕上げ塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り材	防火材料
			・適用する	・適用する	・
			・適用する	・適用する	・

・複層仕上げ塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐候性	防火材料
※ 複層塗材 E			溶剤系 ※水系 ・ 顔料系系 ・ 溶剤系 樹脂 ・ 779系 (耐候性 3種) ・ 679系 (耐候性 2種) ・ 779系 (耐候性 1種) ・ ふっ素系 (耐候性 1種) 外観 ※つやあり ・ つやなし	・	・

・軽量骨材仕上げ塗材

呼び名	防火材料
	・
	・

6 マステック塗料塗り (15.7.2)

7 ロックウール吹付け (15.12.2.3)

8 しっくい塗り (15.10.2.3)

種類 ・ A種 ・ B種

ロックウールのホルムアルデヒド放数量 ※ 規制対象外
接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆
仕上げ吹付け厚さ (mm) ・ 図示 ○ 25

材料 ・ 既調合しっくい (種類等)
色しっくい ・適用する ・適用しない
・ 現場調合しっくい

下地
・ 木ずり下地 (調合及び各層の塗厚 標準仕様書表15.10.3による)
・ こまい土壁下地 (調合及び各層の塗厚 標準仕様書表15.10.4による)
・ せっこうラスボード (調合及び各層の塗厚)
・ せっこうボード (調合及び各層の塗厚)

16 建具工事

1 防火戸 (16.1.3)

・ 適用する 適用箇所 (※ 建具表による)

3 防犯建物部品 (16.1.6)

・ 適用する 適用箇所 (※ 建具表による)

9 ステンレス製建具 (16.2.2) (表16.2~5)

性能等級 (建具符号: ・ 建具表による)
簡易気密型ドアセット ・ 適用する
外部に面する建具の耐風圧性の等級 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6
防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 ()
断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級 ()
耐震ドア 室内面防振性の等級 ()

ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430、J11又はSUS443J1
表面仕上げ ※ H L仕上げ ・ 鏡面仕上げ
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ (・ a角 ・ b角 ・ c角)

17 建築用金物 (16.8.2.3) (表16.8.1)

金物の種類 ・ 見え掛り部の材質等
※ 標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表16.8.2による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表16.8.3による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表16.8.4による
木製建具に使用する戸車及びレール丁番 ※ 標準仕様書表16.8.5による
振り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ・ 建具表による

錠前類
シリンドラ錠錠及びシリンドラ本錠り錠 (品質)
デッドボルトの寸法は17mm以上とする。鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
(性能)
使用頻度による性能
1) (シリンドラ錠錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験 (40万回) を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の倍未満であり、動作に支障がない。
2) キーによるデッドボルトの施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。(シリンドラ本錠り錠のみ) シリンドラ単体の施錠繰り返し試験の評価は、シリンドラだけの回転トルクが10N・cm以下とする。
3) キーによる施錠機構の施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。
4) キーの抜き差し繰り返し試験 (10万回) を行った後、キーの抜き差しする荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンドラが回転でき、かつ、1箇所1段差深い刻みをもつ異なるキーでは、シリンドラが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする)
外力に対する性能
1) デッドボルトの押込み強度試験 (100N) を行った後、荷重を除いたときのデッドボルトの寸法は8mm以上であること。

2) デッドボルトの側圧強度試験 (100N) を行った際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
3) デッドボルトの押込み強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (デッドボルトの突出量が9mm未満) にならないこと。
4) デッドボルトの側圧強度 (衝撃荷重) 試験 (58.5J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (加圧板がデッドボルトを通過した状態) にならないこと。
5) (シリンドラ本錠り錠はグレー3以上の彫込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とする。

使用原の質量に対する性能 (シリンドラ錠錠のみ)
1) ラッチボルトの側圧強度試験 (40N) を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
2) レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。
3) 振り玉のねじり強度試験 (30N・cm) をおこなった後、トルクを除いたとき、振り玉が正常に作動していること。また、施錠時振り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。
4) ハンドルの引張強度試験 (20N) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。
5) ハンドルの垂直荷重強度試験 (20N) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がない。
鍵
1) かぎ (鍵) 数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ (鍵) 違い数とみなさないものとする。
2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一部みは、最大2連続までとしていること。
試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物-錠-第1部: 試験方法) による。

レバーハンドル (性能)
ねじり強度
レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がないこと。

引張り強度
ハンドルの引張強度試験 (20N) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がないこと。

垂直荷重強度
ハンドルの垂直荷重強度試験 (20N) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施錠操作に支障がないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物-錠-第1部: 試験方法) による。

・クローザー類 (品質 ・ 性能)

性能試験項目

初期値	Grade2	① ドアクローザ		② ヒンジクローザ		③ フロアヒンジ	
		閉じモメント (N・m)	効率が (%)	閉じモメント (N・m)	効率が (%)	閉じモメント (N・m)	効率が (%)
閉じ速度 (秒)	1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
	2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
	3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
	4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
	5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
	6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上

閉じ速度 (秒) 常温 (5~35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を5~8秒に調整できること。

温度依存性 (℃) 緩衝油の流動点は、JIS K 2269 (原油) 及び石油製品の流動点並びに石油製品蓄り点 (試験方法) により測定し、-15℃以下であること。

ストローク力 (N)	ストローク解除力 (N)
ストローク入力 60N以下 但しコック型は200N以下	100N以下
ストローク解除力 8N以上	3N以上
100N以下	10N以上

バックチェック性能 (秒) ドア開扉方向に荷重60N/m²を施す。バックチェック機構の有する機種のみ適用。バッキング開始角度 (70~85°) から更に20°まで開閉の時間は0.8秒以上とされていること。

デイルド779性能 (秒) 開扉90°の位置からデイルド779解除角度までの時間
デイルド779解除機構が10秒以上確保でき、また、角度 (60~75°) その時間の調整が可能であること。
デイルド779機能の有する機種のみ適用

戸の開閉位置 (中心吊り込み開閉自由のみの適用)

耐久性能	耐久性能	耐久性能
繰返し開閉後の閉じモメント (N・m) 後の効率 (%)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。
繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。
繰返し開閉後のバックチェック性能 (秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	-
繰返し開閉後のデイルド779性能 (秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	-
繰返し開閉後の戸閉鎖位置 (mm)	-	耐久試験後±16mm以内
耐久性能の試験回数 (繰返し開閉回数)	20万回	10万回
		30万回

注1 バックチェックは、右記の閉じモメントの70%程度までとする。
注2 コック型は右記の閉じモメントの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
(試験方法)
1) 性能試験は、JIS A 1510-3 (建築用金物の試験方法-第3部: フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ) に規定する試験方法による。
2) 試験①7の質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。
マスターキー ・ 製作する (組) ○製作しない ・ 既存に相違む
鍵の製作本数 ※各室3本1組 (室名札付き)
鍵筒 ・ 図ける (種用 組) ○図けない

19 内装工事

1 接着剤 (19.2.2)

2 せっこうボードその他のボード及び合板張り (19.7.2.3) (表19.7.1)

種類	JIS記号	厚さ (mm)	規格等
・ 硬質木毛セメント板	HM	・ 15 ・ 20 ・ 25	・
・ 中質木毛セメント板	MM	・ 15 ・ 20 ・ 25	・
・ 普通木毛セメント板	MM	・ 15 ・ 20 ・ 25	・
・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21	・
・ 普通木片セメント板	NF	・ 30	・
○ けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2 (無石綿) ○E	・ 8
・ ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ (・ 9 ・ 12) ・ 凹凸タイプ (・ 12 ・ 15 ・ 19)	・ 不燃 ・ 不燃
・ ロックウール吸音ボード1号	RWB	・ 25	・
・ グラスウール吸音ボード2号	GRB	・ 25 (ガラスクロス色)	・
・ せっこうボード	GB-R	※12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)	・
・ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様)	・
・ シーディングせっこうボード	GB-S	12.5 (・ 不燃 ・ 準不燃)	・
・ 強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)	・
・ せっこうラスボード	GB-L	9.5	・
・ 化粧せっこうボード (木目)	GB-D	12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (・ 柱目 ・ 板目) 専用下地材有り	・
・ 化粧せっこうボード (トラバーチン模様)	GB-D	9.5 (準不燃)	・
・ 普通合板	G		表板の樹種 生地、透明塗料塗り (※ラワン程度) 不透明塗料塗り (※しな程度) 板面の品質 () 厚さ (mm) () 接着の程度 ・ 1類 ・ 2類 ・ 防虫処理
・ 天然木化粧合板	G		樹種名 () 接着の程度 ・ 1類 ・ 2類 厚さ (mm) () ・ 防虫処理 ・ 難燃処理 ・ 防炎処理
・ 特殊加工化粧合板	G		化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装) 表面性能 () タイプ 接着の程度 ・ 1類 ・ 2類 厚さ (mm) () ・ 防虫処理
・メラミン樹脂化粧合板			JIS K 6903 による (※ 1.2)
・ ポリエステル樹脂化粧合板			・ 無研削VN ・ 研削板 VS ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12	・
・ 単板張りパーティクルボード	G		・ 無研削VN ・ 研削板 VS ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・ 化粧パーティクルボード	G		・ 単板オーバーレイ DV ・ プラスチックオーバーレイ DO ・ 塗装 DC ・ 10 (難燃) ・ 12 (難燃)
・ ハードボード (素地)	HB		・ 未研削板 (・スタンダード ・ テンパード RN) ・ 研削板 (・スタンダード ・ テンパード RS)
・ ハードボード (化粧)	G		・ 内装用 D1 ・ 外装用 DE ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7
・ インシュレーションボード	G	IB	A級 (・ 天井仕上) ・ 内装仕上) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18

天井のボード類 (ロックウール吸音板を除く) の重ね張りを行う場合
※図示による
合板類の張付け ・ A種 ・ B種
せっこうボードの目地工法 ※仕上表による

20 ユニユニット及びその他の工事

5 手すり (20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
○ SUS304 (表面処理 ※ H L 程度)
・ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書表14.2.2による種別 () 種)
・ アルミニウム 表面処理 種別 () 種 ()
色合等 ・ 標準色 () ・ 特注色 ()

材料種	仕上げ	直径 (mm)	取付場所	備考
・ 集成材 (材質:)	・ クリアラッカー	・ 35程度 ・ 46程度		
・ ビニル製		・ 35程度 ・ 46程度	階段	
○ SUS		○ 38		

手すりの振り部分

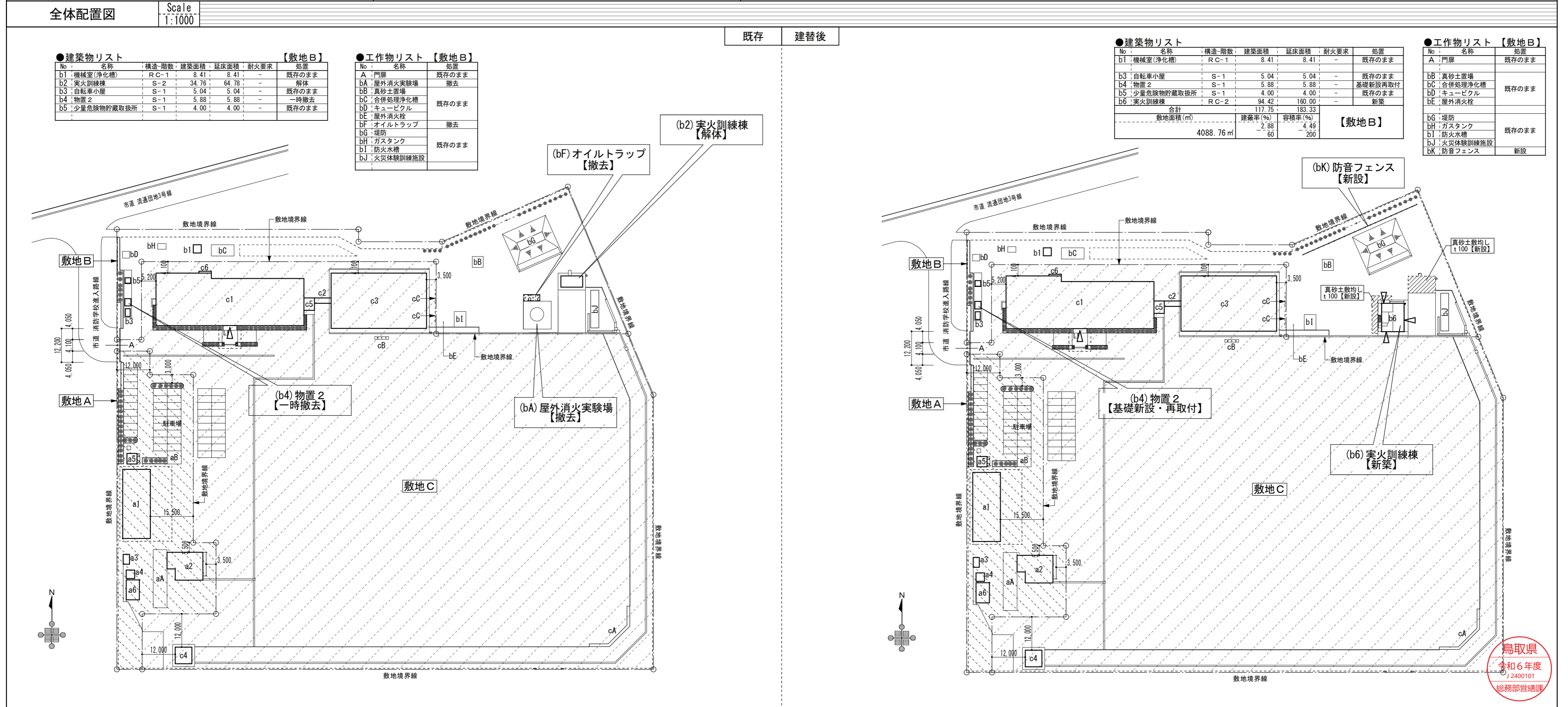
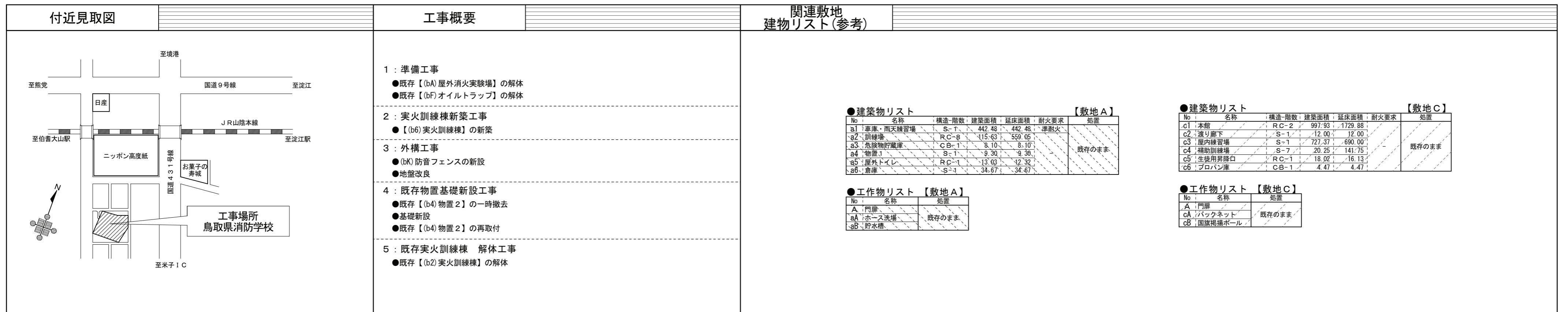
耐火性能	防水性能	備考
・ 耐火型	・ 有	
・ 非耐火型	・ 無	

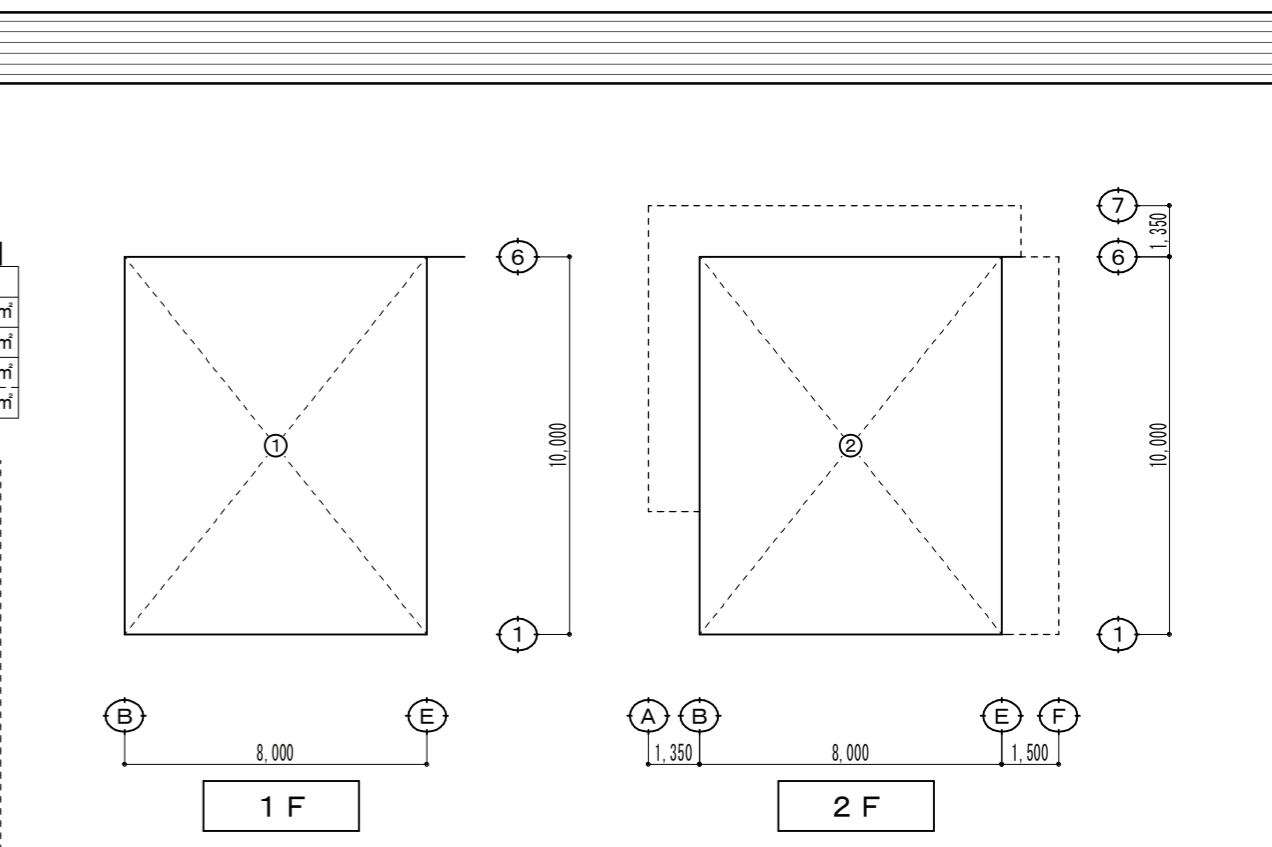
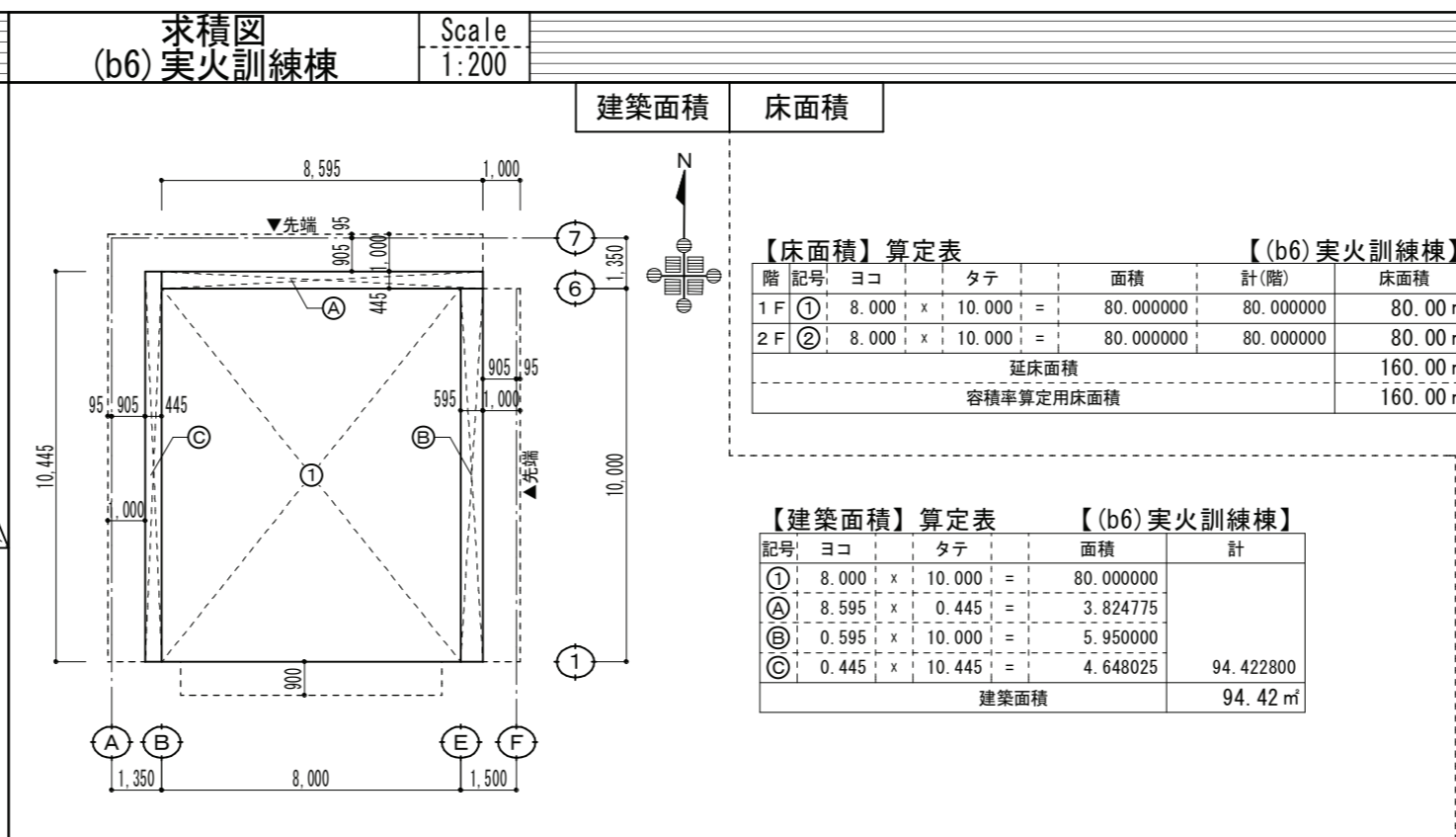
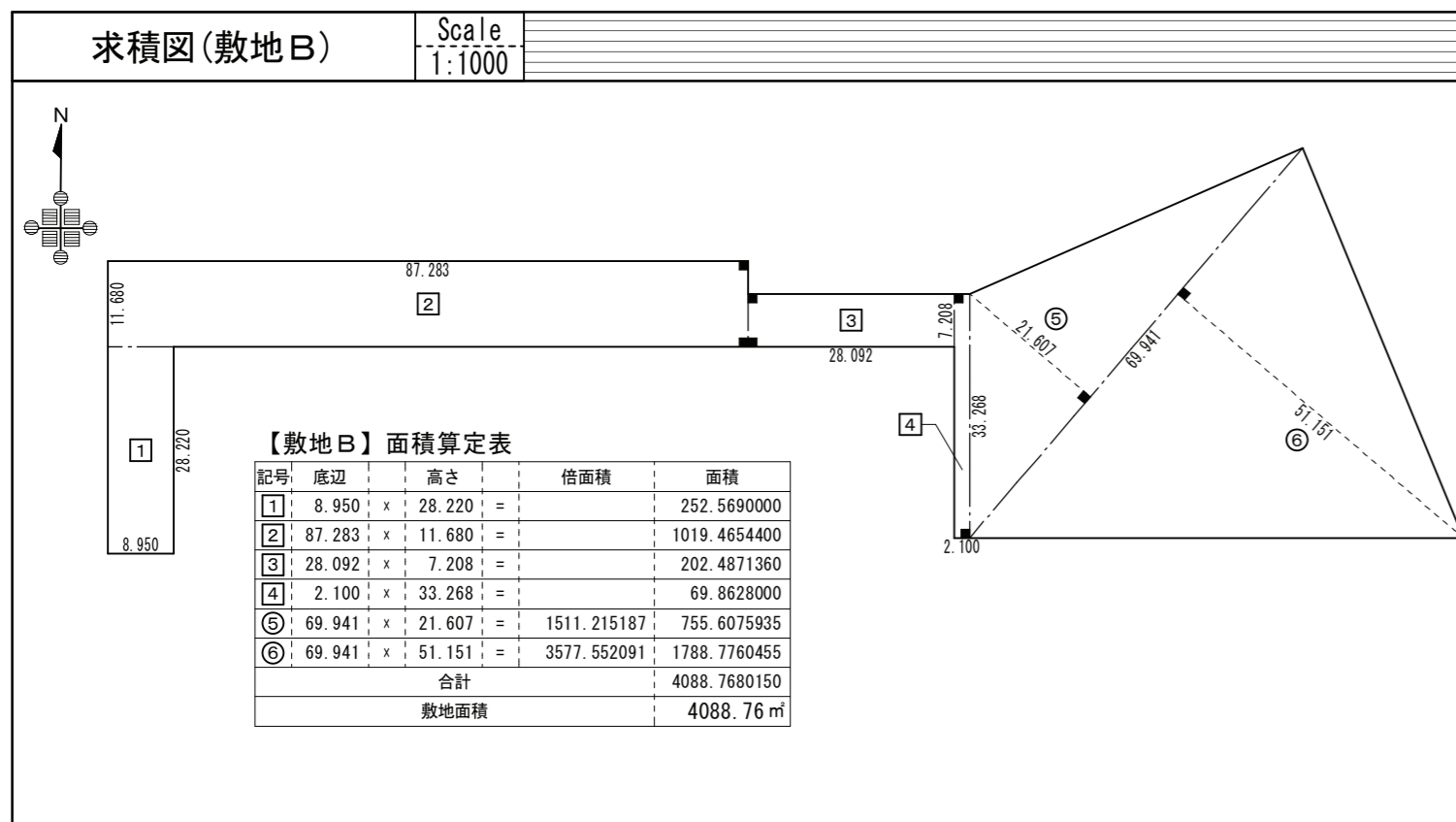
目地

目地	内装	外装
目地材	・ シーリング材 (見え掛り部のみ)	・ シーリング材 (見え掛り部のみ) ・ シーリング材 (内外共)
目地寸法 (mm)	・ 幅20×深さ10	・ 幅20×深さ10

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による。

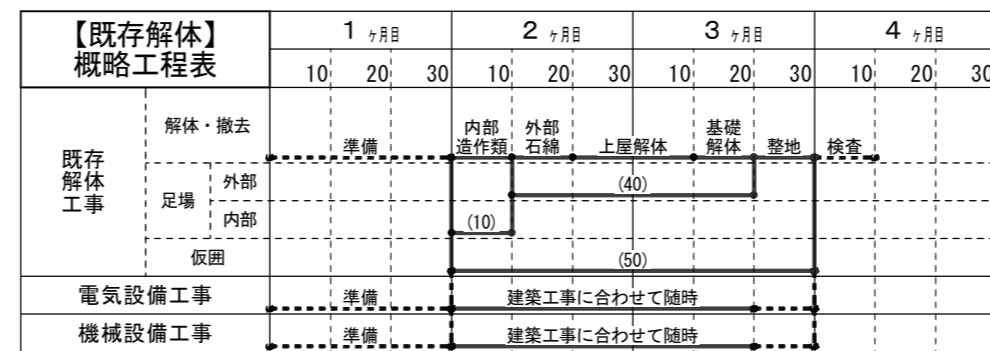
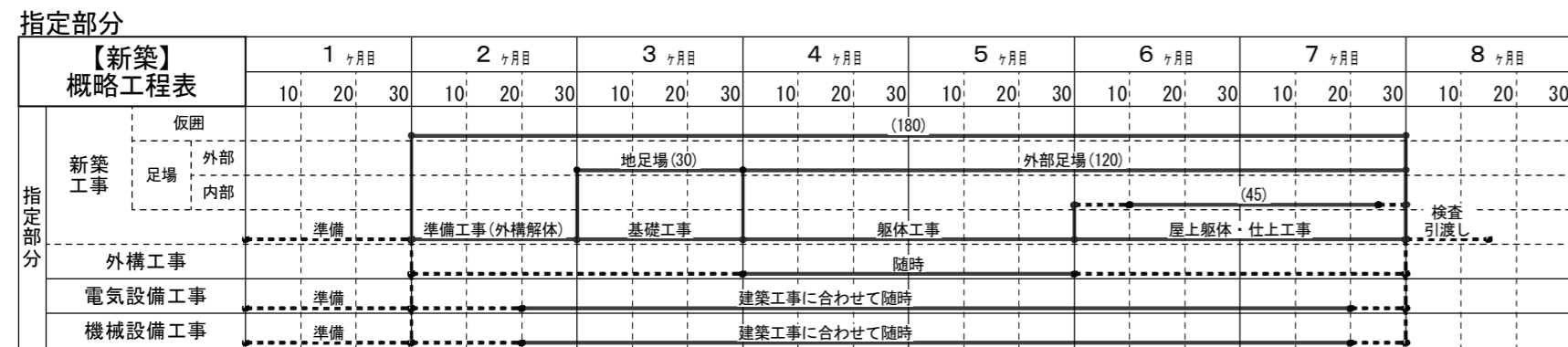
形式 ・ 埋込式 ・ 据置式 ・ 壁置き式
材質 ・ 塩化ビニル製 (種類) ・ 非加硫ブチルゴム製
寸法 (mm) ・
施工箇所 ・ 図示



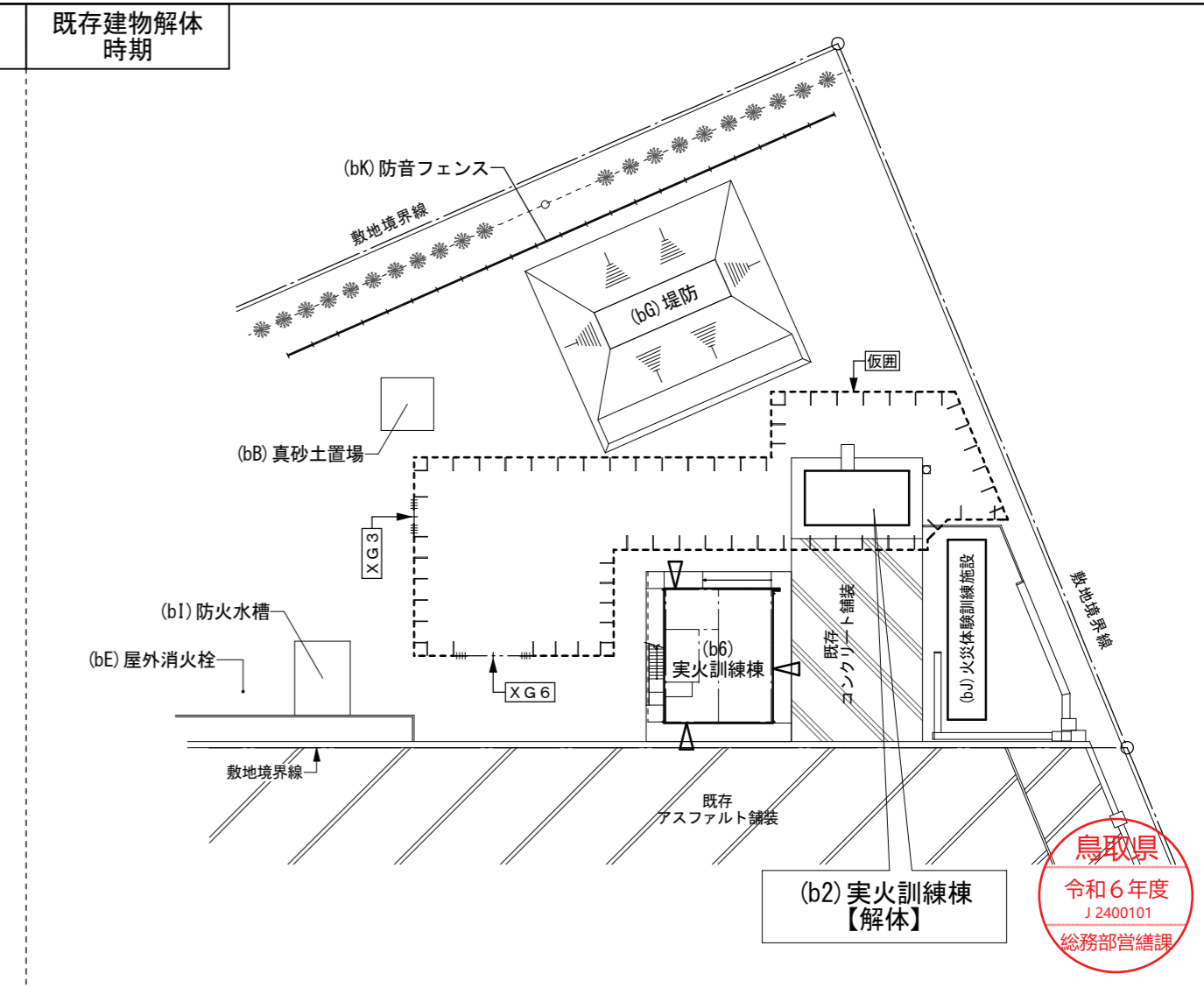
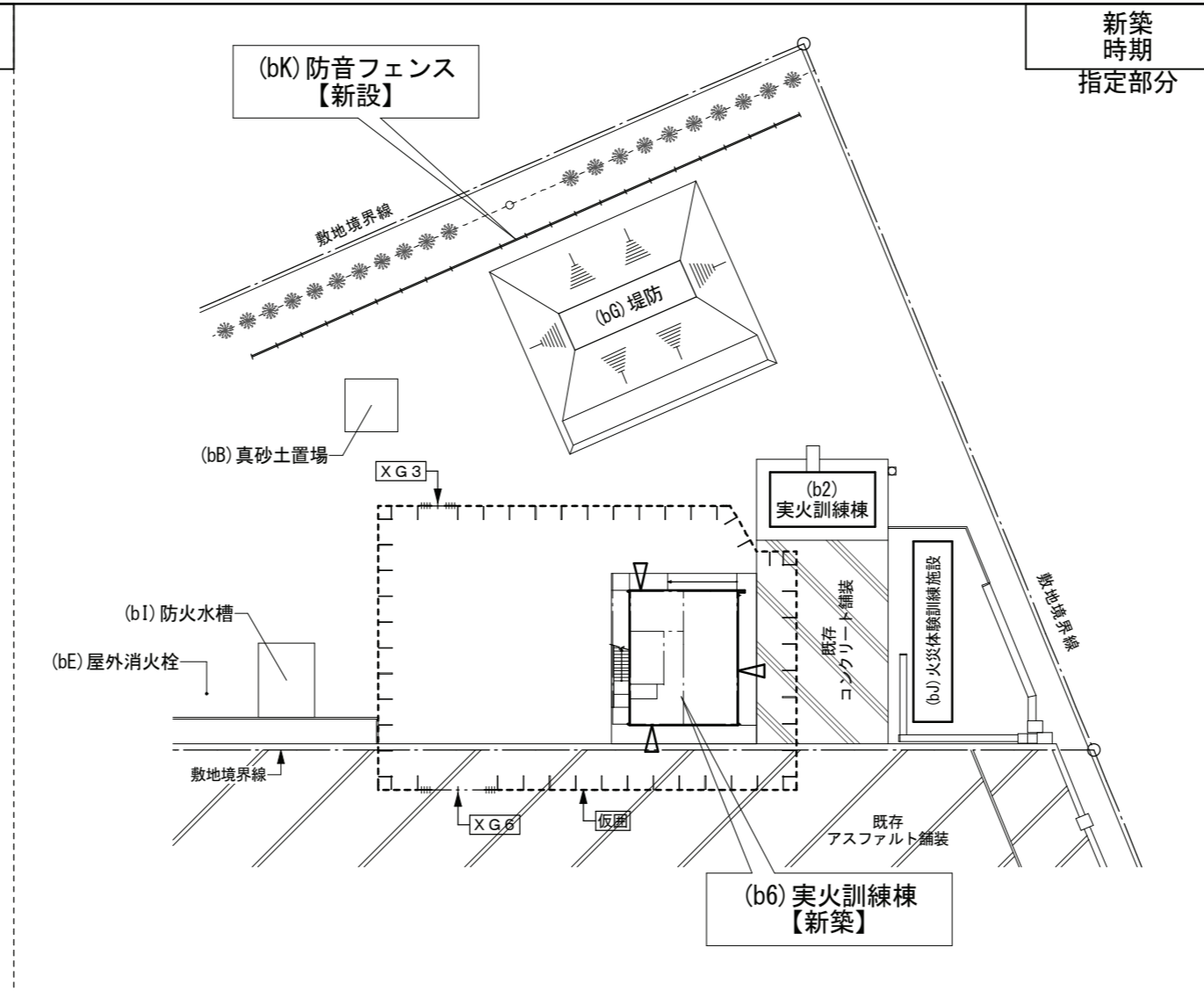
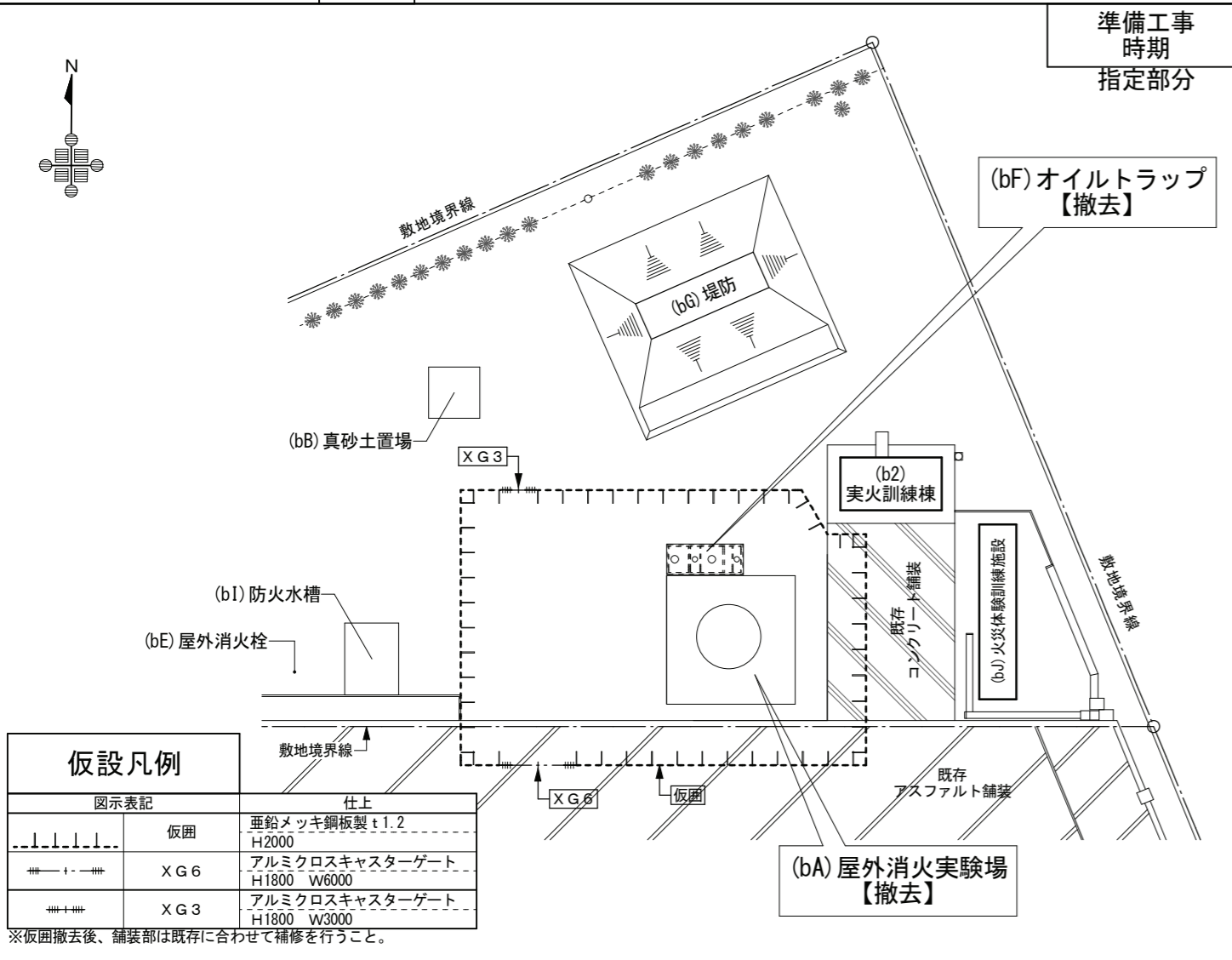


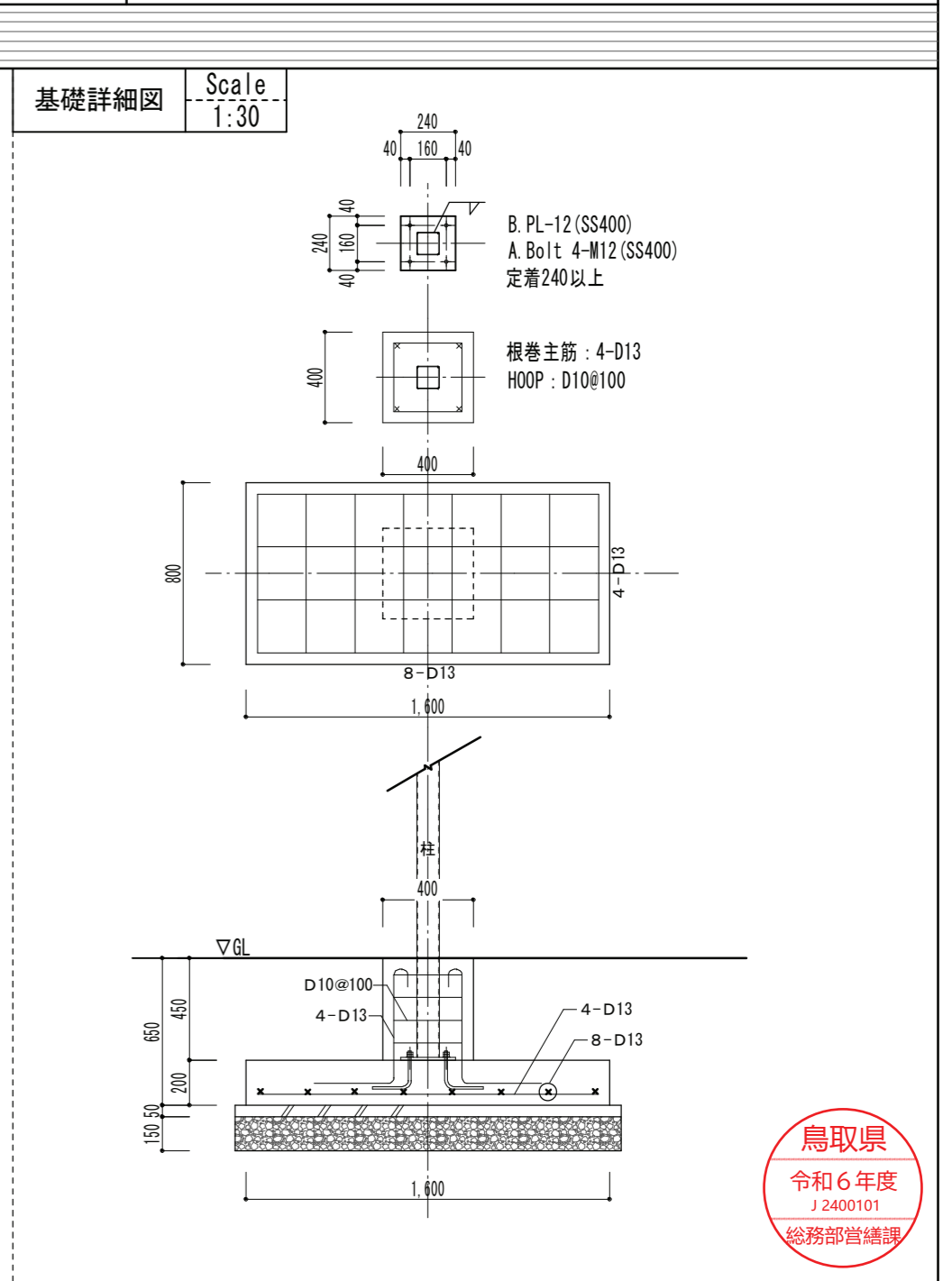
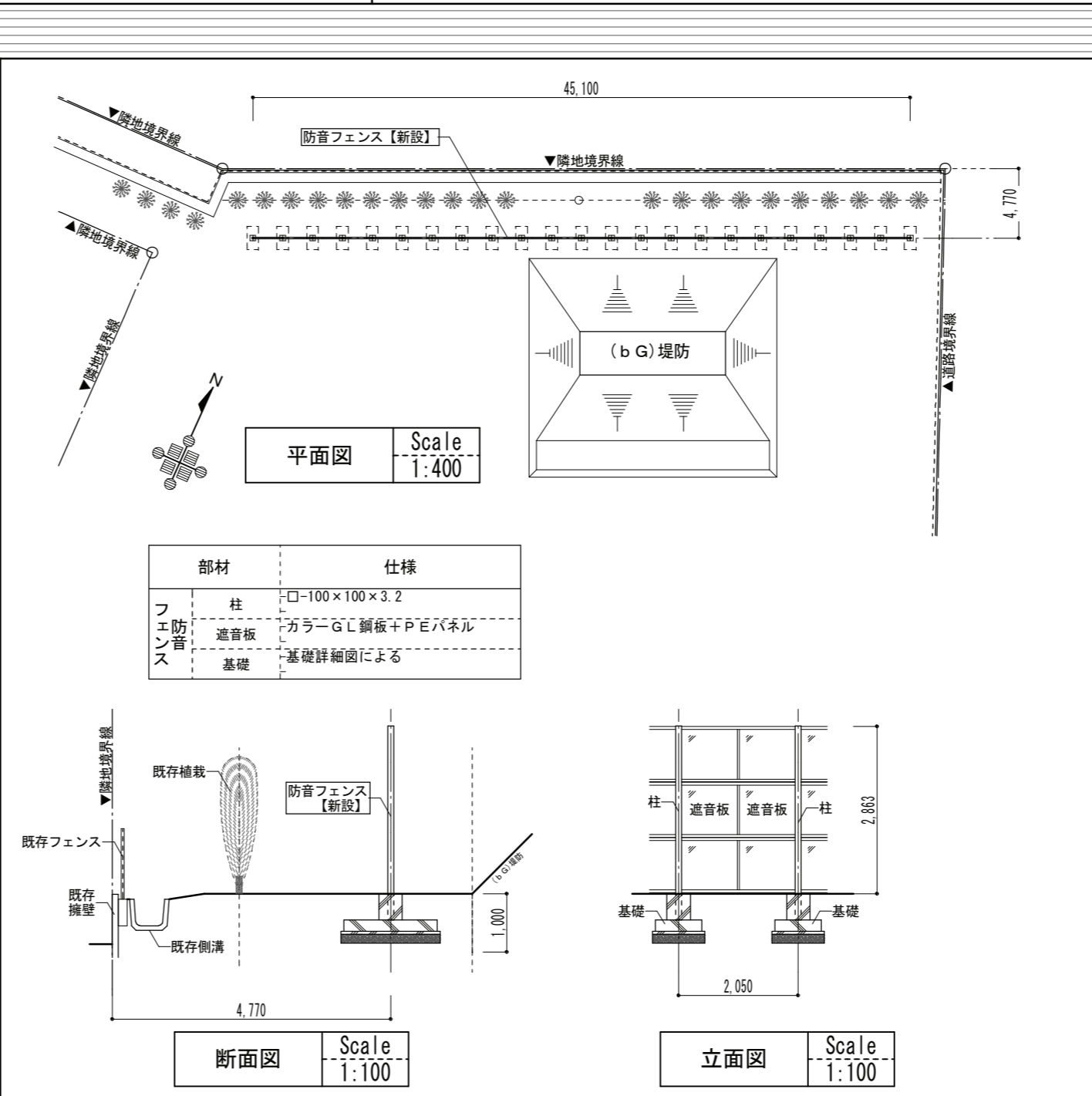
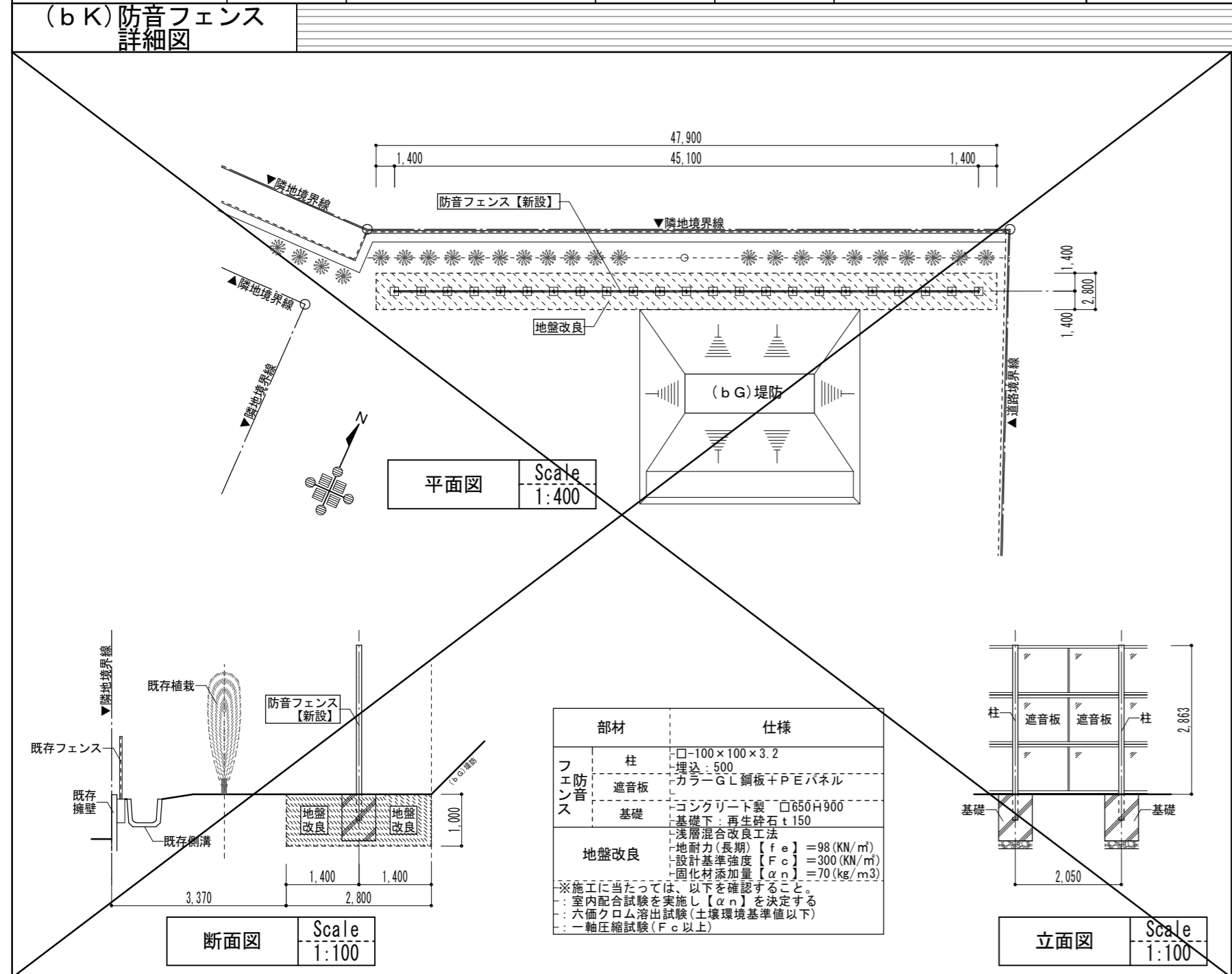
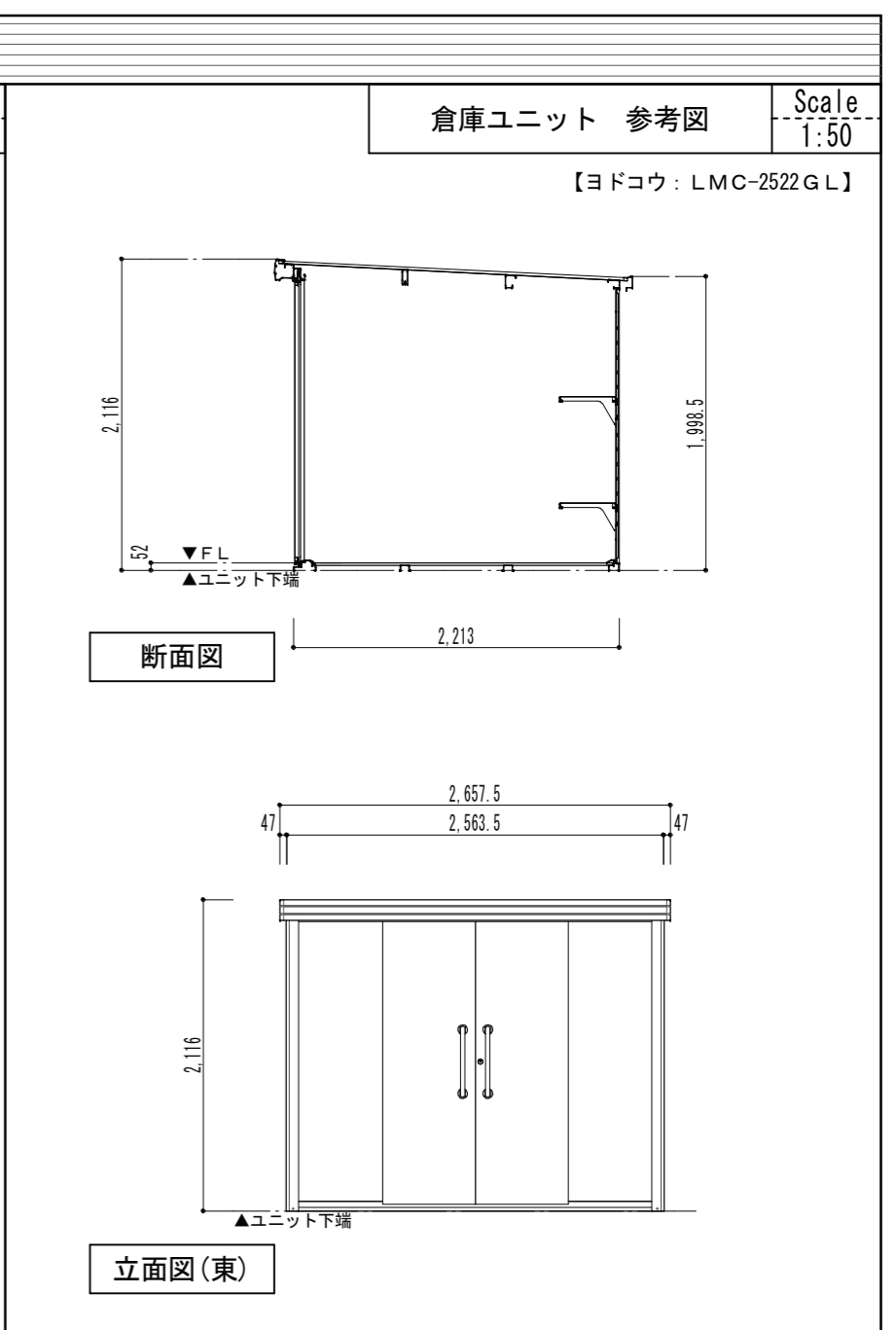
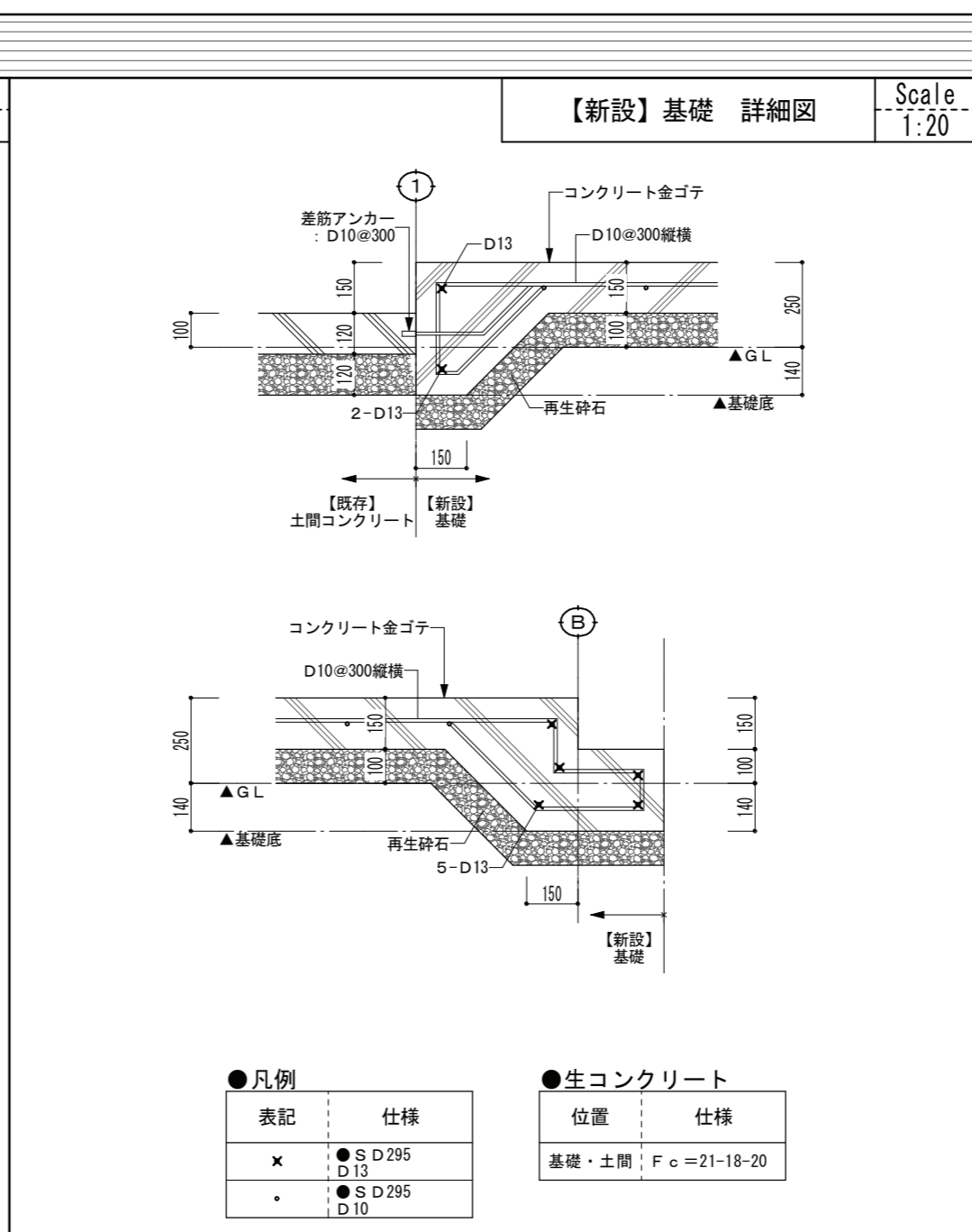
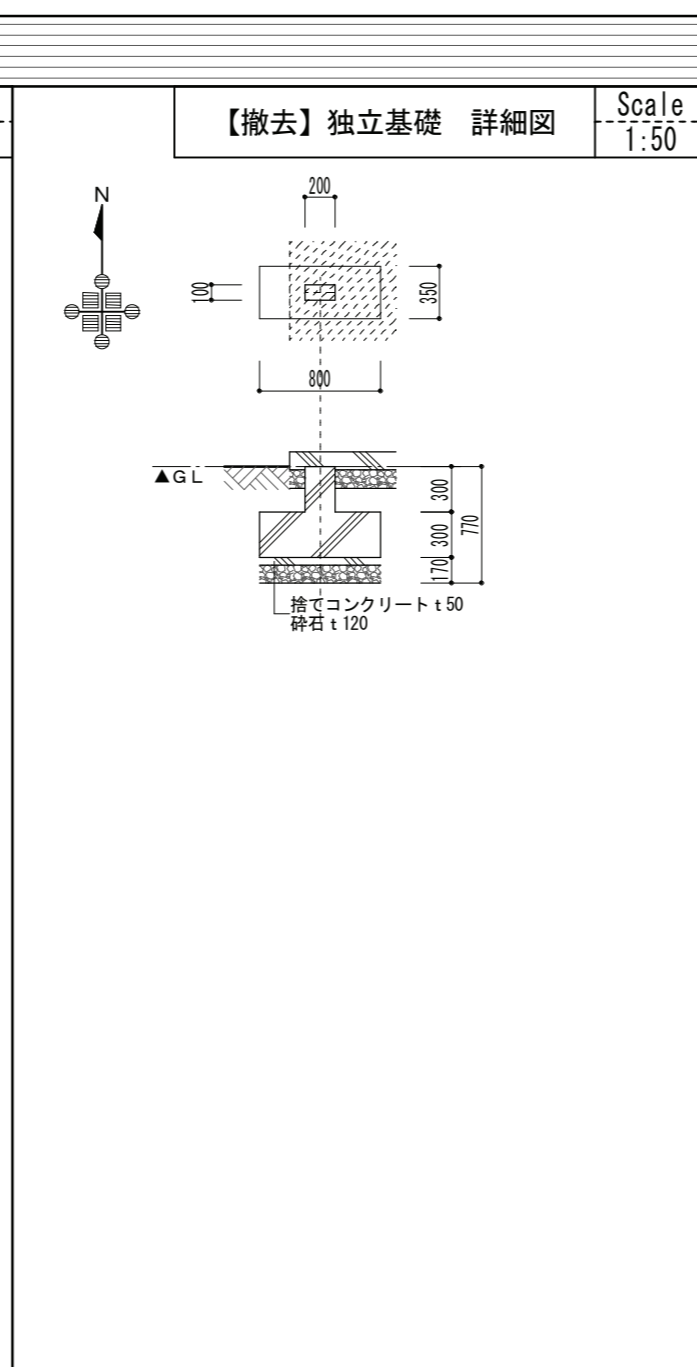
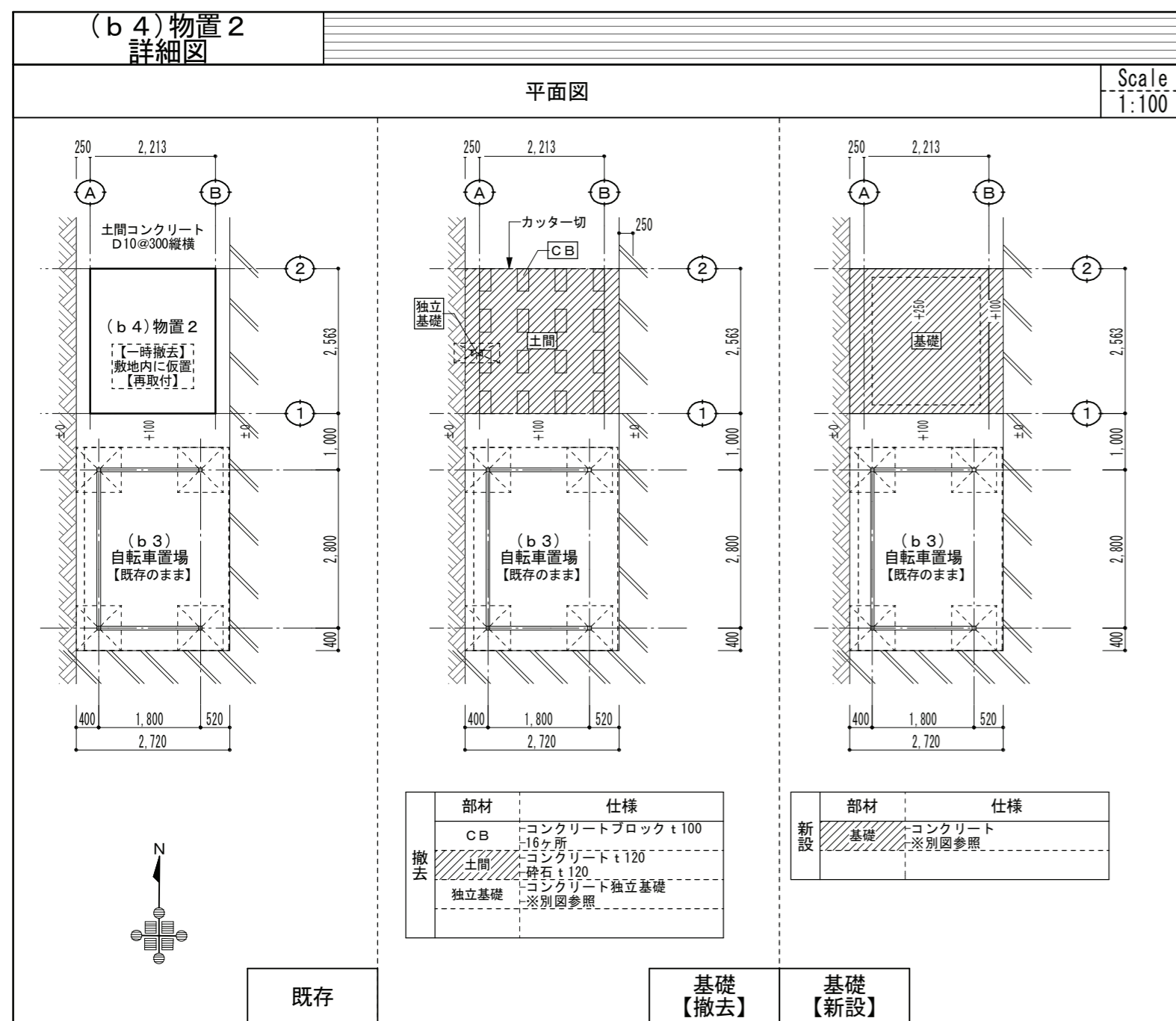
工事工程表(参考)

※1: この工程は概略であり、監督員と十分に協議の上、実施工程表を作成し、承認を得て行う事。



仮設計画図 Scale 1:500



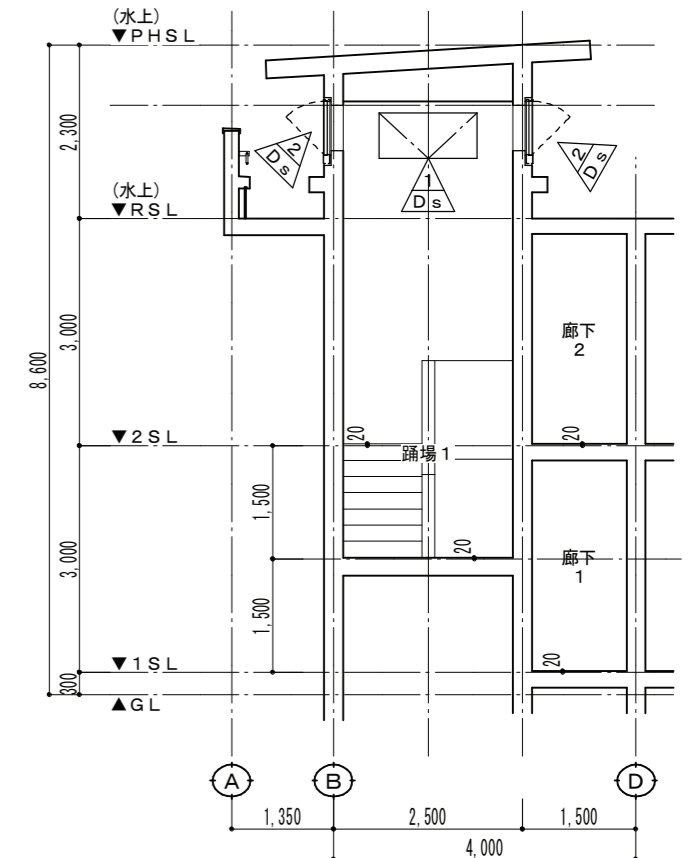


内部仕上表

階	室名	床	巾木	H	壁	廻縁	天井	天井高	備考	室名	階
2階	燃焼室2	●耐火煉瓦敷：SK-34(並型：230×114×65) ◀目地：耐火モルタル(エアセット)▶ ：下地モルタル t 20 ：防水モルタル t 25	●コンクリート打放補修(改質材塗) ：防水モルタル t 20	100 300	●耐候性鋼板 t 3.2(600(ボルト止×4カ所) L-65×65×6下地(錆止塗装) ：ロックウール吹付 t 25	-	●防火性可とう形薄塗材(不燃)塗 ：下地調整材 C-2 ：不燃モセメント板 t 30打込	2790 ~2820	●焚火台：別図参照 ●灰受：別図参照 ●排水目皿：SUS製φ65	燃焼室2	2階
	寝室A	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2730 ~2810	-	寝室A	
	寝室B	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2730 ~2790	-	寝室B	
	便所2	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2800 ~2820	-	便所2	
	廊下2	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2730 ~2810	-	廊下2	
階段室	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●ケイカル板 t 6+6 ：LGS下地(振止補強@1800)	-	●手摺：SUS製φ38 壁付	階段室		
1階	燃焼室1	●耐火煉瓦敷：SK-34(並型：230×114×65) ◀目地：耐火モルタル(エアセット)▶ ：下地モルタル t 20 ：防水モルタル t 25	●コンクリート打放補修(改質材塗) ：防水モルタル t 20	100 300	●耐候性鋼板 t 3.2(600(ボルト止×4カ所) L-65×65×6下地(錆止塗装) ：ロックウール吹付 t 25	-	●防火性可とう形薄塗材(不燃)塗 ：下地調整材 C-2 ：不燃モセメント板 t 30打込	2710	●焚火台：別図参照 ●灰受：別図参照 ●排水目皿：SUS製φ65	燃焼室1	
	リビング	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2640 ~2810	●流し台：別図参照	リビング	
	玄関	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2970	-	玄関	
	便所1	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2810	-	便所1	
	廊下1	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	壁による	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	-	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	2810	-	廊下1	

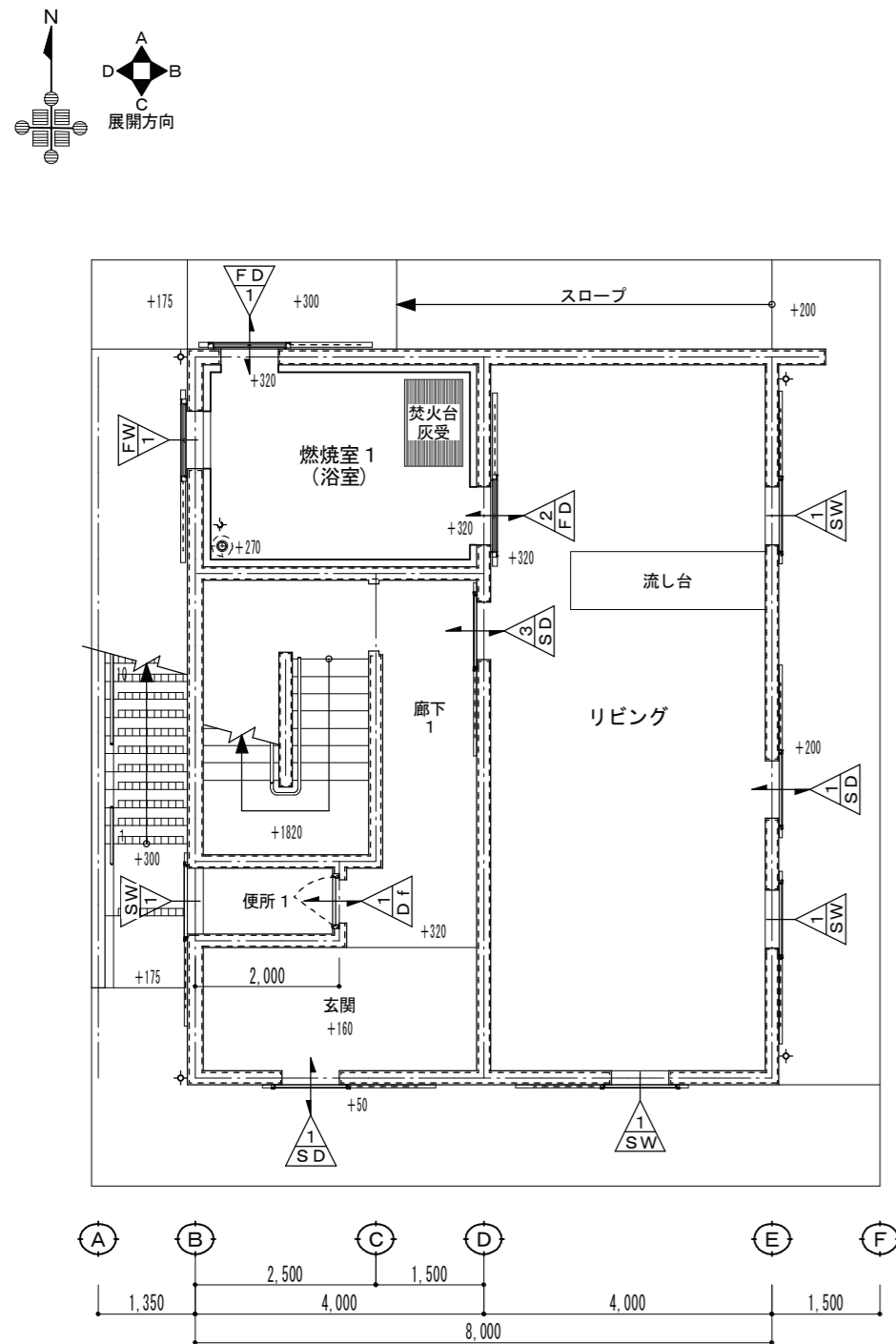
表記凡例(塗装)

- SOP : 合成樹脂調合ペイント
 - CL : クリアフラック
 - NAD : アクリル樹脂系非水分散形塗料
 - DP-1 : 耐候性塗料(鉄鋼面：フッ素系)
 - DP-2 : 耐候性塗料(鉄鋼面：シリコン系)
 - DP-3 : 耐候性塗料(鉄鋼面：ウレタン系)
 - DP-A : 耐候性塗料(コンクリート面：フッ素系)
 - DP-B : 耐候性塗料(コンクリート面：シリコン系)
 - DP-C : 耐候性塗料(コンクリート面：ウレタン系)
 - EP : 合成樹脂エマルジョンペイント
 - EP-G : つや有り合成樹脂エマルジョンペイント
 - UC : ウレタン樹脂ニス
 - OS : オイルステイン
 - WP : 木材保護塗料
- コンクリート改質材 : 無機質浸透性コンクリート改質材
 【日本躯体処理：RCガーデックス(防水用)程度】
 コンクリート表面保護材 : 無機質コンクリート表面含浸型改質材
 【日本躯体処理：RCガーデックス(表面保護用)程度】

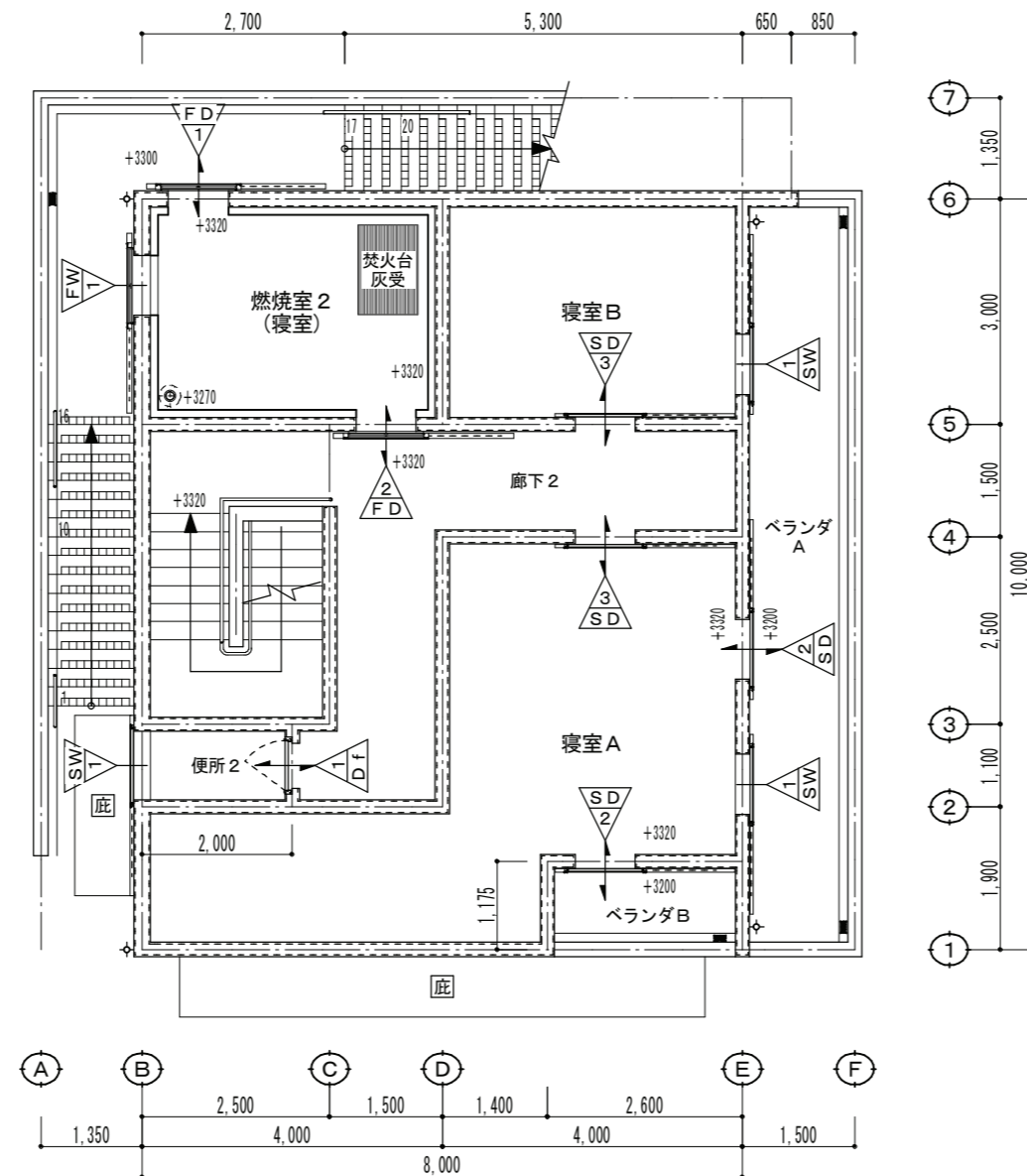


平面図

Scale 1:100

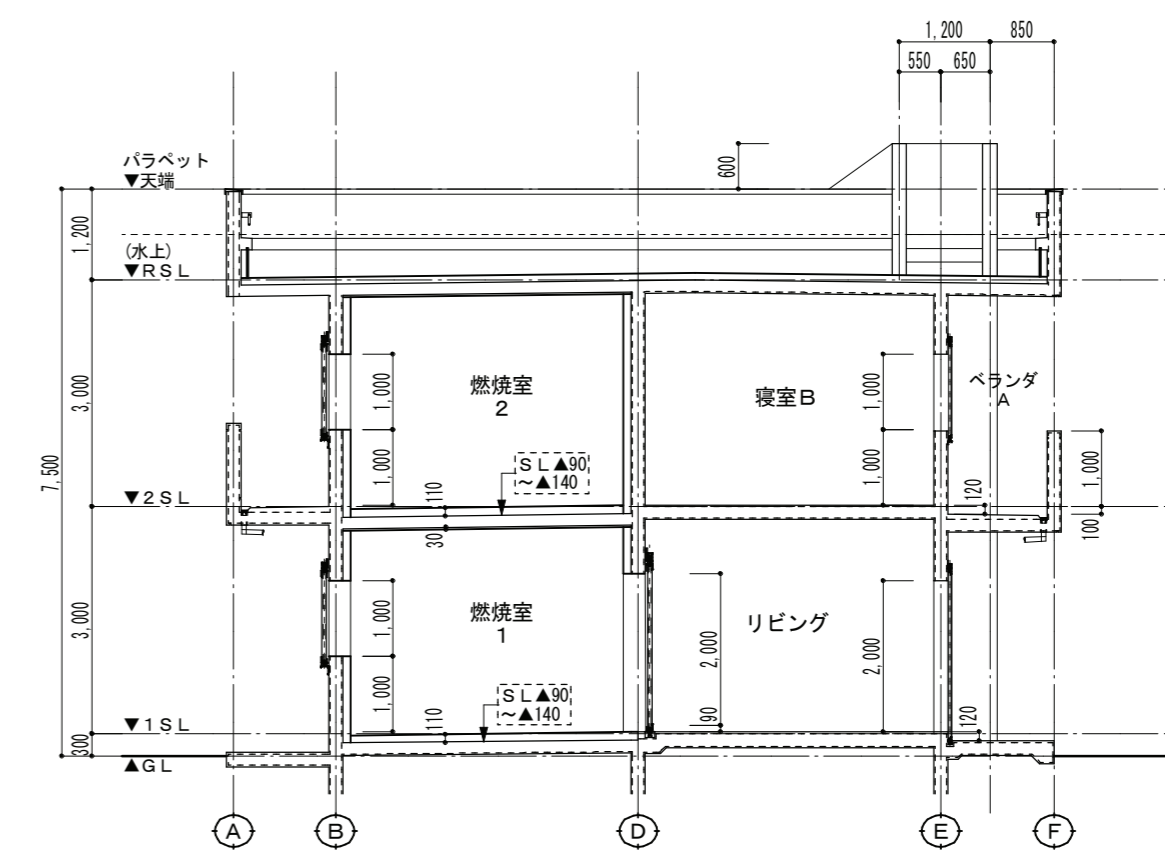


1 F 2 F



断面図

Scale 1:100



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名

内部仕上表・平面図・断面図

【新築(b6)実火訓練棟】

作図



承認



承認

承認

図面番号 A-10

令和7年3月 - 日



外部仕上表

部位	表記	仕上
平場	R/F	●押えコンクリート t80 (表面保護材塗) (溶接金網: D6 〇100) ●アスファルト防水 (A-1)
目地	⇄	●成形目地材
入隅処理	入隅	●既成成形ギヤント
立上	R/T	●防水モルタル金ゴテ t25 (表面保護材塗) 保護-CB t120 ●アスファルト防水 (A-1)
アゴ	⇄	●防水モルタル金ゴテ t20 (表面保護材塗)
外壁	⇄	●コンクリート打放 (表面保護材塗)
笠木	⇄	●コンクリート打放 (改質材塗)
架台	⇄	●防水モルタル t20 金ゴテ (改質材塗)
ヤグラ	⇄	●鉄骨製 (耐風産別メッキ) W2000 D2000 H1800程度 ●縦引75 A 鋼鉄製
ドレイン	R/D	
竖樋・呼樋	T/75	●カラーVP75 A
吊環	⇄	●SUS304 縦φ160
軒裏	R裏	●コンクリート打放 (表面保護材塗)

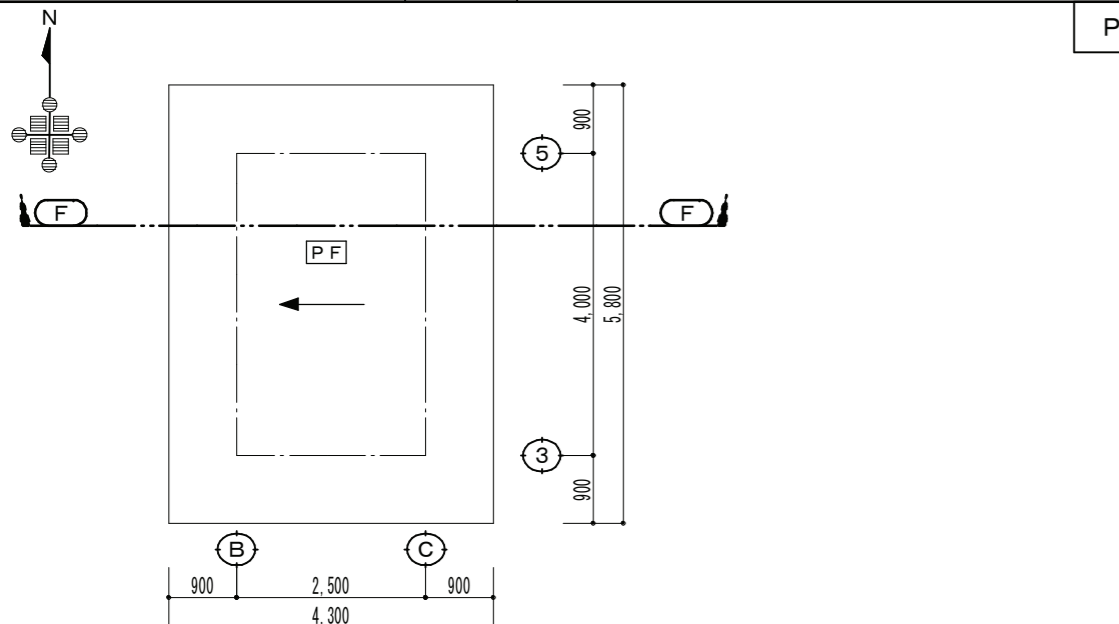
部位	表記	仕上
PH 屋根	P/F	●防水モルタル t20 金ゴテ (改質材塗)
軒裏	P裏	●コンクリート打放 (表面保護材塗)
庇	⇄	●防水モルタル t20 金ゴテ (改質材塗)
庇裏	⇄	●コンクリート打放 (表面保護材塗)
床	B/F	●防水モルタル t30 金ゴテ (表面保護材塗)
巾木	B/T	●防水モルタル t20 (表面保護材塗)
上裏	B裏	●コンクリート打放 (表面保護材塗)
笠木	⇄	●コンクリート打放 (改質材塗)
手摺	⇄	●SUS製φ38 壁付 SUSフラケットφ900 ●縦引50 A 鋼鉄製 パルコニー用
ドレイン	V/D	
HD		●横引50 A 鋼鉄製 パルコニー用
竖樋・呼樋	T/50	●カラーVP50 A
外壁・巾木	⇄	●コンクリート打放 (表面保護材塗)
犬走	⇄	●コンクリート打放 (表面保護材塗)

表記凡例 (塗装)

- SOP : 合成樹脂調合ペイント
 - CL : クリアラッカー
 - NAD : アクリル樹脂系非水分散形塗料
 - DP-1 : 耐候性塗料 (鉄鋼面: フッ素系)
 - DP-2 : 耐候性塗料 (鉄鋼面: シリコン系)
 - DP-3 : 耐候性塗料 (鉄鋼面: ウレタン系)
 - DP-A : 耐候性塗料 (コンクリート面: フッ素系)
 - DP-B : 耐候性塗料 (コンクリート面: シリコン系)
 - DP-C : 耐候性塗料 (コンクリート面: ウレタン系)
 - EP : 合成樹脂エマルションペイント
 - EP-G : つや有り合成樹脂エマルションペイント
 - UC : ウレタン樹脂ワニス
 - OS : オイルステイン
 - WP : 木材保護塗料
- コンクリート : 無機質透水性コンクリート改質材
改質材 【日本躯体処理: RCガーデックス (防水用) 程度】
コンクリート : 無機質コンクリート表面含浸型改質材
表面保護材 【日本躯体処理: RCガーデックス (表面保護用) 程度】

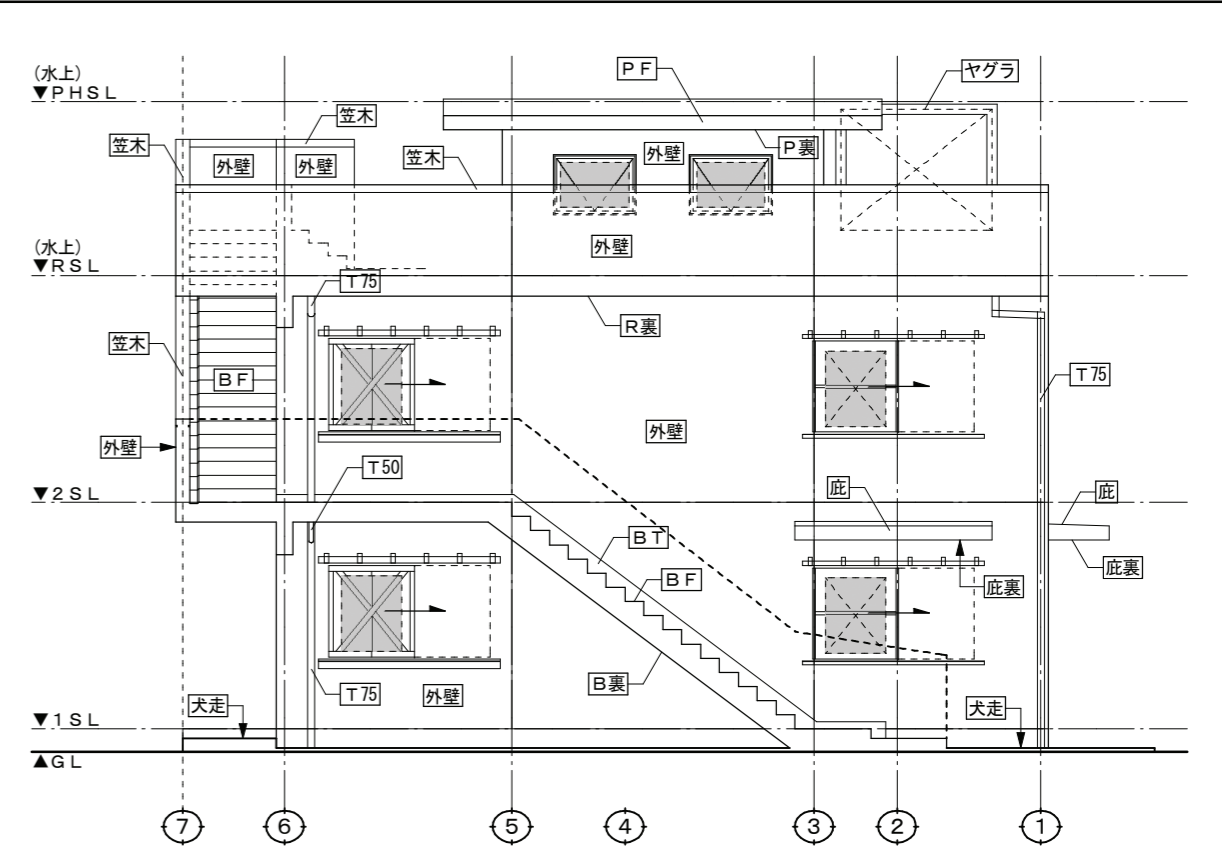
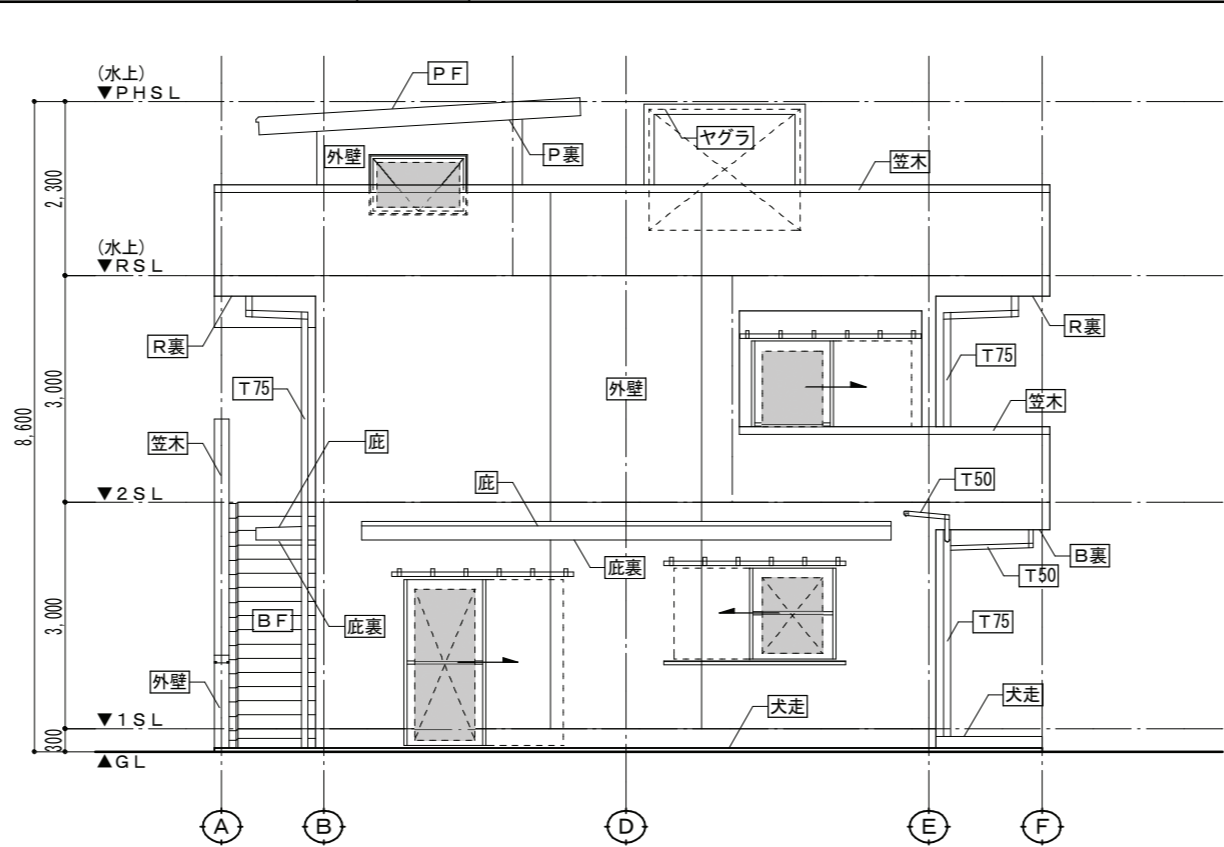
屋根伏図

Scale 1:100

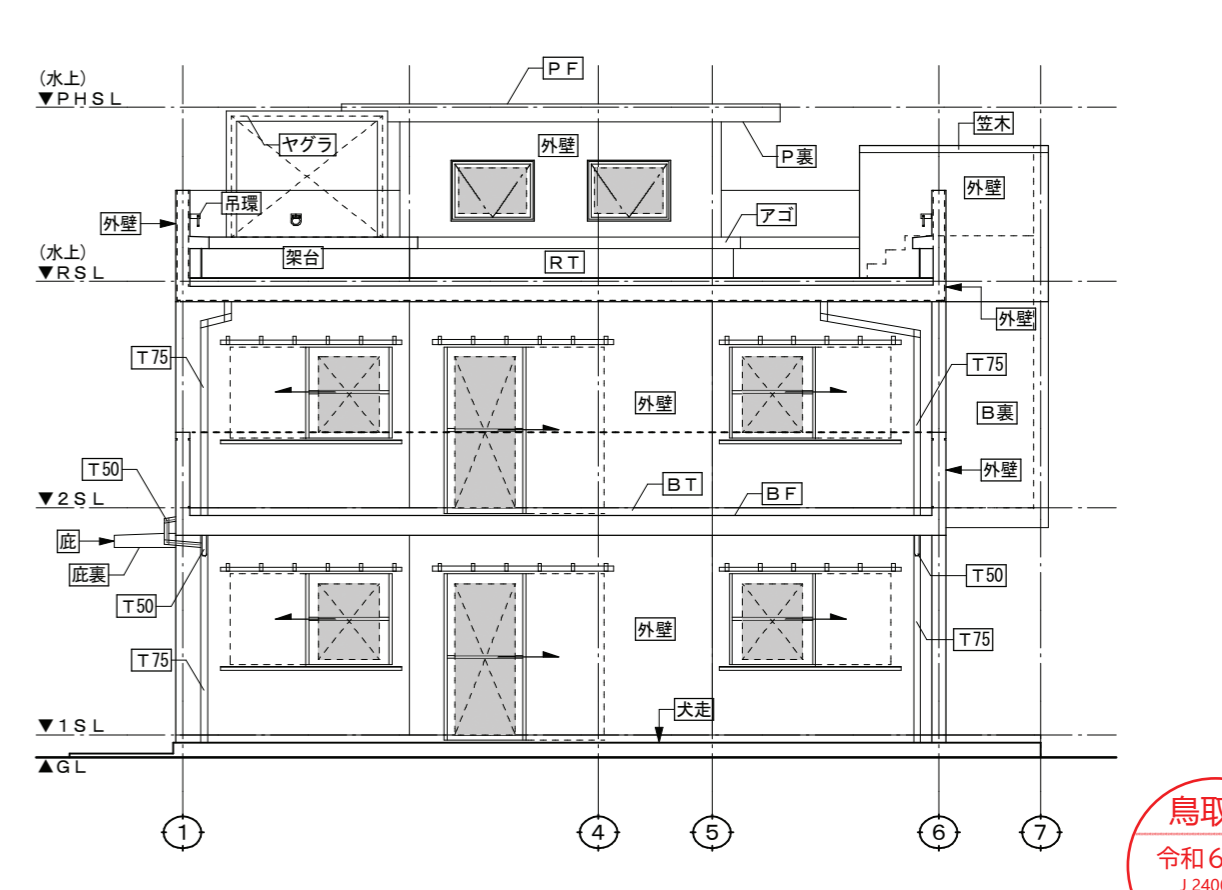
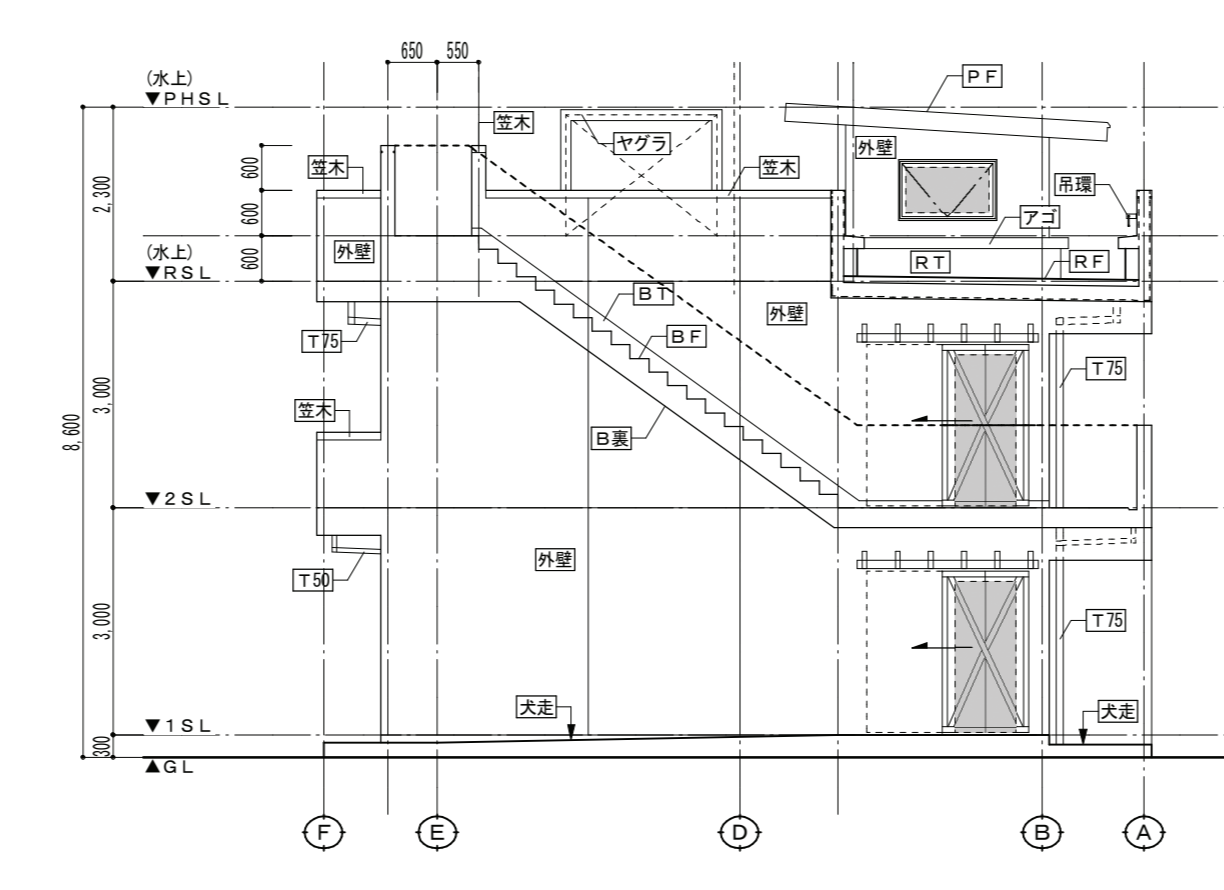
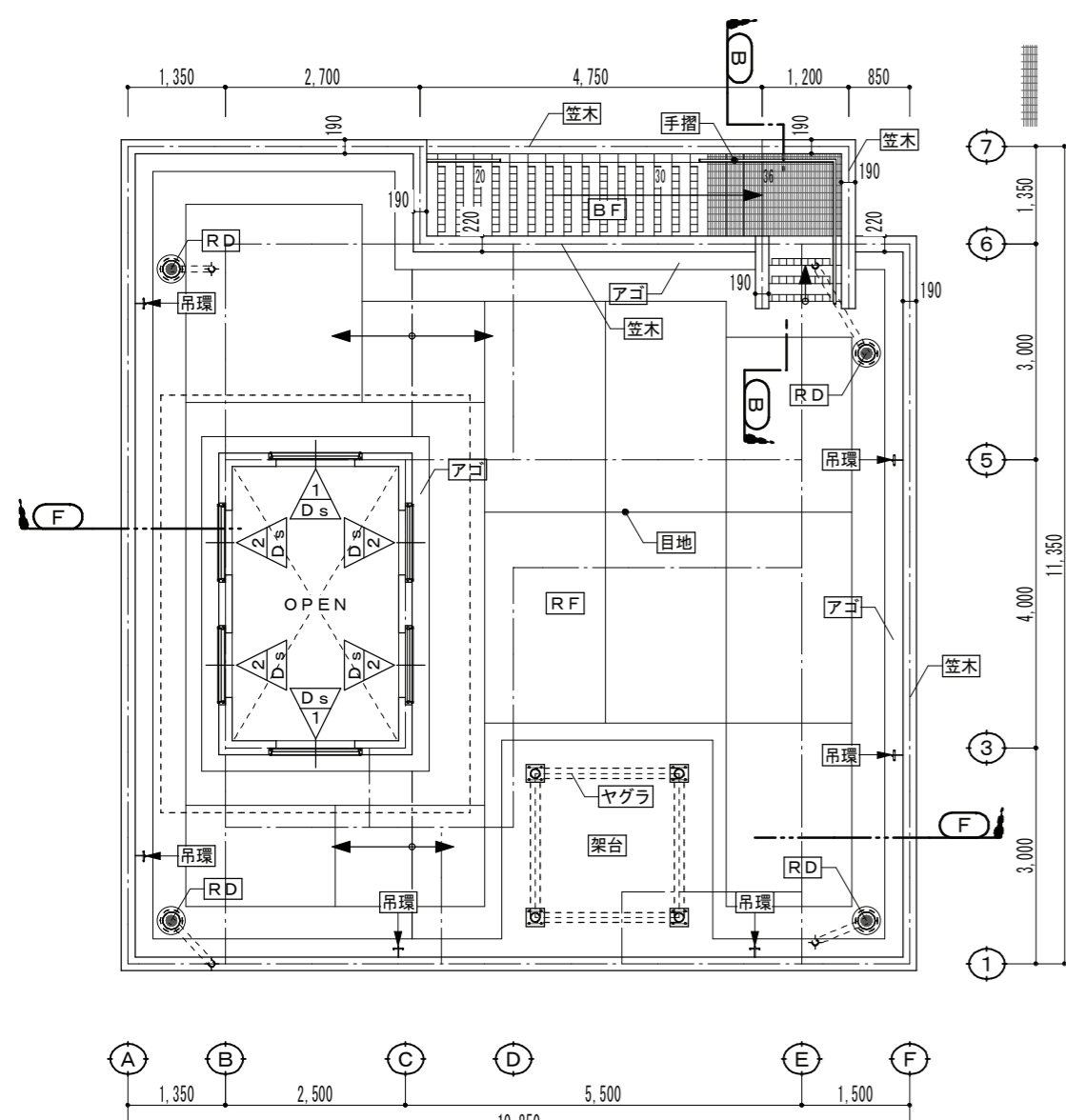


立面図

Scale 1:100



南北 西東



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名

外部仕上表・屋根伏図・立面図

【新築 (b6) 実火訓練棟】

作図



承認



承認

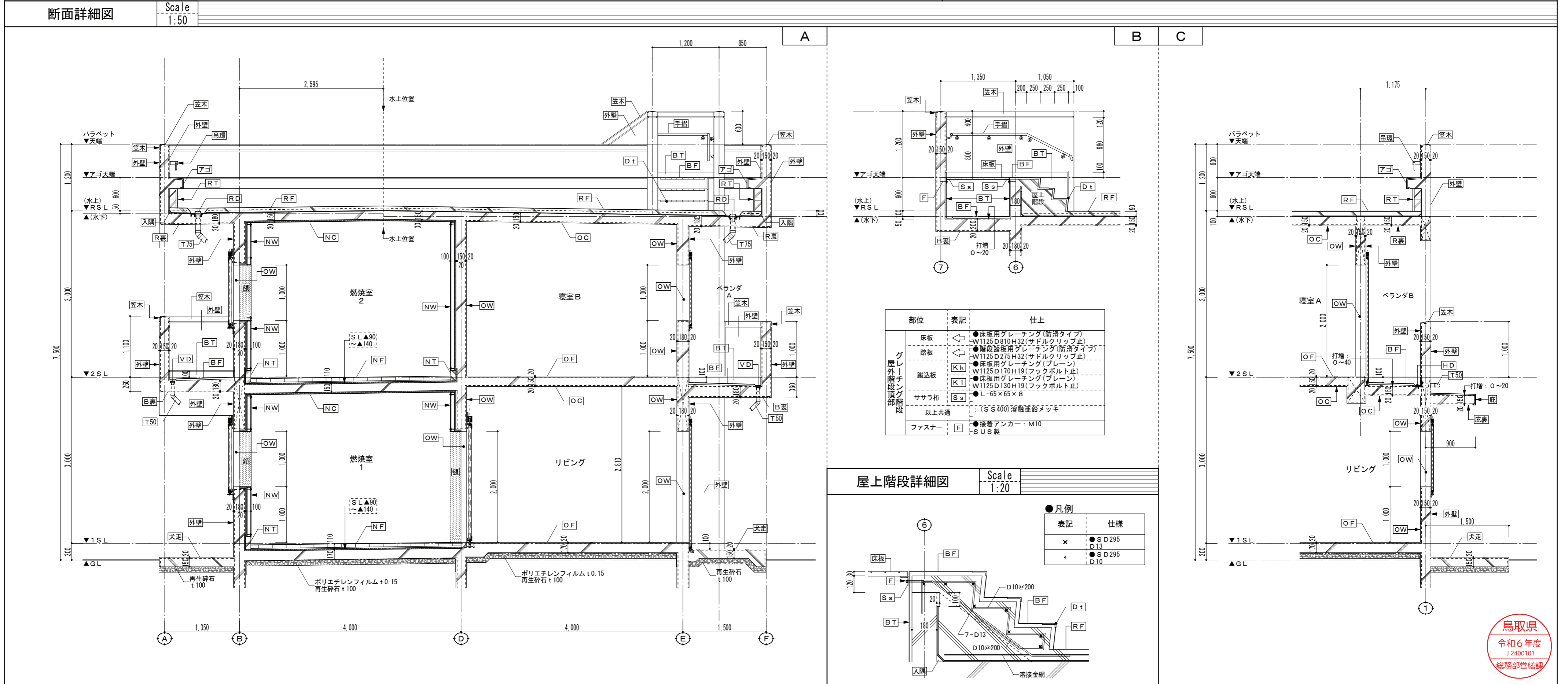
承認

図番番号 A-11

令和7年3月 - 日

鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部営繕課

仕上リスト			内部仕上 断面詳細図			Scale 1:10																																																																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>表記</th> <th>仕上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般部</td> <td>OF</td> <td>●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>床</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>燃焼室</td> <td>NF</td> <td>●耐火煉瓦敷: S-K-34(並置: 230×114×65) ●目地: 耐火モルタル(エアセット)※ ●下地モルタル: 25 ●防水モルタル: 20</td> </tr> <tr> <td>巾木</td> <td>NT</td> <td>●コンクリート打放: 95(改質材塗) ●防水モルタル: 20</td> </tr> <tr> <td>一般部</td> <td>OW</td> <td>●コンクリート打放補修(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>壁</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>燃焼室</td> <td>NW</td> <td>●耐火性鋼板: 3.2口600(ボルト止×4カ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックワール吹付: 25</td> </tr> <tr> <td>一般部</td> <td>OC</td> <td>●コンクリート打放補修(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>天井</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>燃焼室</td> <td>NC</td> <td>●防火性可とう形薄塗材(不燃)塗 ●下地調整材 C-2 ●不燃木毛セメント板: 30打込</td> </tr> <tr> <td>階段室</td> <td>KC</td> <td>●ケイカル板: 6+6 ●LGS下地(振止補強@1800)</td> </tr> <tr> <td>排水目皿</td> <td>ND</td> <td>●SUS製φ5A</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縦管</td> <td>T65</td> <td>※M図参照</td> </tr> <tr> <td>額縁</td> <td>関</td> <td>●耐火性鋼板: 3.2D200程度</td> </tr> </tbody> </table>	部位	表記	仕上	一般部	OF	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	床			燃焼室	NF	●耐火煉瓦敷: S-K-34(並置: 230×114×65) ●目地: 耐火モルタル(エアセット)※ ●下地モルタル: 25 ●防水モルタル: 20	巾木	NT	●コンクリート打放: 95(改質材塗) ●防水モルタル: 20	一般部	OW	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	壁			燃焼室	NW	●耐火性鋼板: 3.2口600(ボルト止×4カ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックワール吹付: 25	一般部	OC	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	天井			燃焼室	NC	●防火性可とう形薄塗材(不燃)塗 ●下地調整材 C-2 ●不燃木毛セメント板: 30打込	階段室	KC	●ケイカル板: 6+6 ●LGS下地(振止補強@1800)	排水目皿	ND	●SUS製φ5A	その他			縦管	T65	※M図参照	額縁	関	●耐火性鋼板: 3.2D200程度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>表記</th> <th>仕上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平場</td> <td>RF</td> <td>●押入コンクリート: 80(表面保護材塗) ●(溶接金網: D6口100) ●アスファルト防水(A-1)</td> </tr> <tr> <td>目地</td> <td></td> <td>●成形目地材</td> </tr> <tr> <td>入隅処理</td> <td>入隅</td> <td>●既成成形キャント</td> </tr> <tr> <td>立上</td> <td>RT</td> <td>●防水モルタル金ゴテ: 25(表面保護材塗) ●保護: C-B: 120</td> </tr> <tr> <td>アゴ</td> <td></td> <td>●アスファルト防水(A-1)</td> </tr> <tr> <td>外壁</td> <td></td> <td>●コンクリート打放(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>笠木</td> <td></td> <td>●コンクリート打放(改質材塗)</td> </tr> <tr> <td>架台</td> <td></td> <td>●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)</td> </tr> <tr> <td>ヤグラ</td> <td></td> <td>●鉄骨製(溶融垂鉛メッキ) ●W2000 D2000 H1800程度</td> </tr> <tr> <td>ドレイン</td> <td>RD</td> <td>●縦引75A 鋼鉄製</td> </tr> <tr> <td>壁・呼樋</td> <td>T75</td> <td>●カラーV P75A</td> </tr> <tr> <td>吊環</td> <td></td> <td>●SUS304製φ100</td> </tr> <tr> <td>軒裏</td> <td>R裏</td> <td>●コンクリート打放(表面保護材塗)</td> </tr> </tbody> </table>	部位	表記	仕上	平場	RF	●押入コンクリート: 80(表面保護材塗) ●(溶接金網: D6口100) ●アスファルト防水(A-1)	目地		●成形目地材	入隅処理	入隅	●既成成形キャント	立上	RT	●防水モルタル金ゴテ: 25(表面保護材塗) ●保護: C-B: 120	アゴ		●アスファルト防水(A-1)	外壁		●コンクリート打放(表面保護材塗)	笠木		●コンクリート打放(改質材塗)	架台		●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)	ヤグラ		●鉄骨製(溶融垂鉛メッキ) ●W2000 D2000 H1800程度	ドレイン	RD	●縦引75A 鋼鉄製	壁・呼樋	T75	●カラーV P75A	吊環		●SUS304製φ100	軒裏	R裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>表記</th> <th>仕上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋根</td> <td>PF</td> <td>●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)</td> </tr> <tr> <td>軒裏</td> <td>P裏</td> <td>●コンクリート打放(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>庇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>庇裏</td> <td></td> <td>●コンクリート打放(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>床</td> <td>BF</td> <td>●防水モルタル: 30金ゴテ(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>巾木</td> <td>BT</td> <td>●防水モルタル: 20(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>段鼻</td> <td>DL</td> <td>●重付段鼻タイル100口H30</td> </tr> <tr> <td>上裏</td> <td>B裏</td> <td>●コンクリート打放(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>笠木</td> <td></td> <td>●コンクリート打放(改質材塗)</td> </tr> <tr> <td>手摺</td> <td>VD</td> <td>●SUS製φ38 壁付 ●SUSプラケット@900 ●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用</td> </tr> <tr> <td>ドレイン</td> <td>HD</td> <td>●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用</td> </tr> <tr> <td>壁・呼樋</td> <td>T50</td> <td>●カラーV P50A</td> </tr> <tr> <td>外壁・巾木</td> <td></td> <td>●コンクリート打放(表面保護材塗)</td> </tr> <tr> <td>犬走</td> <td></td> <td>●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)</td> </tr> </tbody> </table>	部位	表記	仕上	屋根	PF	●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)	軒裏	P裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	庇			庇裏		●コンクリート打放(表面保護材塗)	床	BF	●防水モルタル: 30金ゴテ(表面保護材塗)	巾木	BT	●防水モルタル: 20(表面保護材塗)	段鼻	DL	●重付段鼻タイル100口H30	上裏	B裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	笠木		●コンクリート打放(改質材塗)	手摺	VD	●SUS製φ38 壁付 ●SUSプラケット@900 ●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用	ドレイン	HD	●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用	壁・呼樋	T50	●カラーV P50A	外壁・巾木		●コンクリート打放(表面保護材塗)	犬走		●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	
部位	表記	仕上																																																																																																																																								
一般部	OF	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)																																																																																																																																								
床																																																																																																																																										
燃焼室	NF	●耐火煉瓦敷: S-K-34(並置: 230×114×65) ●目地: 耐火モルタル(エアセット)※ ●下地モルタル: 25 ●防水モルタル: 20																																																																																																																																								
巾木	NT	●コンクリート打放: 95(改質材塗) ●防水モルタル: 20																																																																																																																																								
一般部	OW	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)																																																																																																																																								
壁																																																																																																																																										
燃焼室	NW	●耐火性鋼板: 3.2口600(ボルト止×4カ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックワール吹付: 25																																																																																																																																								
一般部	OC	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)																																																																																																																																								
天井																																																																																																																																										
燃焼室	NC	●防火性可とう形薄塗材(不燃)塗 ●下地調整材 C-2 ●不燃木毛セメント板: 30打込																																																																																																																																								
階段室	KC	●ケイカル板: 6+6 ●LGS下地(振止補強@1800)																																																																																																																																								
排水目皿	ND	●SUS製φ5A																																																																																																																																								
その他																																																																																																																																										
縦管	T65	※M図参照																																																																																																																																								
額縁	関	●耐火性鋼板: 3.2D200程度																																																																																																																																								
部位	表記	仕上																																																																																																																																								
平場	RF	●押入コンクリート: 80(表面保護材塗) ●(溶接金網: D6口100) ●アスファルト防水(A-1)																																																																																																																																								
目地		●成形目地材																																																																																																																																								
入隅処理	入隅	●既成成形キャント																																																																																																																																								
立上	RT	●防水モルタル金ゴテ: 25(表面保護材塗) ●保護: C-B: 120																																																																																																																																								
アゴ		●アスファルト防水(A-1)																																																																																																																																								
外壁		●コンクリート打放(表面保護材塗)																																																																																																																																								
笠木		●コンクリート打放(改質材塗)																																																																																																																																								
架台		●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)																																																																																																																																								
ヤグラ		●鉄骨製(溶融垂鉛メッキ) ●W2000 D2000 H1800程度																																																																																																																																								
ドレイン	RD	●縦引75A 鋼鉄製																																																																																																																																								
壁・呼樋	T75	●カラーV P75A																																																																																																																																								
吊環		●SUS304製φ100																																																																																																																																								
軒裏	R裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)																																																																																																																																								
部位	表記	仕上																																																																																																																																								
屋根	PF	●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)																																																																																																																																								
軒裏	P裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)																																																																																																																																								
庇																																																																																																																																										
庇裏		●コンクリート打放(表面保護材塗)																																																																																																																																								
床	BF	●防水モルタル: 30金ゴテ(表面保護材塗)																																																																																																																																								
巾木	BT	●防水モルタル: 20(表面保護材塗)																																																																																																																																								
段鼻	DL	●重付段鼻タイル100口H30																																																																																																																																								
上裏	B裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)																																																																																																																																								
笠木		●コンクリート打放(改質材塗)																																																																																																																																								
手摺	VD	●SUS製φ38 壁付 ●SUSプラケット@900 ●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用																																																																																																																																								
ドレイン	HD	●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用																																																																																																																																								
壁・呼樋	T50	●カラーV P50A																																																																																																																																								
外壁・巾木		●コンクリート打放(表面保護材塗)																																																																																																																																								
犬走		●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)																																																																																																																																								



仕上リスト

部位	表記	仕上
床	一般部 [OF]	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)
	燃焼室 [NF]	●耐火煉瓦敷: S-K-34(並置: 230×114×65) ●目地: 耐火モルタル(エアセット) ●下地モルタル: 25 ●防水モルタル: 25
巾木	燃焼室 [NT]	●コンクリート打放: 95(改質材塗) ●防水モルタル: 20
	一般部 [OV]	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
壁	燃焼室 [NW]	●耐火煉瓦敷: 3.2D600(ボルト正×4ヵ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックウール敷付: 25 ●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
	一般部 [OC]	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
天井	燃焼室 [NC]	●防火性可とう形薄塗材(不燃)塗 ●下地調整材C-2 ●不燃毛セメント板: 30打込 ●ケイカル板: 6+6
	階段室 [KC]	●LGS下地(掘止補強@1800)
	一般部 [OC]	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)

部位	表記	仕上
排水目皿	[ND]	●SUS製φ65A
	[T65]	※M図参照
	[T65]	●耐振性鋼板: 3.2D200程度
手摺	[H]	●SUS製φ38 壁付 ●SUSブラケット@900

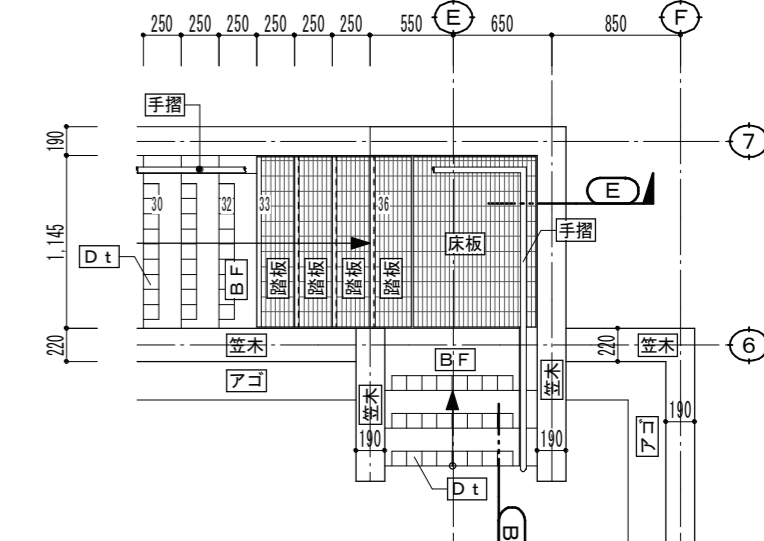
部位	表記	仕上
PH	屋根 [PF]	●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)
	軒裏 [P裏]	●コンクリート打放(表面保護材塗)
庇	庇裏 [P裏]	●防水モルタル: 20金ゴテ(改質材塗)
	庇裏 [P裏]	●コンクリート打放(表面保護材塗)
外壁・巾木	[H]	●コンクリート打放(表面保護材塗)
	[H]	●コンクリート打放(表面保護材塗)
砂利敷	[C]	●単粒度砕石(S-13) 1260

部位	表記	仕上
平場	[RF]	●押えコンクリート: 80(表面保護材塗) (溶接金網: D6φ100) ●スフェルト防水(A-1)
	[RF]	●成形目地材
目地	[H]	●既成成形キヤント
入隅処理	[入隅]	●既成成形キヤント
立上	[RT]	●防水モルタル金ゴテ: 25(表面保護材塗) ●保護-CB: 120
アゴ	[H]	●スフェルト防水(A-1)
外壁	[H]	●防水モルタル金ゴテ: 20(表面保護材塗)
笠木	[H]	●コンクリート打放(表面保護材塗)
架台	[H]	●コンクリート打放(表面保護材塗)
ヤグラ	[H]	●鉄骨製(溶融垂縮メッキ) W2000 D2000 H1800程度
ドレイン	[RD]	●縦引75A 鋼鉄製
縦樋・呼樋	[T75]	●ガラーVP75A
吊環	[H]	●SUS304製φ100
軒裏	[R裏]	●コンクリート打放(表面保護材塗)

部位	表記	仕上
床	[BF]	●防水モルタル: 30金ゴテ(表面保護材塗)
	[BT]	●防水モルタル: 20(表面保護材塗)
巾木	[BT]	●防水モルタル: 20(表面保護材塗)
段鼻	[Dt]	●垂付段鼻タイル100白H30
上裏	[B裏]	●コンクリート打放(表面保護材塗)
笠木	[H]	●コンクリート打放(改質材塗)
手摺	[H]	●SUS製φ38 壁付
ドレイン	[VD]	●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用
	[HD]	●縦引50A 鋼鉄製 バルコニー用
縦樋・呼樋	[T50]	●ガラーVP50A

部位	表記	仕上
床板	[K1]	●床板用グレーチング(防滑タイプ) W1125 D810 H32(サドルクリップ止)
	[K1]	●階段踏板用グレーチング(防滑タイプ) W1125 D275 H32(サドルクリップ止)
蹴込板	[Kk]	●床板用グレーチング(プレーン) W1125 D170 H19(フックボルト止)
	[K1]	●床板用グレーチング(プレーン) W1125 D130 H19(フックボルト止)
ササラ拵	[Ss]	●L-65×65×8
以上共通	[Ss]	●(S S 400) 溶融垂縮メッキ
ファスナー	[F]	●接着アンカー: M10 ●SUS製

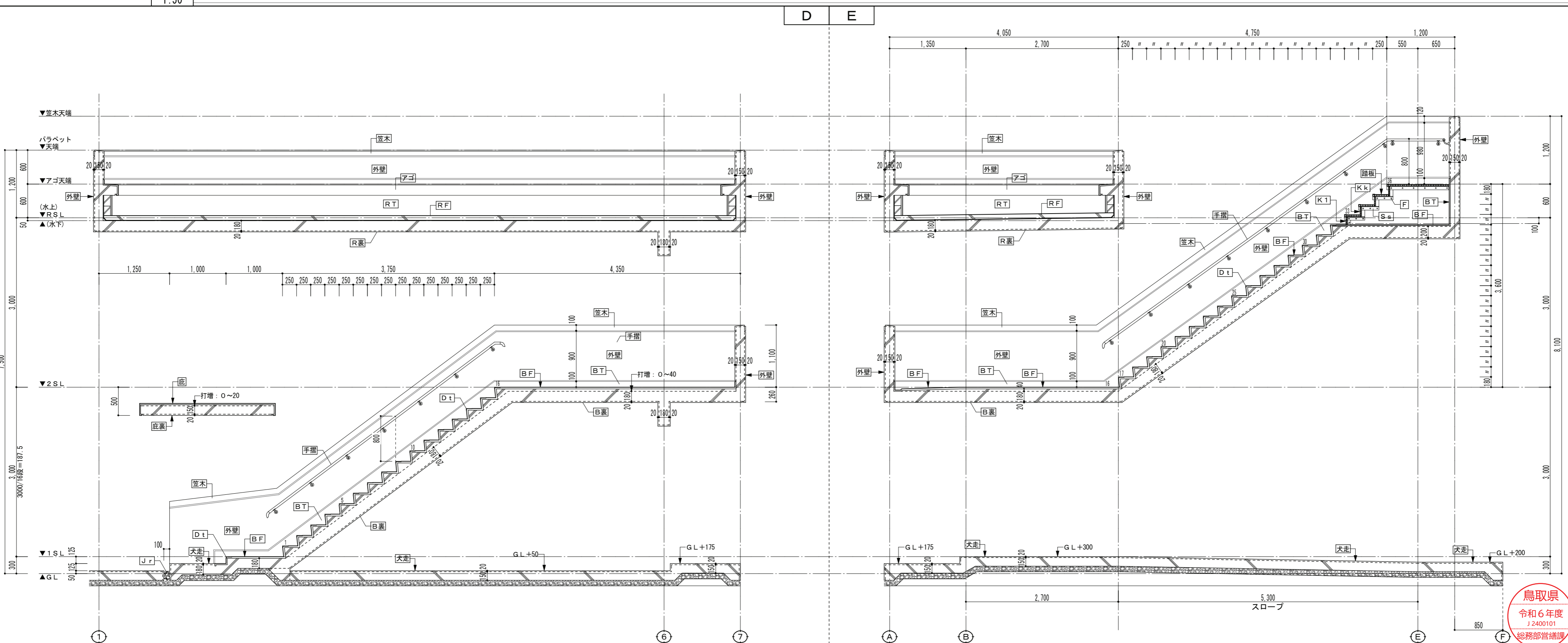
屋上階段頂部



平面詳細図 Scale 1:50

断面詳細図

Scale 1:50



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号
TEL 0859-30-0100 FAX 0859-30-0101
一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL 0859-30-0100 FAX 0859-30-0101

件名 鳥取県消防学校
突火訓練棟建替工事

図名 断面詳細図(D・E)
【新築(b6)突火訓練棟】

作図



承認 承認 承認

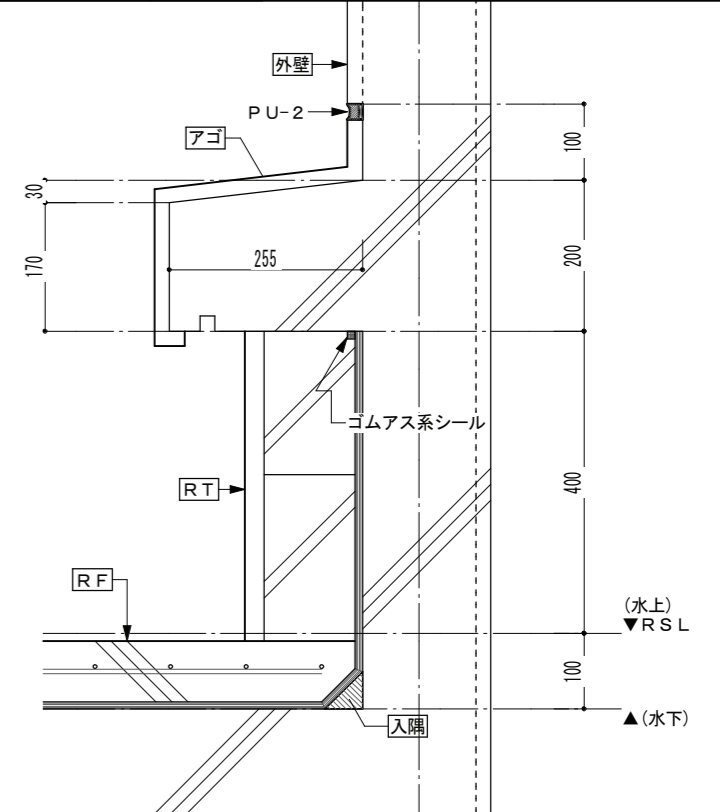


図面番号 A-13

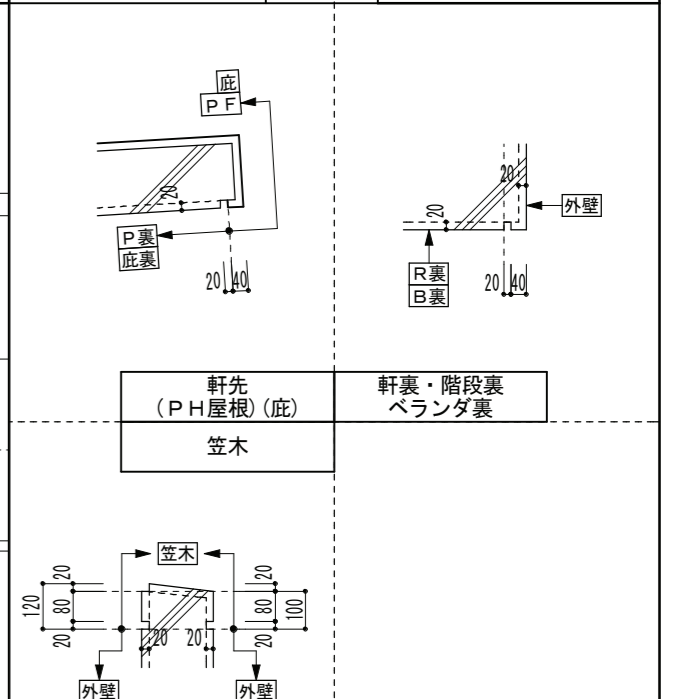
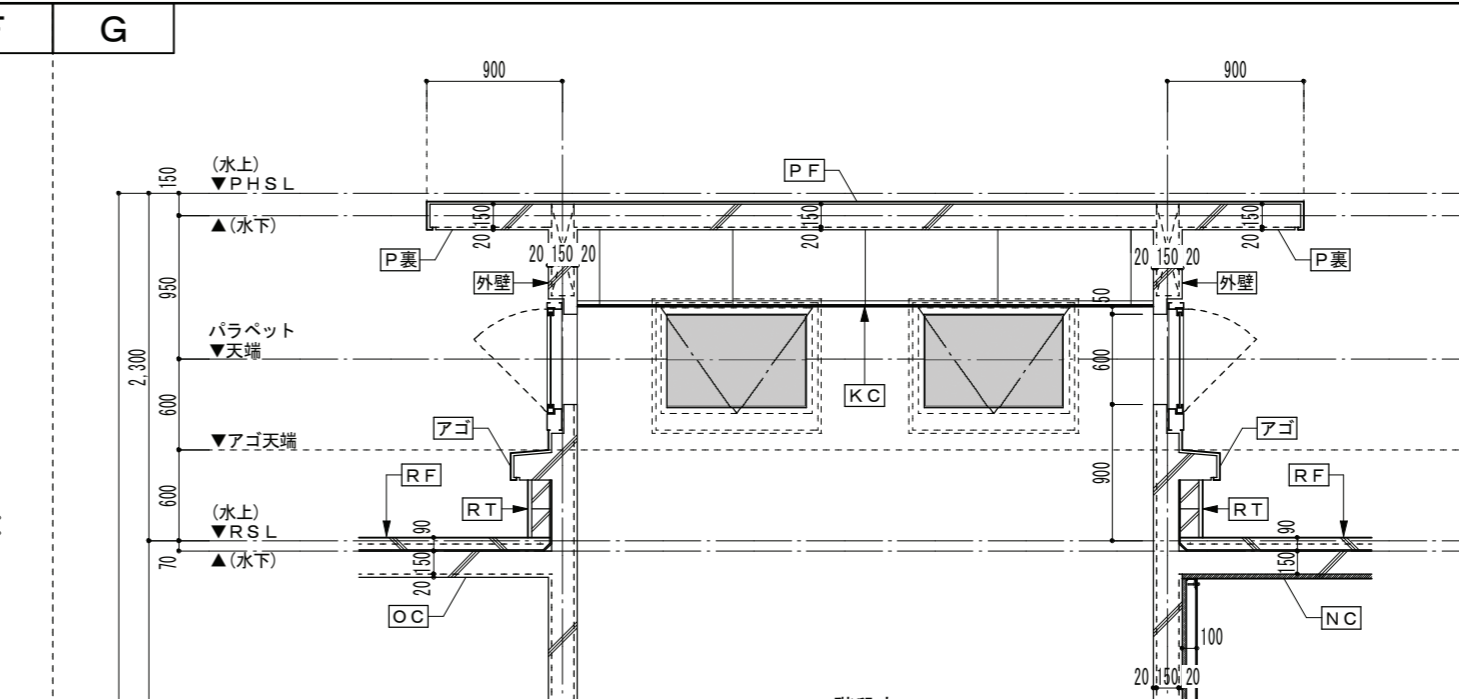
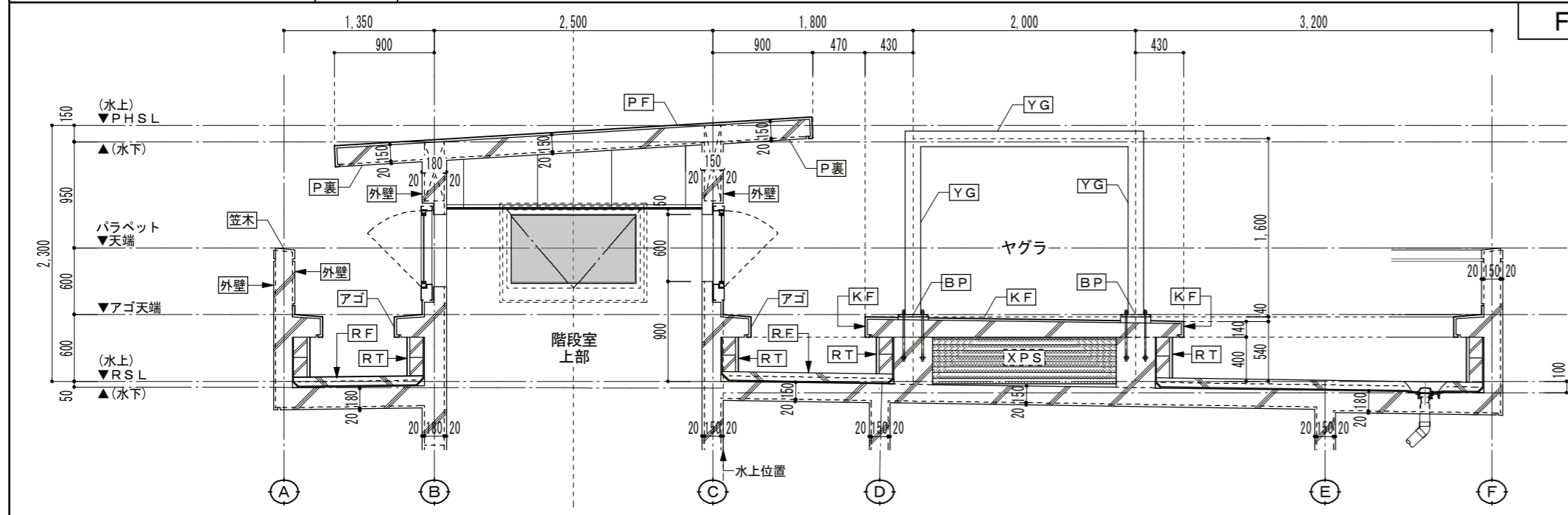
令和7年3月 - 日



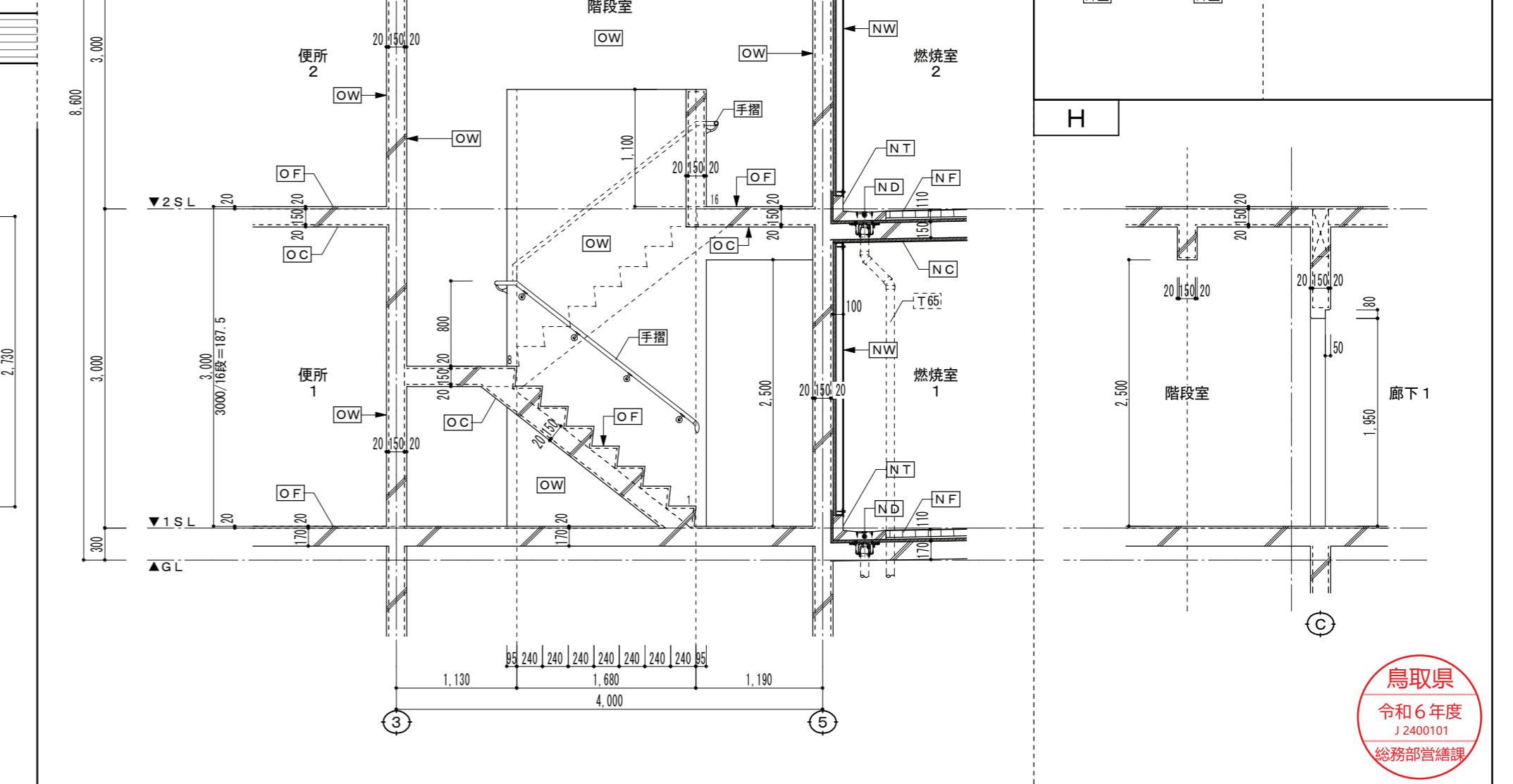
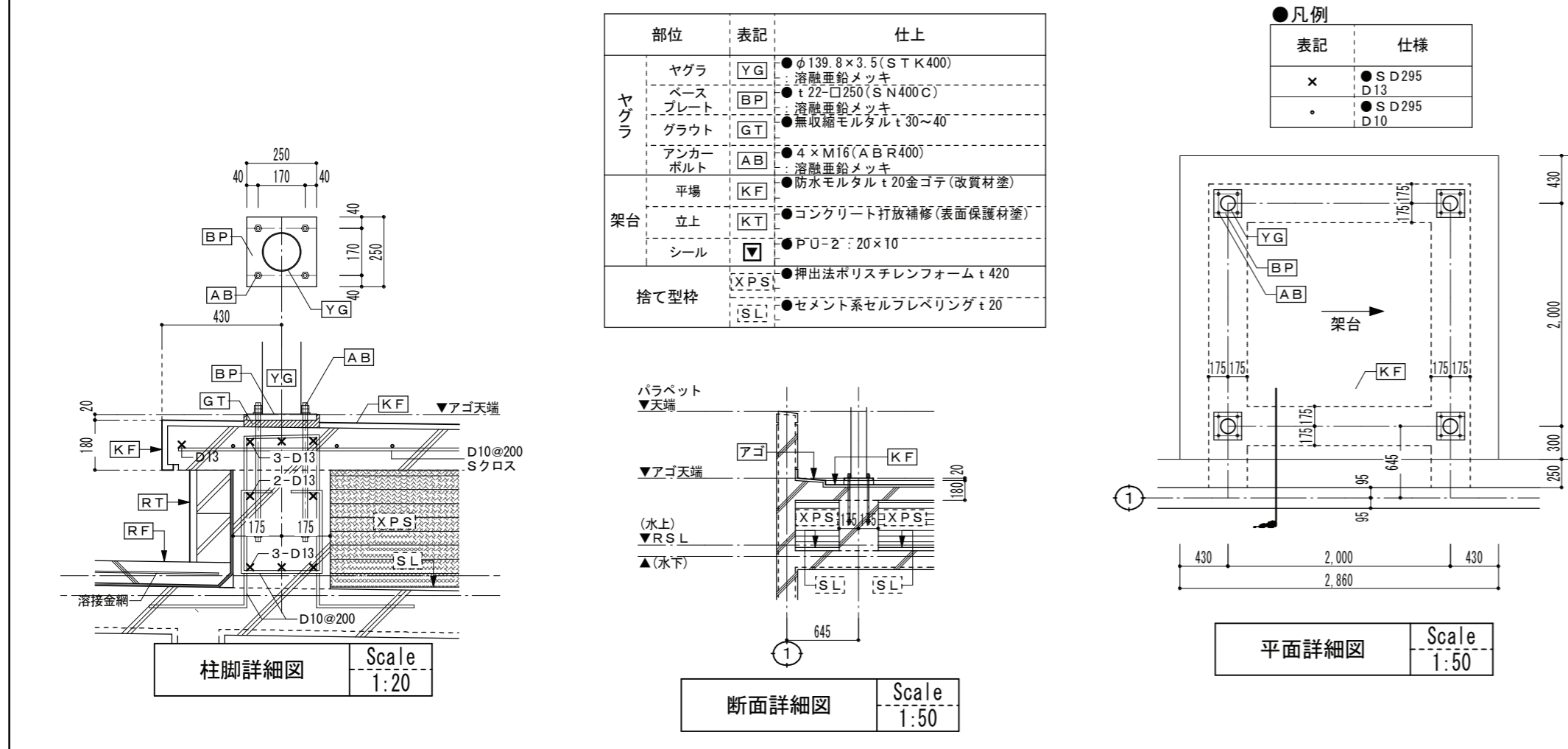
仕上リスト			仕上			仕上			仕上			仕上			パラペット					
部位	表記	仕上	部位	表記	仕上	部位	表記	仕上	部位	表記	仕上	部位	表記	仕上	部位	表記	仕上			
床	一般部	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)	排水目皿	ND	●SUS製φ5A	平場	RF	●押えコンクリートφ80(表面保護材塗) (溶接金網: D6φ100)	PH	屋根	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)	PH	屋根	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)	PH	屋根	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)	PH	屋根	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)
燃焼室	NF	●耐火煉瓦敷: S K-34(並置: 230×114×65) ●目地: 耐火モルタル(エアセット) ●下地モルタルφ25 ●防水モルタルφ25	縦管	T65	※M図参照	目地	←	●成形目地材	軒裏	P裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	軒裏	P裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	軒裏	P裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	軒裏	P裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)
巾木	燃焼室	NT	額縁	←	●耐候性鋼板φ3.2 D200程度	入隅処理	入隅	●既成成形キヤンド	庇	←	●防水モルタルφ25(表面保護材塗) ●保護-CBφ120 ●アスファルト防水(A-1)	庇	←	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)	庇	←	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)	庇	←	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)
壁	一般部	OW	手摺	←	●SUS製φ38 壁付 ●SUSブラケットφ90	立上	RT	●防水モルタルφ25(表面保護材塗)	外壁・巾木	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)	外壁・巾木	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)	外壁・巾木	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)	外壁・巾木	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)
燃焼室	NW	●耐候性鋼板φ3.2φ600(ボルト正×4ヶ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックウール敷付φ25 ●コンクリート打放補修(表面保護材塗)	その他	←		アゴ	←	●防水モルタルφ20(表面保護材塗)	犬走	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)	犬走	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)	犬走	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)	犬走	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)
天井	一般部	OC				外壁	←	●コンクリート打放(表面保護材塗)	床	BF	●防水モルタルφ30金ゴテ(表面保護材塗)	床	BF	●防水モルタルφ30金ゴテ(表面保護材塗)	床	BF	●防水モルタルφ30金ゴテ(表面保護材塗)	床	BF	●防水モルタルφ30金ゴテ(表面保護材塗)
燃焼室	NC	●防火性可とう形塗材(不燃)塗 ●下地調整材C-2 ●不燃木毛セメント板φ30打込 ●ケイカル板φ6+6 ●LGS下地(掘止補強φ1800)				笠木	←	●コンクリート打放(改質材塗)	巾木	BT	●防水モルタルφ20(表面保護材塗)	巾木	BT	●防水モルタルφ20(表面保護材塗)	巾木	BT	●防水モルタルφ20(表面保護材塗)	巾木	BT	●防水モルタルφ20(表面保護材塗)
階段室	KC					架台	←	●防水モルタルφ20金ゴテ(改質材塗)	上裏	B裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	上裏	B裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	上裏	B裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	上裏	B裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)
						ヤグラ	←	●鉄骨製(溶融垂鉛メッキ) W2000 D2000 H1800程度	笠木	←	●コンクリート打放(改質材塗)	手摺	←	●SUS製φ38 壁付	手摺	←	●SUS製φ38 壁付	手摺	←	●SUS製φ38 壁付
						ドレイン	RD	●縦引75A 鋼鉄製	ドレイン	←	●縦引50A 鋼鉄製「バルコニー用」	ドレイン	←	●縦引50A 鋼鉄製「バルコニー用」	ドレイン	←	●縦引50A 鋼鉄製「バルコニー用」	ドレイン	←	●縦引50A 鋼鉄製「バルコニー用」
						縦樋・呼樋	T75	●カラーV P75A	縦樋・呼樋	←	●カラーV P50A	縦樋・呼樋	←	●カラーV P50A	縦樋・呼樋	←	●カラーV P50A	縦樋・呼樋	←	●カラーV P50A
						吊環	←	●SUS304製φ100	吊環	←		吊環	←		吊環	←		吊環	←	
						軒裏	R裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)	軒裏	←		軒裏	←		軒裏	←		軒裏	←	



断面詳細図 Scale 1:50 各部詳細図 Scale 1:20



ヤグラ・架台詳細図



部位	表記	仕上	
床	一般部	OF	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)
	燃焼室	NF	●耐火煉瓦敷:SK-34(並置:230×114×65) ◀ 下地:耐火モルタル(エアセット)▶ ●下地モルタルt20 ●防水モルタルt25
	一般部	OW	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
壁	一般部	OW	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
	燃焼室	NW	●耐候性鋼板t3.2口600(ボルト止×4ヵ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックワール吹付t25

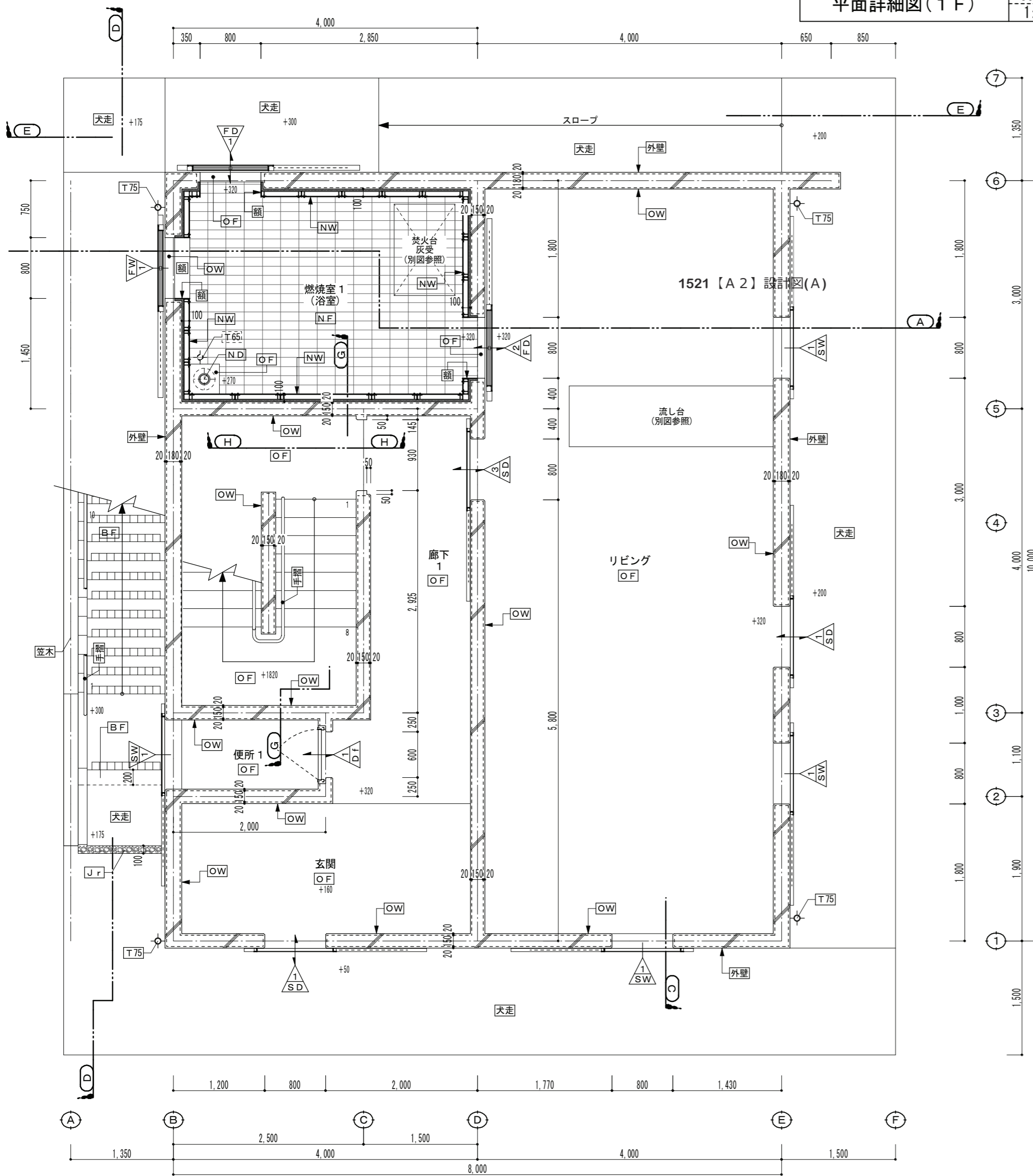
部位	表記	仕上
排水目皿	ND	●SUS製65A
縦管	T65	※M図参照
額縁	固	●耐候性鋼板t3.2D200程度
手摺	固	●SUS製φ38 壁付 ●SUSプレートφ900

部位	表記	仕上
屋上・壁樋・呼樋	T75	●カラーVP75A
底	固	●防水モルタルt20金ゴテ(改質材塗)
外壁・巾木	固	●コンクリート打放(表面保護材塗)
犬走	固	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)
砂利敷	Jr	●単粒度砕石(S-13)t260

部位	表記	仕上
床	BF	●防水モルタルt30金ゴテ(表面保護材塗)
段鼻	DT	●垂付段鼻タイル100口H30
笠木	固	●コンクリート打放(改質材塗)
ドレイン	VD	●縦引50A 鋼鉄製 ハルゴニー用
	HD	●横引50A 鋼鉄製 ハルゴニー用
壁樋・呼樋	T50	●カラーVP50A

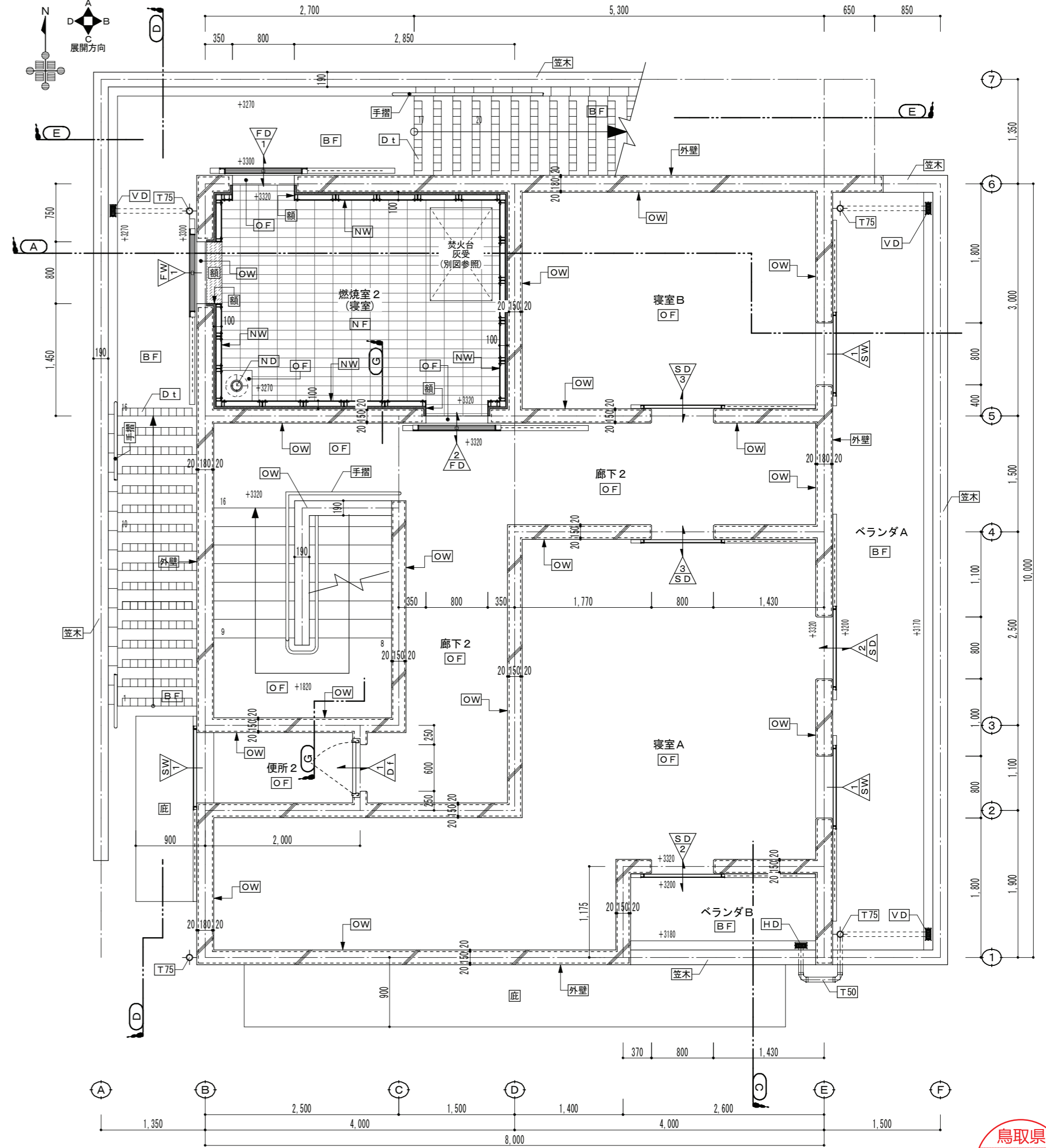
平面詳細図(1F)

Scale 1:50



平面詳細図(2F)

Scale 1:50



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
平面詳細図

【新築(b6)実火訓練棟】

作図



承認 承認 承認



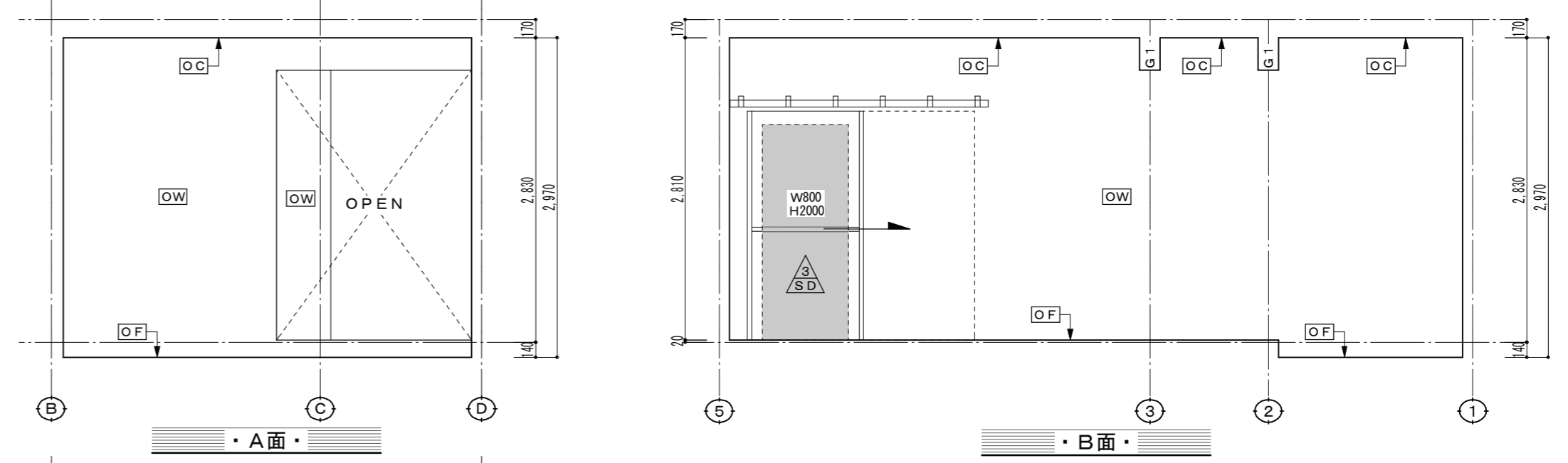
図面番号 A-15

令和7年3月 - 日

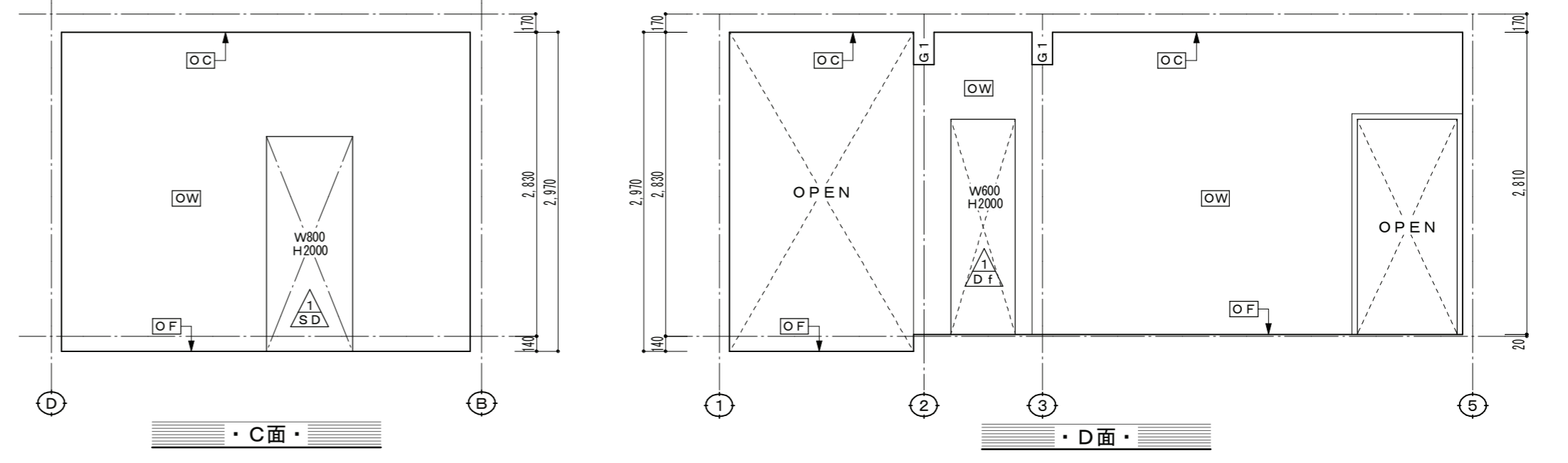
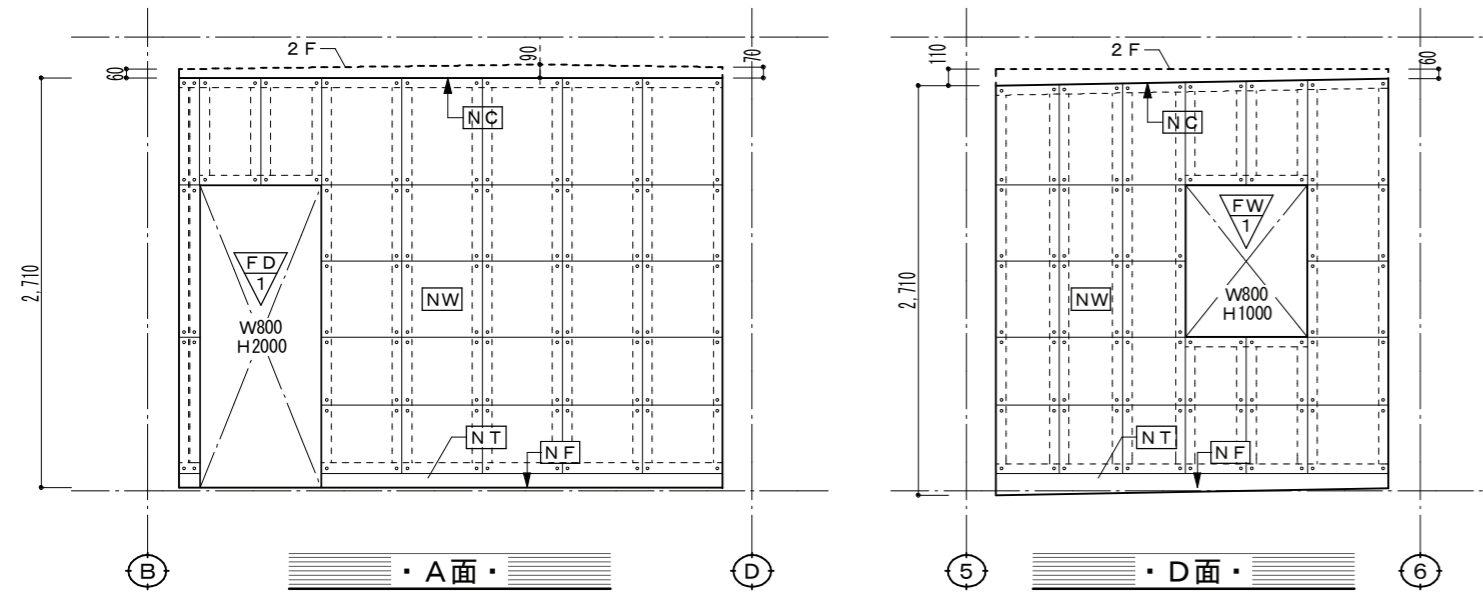
鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部管轄課

部位	表記	仕上
床	一般部	OF ●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)
	燃焼室	NF ●耐火床瓦敷 t 5×34(並置) 230×114×65 ●目地:耐火モルタル(エアセット) ●下地モルタル t 20 ●防水モルタル t 25
巾木	燃焼室	NT ●コンクリート打放 t 95(改質材塗) ●防水モルタル t 20
	一般部	OW ●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
壁	燃焼室	NW ●耐熱性鋼板 t 3 2口600(ボルト正×4カ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックウール吹付 t 25
	一般部	OC ●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
天井	燃焼室	NC ●防火性可とう形薄塗材(不燃塗) ●下地調整材 C-2 ●不燃木毛セメント板 t 30打込
	階段室	KC ●アイカル板 t 6+6 ●LGS下地(振止補強@1800)

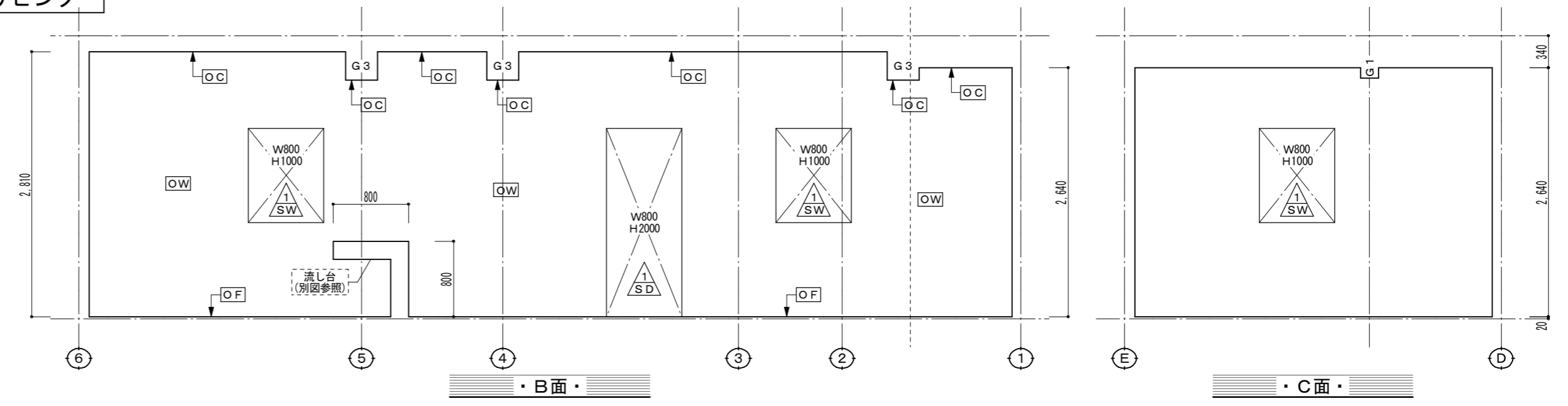
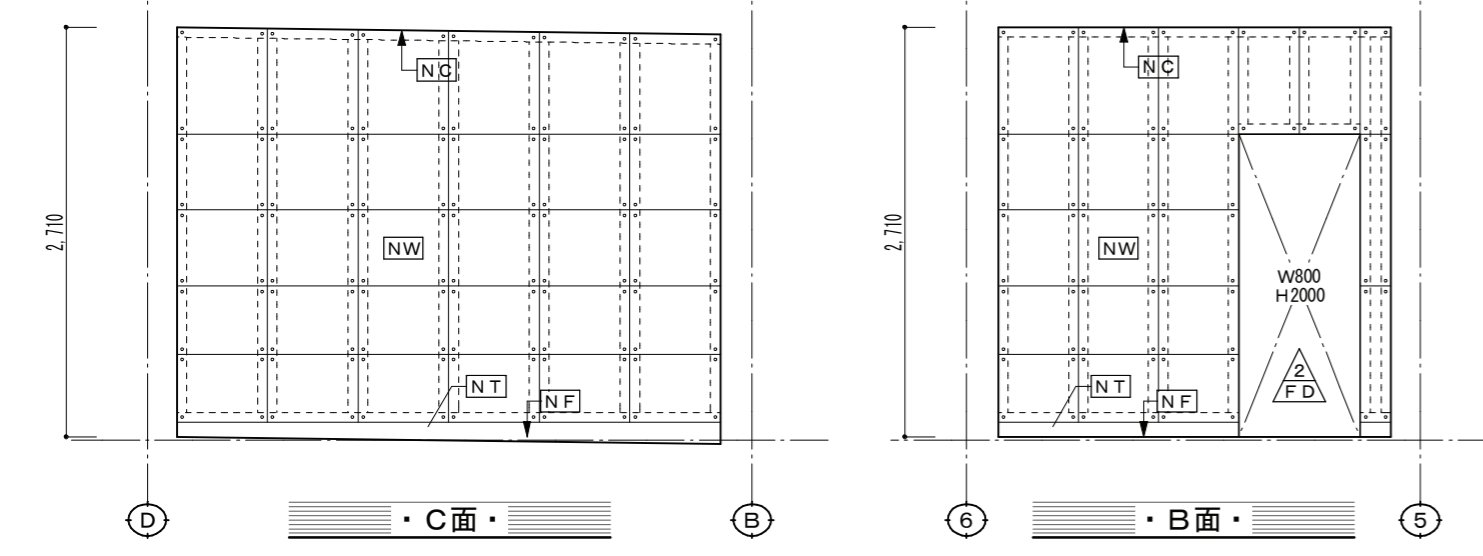
玄関・廊下1



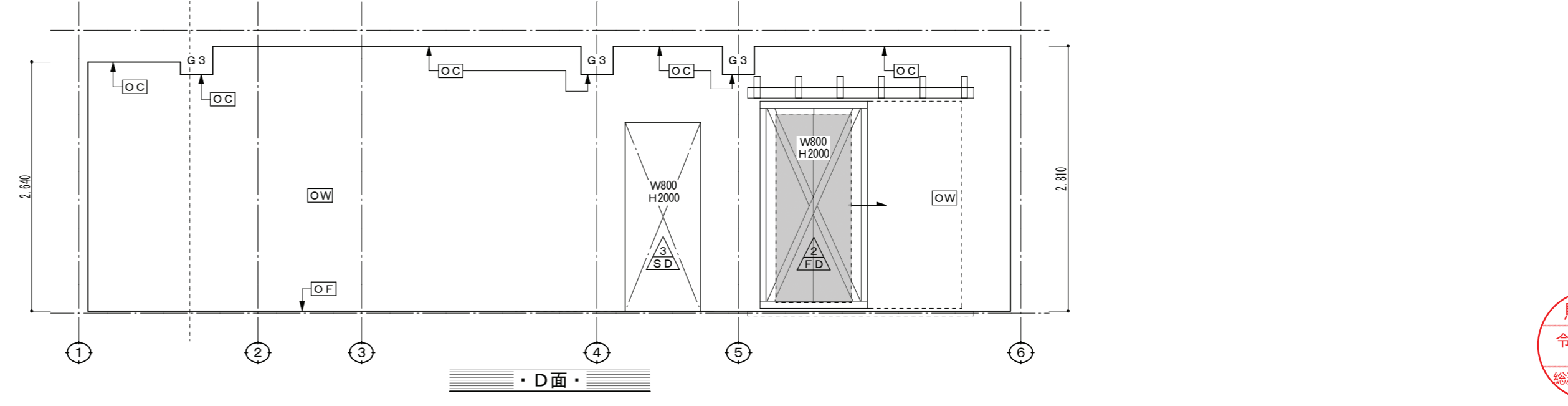
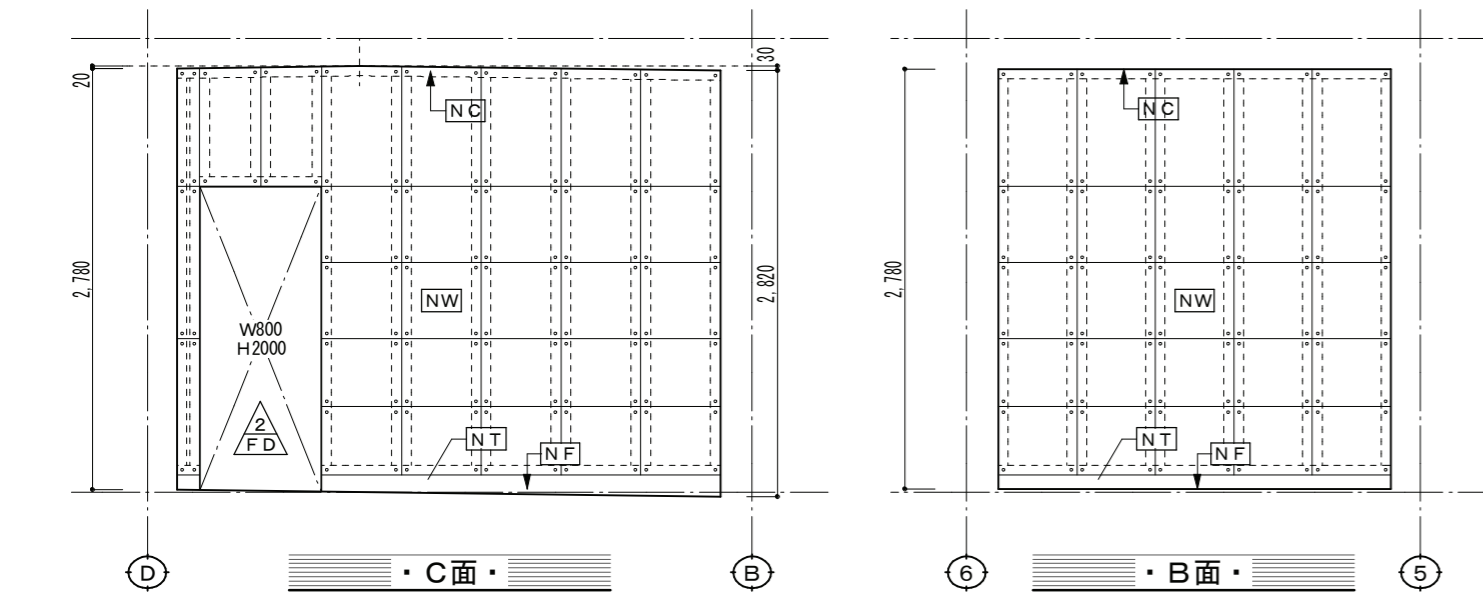
燃焼室(共通)



リビング



燃焼室1
燃焼室2



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号
〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
TEL 0859-30-0100 FAX 0859-30-0101
一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
展開図(1)

【新築(b6)実火訓練棟】

作図



承認 承認 承認



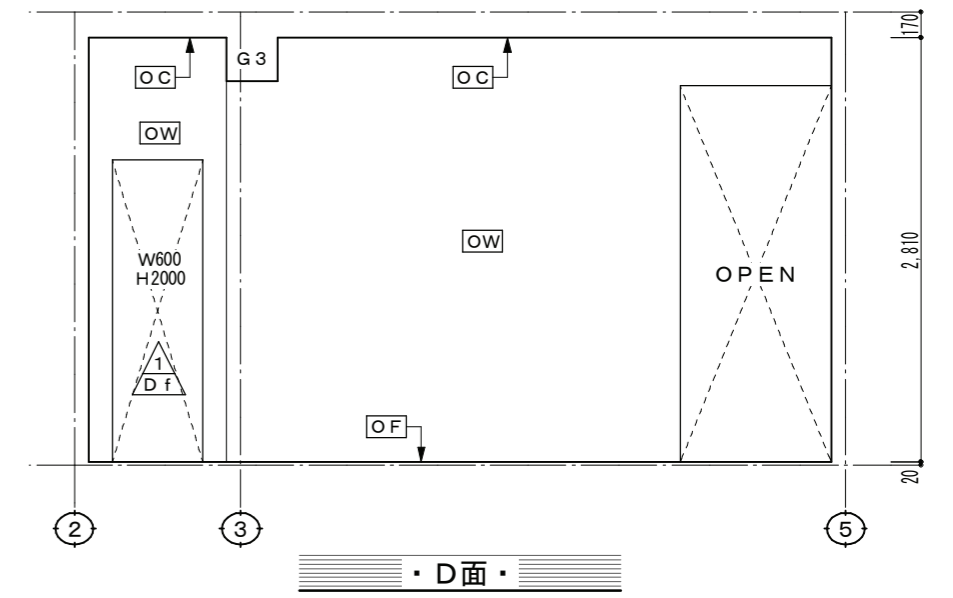
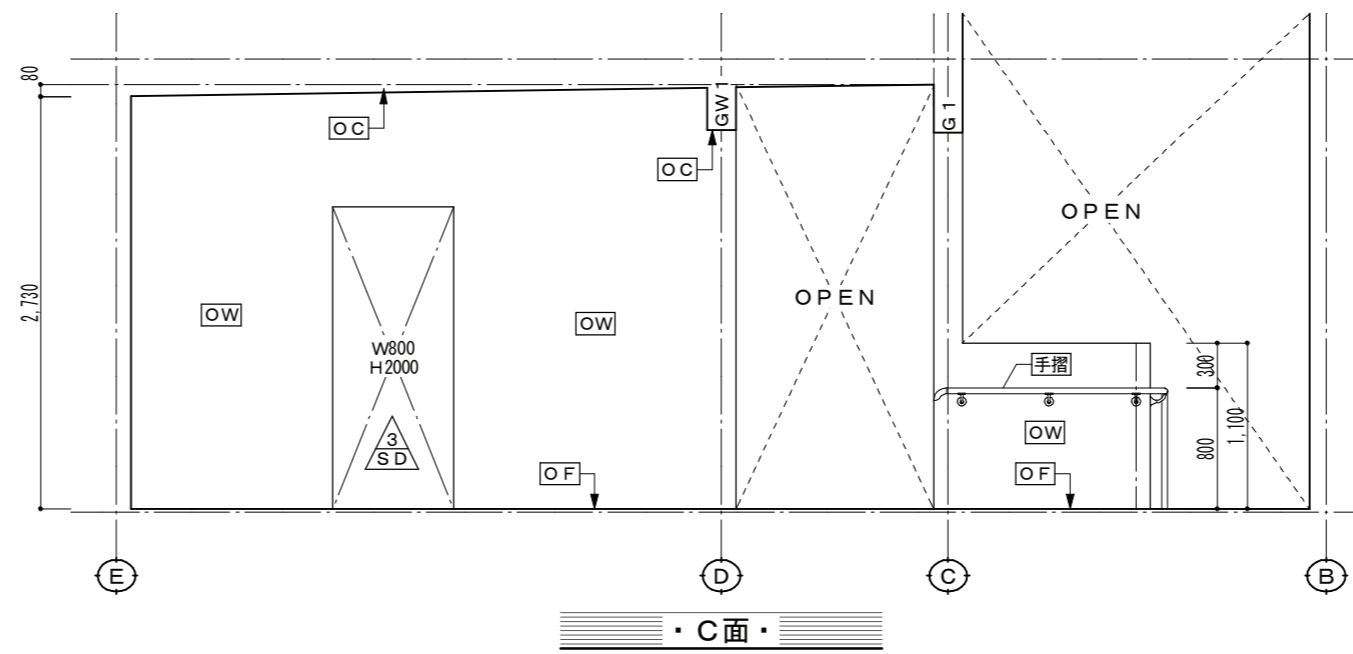
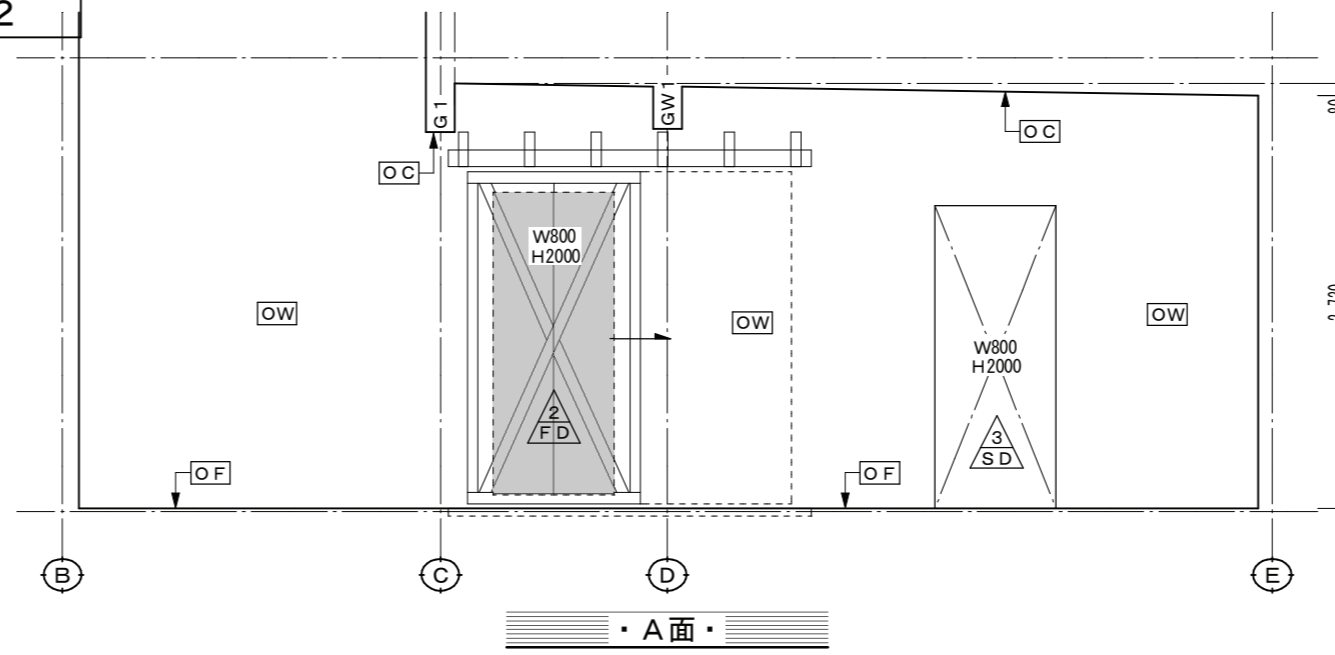
図面番号 A-16

令和7年3月 - 日

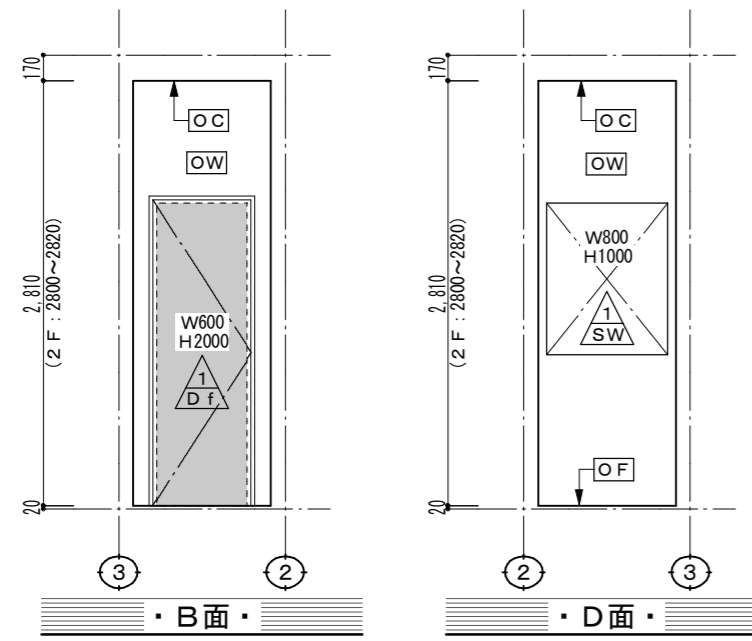


部位	表記	仕上
一般部	OF	●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)
床		
一般部	OF	●耐火煉瓦敷 t 34(並置:230×114×65)
燃焼室	NF	●「目地:耐火モルタル(エアセット)」 ●下地モルタル t 20 ●防水モルタル t 25
巾木		
燃焼室	NT	●コンクリート打放 t 95(改質材塗) ●防水モルタル t 20
一般部	OW	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
壁		
燃焼室	NW	●耐熱性鋼板 t 3 2口600(ボルト正×4カ所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックウール敷付 t 25
一般部	OC	●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
天井		
燃焼室	NC	●防火性可とう形薄塗材(不燃塗) ●下地調整材 C-2 ●不燃木手セメント板 t 30打込 ●ケイカル板 t 6+6
階段室	KC	●LGS下地(振止補強@1800)
手摺	←	●SUS製の38 壁付 ●SUSブラケット@900

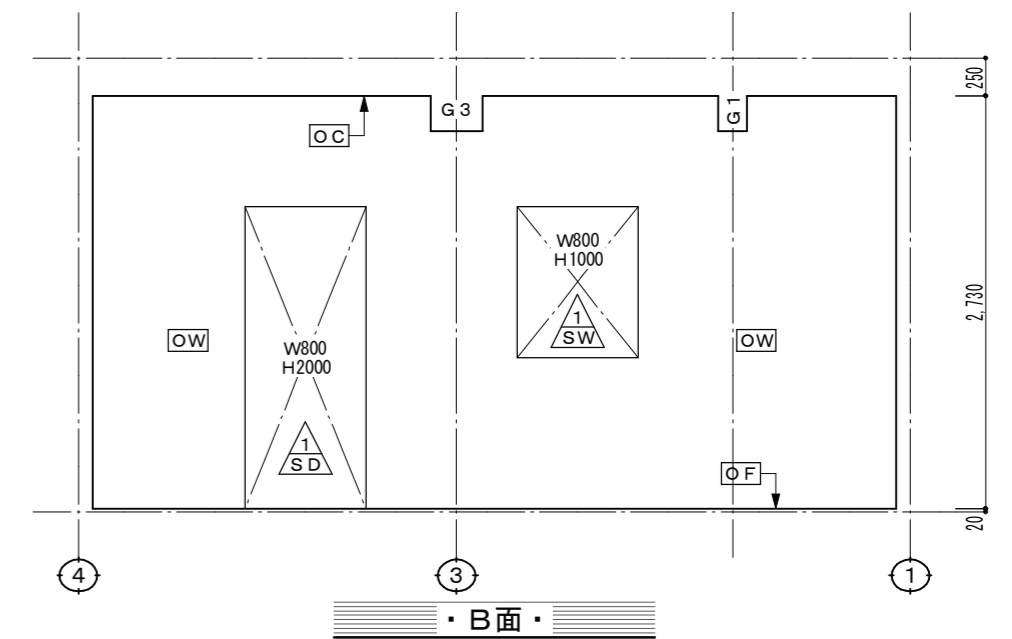
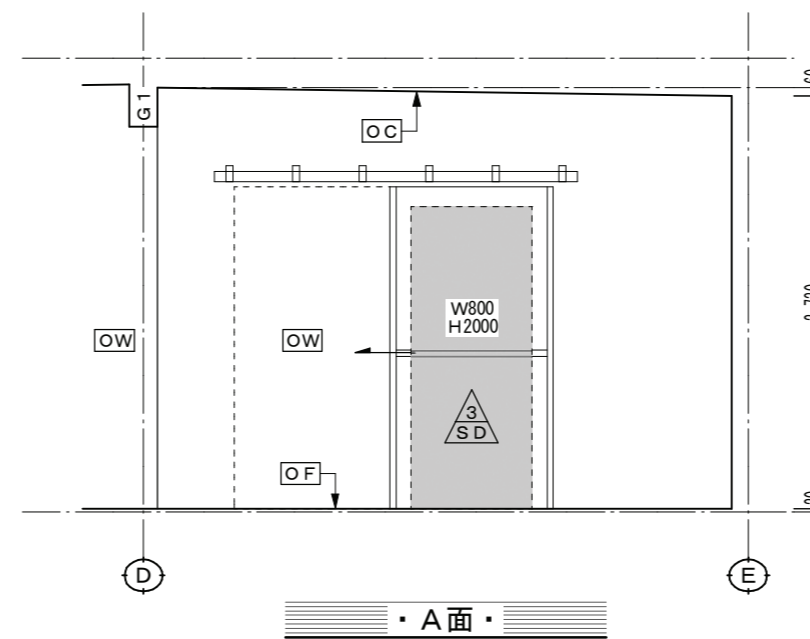
廊下 2



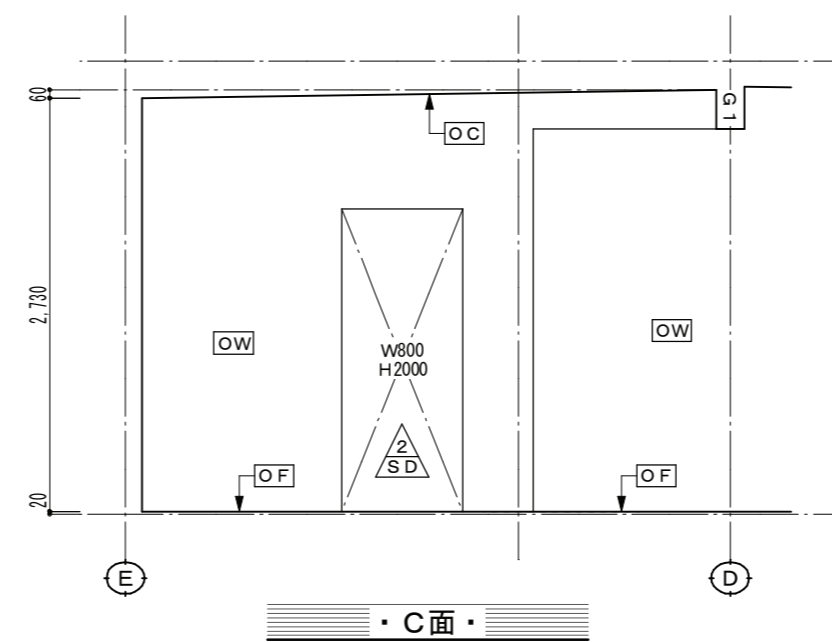
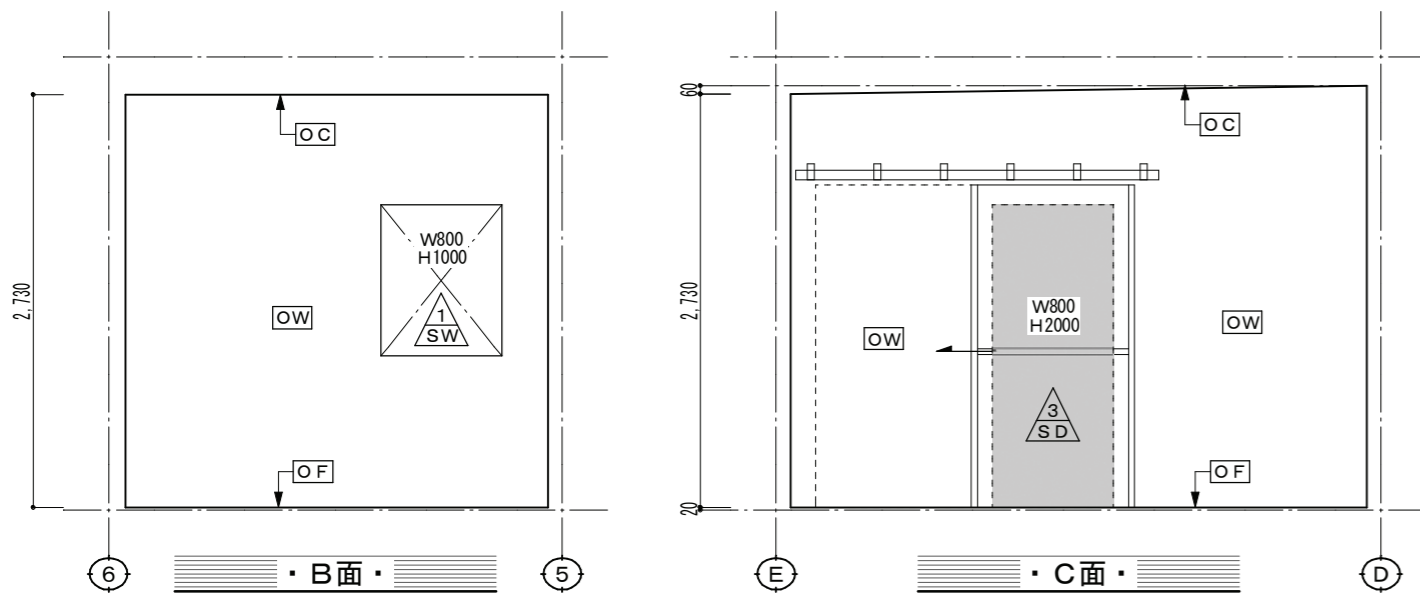
便所 1・2



寝室 A



寝室 B



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

TEL 0859-30-0100
FAX 0859-30-0101

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名

展開図(2)

【新築(b6)実火訓練棟】

作図



承認



承認

承認

図面番号

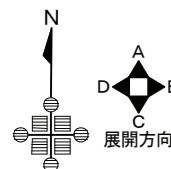
A-17

令和7年3月 - 日



天井伏図

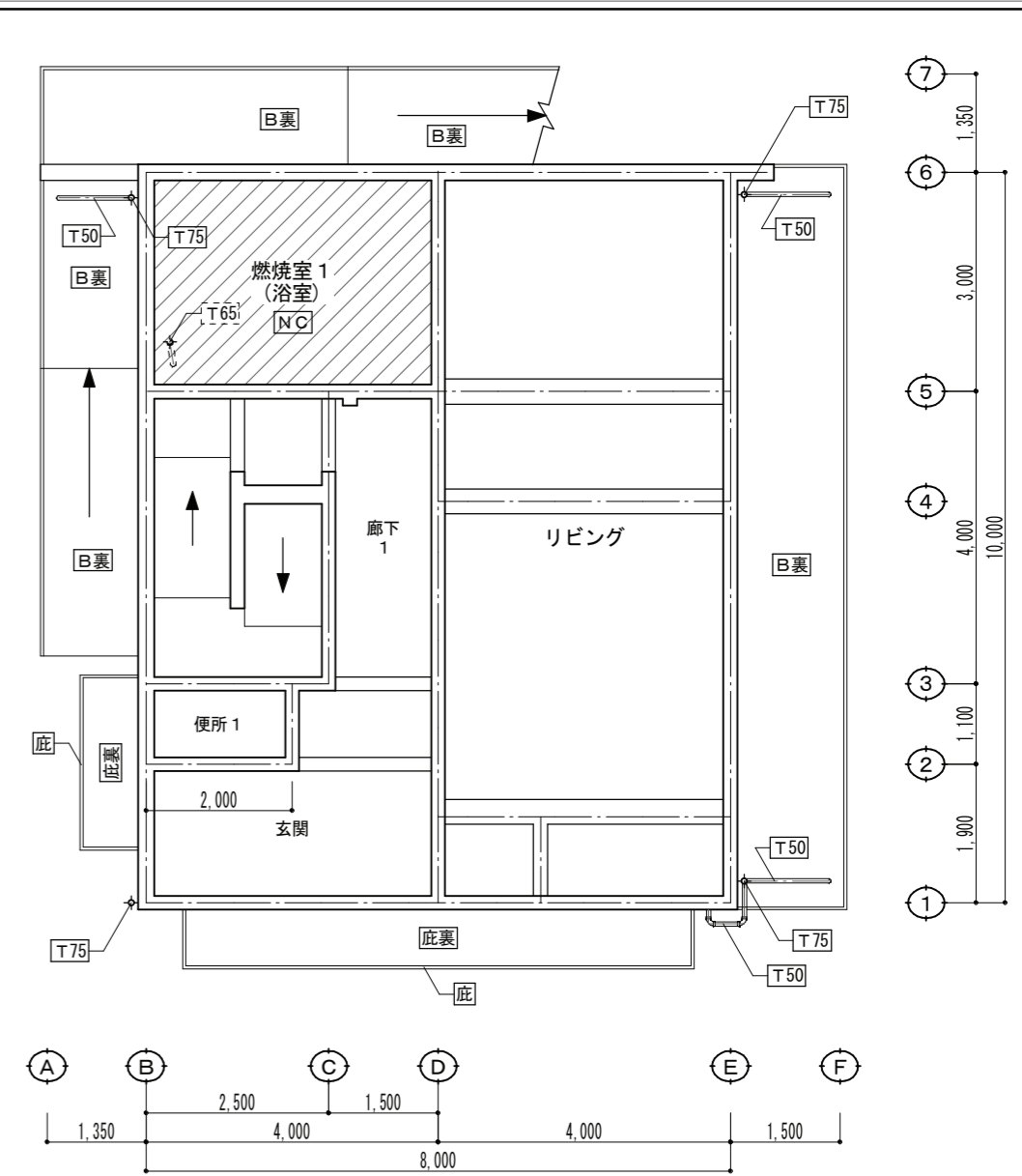
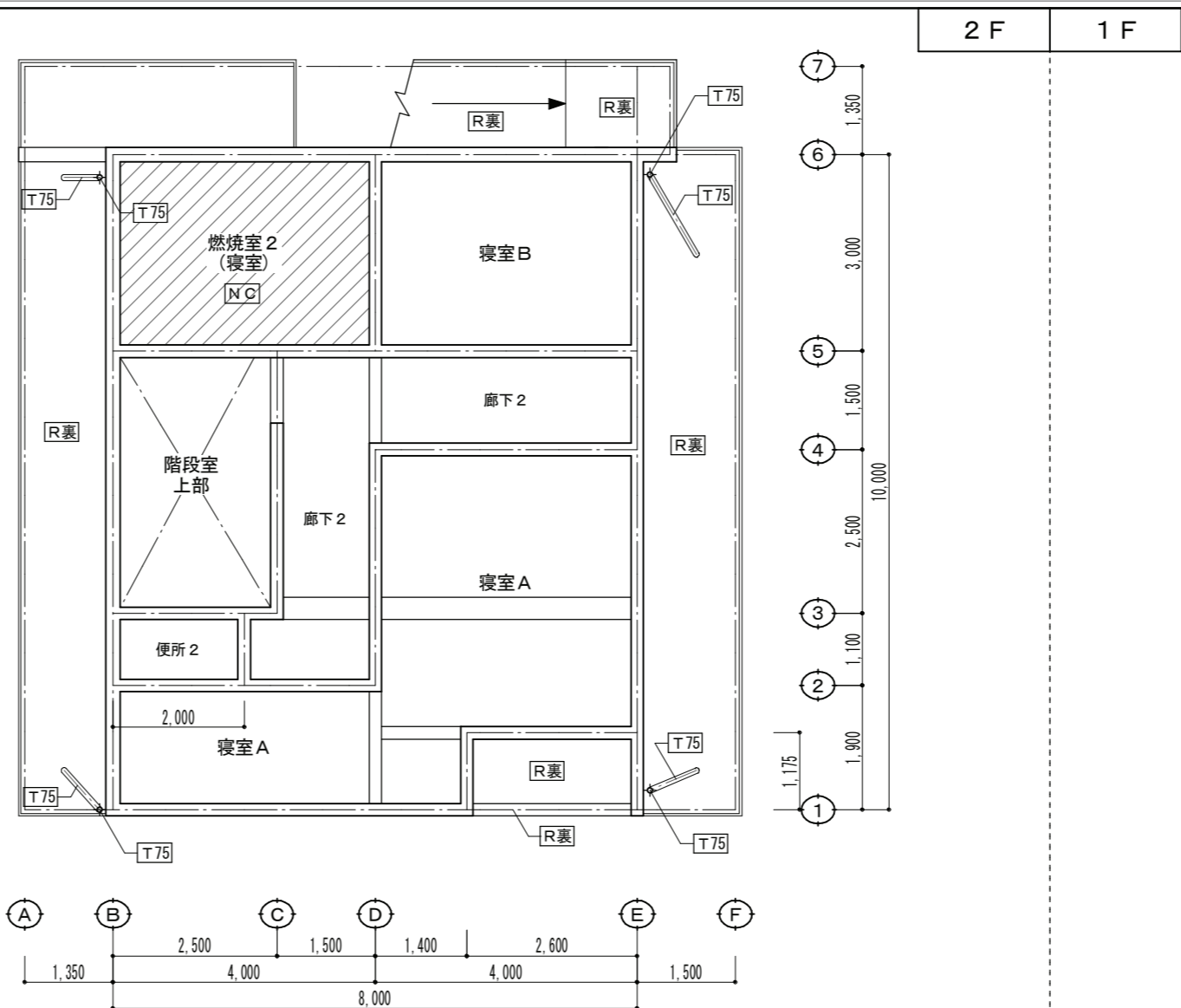
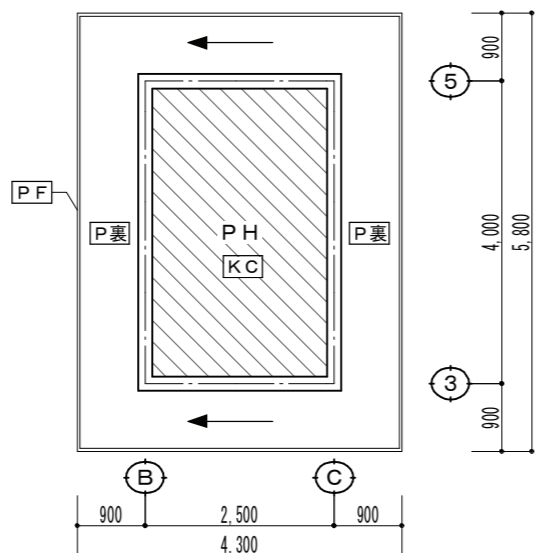
Scale 1:100



部位	表記	仕上
天井	一般部	OC ●コンクリート打放補修(表面保護材塗)
	燃焼室	NC ●防火性可とう形薄塗材(不燃)塗 下地調整材C-2 不燃木毛セメント板 t.30打込
	階段室	KC ●アイガム板 t.6×6 LGS下地(掘止補強@1800)

※特記なき内部天井仕上は OC

部位	表記	仕上
PH	屋根	PF ●防水モルタル t.20金ゴテ(改質材塗)
	軒裏	P裏 ●コンクリート打放(表面保護材塗)
屋上	軒裏	R裏 ●コンクリート打放(表面保護材塗)
	ベランダ 屋外階段	B裏 ●コンクリート打放(表面保護材塗)
庇	庇	●防水モルタル t.20金ゴテ(改質材塗)
	庇裏	●コンクリート打放(表面保護材塗)
壁	屋上	T75 ●カラーVP75A
	ベランダ 屋外階段	T50 ●カラーVP50A
	燃焼室	T65 ※M図参照
	燃焼室	T65 ※M図参照



流し台詳細図

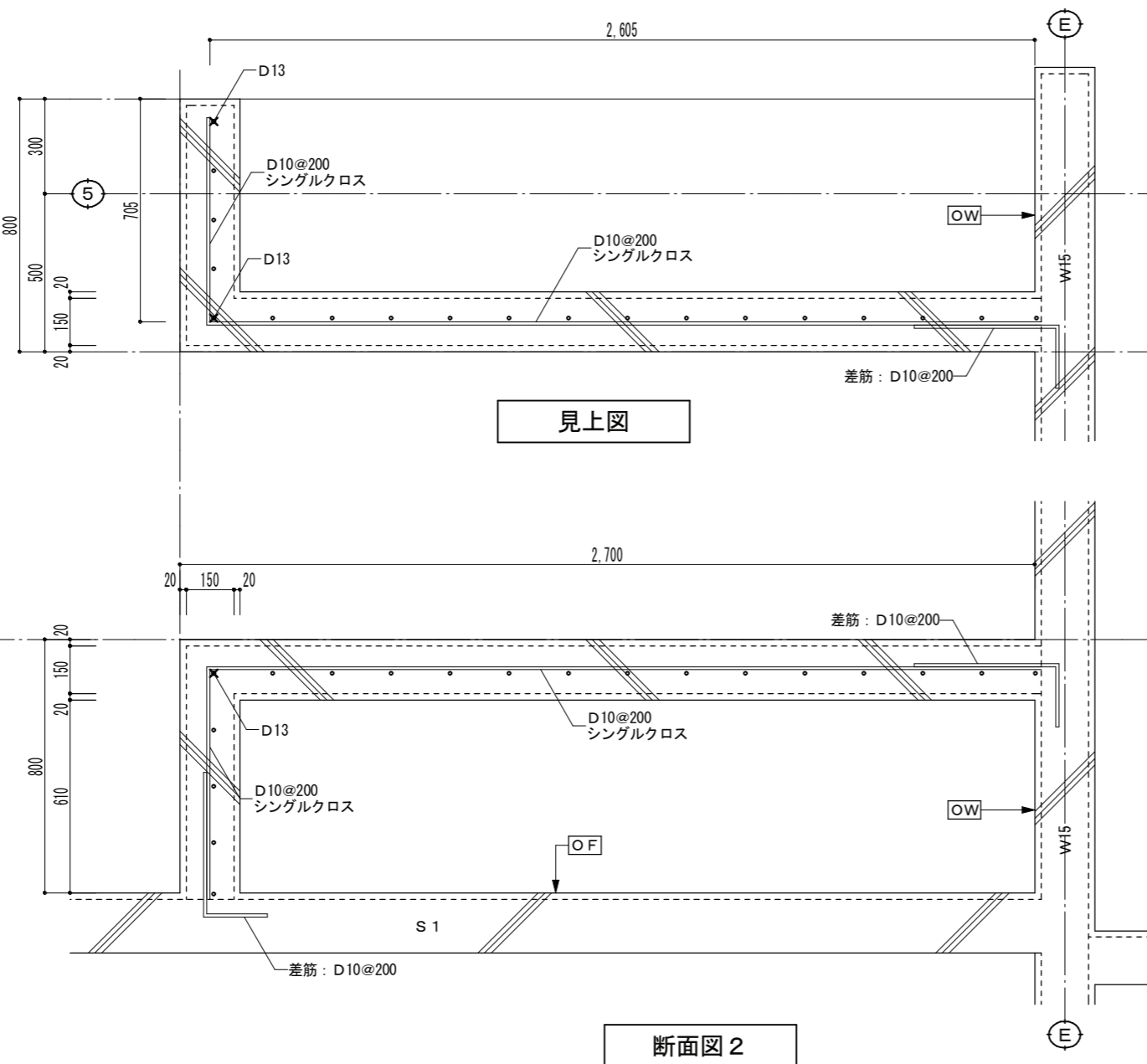
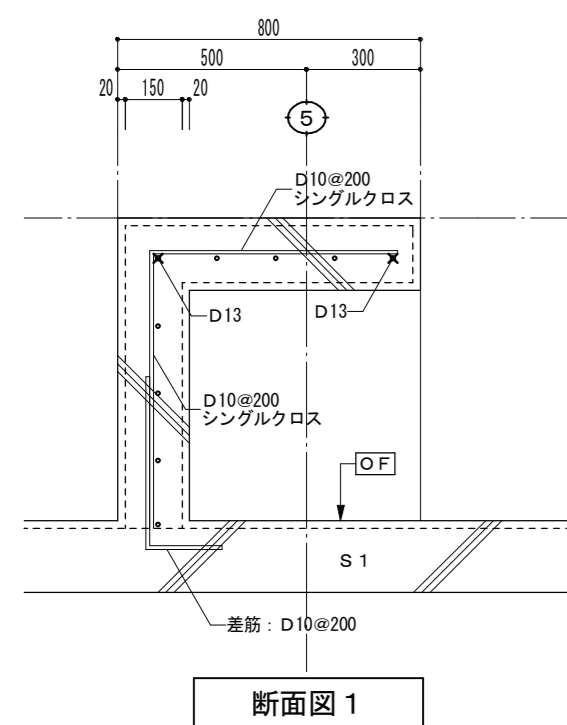
Scale 1:20

部位	表記	仕上
床	一般部	OF ●コンクリート金ゴテ(表面保護材塗)
壁	一般部	OW ●コンクリート打放補修(表面保護材塗)

※【流し台】仕上は床・壁に準じる

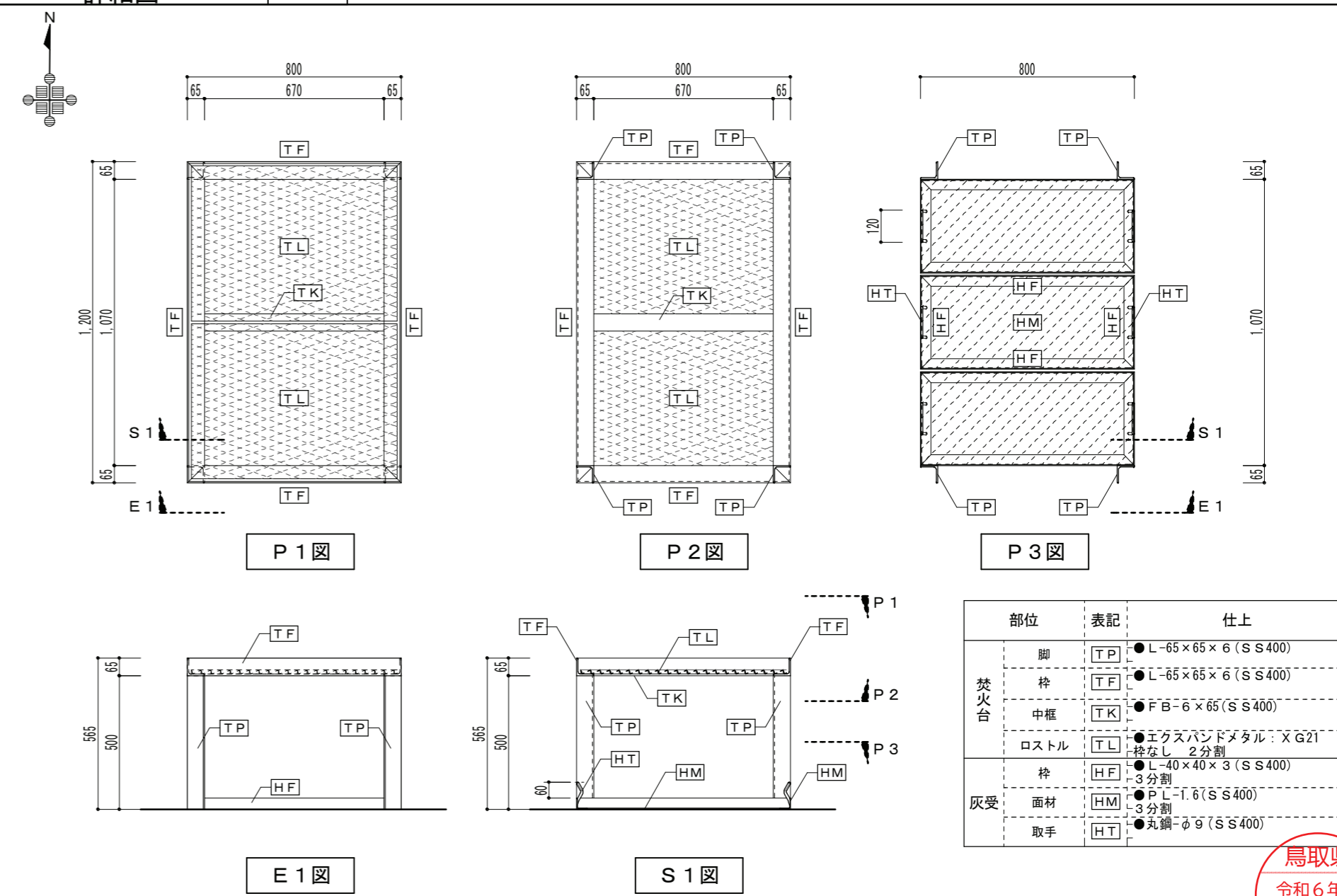
●凡例

表記	仕様
●	S D295
×	D13
○	S D295
○	D10



焚火台・灰受
詳細図

Scale 1:20



部位	表記	仕上
焚火台	脚	TP ●L-65×65×6 (S S400)
	枠	TF ●L-65×65×6 (S S400)
	中框	TK ●F-B-6×65 (S S400)
ロストル	枠	TL ●エクスパンションメタル: X G21 寸法なし 2分置
	枠	HF ●L-40×40×3 (S S400) 3分置
灰受	面材	HM ●P-L-1.6 (S S400) 3分置
	取手	HT ●丸鋼-φ9 (S S400)

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号
一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
天井伏図、流し台・焚火台・灰受詳細図
【新築(b6)実火訓練棟】

作図



承認



承認

承認

図面番号 A-18

令和7年3月 - 日



形式 記号	工事内容 住戸タイプ 数量内訳	合計数量	SUS製(外付)(上吊)片引戸(耐熱仕様)	SUS製(外付)(上吊)片引戸(耐熱仕様)	SUS製(外付)(上吊)片引戸(耐熱仕様)			
			【新設】 △FD 1 F 2 F 2	【新設】 △FD 1 F 2 F 2	【新設】 △FW 1 F 2 F 2			
姿 図 S=1:100			(燃焼室)外部 	(燃焼室)内部 	(燃焼室)外部 			
見込	アングル戸: 75			アングル戸: 75	アングル戸: 75			
材質	骨組: SUS304製 面材: ECP t60w500			骨組: SUS304製 面材: ECP t60w500	骨組: SUS304製 面材: ECP t60w500			
仕上	-			-	-			
ガラス	-			-	-			
金物	外部錠: SUS南京錠 隙間調整板: SUS t1.5	SUS上吊金物一式 (耐荷重: 500kg)		隙間調整板: SUS t1.5	SUS上吊金物一式 (耐荷重: 500kg)			
備考	-			-	内部錠: SUS丸落 隙間調整板: SUS t1.5 ガイドレール: SUS t1.2加工 ガイドレール受: SUS-L-100x100x7			

形式 記号	工事内容 住戸タイプ 数量内訳	合計数量	SUS製(外付)(上吊)片引戸	SUS製(外付)(上吊)片引戸	SUS製(外付)(上吊)片引戸	SUS製(外付)(上吊)片引戸		
			△SD 1 F 2 F 2	【新設】 △SD 1 F 2 F 2	【新設】 △SD 1 F 2 F 3	【新設】 △SW 1 F 2 F 7		
姿 図 S=1:100			外部 	外部 	内部 	外部 		
見込	アングル戸: 40			アングル戸: 40	アングル戸: 40	アングル戸: 40		
材質	骨組: SUS304製 面材: SUS t1.5			骨組: SUS304製 面材: SUS t1.5	骨組: SUS304製 面材: SUS t1.5	骨組: SUS304製 面材: SUS t1.5		
仕上	-			-	-	-		
ガラス	-			-	-	-		
金物	外部錠: SUS南京錠	SUS上吊金物一式 (耐荷重: 150kg)		内部錠: SUS丸落	SUS上吊金物一式 (耐荷重: 150kg)	SUS上吊金物一式 (耐荷重: 150kg)		
備考	-			-	ガイドレール: SUS t1.2加工 ガイドレール受: SUS-L-50x50x4	SUS上吊金物一式 (耐荷重: 70kg)		

形式 記号	工事内容 住戸タイプ 数量内訳	合計数量	SUS製片開戸	SUS製内倒窓(外部から開閉)	SUS製内倒窓(外部から開閉)		
			【新設】 △DF 1 F 2 F 2	【新設】 △DS 2 PH 2	【新設】 △DS 4 PH 4		
姿 図 S=1:50			便所 	階段室頂部 	階段室頂部 		
見込	フラッシュ戸: 40 枠: 90			100			
材質	骨組: SUS304製 枠: SUS t1.5 面材: SUS t1.5			SUS304製			
仕上	-			-	-		
ガラス	-			面材: SUS t1.5(止材: シーリング)			
金物	T番、LH			ダンバー、トップラッチ			
備考	-			すべてSUS製	すべてSUS製		

- ガラス等略号
- FL フロート板ガラス
 - F 型板ガラス
 - PW 網入磨板ガラス
 - FW 網入型板ガラス
 - TFL 強化フロート板ガラス
 - TF 強化型板ガラス
 - @ 低放射ガラス(減字)
- 金物略号
- DC ドアチェック
 - FH フロアヒンジ
 - PH ビボットヒンジ
 - GH グレモンハンドル
 - LH レバーハンドル
 - CL シリンダー錠
 - TT サムターン
 - FB フランス落シ
 - MR モノロック
 - OP 排煙オペレーター装置
 - AP アングルピース



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号
〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101
一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
建具表
【新築(b6)実火訓練棟】

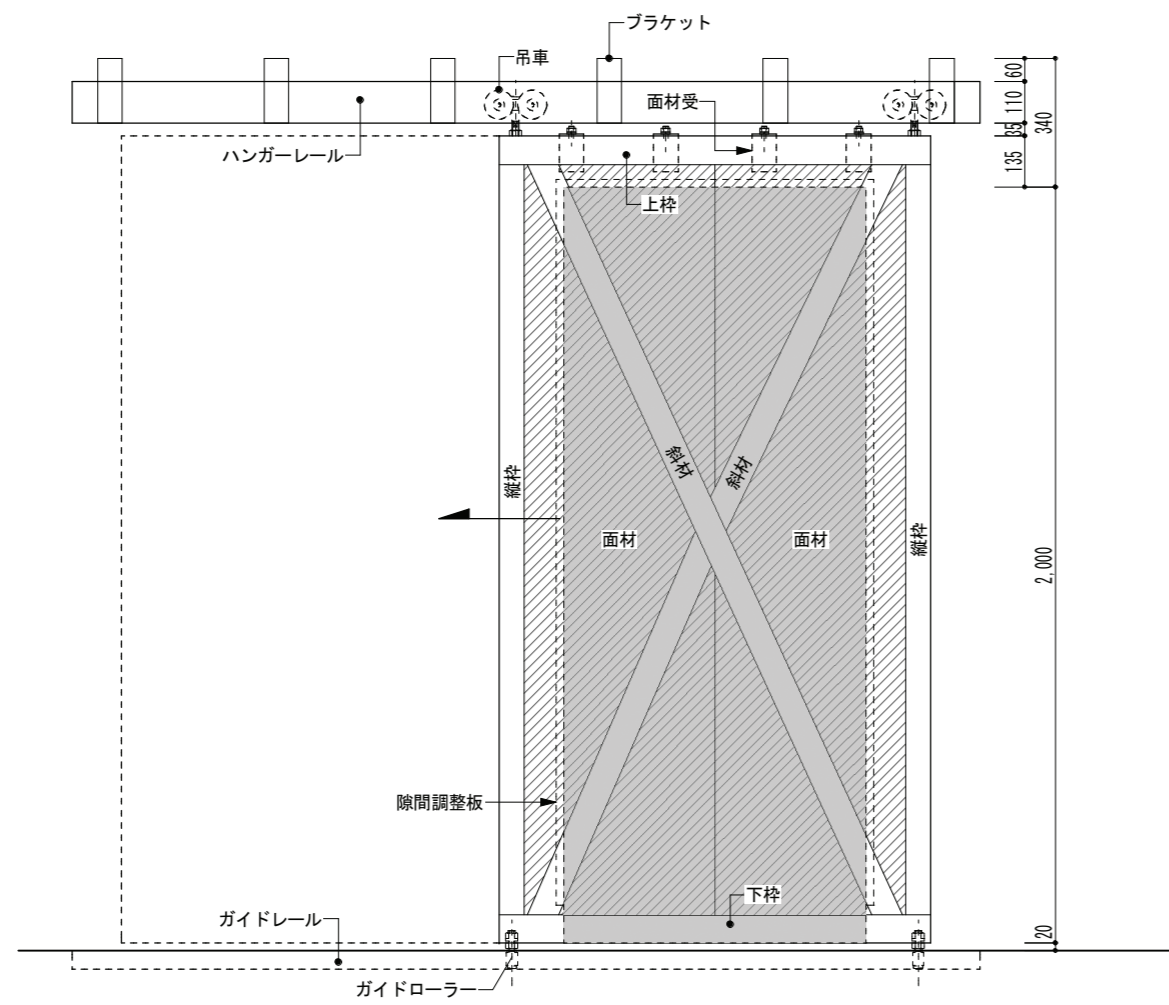
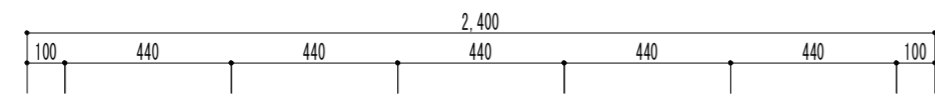
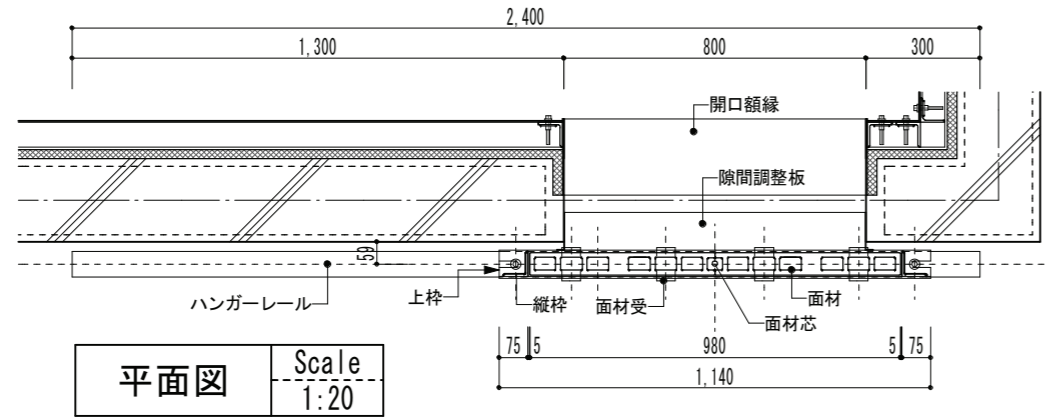
作図

承認

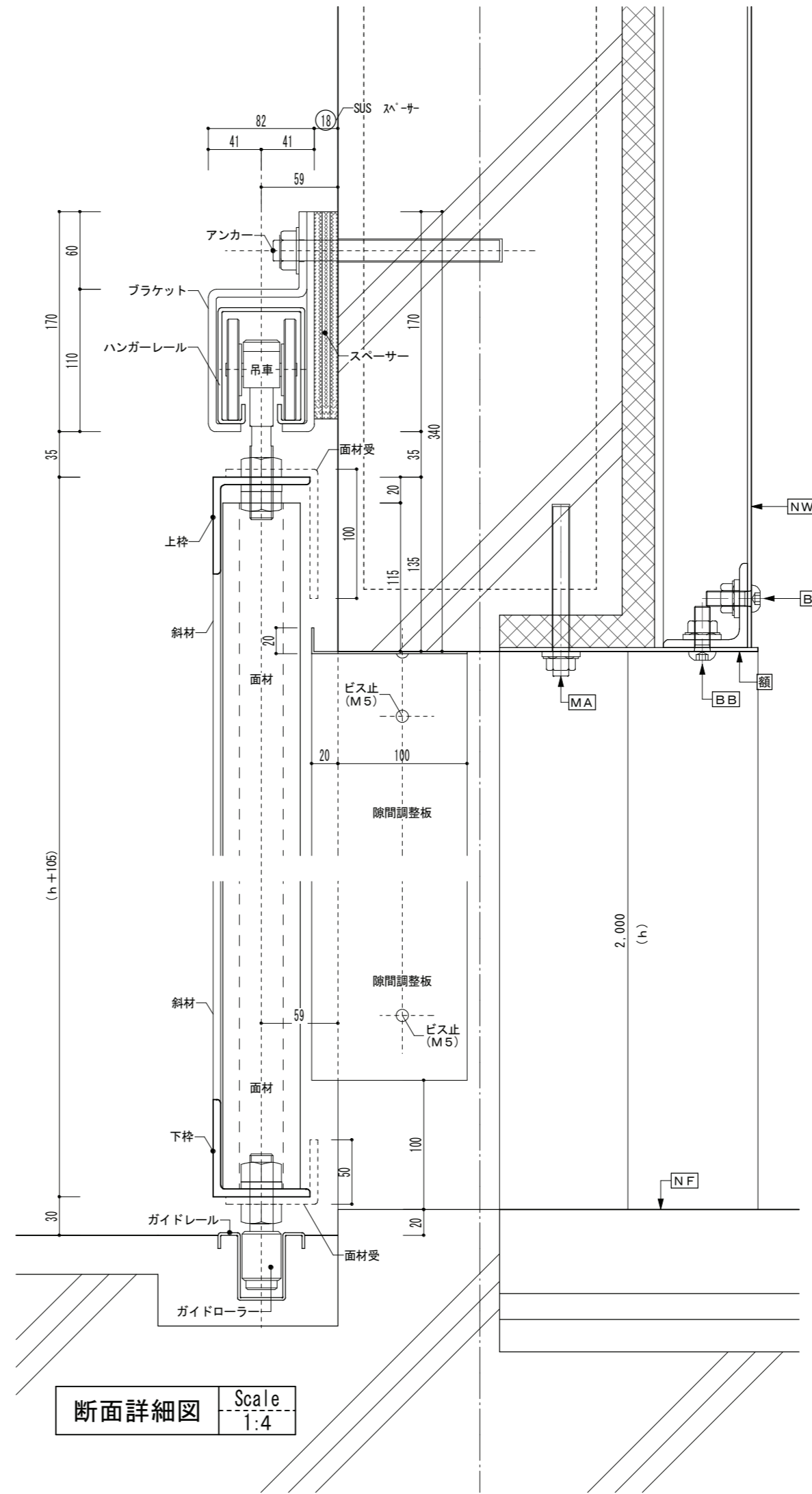
図面番号 A-19
令和7年3月-日

●凡例

部位	名称	仕上	材質
金物	ブラケット	#5S	全てSUS304製
	ハンガーレール	#5S-HR	【ダイケン：ステンレス ハンガー】程度
	吊車	#5S-4WH	
	ガイドレール	#5S-NGR	
	ガイドローラー	#5S-GRB	
戸	上下枠	L-6×75×75	全てSUS304製
	縦枠	L-6×65×65	
	斜材	F-B-6×75	
	面材受	F-B-6×50	
	面材芯	丸棒φ16	
その他	面材	ECP t60 W500×2	押出成形セメント板
	隙間調整板	SUS t1.5	SUS-M5ビス止
	スペーサー	SUS製 t18	SUS製
	アンカー	樹脂アンカーM16	



姿図 Scale 1:20

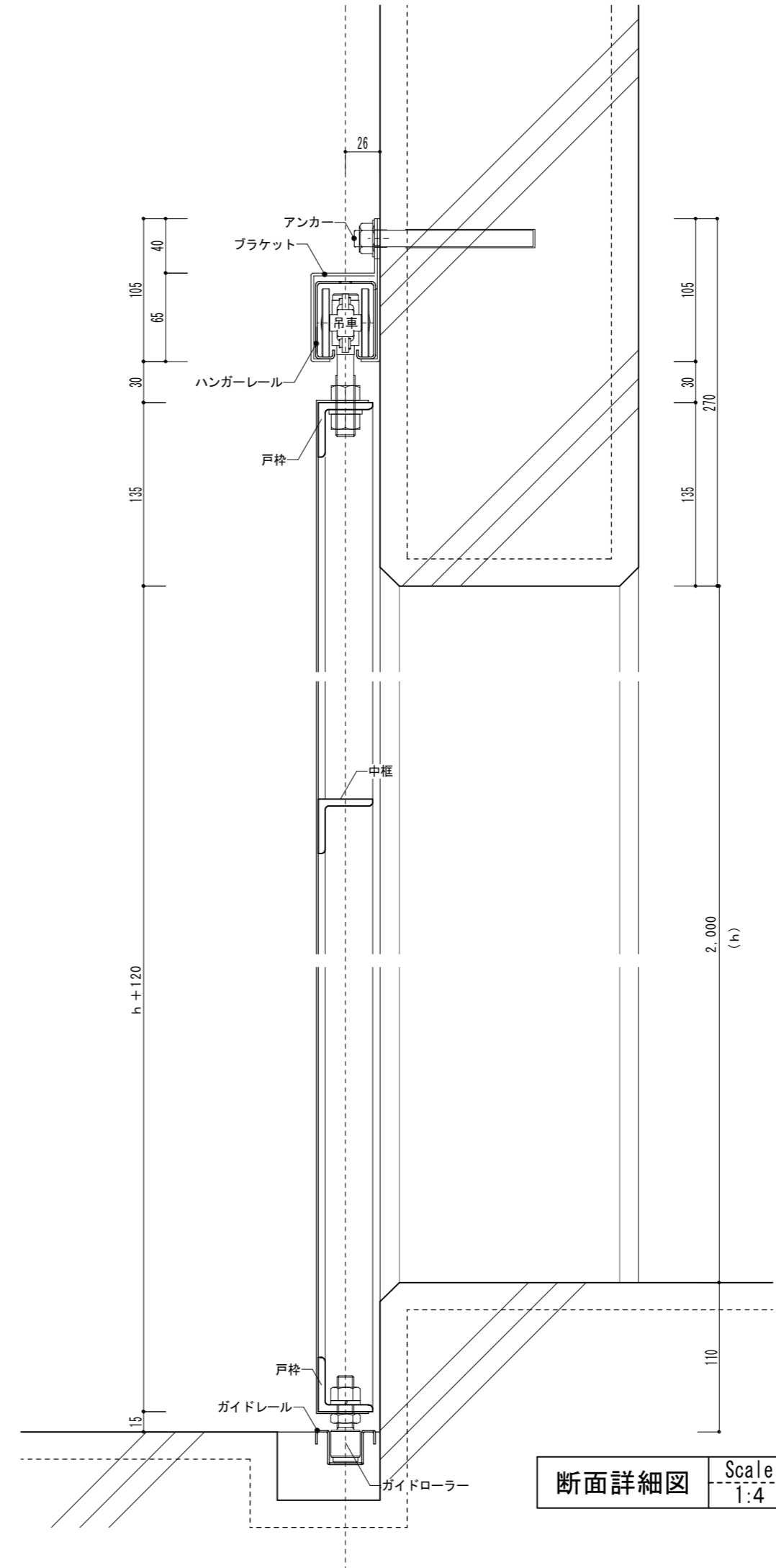
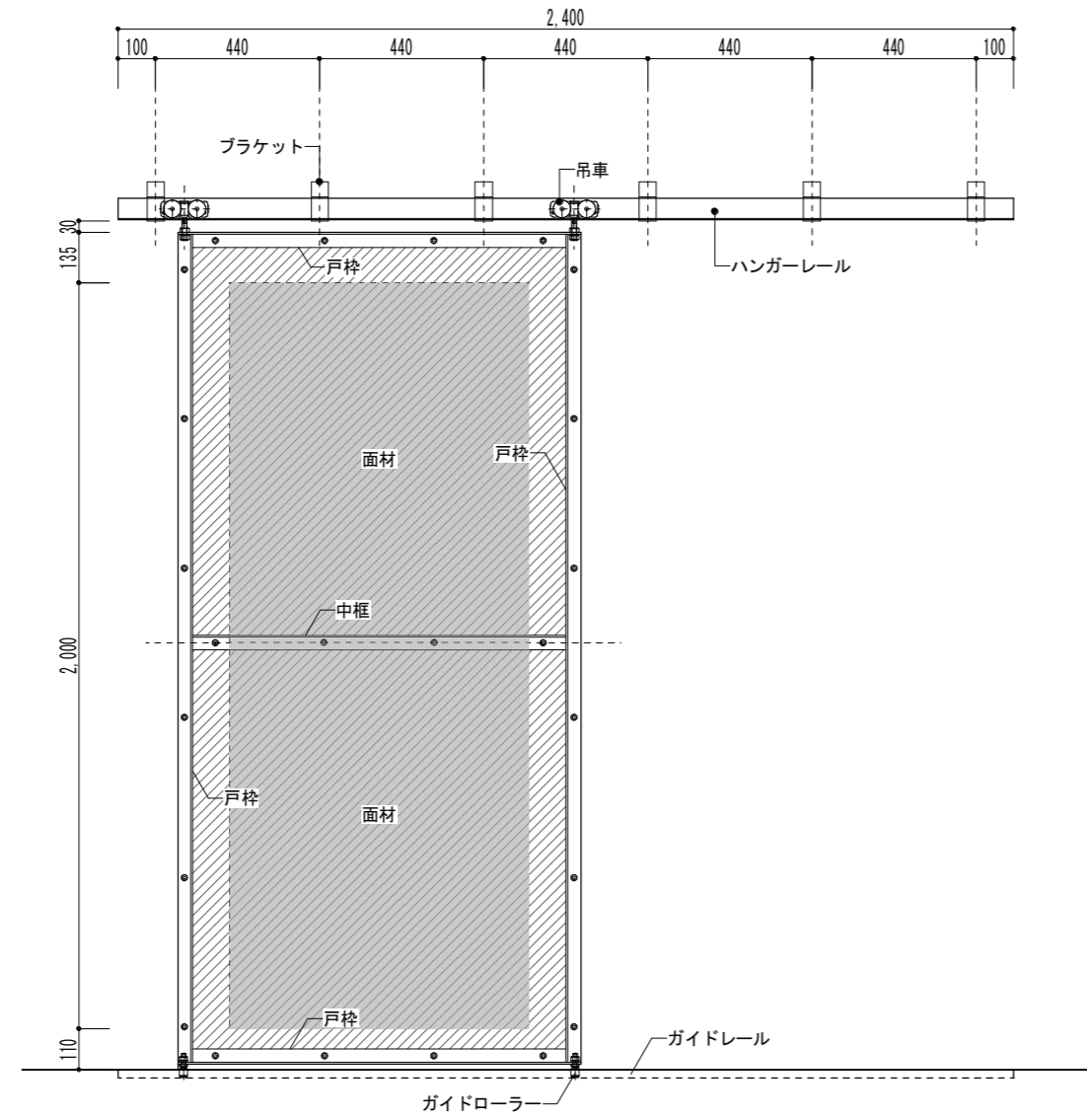
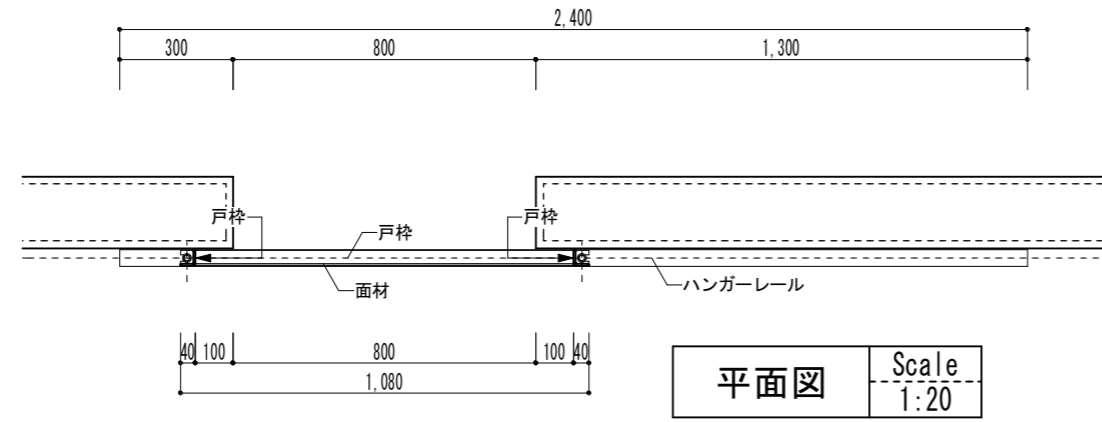


部位	表記	仕上
燃焼室	床	●耐火煉瓦敷：SK-34(並型：230×114×65) ●目地：耐火モルタル(エアセット)※ ●下地モルタル t20 ●耐火モルタル t25
	壁	●耐火性鋼板 t3.2 t600(ボルト止×4箇所) ●L-65×65×6下地(錆止塗装) ●ロックウール吹付 t25
	額縁	●耐火性鋼板 t3.2 D200程度
ファスナー	MA	●金属アンカーM12
	BB	●ステンM12 ●三価黒クロメート



●凡例

部位	名称	仕上	材質
金物	ブラケット	#3S	全てSUS304製
	ハンガーレール	#3S-HR	【ダイケン：ステンレスハンガー】程度
	吊車	#3S-4WH	
	ガイドレール	#3S-NGR	
戸	戸枠・中框	L-5x40x40	全てSUS304製
	面材	PL11.5	
その他	アンカー	樹脂アンカー-M12	SUS製



その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名

吊戸詳細図(SD-1)

【新築(b6)実火訓練棟】

作図



承認



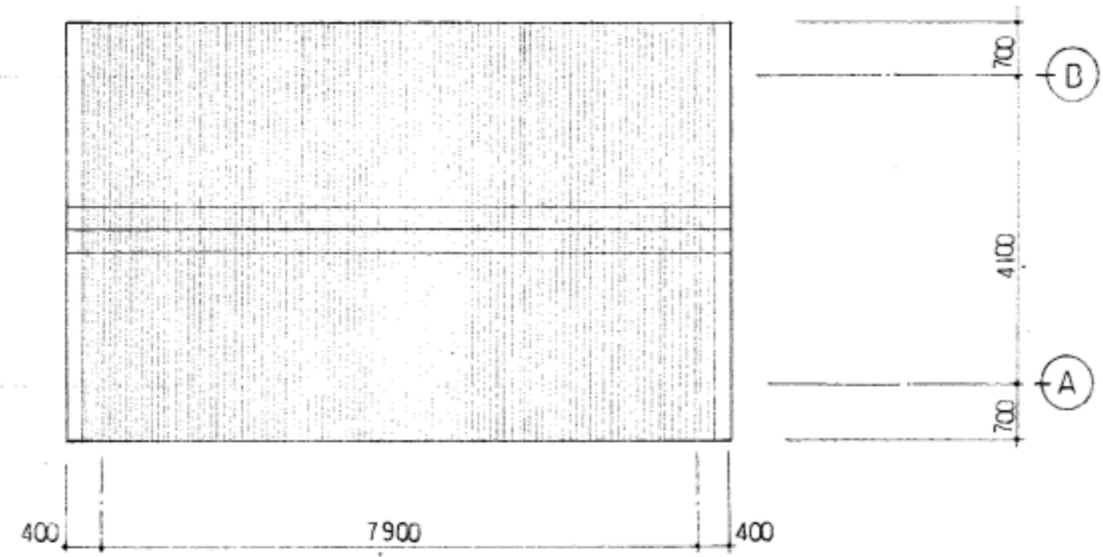
承認

承認

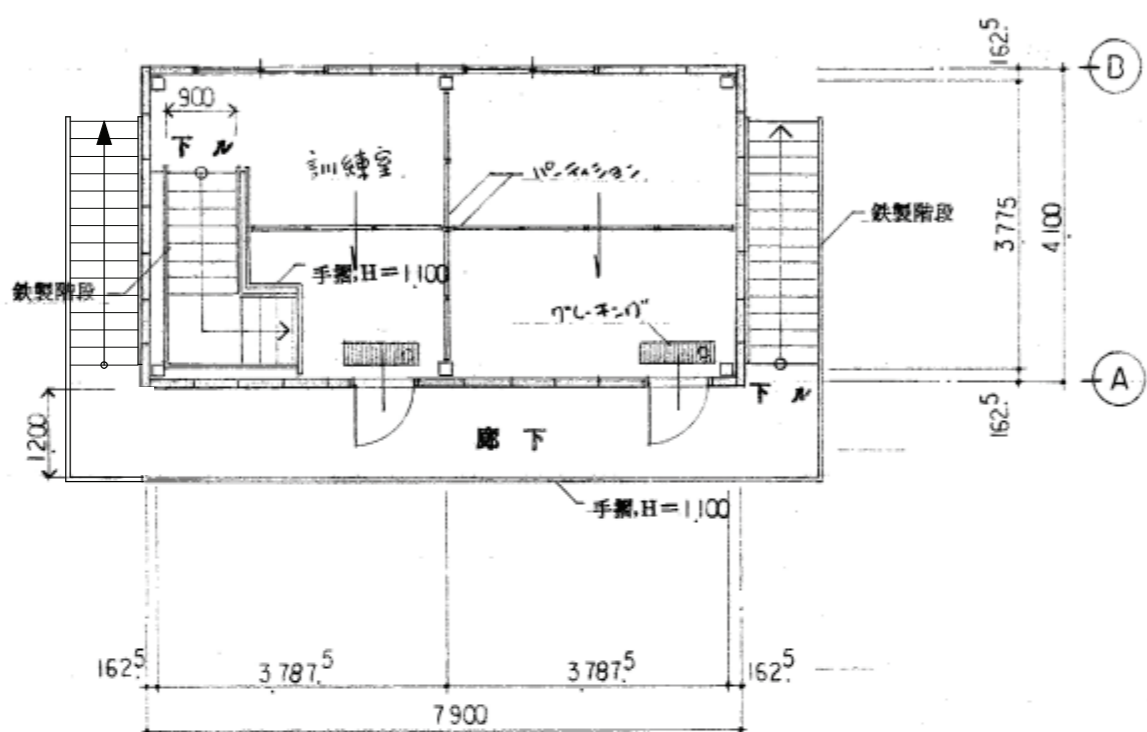
図面番号 A-21

令和7年3月 - 日

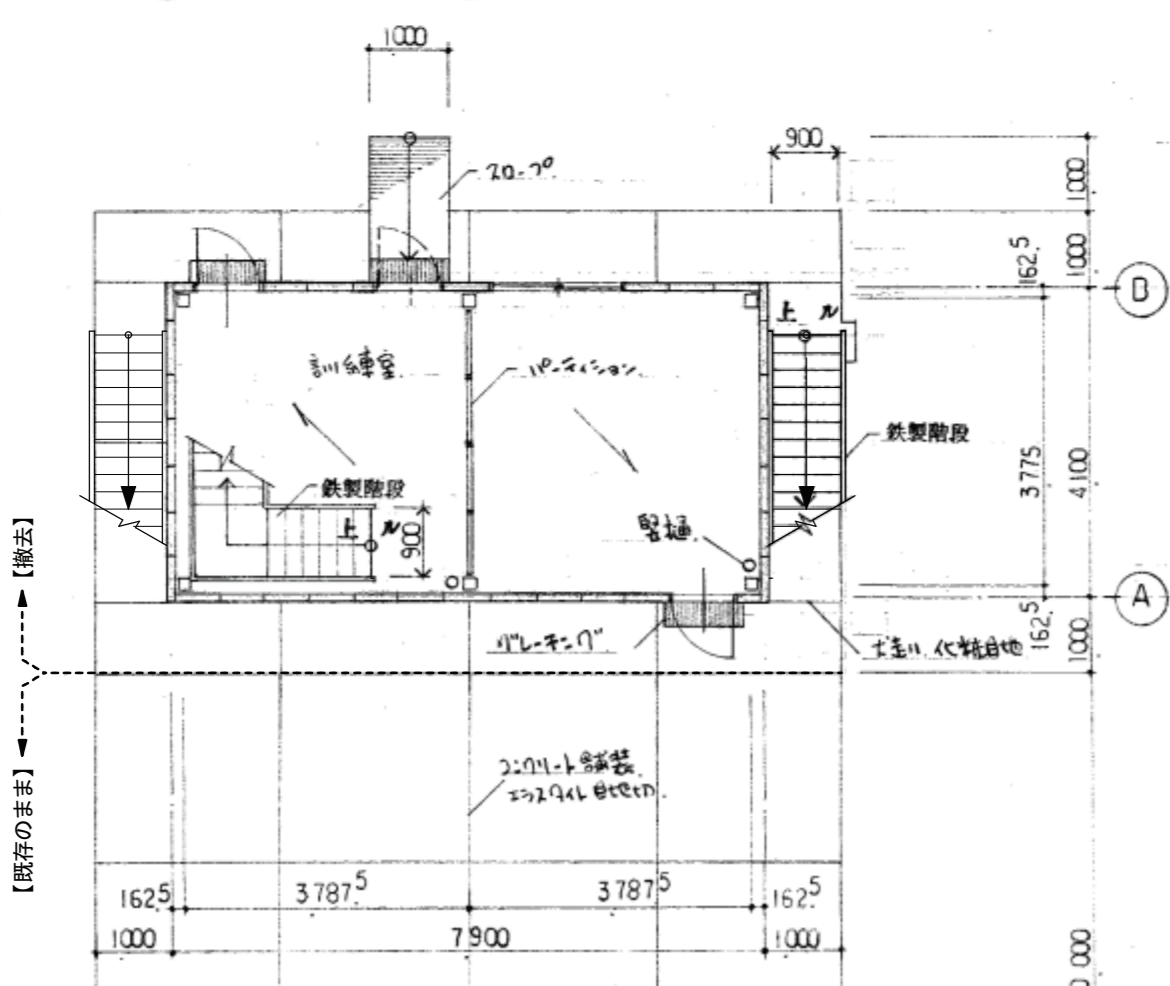
鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部営繕課



屋根伏図 S=1:100

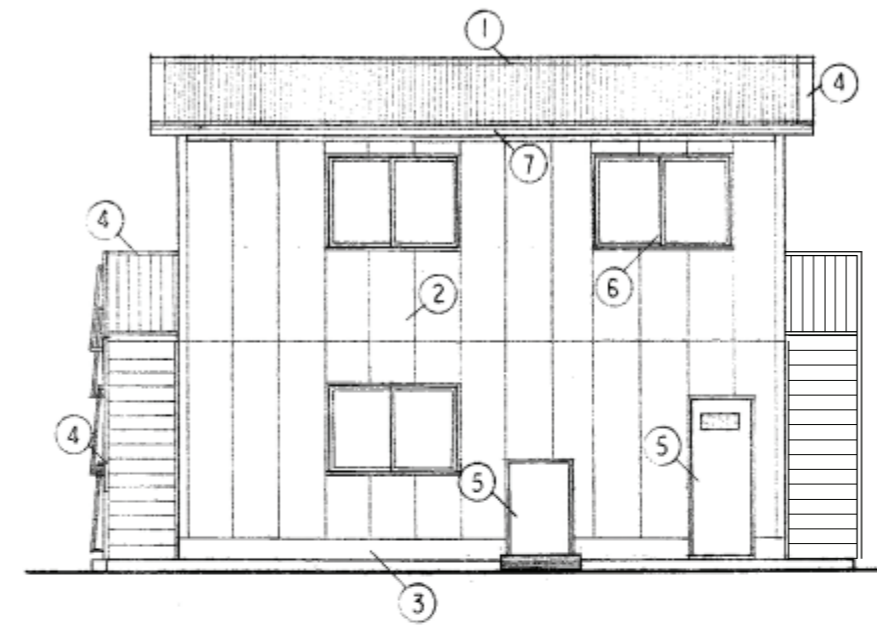


2階平面図 S=1:100

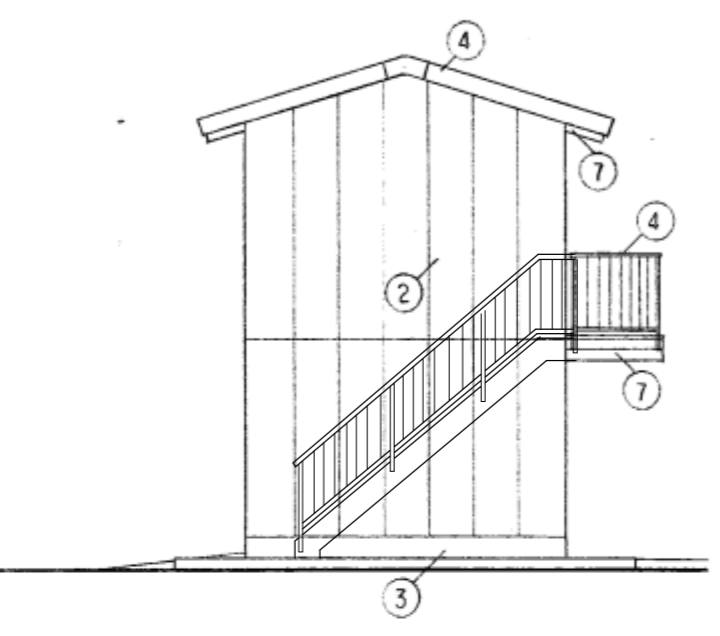


1階平面図 S=1:100

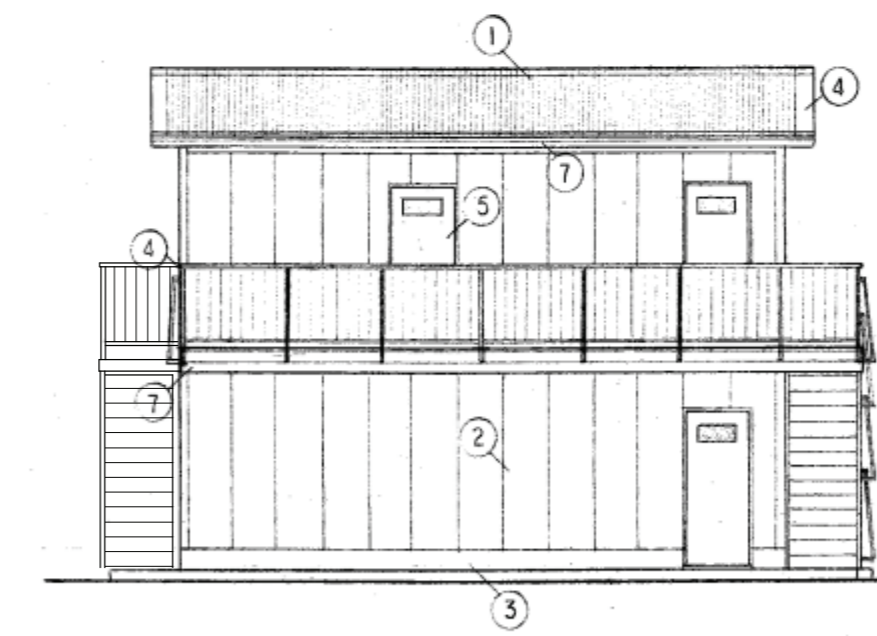
【既存解体】概略工程表		1ヶ月目			2ヶ月目			3ヶ月目			4ヶ月目		
		10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30
既存解体工事	解体・撤去	準備			内部 造作類	外部 石綿	上屋解体	基礎 解体	整地	検査			
	足場				(10)		(40)						
	仮囲						(50)						
電気設備工事	準備												
機械設備工事	準備												



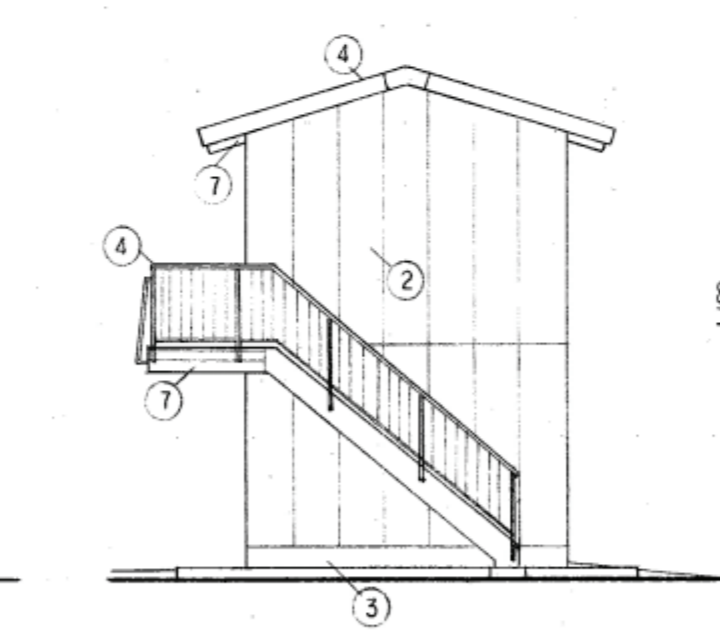
北側立面図 S=1:100



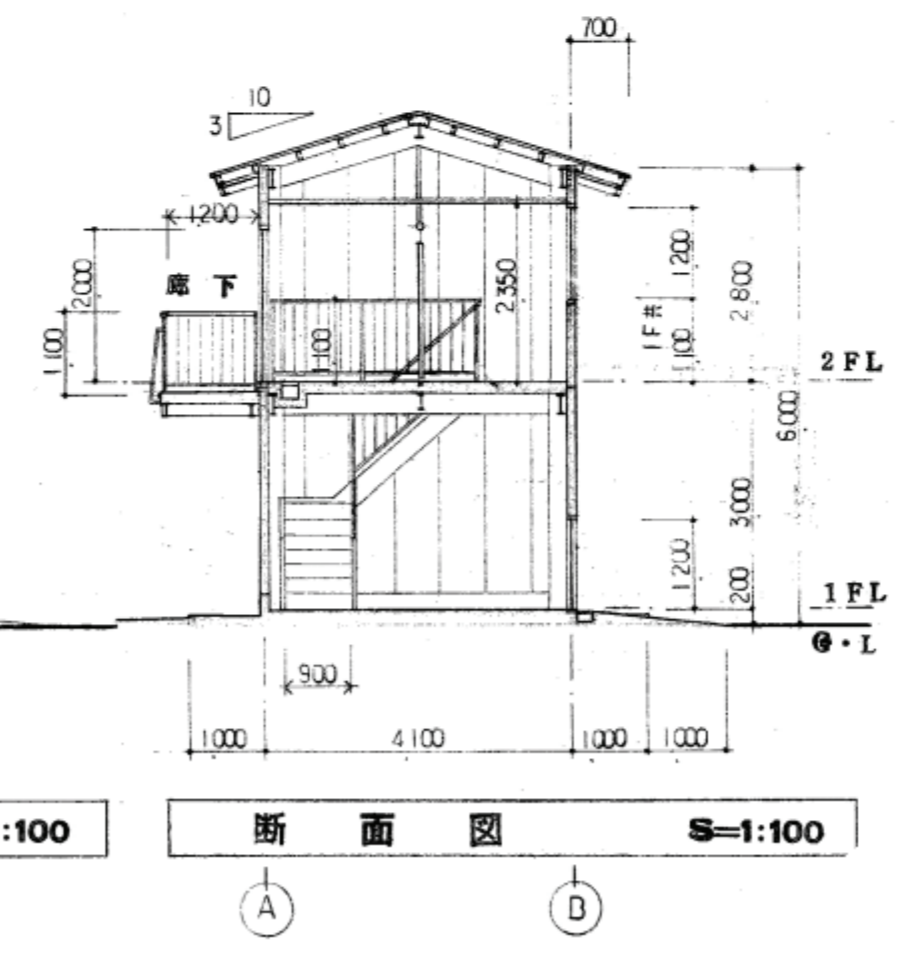
西側立面図 S=1:100



南側立面図 S=1:100



東側立面図 S=1:100



断面図 S=1:100

- 外部仕上
- ① 土垢2L-1 【石綿含有】
 - ② ALC板厚100 2744x1040付9x4.
 - ③ 合板型枠打設
 - ④ 鉄部 錆止x2回塗 OP
 - ⑤ 2L-1L? 防錆塗付塗装 OP
 - ⑥ 24-11mm " " "
 - ⑦ 鉄部 溶融亜鉛4.4μ

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号
 〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
 TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101
 一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
解体工事工程表・平面図・立面図

【解体(b2)実火訓練棟】

作図

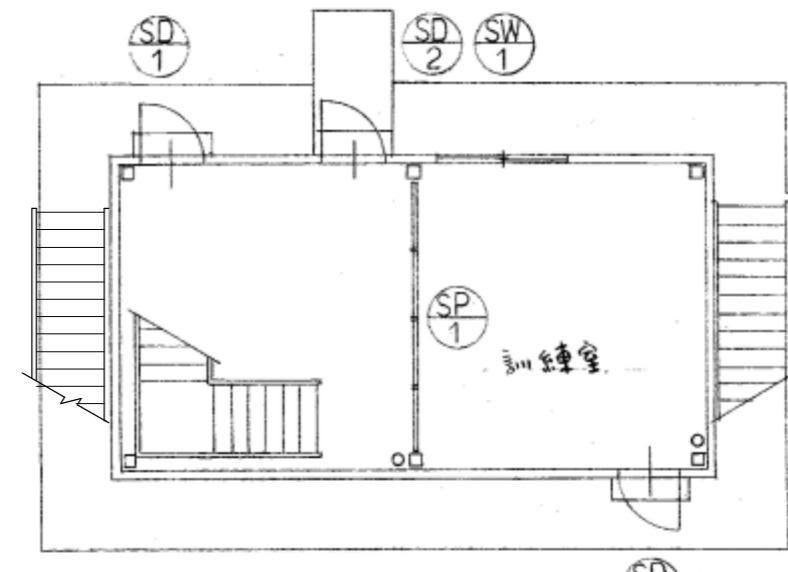
承認

図面番号 A-22
 令和7年3月 - 日

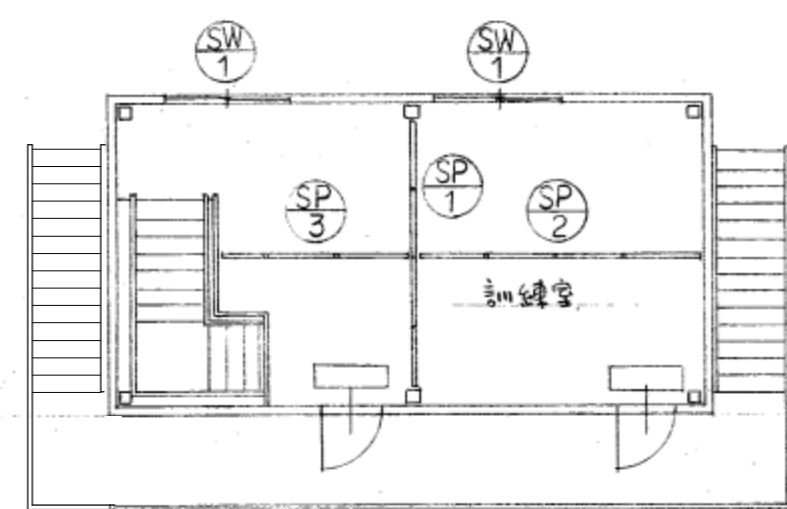
鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部営繕課

外部仕上表						
建物名称	床	巾木	外壁	軒裏	屋根	備考
実火訓練棟	床: 200mm厚 全面合板打設	合板型打設	ALC板 100mm厚付付	200mm厚 24mm厚付付	24mm厚付付	鉄部: 錆止×2回塗 O.P. (構造柱・溶接部等)
廊下	床: 200mm厚 全面合板打設	合板型打設			手摺H=1100: 24mm厚付付	
鉄製階段	錆止×2回塗 O.P. 階段踏面: 20mm厚 全面合板打設				手摺: 24mm厚付付	
OP	鉄部: 合成樹脂調合ペイント				1階 出入口部: 100mm厚 全面合板打設	

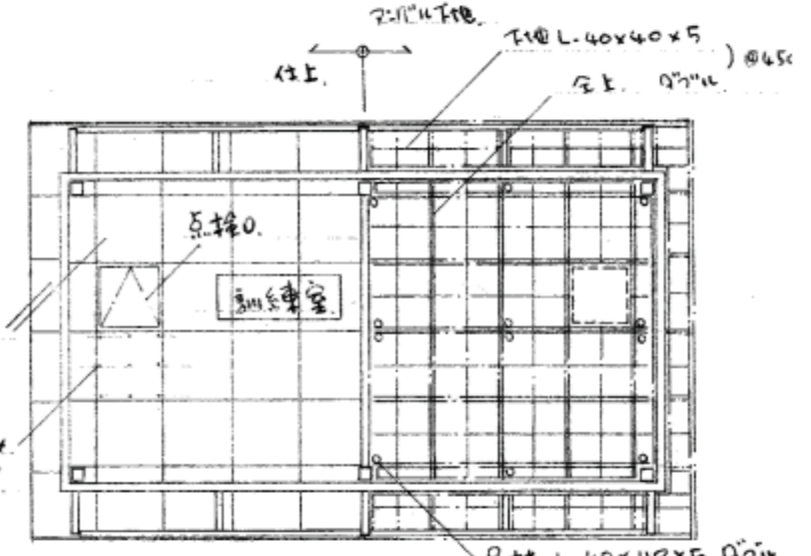
内部仕上表									
階	室名	床	巾木	H	壁	天井	天井回り縁	CH	備考
1	訓練室	全面合板打設	合板型打設	200	ALC板 100mm厚付付	全面合板打設	—	—	鉄部: 錆止×2回塗 O.P. (構造柱・溶接部等)
2	全上	全上	—	—	全上	200mm厚 24mm厚付付	—	2350	全上
		2階出入口部: 100mm厚 全面合板打設			1階全室内壁: 50mm厚 錆止×2回塗 O.P. 工付	2階天井: 全面合板打設			階段踏面: 20mm厚 全面合板打設
						24mm厚付付			1階出入口部: 鉄部 錆止×2回塗 O.P.



1階リスト s=1:100



2階リスト s=1:100



2階天井伏図 s=1:100

建具表 s=1:100

符号・名称	SD1 片側キ 24mm厚	SD2 片側キ 24mm厚	SW1 引違キ 24mm厚	SP1 物置式 24mm厚付付	SP2 物置式 24mm厚付付	SP3 物置式 24mm厚付付
形状・寸法						
数量	4	1	3	2	1	1
材質・仕上	24mm厚 全面合板打設 O.P.	24mm厚 全面合板打設 O.P.	24mm厚 全面合板打設 O.P.	24mm厚 全面合板打設 O.P.	24mm厚 全面合板打設 O.P.	24mm厚 全面合板打設 O.P.
見込	85 ALC板用	85 ALC板用	70 ALC板用	52 ³	52 ³	52 ³
硝子	全面合板打設	全面合板打設	全面合板打設	全面合板打設	全面合板打設	全面合板打設
金物	丁番・据王・南京錠 標準金物一式	丁番・据王・南京錠 標準金物一式	全面合板打設	吊钩・PB16 ^φ 各2ヶ	吊钩・PB16 ^φ 各2ヶ	吊钩・PB16 ^φ 各2ヶ
備考	内部 200mm厚 全面合板打設	内部 200mm厚 全面合板打設	内部 200mm厚 全面合板打設	投中層 鉄材: L-50x50x6 全面合板打設	投中層 鉄材: L-50x50x6 全面合板打設	投中層 鉄材: L-50x50x6 全面合板打設

年度	所課コード	施設コード
5	111301	-01
図章		
E.M. 10/15		

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号
 〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
 TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101
 一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

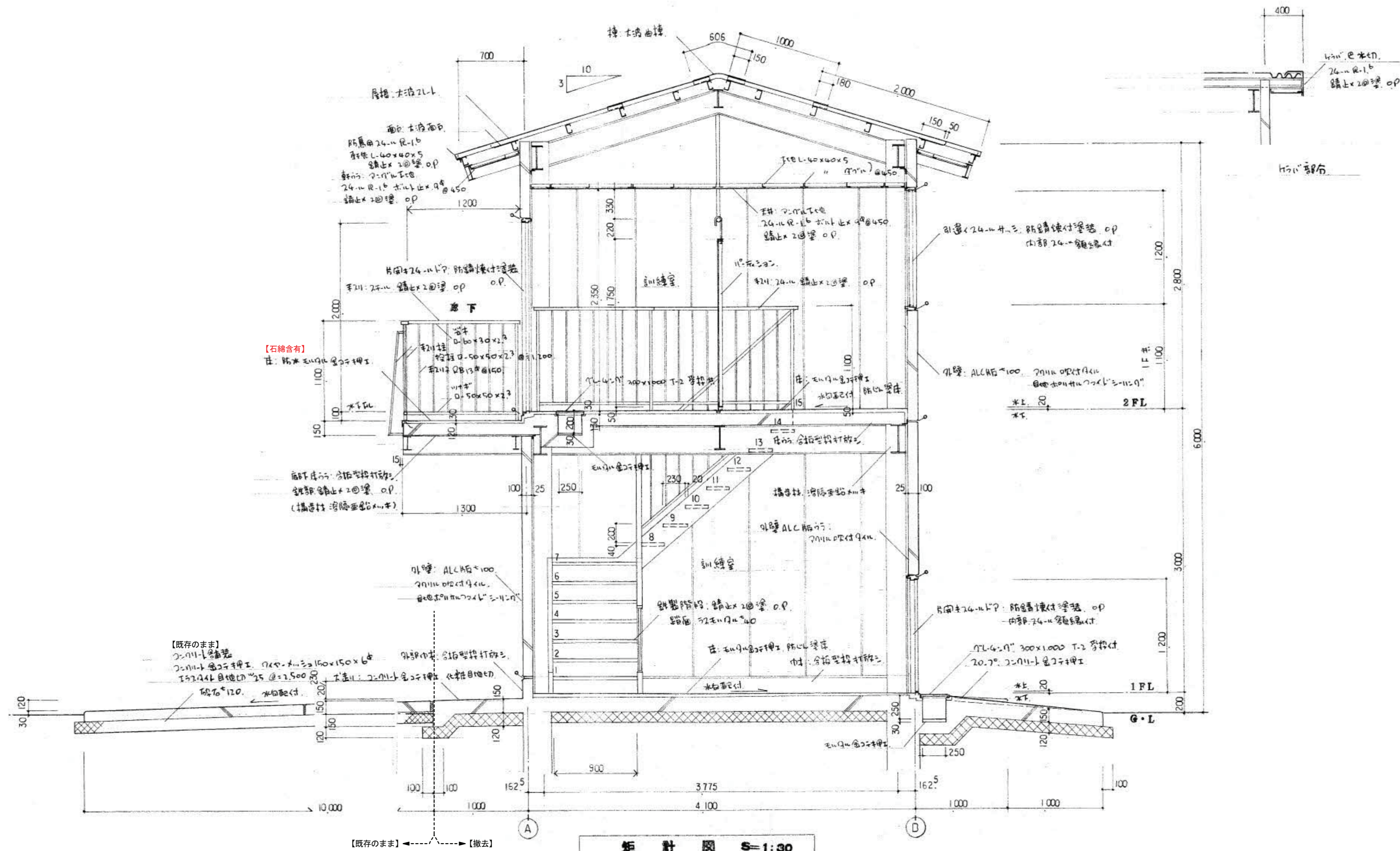
件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
仕上表・天井伏図・建具表
【解体(b2)実火訓練棟】

作図
承認
承認
承認

図面番号 A-23
 令和7年3月 - 日





矩計図 S=1:30

注: ① 示す寸法は示す。

その建築設計事務所

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL 0859-30-0100
FAX 0859-30-0101

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
矩計図

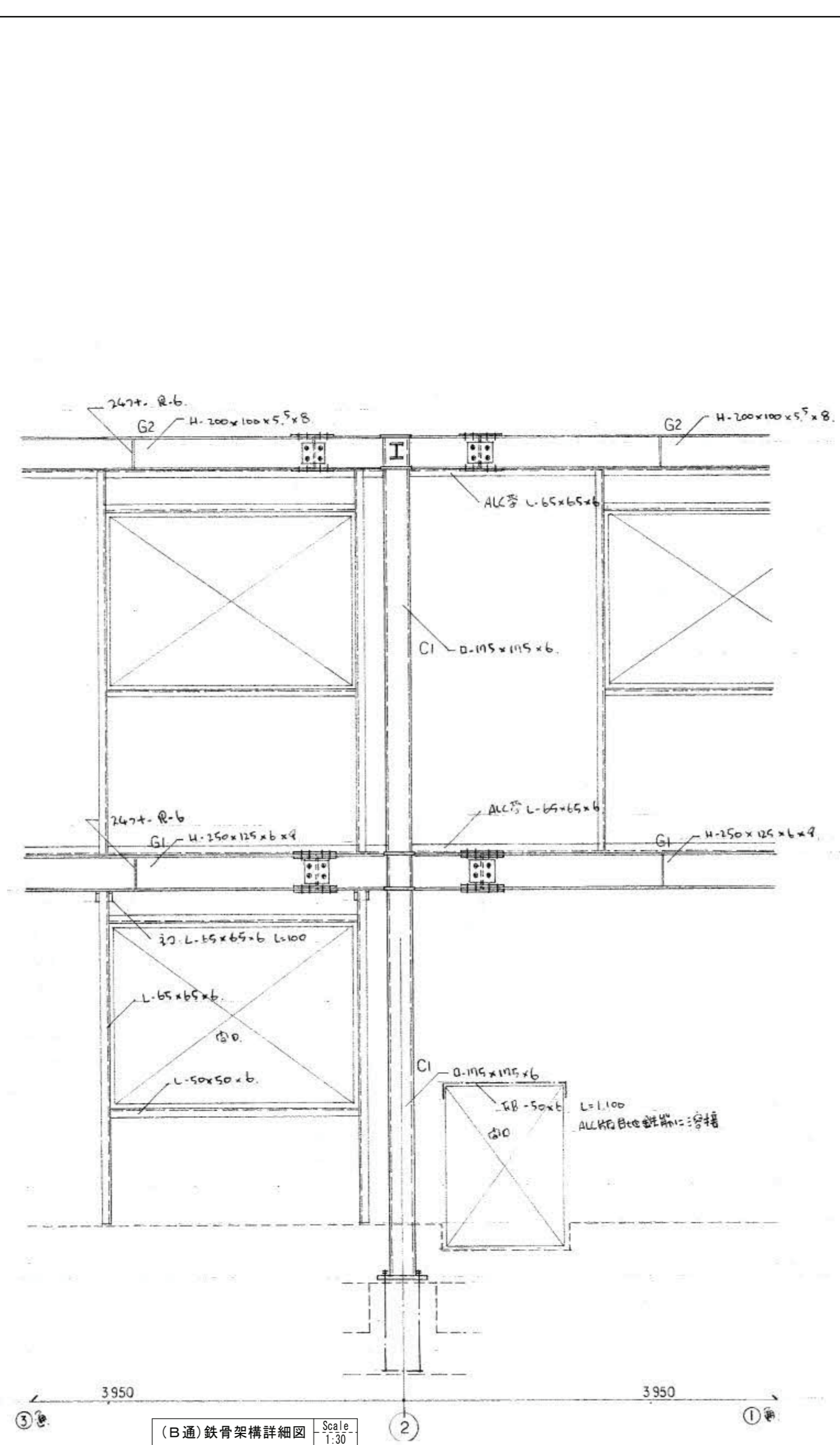
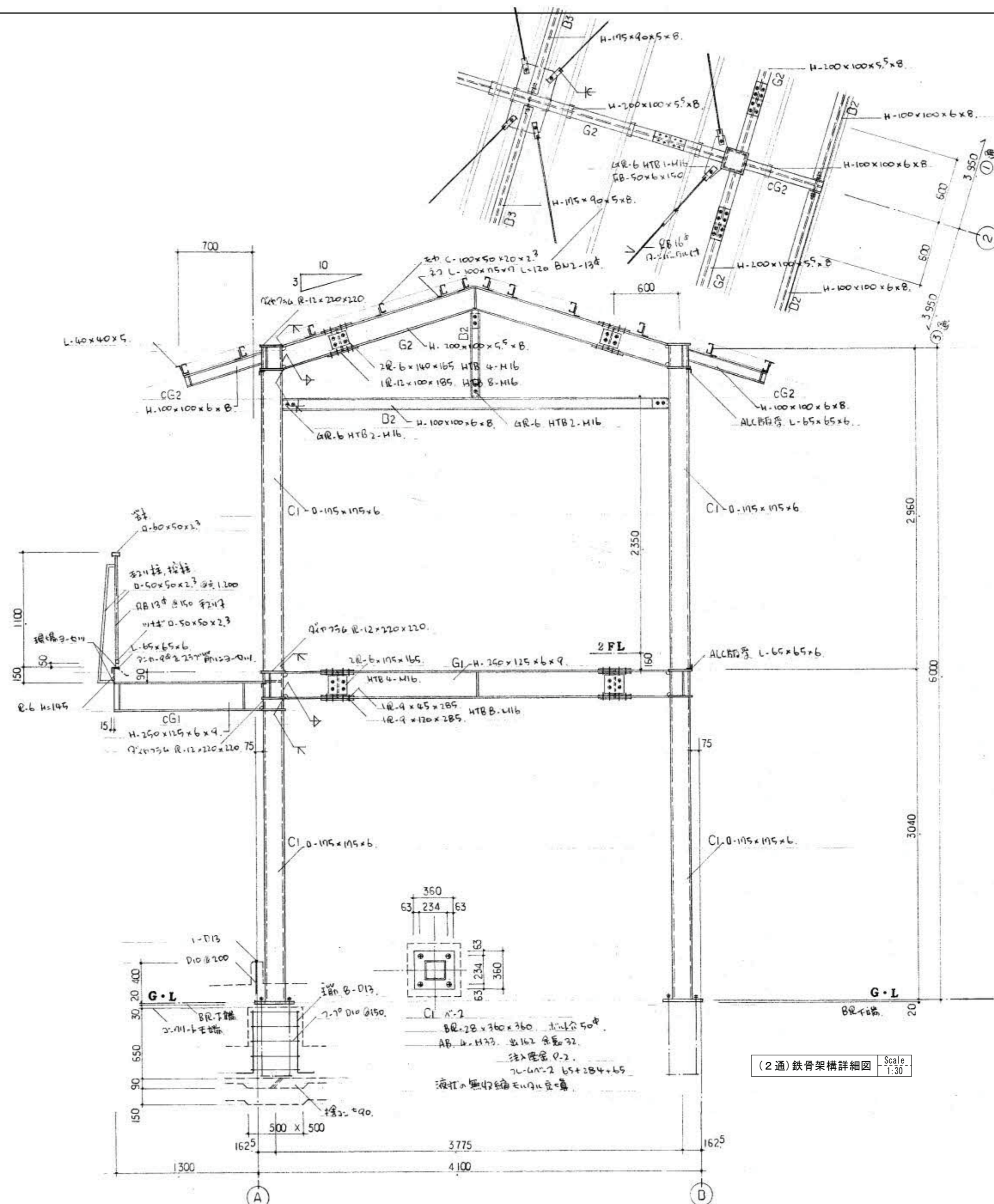
【解体(b2)実火訓練棟】



承認
承認
承認

図面番号 A-24
令和7年3月 - 日





その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名

鉄骨架構詳細図

【解体(b2)実火訓練棟】

作図



承認



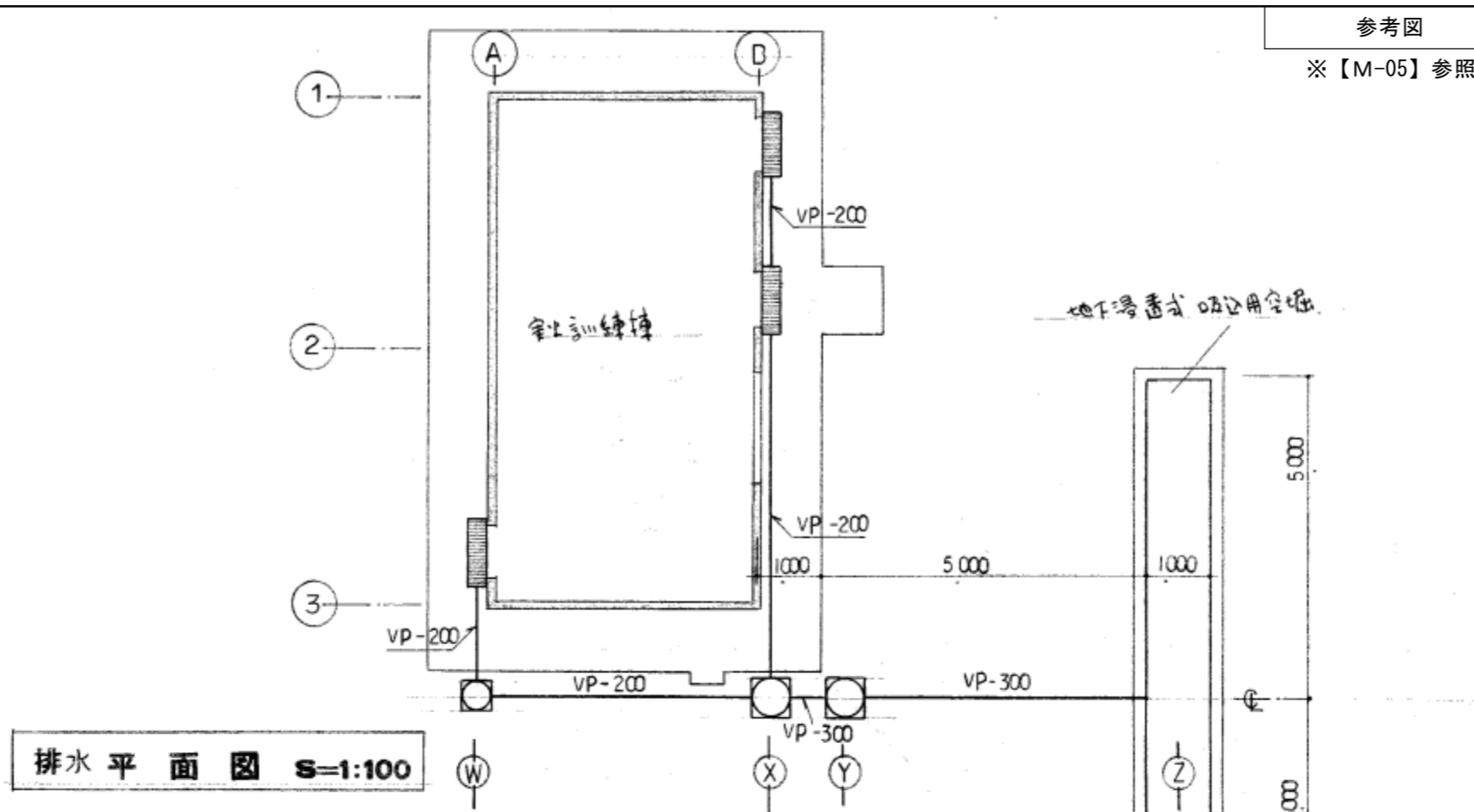
承認

承認

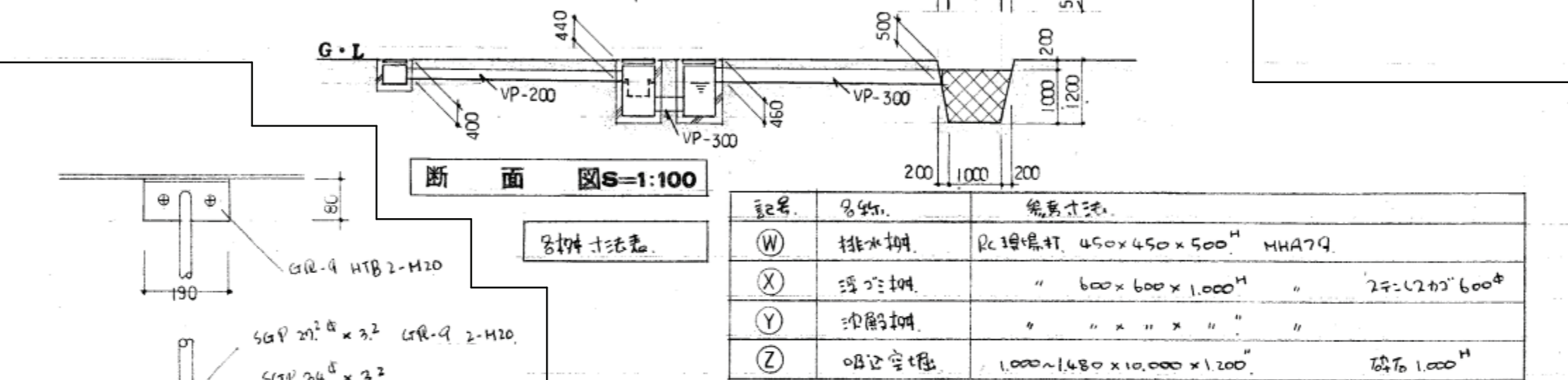
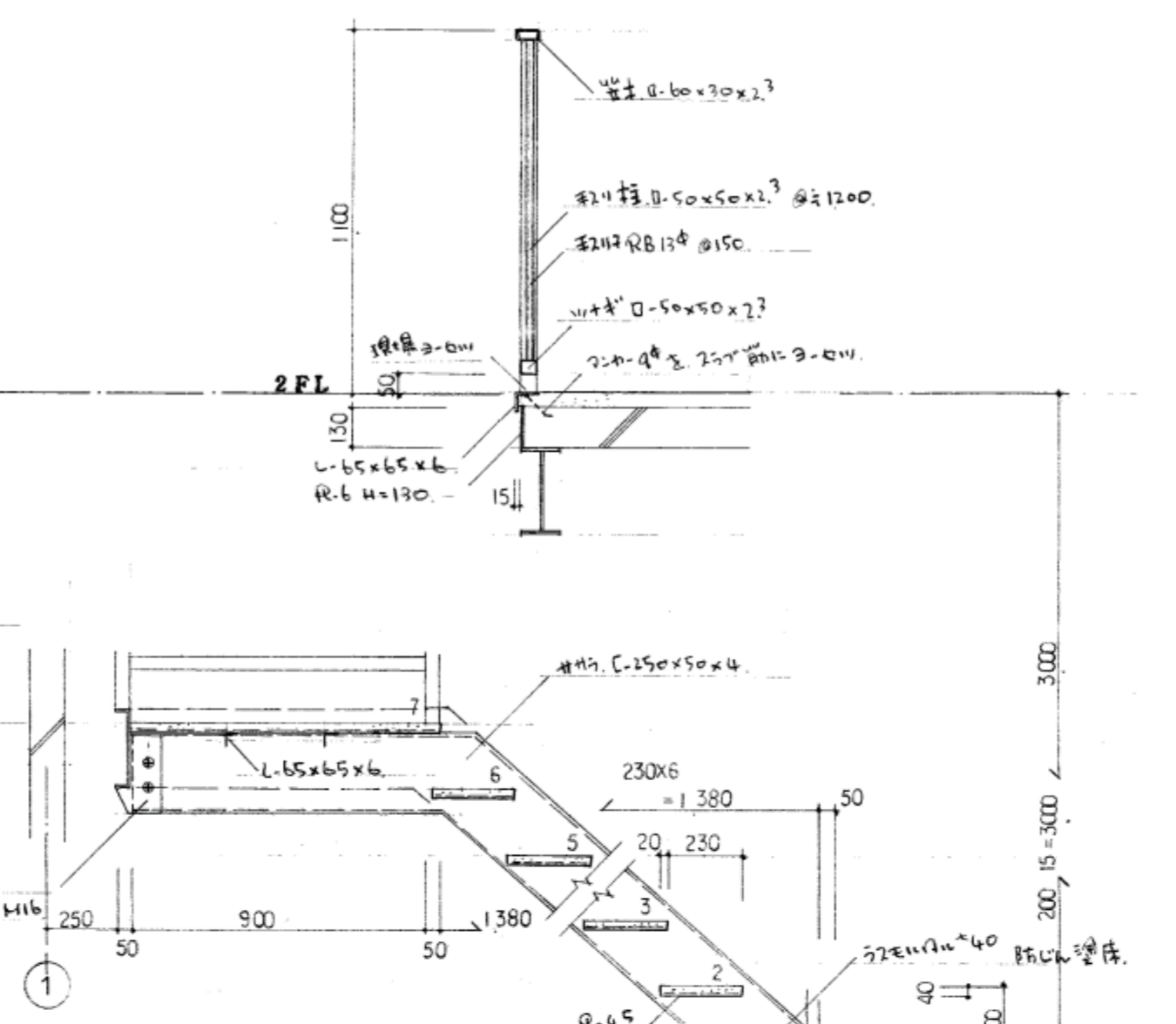
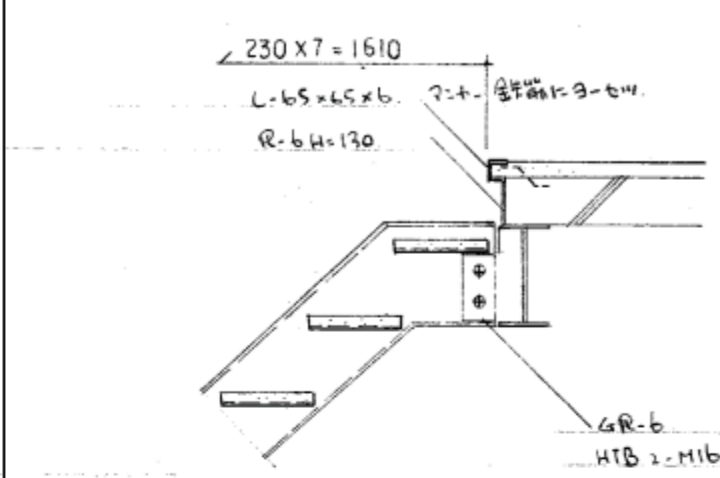
図面番号 A-27

令和7年3月 - 日

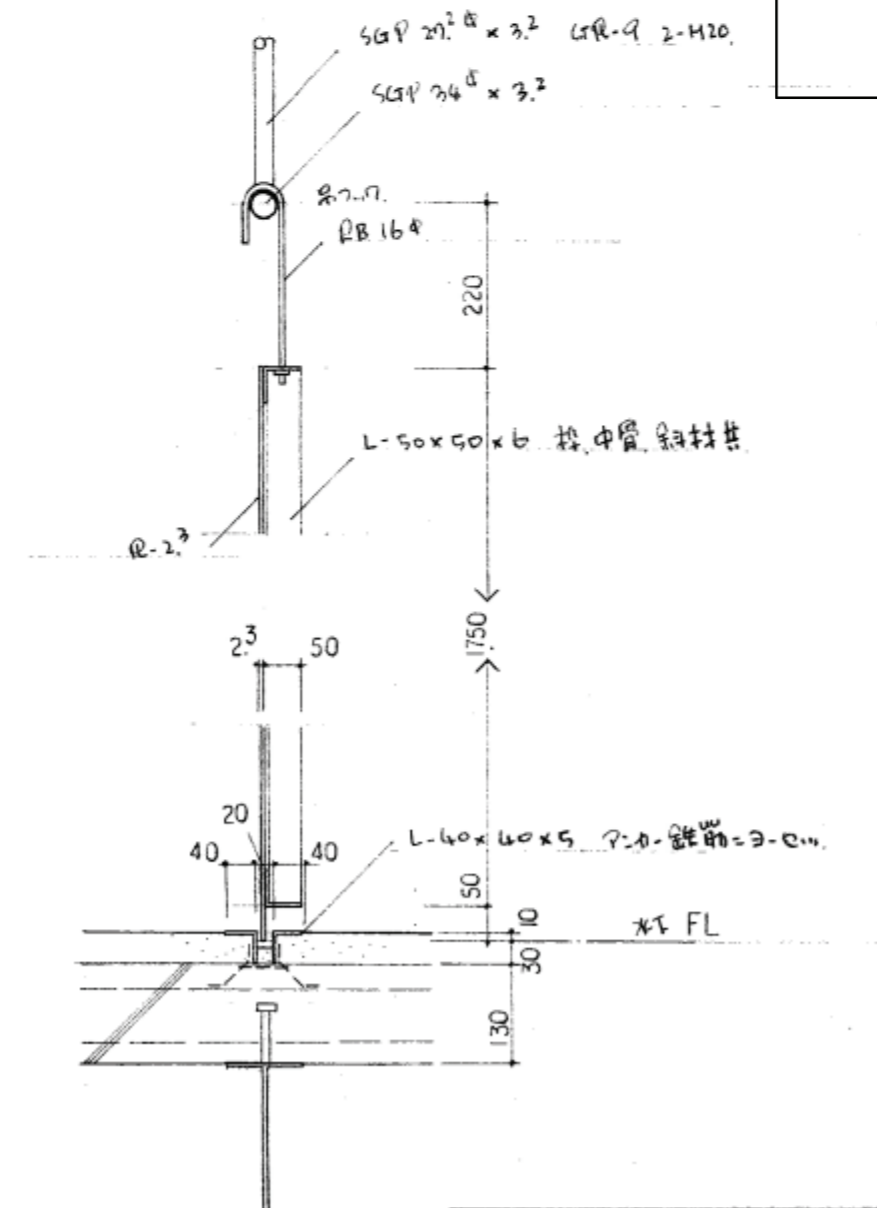
鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部営繕課



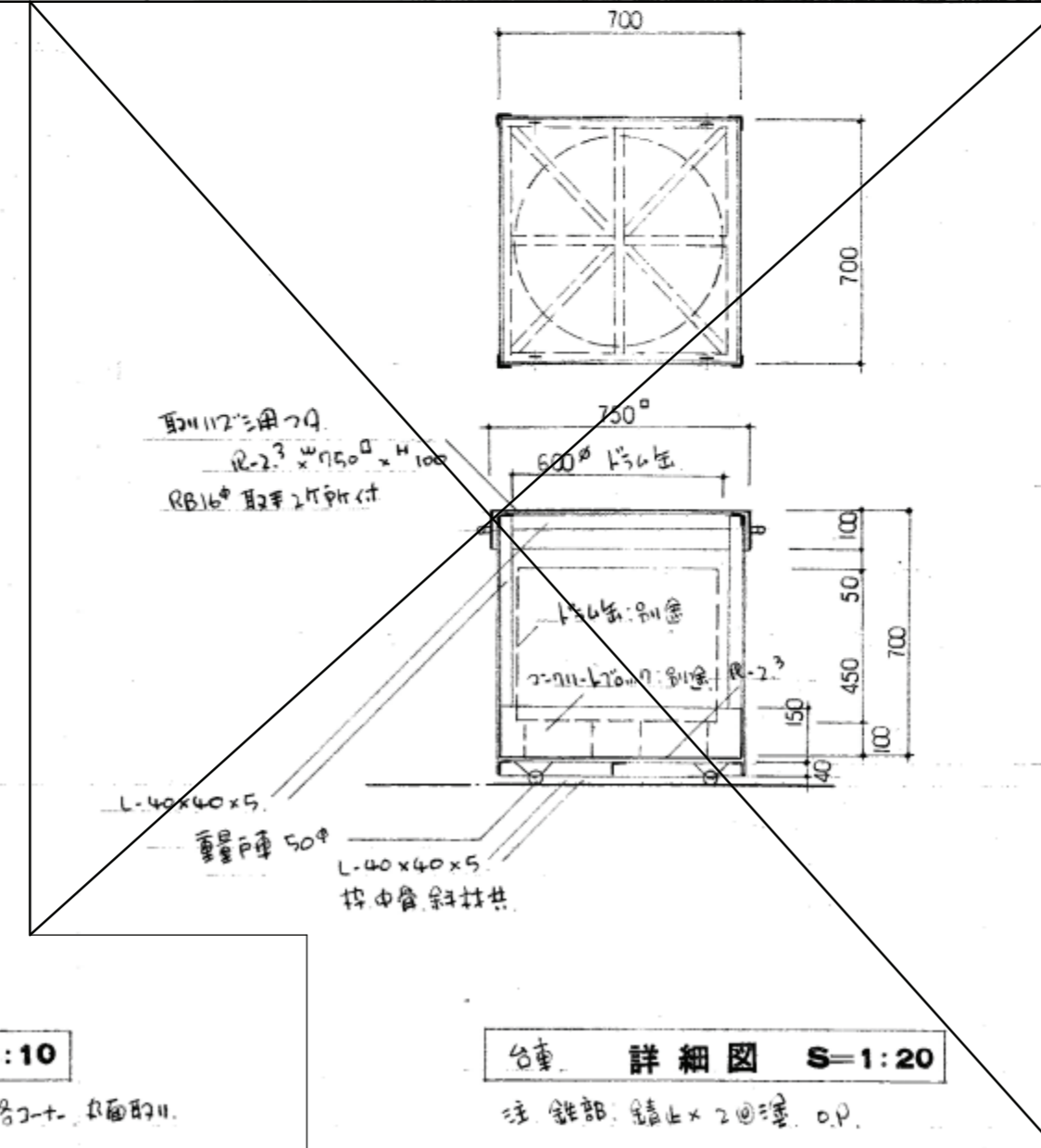
参考図
※【M-05】参照



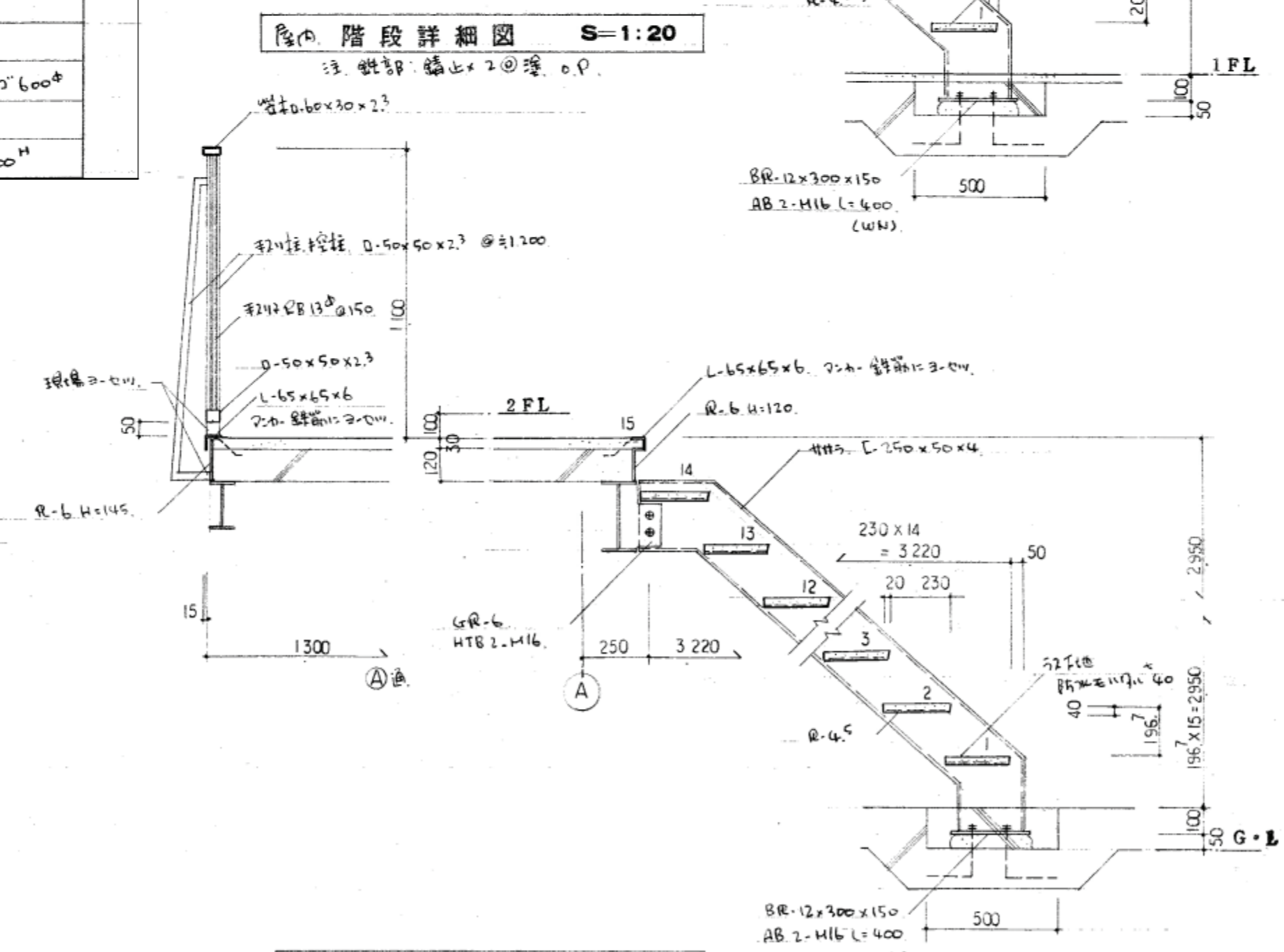
記号	名称	規格寸法
(W)	排水樹	Rc埋込打 450x450x500 ^H MHA79
(X)	浮子樹	" 600x600x1,000 ^H " 2F-(2カ)600 ^Φ
(Y)	浮子樹	" " " " " " " "
(Z)	吸込空堀	1,000~1,480x10,000x1,200 ^H 高さ1,000 ^H



1F-フロア詳細図 S=1:10
注: 鉄部: 錆止×2回塗, O.P. 各2ヶ所、上面取付。



台車詳細図 S=1:20
注: 鉄部: 錆止×2回塗, O.P.



室外階段詳細図 S=1:20
注: 鉄部: 錆止×2回塗, O.P.



建物概要等

1. 建物概要等	<p>建物概要</p> <table border="1"> <tr> <td>工事名称</td> <td>鳥取県消防学校実火訓練棟建替工事</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>工事場所</td> <td>米子市流通町1350番</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ面積</td> <td>(160.00)m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築面積</td> <td>(94.42)m²</td> <td>階数に算入しない階 ○無し ・有り ()</td> </tr> <tr> <td>階数</td> <td>地上(2)階 地下()階 塔屋()階</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ関係</td> <td>高さ(8.10)m 軒高(6.30)m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事種別</td> <td>・新築 ・増築 ○改築 ・移転 ・大規模の修繕 ・大規模の模様替</td> <td></td> </tr> </table> <p>構造概要</p> <table border="1"> <tr> <td>構造種別</td> <td>地上 ()階~(R)階(WRC)造 地下 ()階~()階()造</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>架橋形式</td> <td>X方向 (WRC+片)構造 Y方向 (WRC+片)構造</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐震構造方式</td> <td>○耐震構造 ・制振構造 ・免震構造(免震層の位置 ・基礎下免震 ・中間階免震()階) ○直接基礎(○独立 ・連続 ・べた ・)</td> <td>適用箇所は 図示による</td> </tr> <tr> <td>基礎方式</td> <td>○杭基礎(・場所打ちコンクリート杭 ・既製コンクリート杭 ・耐震構造 ○鋼管杭 ・)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐震安全性の分類</td> <td>・I類(1.5) ・II類(1.25) ○III類(1.0)</td> <td></td> </tr> </table> <p>2. 構造設計条件等</p> <table border="1"> <tr> <td>計算方法</td> <td>X方向 Y方向</td> <td>備 考</td> </tr> <tr> <td>許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】</td> <td>○</td> <td rowspan="4">X方向、Y方向 の適用する計算 法に○を記載する</td> </tr> <tr> <td>許容応力度等計算 【ルート2】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保有水平耐力計算 【ルート3】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>限界耐力計算</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の計算法()</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別な検証法(時刻歴応答解析による)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大臣認定(認定番号)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定性能評価機関名()</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価 ・高層評価 ・免震評価 ・その他</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(評価番号)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>外力等</p> <table border="1"> <tr> <td>地震力</td> <td>設計用一次固有周期 (0.126)秒 地震地域係数(Z) Z= 1.0 ○0.9 ・0.8 ・0.7 地震の種別 第(2)種地盤 Tc=(0.6)秒 標準せん断力係数 X方向 Y方向 一次設計 C_v=(0.2) C_v=(0.2) 二次設計 C_v=() C_v=()</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>風圧力(施行令第87条)</td> <td>地表面粗度区分 基準風速(V₀) 速度圧(q) ・I ・II ・III ・IV (30)m/s 801N/m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>風圧力(施行令第82条の4)</td> <td>地表面粗度区分 基準風速(V₀) 平均速度圧(q) ・I ・II ・III ・IV (30)m/s 320N/m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>積雪荷重</td> <td>区域 ・多雪区域 ○多雪区域以外 設計垂直積雪量 (64)cm 単位荷重 (20)N/m²/cm 垂直積雪量の低減 ・低減する ○低減しない</td> <td></td> </tr> </table> <p>3. 地盤調査資料</p> <p>※当該敷地の既往調査報告書 ・構造図による</p> <p>4. 液状化対策</p> <p>・有り (範囲・工法・仕様・計測・試験等については構造図を参照) ○無し</p>	工事名称	鳥取県消防学校実火訓練棟建替工事	備考	工事場所	米子市流通町1350番		延べ面積	(160.00)m ²		建築面積	(94.42)m ²	階数に算入しない階 ○無し ・有り ()	階数	地上(2)階 地下()階 塔屋()階		高さ関係	高さ(8.10)m 軒高(6.30)m		工事種別	・新築 ・増築 ○改築 ・移転 ・大規模の修繕 ・大規模の模様替		構造種別	地上 ()階~(R)階(WRC)造 地下 ()階~()階()造	備考	架橋形式	X方向 (WRC+片)構造 Y方向 (WRC+片)構造		耐震構造方式	○耐震構造 ・制振構造 ・免震構造(免震層の位置 ・基礎下免震 ・中間階免震()階) ○直接基礎(○独立 ・連続 ・べた ・)	適用箇所は 図示による	基礎方式	○杭基礎(・場所打ちコンクリート杭 ・既製コンクリート杭 ・耐震構造 ○鋼管杭 ・)		耐震安全性の分類	・I類(1.5) ・II類(1.25) ○III類(1.0)		計算方法	X方向 Y方向	備 考	許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】	○	X方向、Y方向 の適用する計算 法に○を記載する	許容応力度等計算 【ルート2】		保有水平耐力計算 【ルート3】		限界耐力計算		その他の計算法()			特別な検証法(時刻歴応答解析による)			大臣認定(認定番号)			指定性能評価機関名()			評価 ・高層評価 ・免震評価 ・その他			(評価番号)			地震力	設計用一次固有周期 (0.126)秒 地震地域係数(Z) Z= 1.0 ○0.9 ・0.8 ・0.7 地震の種別 第(2)種地盤 Tc=(0.6)秒 標準せん断力係数 X方向 Y方向 一次設計 C _v =(0.2) C _v =(0.2) 二次設計 C _v =() C _v =()	備考	風圧力(施行令第87条)	地表面粗度区分 基準風速(V ₀) 速度圧(q) ・I ・II ・III ・IV (30)m/s 801N/m ²		風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分 基準風速(V ₀) 平均速度圧(q) ・I ・II ・III ・IV (30)m/s 320N/m ²		積雪荷重	区域 ・多雪区域 ○多雪区域以外 設計垂直積雪量 (64)cm 単位荷重 (20)N/m ² /cm 垂直積雪量の低減 ・低減する ○低減しない	
工事名称	鳥取県消防学校実火訓練棟建替工事	備考																																																																													
工事場所	米子市流通町1350番																																																																														
延べ面積	(160.00)m ²																																																																														
建築面積	(94.42)m ²	階数に算入しない階 ○無し ・有り ()																																																																													
階数	地上(2)階 地下()階 塔屋()階																																																																														
高さ関係	高さ(8.10)m 軒高(6.30)m																																																																														
工事種別	・新築 ・増築 ○改築 ・移転 ・大規模の修繕 ・大規模の模様替																																																																														
構造種別	地上 ()階~(R)階(WRC)造 地下 ()階~()階()造	備考																																																																													
架橋形式	X方向 (WRC+片)構造 Y方向 (WRC+片)構造																																																																														
耐震構造方式	○耐震構造 ・制振構造 ・免震構造(免震層の位置 ・基礎下免震 ・中間階免震()階) ○直接基礎(○独立 ・連続 ・べた ・)	適用箇所は 図示による																																																																													
基礎方式	○杭基礎(・場所打ちコンクリート杭 ・既製コンクリート杭 ・耐震構造 ○鋼管杭 ・)																																																																														
耐震安全性の分類	・I類(1.5) ・II類(1.25) ○III類(1.0)																																																																														
計算方法	X方向 Y方向	備 考																																																																													
許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】	○	X方向、Y方向 の適用する計算 法に○を記載する																																																																													
許容応力度等計算 【ルート2】																																																																															
保有水平耐力計算 【ルート3】																																																																															
限界耐力計算																																																																															
その他の計算法()																																																																															
特別な検証法(時刻歴応答解析による)																																																																															
大臣認定(認定番号)																																																																															
指定性能評価機関名()																																																																															
評価 ・高層評価 ・免震評価 ・その他																																																																															
(評価番号)																																																																															
地震力	設計用一次固有周期 (0.126)秒 地震地域係数(Z) Z= 1.0 ○0.9 ・0.8 ・0.7 地震の種別 第(2)種地盤 Tc=(0.6)秒 標準せん断力係数 X方向 Y方向 一次設計 C _v =(0.2) C _v =(0.2) 二次設計 C _v =() C _v =()	備考																																																																													
風圧力(施行令第87条)	地表面粗度区分 基準風速(V ₀) 速度圧(q) ・I ・II ・III ・IV (30)m/s 801N/m ²																																																																														
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分 基準風速(V ₀) 平均速度圧(q) ・I ・II ・III ・IV (30)m/s 320N/m ²																																																																														
積雪荷重	区域 ・多雪区域 ○多雪区域以外 設計垂直積雪量 (64)cm 単位荷重 (20)N/m ² /cm 垂直積雪量の低減 ・低減する ○低減しない																																																																														
2. 構造設計条件等	<p>3. 地盤調査資料</p> <p>4. 液状化対策</p>																																																																														

構造関係共通事項 (共通事項)

構-1 総則	<p>1.1 適用範囲</p> <p>(1)構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。</p> <p>(2)構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。</p> <p>1.2 優先順位</p> <p>設計図書の図面のうち建築構造図に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。</p> <p>1. 構造図及び構造関係共通事項(共通事項)</p> <p>2. 構造関係共通事項(配筋標準図)、構造関係共通事項(鉄骨標準図)</p> <p>1.3 用語の定義</p> <p>(1)構造図とは、建築構造図のうち構造関係共通事項以外の図面をいう。</p> <p>(2)異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。</p> <p>(3)長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。</p> <p>1.4 記号等</p> <p>図面で使用する記号等は表1.1~表1.8、図1.1を標準とする。</p>
構-2 施工方法等計画書関連等	<p>1. コンクリートの単位水量測定</p> <p>(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。</p> <p>(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(f)(c)による。</p> <p>(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。</p> <p>1)測定した単位水量が、配合計画書の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車のレディーミクストコンクリート(以下「生コン」という。)を合格とし、そのまま打設する。</p> <p>2)測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車の生コンを合格とし打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン生産者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>3)測定した単位水量が設計値±20kg/m³を超える場合は、その運搬車の生コンを不合格とし、打設せずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン生産者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/m³以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>4)3)により不合格となった生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。</p> <p>(4)単位水量管理についての記録を書面(配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により監督職員に提出する。</p> <p>(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は当該生コン生産者以外の機関とする。</p>

構造関係共通事項(配筋標準図)

1.1 鉄筋の加工	<p>鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。</p> <p>表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">折曲げ角度</th> <th rowspan="2">折曲げ図(余長)</th> <th colspan="3">折曲げ内法直径(D)</th> </tr> <tr> <th>鉄筋の種類</th> <th>呼び名</th> <th></th> </tr> <tr> <td rowspan="2">180°</td> <td rowspan="2"></td> <td>SD295A SD295B, SD345</td> <td>D16以下</td> <td>SD390</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D19 ~ D38</td> <td>D19 ~ D38</td> </tr> <tr> <td>135°</td> <td></td> <td></td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> </tr> <tr> <td>90°</td> <td></td> <td></td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> </tr> <tr> <td>135°及び90°(幅止め筋)</td> <td></td> <td></td> <td>4d以上</td> <td>5d以上</td> </tr> </table> <p>1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。</p> <p>2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。</p>	折曲げ角度	折曲げ図(余長)	折曲げ内法直径(D)			鉄筋の種類	呼び名		180°		SD295A SD295B, SD345	D16以下	SD390		D19 ~ D38	D19 ~ D38	135°			3d以上	4d以上	90°			3d以上	4d以上	135°及び90°(幅止め筋)			4d以上	5d以上
折曲げ角度	折曲げ図(余長)			折曲げ内法直径(D)																												
		鉄筋の種類	呼び名																													
180°		SD295A SD295B, SD345	D16以下	SD390																												
			D19 ~ D38	D19 ~ D38																												
135°			3d以上	4d以上																												
90°			3d以上	4d以上																												
135°及び90°(幅止め筋)			4d以上	5d以上																												
2.1 異形鉄筋の末端部	<p>次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。</p> <p>(1)柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部</p> <p>(2)煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)</p> <p>(3)杭基礎のベース筋</p> <p>(4)帯筋、あばら筋及び幅止め筋</p>																															
3.1 継手及び定着	<p>(a) 鉄筋の重ね継手</p> <p>(1)径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。</p> <p>(2)柱及び梁の主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。</p> <p>表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">鉄筋の種類</th> <th colspan="2">コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm²)</th> </tr> <tr> <th>L₁ (フックなし)</th> <th>L_{1b} (フックあり)</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">SD295A SD295B</td> <td>18</td> <td>45d</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>40d</td> </tr> <tr> <td>24, 27</td> <td>35d</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">SD345</td> <td>30, 33, 36</td> <td>35d</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>50d</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>45d</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">SD390</td> <td>24, 27</td> <td>40d</td> </tr> <tr> <td>30, 33, 36</td> <td>35d</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>50d</td> </tr> </table> <p>(注) 1. L₁、L_{1b}: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ 2. フックありの場合のL_{1b}は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。</p>	鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)		L ₁ (フックなし)	L _{1b} (フックあり)	SD295A SD295B	18	45d	21	40d	24, 27	35d	SD345	30, 33, 36	35d	18	50d	21	45d	SD390	24, 27	40d	30, 33, 36	35d	21	50d					
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)																															
	L ₁ (フックなし)	L _{1b} (フックあり)																														
SD295A SD295B	18	45d																														
	21	40d																														
	24, 27	35d																														
SD345	30, 33, 36	35d																														
	18	50d																														
	21	45d																														
SD390	24, 27	40d																														
	30, 33, 36	35d																														
	21	50d																														

(3) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上(軽量コンクリートの場合は50d以上)又は表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。																																																																						
(4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。 ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。	<p>表3.2 隣り合う継手の位置</p>																																																																					
(b) 鉄筋の定着	<p>(1)鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。</p> <p>(2)柱に取り付けられる梁の引張り鉄筋の直線定着長さは、40d以上(軽量コンクリートの場合は50d以上)とする。</p> <p>表3.3 鉄筋の定着の長さ</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">鉄筋の種類</th> <th rowspan="2">コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm²)</th> <th colspan="2">直線定着の長さ</th> <th colspan="3">フックあり定着の長さ</th> </tr> <tr> <th>L₁</th> <th>L₂</th> <th>L_{1b}</th> <th>L_{2b}</th> <th>L_{3b}</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">SD295A SD295B</td> <td>18</td> <td>45d</td> <td>40d</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>40d</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>24, 27</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td>20d</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">SD345</td> <td>30, 33, 36</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td>20d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>50d</td> <td>40d</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td>10d</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>45d</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">SD390</td> <td>24, 27</td> <td>40d</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>30, 33, 36</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td>20d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>50d</td> <td>40d</td> <td>35d</td> <td>30d</td> <td></td> </tr> </table> <p>(注) 1. L₁、L_{1b}: 2. から 4. まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ 2. L₂、L_{2b}: 割製破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ 3. L₃: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。 4. L_{3b}: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ 5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。 6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。</p>	鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ			L ₁	L ₂	L _{1b}	L _{2b}	L _{3b}	SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d		21	40d	35d	30d	25d		24, 27	35d	30d	25d	20d		SD345	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d		18	50d	40d	35d	30d	10d	21	45d	35d	30d	25d		SD390	24, 27	40d	35d	30d	25d		30, 33, 36	35d	30d	25d	20d		21	50d	40d	35d	30d	
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)			直線定着の長さ		フックあり定着の長さ																																																																
		L ₁	L ₂	L _{1b}	L _{2b}	L _{3b}																																																																
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d																																																																	
	21	40d	35d	30d	25d																																																																	
	24, 27	35d	30d	25d	20d																																																																	
SD345	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d																																																																	
	18	50d	40d	35d	30d	10d																																																																
	21	45d	35d	30d	25d																																																																	
SD390	24, 27	40d	35d	30d	25d																																																																	
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d																																																																	
	21	50d	40d	35d	30d																																																																	
(2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。	<p>(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上</p> <p>(ii) 余長は8d以上とする。</p> <p>(iii) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さL_a及びL_bは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。</p> <p>図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ</p> <p>図3.3 折曲げ定着の方法</p>																																																																					

その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
構造関係共通事項(1)
【新築(b6)実火訓練棟】

作図

承認
承認
承認

図面番号 S-01
-

令和7年3月 - 日



表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295A	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD295B	30, 33, 36	15d	15d
	18	20d	20d
	21	20d	20d
SD345	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
	21	20d	20d
SD390	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む)
 2. L_b : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持小梁及び片持スラブを除く)
 3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
 なお、 L_1 は表3.1に、 L_2 及び L_3 は表3.3による。

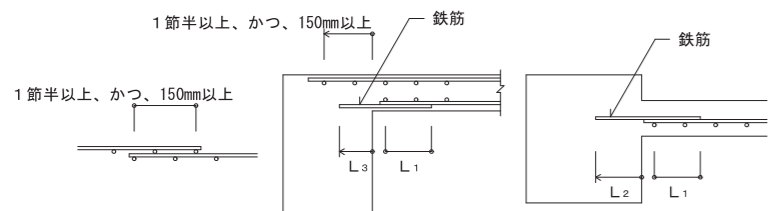


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- (4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

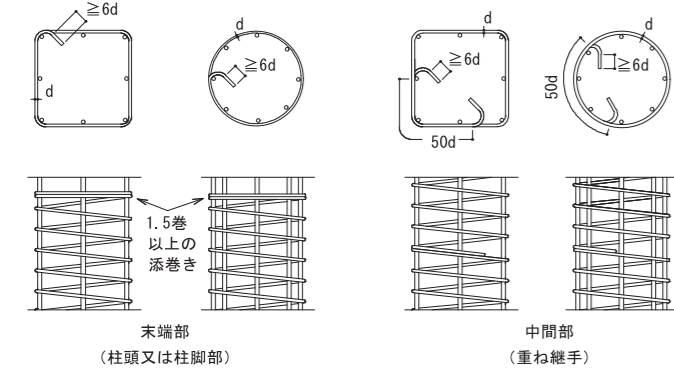


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
 ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

土に接しない部分	構造部分の種類		最小かぶり厚さ (mm)
	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり / 仕上げなし	
土に接しない部分	柱、梁、耐力壁	屋内 仕上げあり	30
		屋内 仕上げなし	30
	擁壁、耐圧スラブ	屋内 仕上げあり	40
		屋内 仕上げなし	40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		60
煙突等高熱を受ける部分			60

- (注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
 また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
 2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
 3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
 4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭天端からとする。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 (2) 25mm
 (3) 隣り合う鉄筋の径の平均（呼び名の数値）の1.5倍

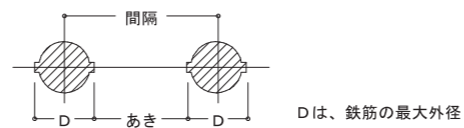


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

- (a) 一般事項

- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
 (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。

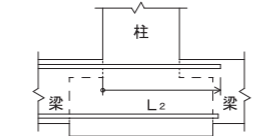
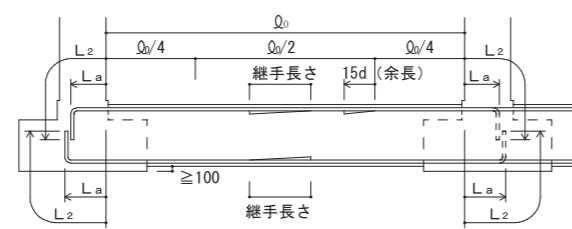


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- (b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

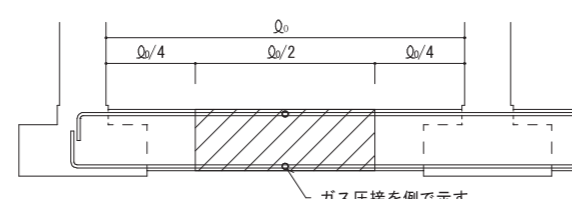
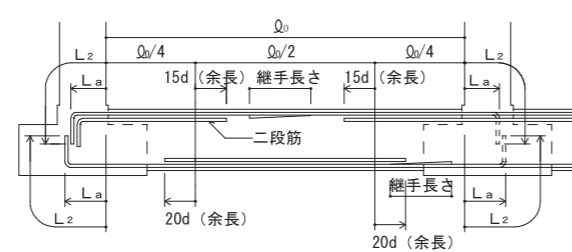


図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

- (c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
 ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

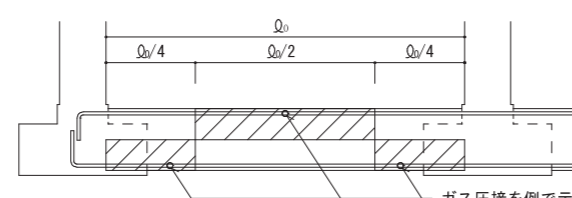
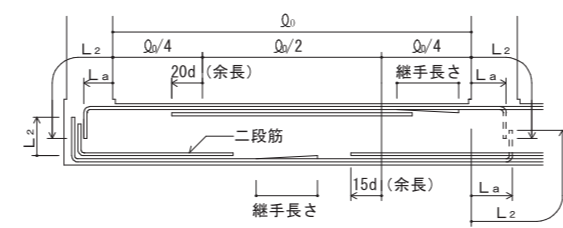


図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

- (d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

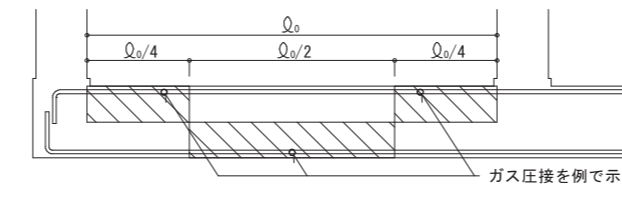


図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）

5.2 基礎梁のあばら筋等

- (a) 一般事項

- (1) あばら筋の径および間隔は、構造図による。
 (2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。
 ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

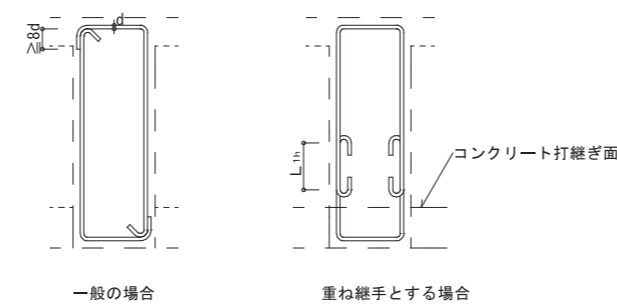


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

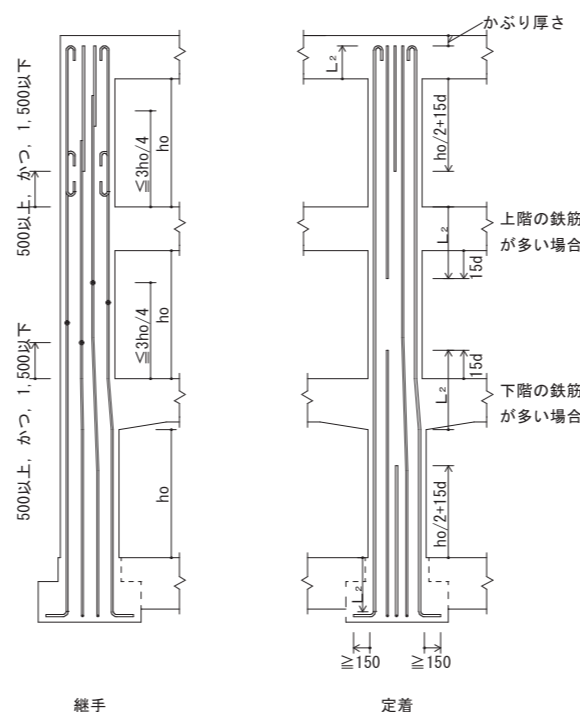
- (b) 腰筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は構造図による。

- (c) あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

6.1 柱

- (a) 一般事項

- (1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4 (hoは柱の内法高さ) 以下とする。
 (2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
 ただし、柱頭定着長さL₂が確保できない場合は、構造図による。



- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2 [隣り合う継手の位置] による。
 3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

- (b) 柱打増し部

- (1) 打増し部分に、壁、梁、スラブ等がとりつく場合の壁、梁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。
 (2) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

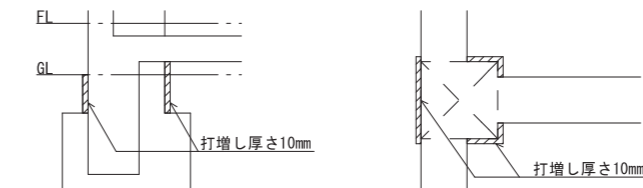


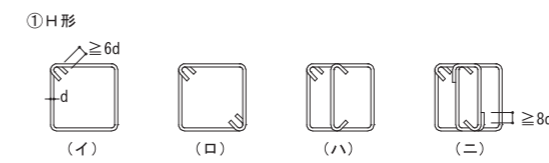
図6.2 柱打増し部

6.2 帯筋

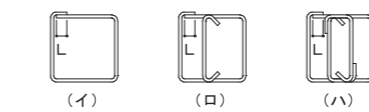
- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。

- (b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。

- (1) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。
 (2) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
 (3) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。



- ②W-1形



- ⑤S P形（スパイラル筋）

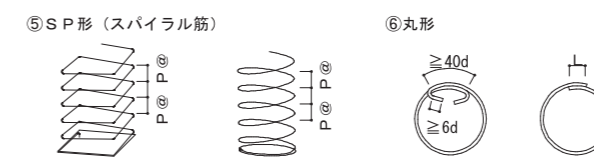
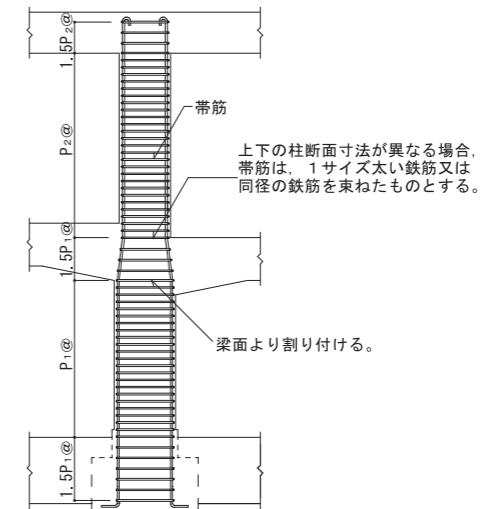


図6.3 帯筋組立の形

- (c) フック及び継手の位置は交互とする。

- (d) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は構造図による。



- (注) 1. 柱に取り付け梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁@または1.5P₂@とする範囲は、その柱に取り付けず全ての梁を考慮して適用する。
 2. 図中のP₁@、P₂@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

- (a) 一般事項

- (1) 梁の上がり下りはFLを基準とした寸法値とする。
 (2) 地中梁下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は構造図による。
 (3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合のスラブ、壁、梁筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。

- (b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (1) 継手中心位置は、次による。
 上端筋：中央 $Q_0/2$ 以内
 下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、 $Q_0/4$ を加えた範囲以内
 (2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
 (3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

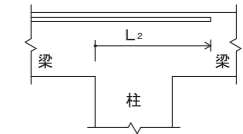


図7.1 梁主筋の梁内定着

- (4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

- なお、定着の方法は3.1(b)(2)による。
 上端筋：曲げ降ろす
 下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
 下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。
 (5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は構造図による。
 (6) 段違い梁は、図7.2による。

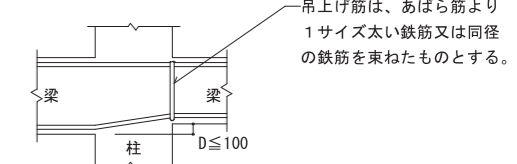
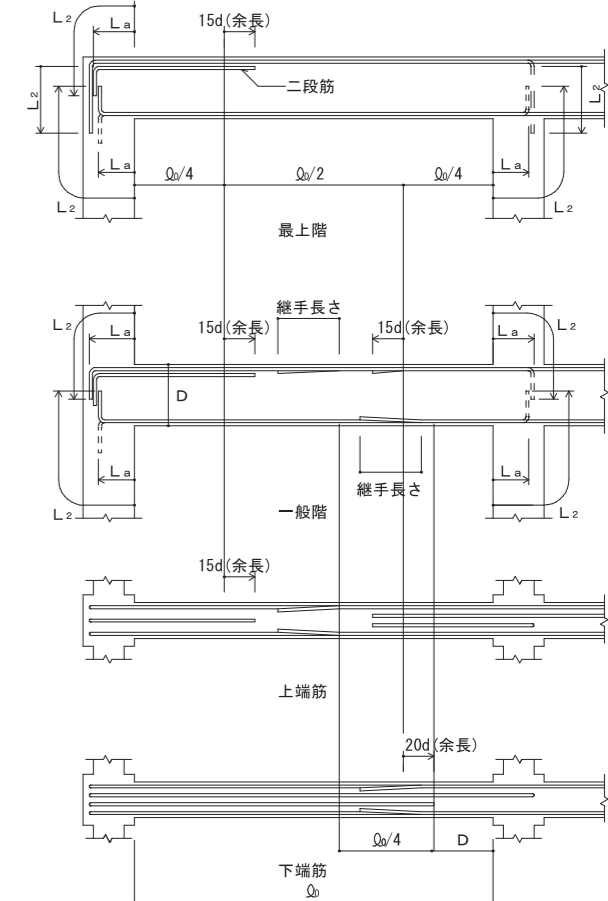


図7.2 段違い梁

- (c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
 2. 印は、継手及び余長を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

- (d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。

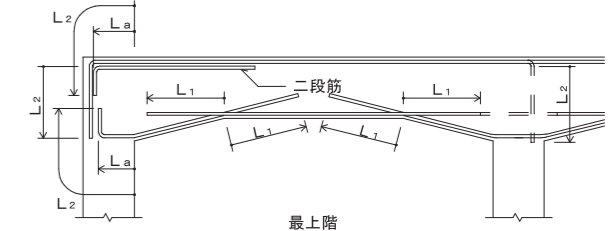


図7.4

その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17

TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101

件名 鳥取県消防学校 実火訓練棟建替工事

図名 構造関係共通事項（2）

【新築(b6)実火訓練棟】

作図



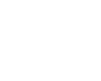
承認



承認



承認

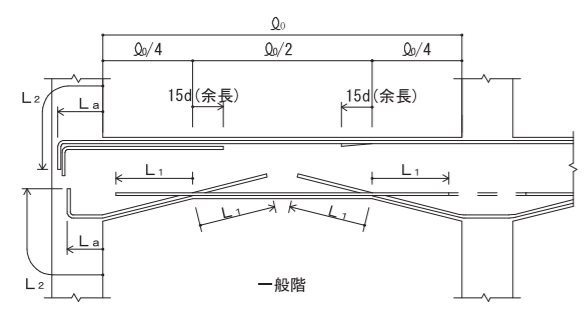


図面番号

S - 02

令和7年3月 - 日





- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎を除く）には、フックを付ける。
 2. ≡印は、継手及び余長を示す。
 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、≡印のように引き通すことができる。
 4. 破線は、柱内定着を示す。
 5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せい）の3/4倍以上

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

- (a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
 (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。
 (2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは構造図による。
 (3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。
- (b) あばら筋組立の形及びフックの位置
 (1) 形は、図7.5(イ)とする。
 ただし、L形梁の場合は、(ロ)または(ハ)、T形梁の場合は(ロ)~(ニ)とすることができる。
 (2) フックの位置
 Ⅰ、(イ)の場合は交互とする。
 Ⅱ、(ロ)の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
 Ⅲ、(ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

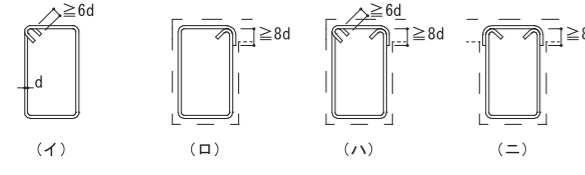
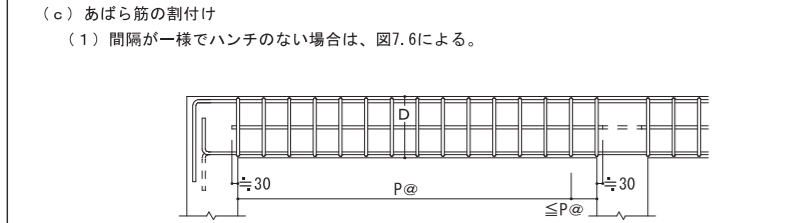
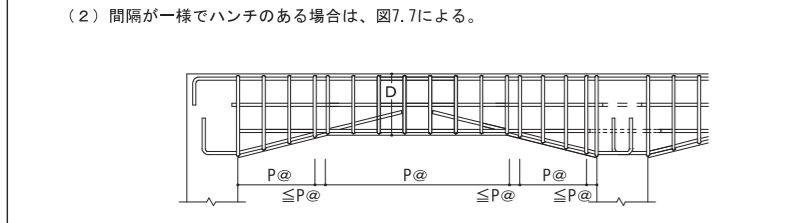


図7.5 あばら筋組立の形



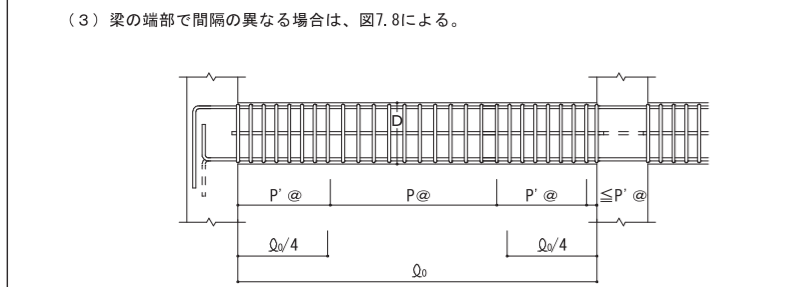
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け(その1)



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け(その2)



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP@、P'@は、構造図のあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け(その3)

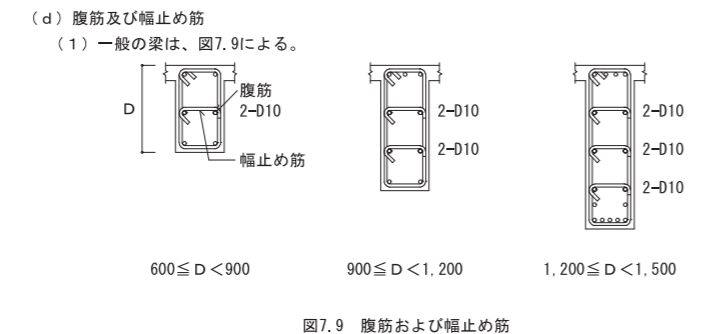
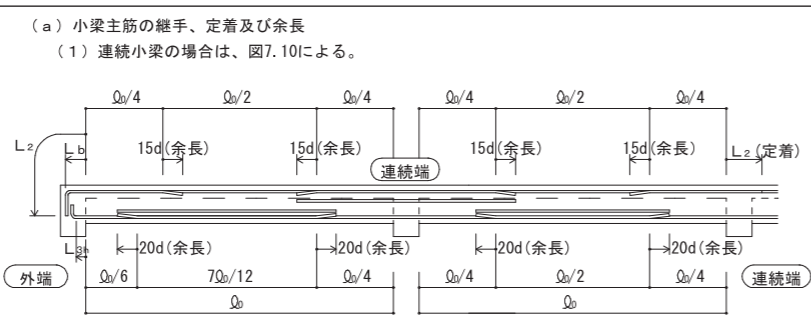


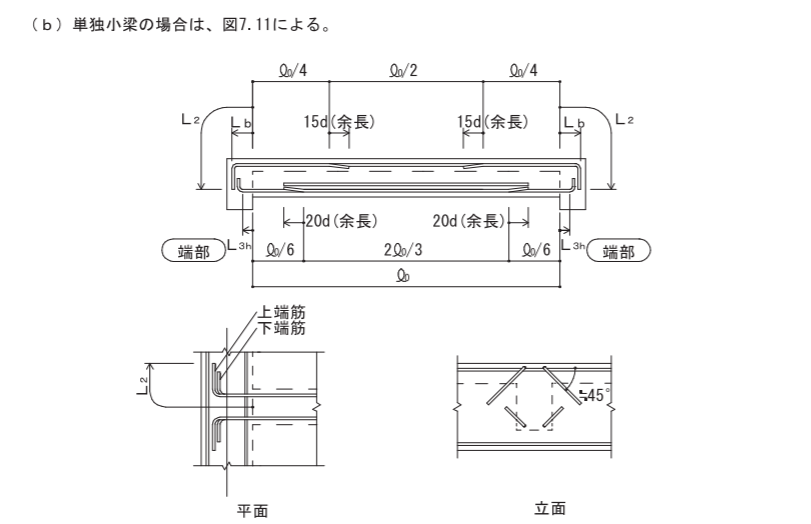
図7.9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。
 2. ≡印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

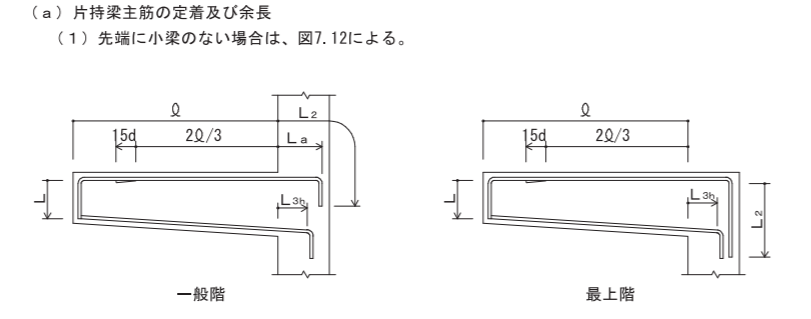


- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。
 2. ≡印は、余長位置を示す。

図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

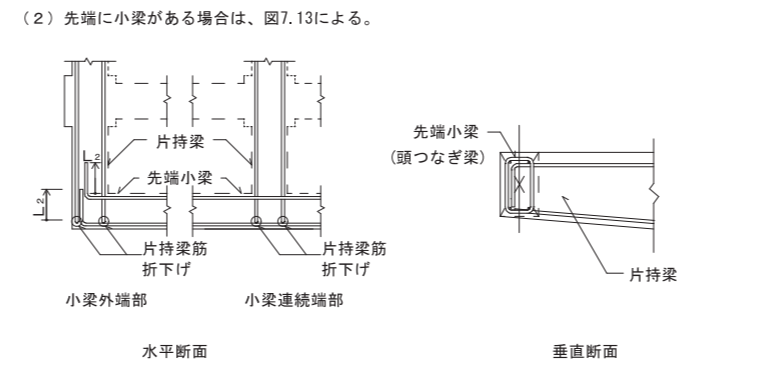
- (c) あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁



- (注) 1. 図示のない事項は、7.11による。
 2. ≡印は、余長位置を示す。
 3. 先端の折曲げの長さは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長



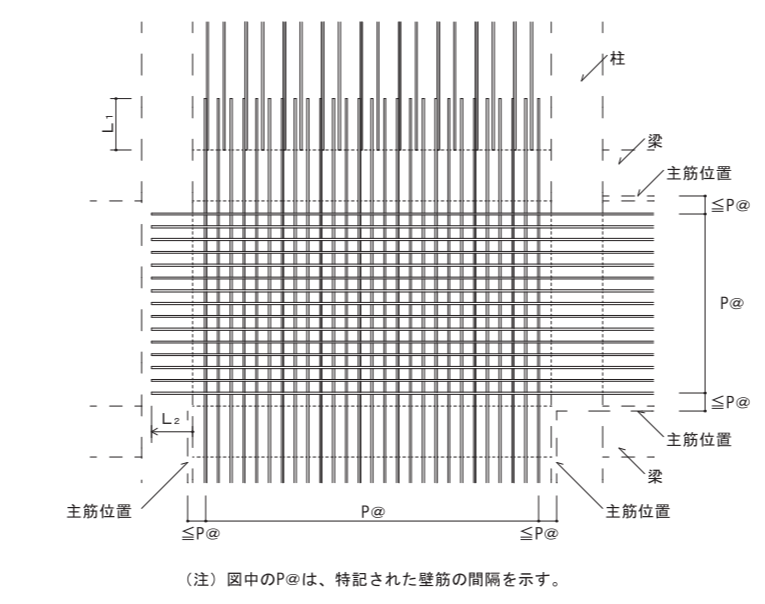
- (注) 1. 図示のない場合は、(1)による。
 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

- (b) あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

- (a) 一般事項
 (1) 壁配筋の重ね継手の長さはL1、定着の長さはL2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
 (2) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
 (3) 打増し部分に、壁、スラブ等が取り付く場合の壁、スラブ等の定着長さは、打増し部分を含まない。



- (注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

図8.1 壁の配筋

- (b) 壁の配筋は表8.1により、種別は構造図による。

表8.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	

- (注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

- (c) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋 D13-200#ダブル	180	KA1
	横筋 D10-200#ダブル		
KW2	縦筋 D13-150#ダブル	200	KA2
	横筋 D10-200#ダブル		

- (注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

- (d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

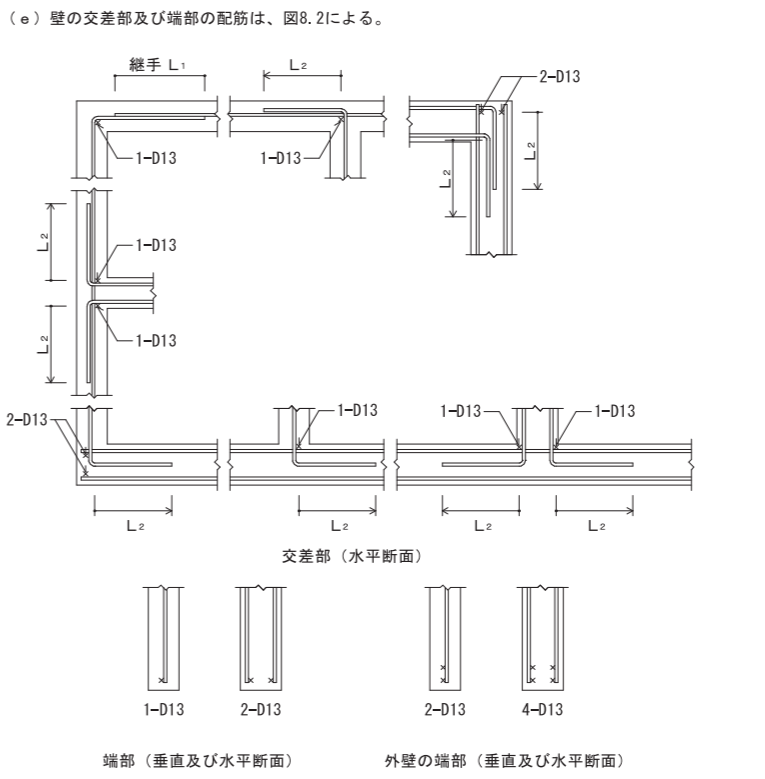


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 壁の補強

- (a) 壁開口部の補強
 (1) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋(A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋(B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

- (2) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

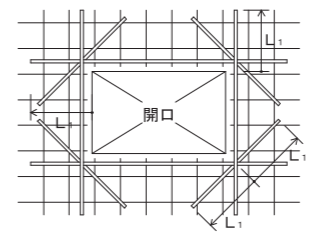


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

- (b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

9.1 スラブ

- (1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、FLを基準とした寸法値とする。
 (2) 土間スラブ下の砂利地業厚及び捨てコンクリート地業厚は構造図による。
 (3) 土間コンクリート補強筋(D0)の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。
 (4) スラブの配筋(S形配筋)は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向(主筋) 全域		長辺方向(配力筋) 全域	
	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150# D10-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上 D10-200#
S 3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200# D10, D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上 D10-200#
S 5	同上	D10, D13-150#	S12	同上 D10-250#
S 6	同上	D10-150#	S13	D10-200# D10-200#
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上 D10-250#

- (注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

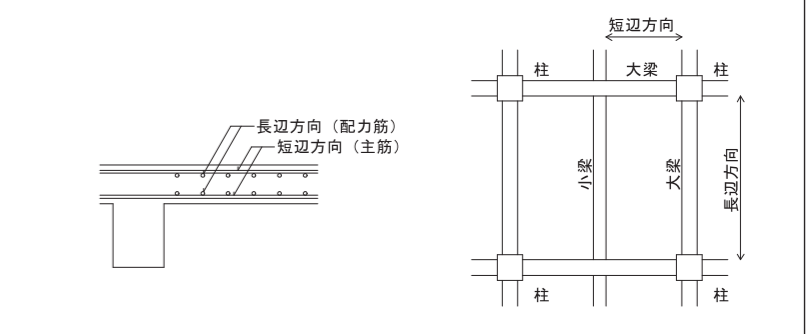


図9.1 スラブの配筋

- (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
 (6) 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。
 (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

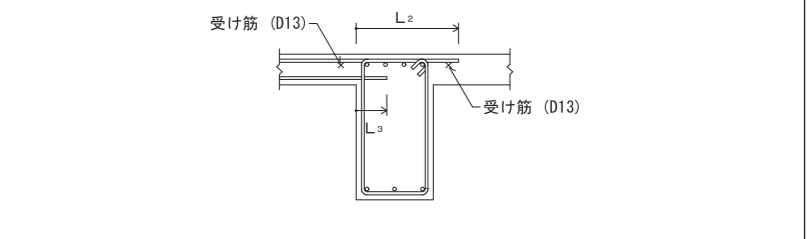


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

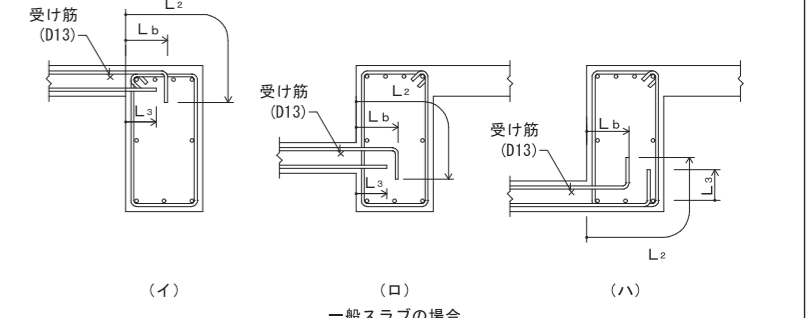


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

9.2 片持スラブ

- 片持スラブは、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、構造図による。片持スラブの配筋は、次による。

- (1) 片持スラブの配筋(CS形配筋)は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
	上	下		上	下
CS1	D13-100#	D13-200#	CS5	D10-200#	D10-400#
	D13-150#	D13-300#		CS6	D10, D13-200#
CS2	D10, D13-150#	D10, D13-300#	CS7		D10-200#
	D10, D13-200#	D10, D13-200#		D10-200#	—

その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号
 〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
 一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹
 TEL0859-30-0100
 FAX0859-30-0101

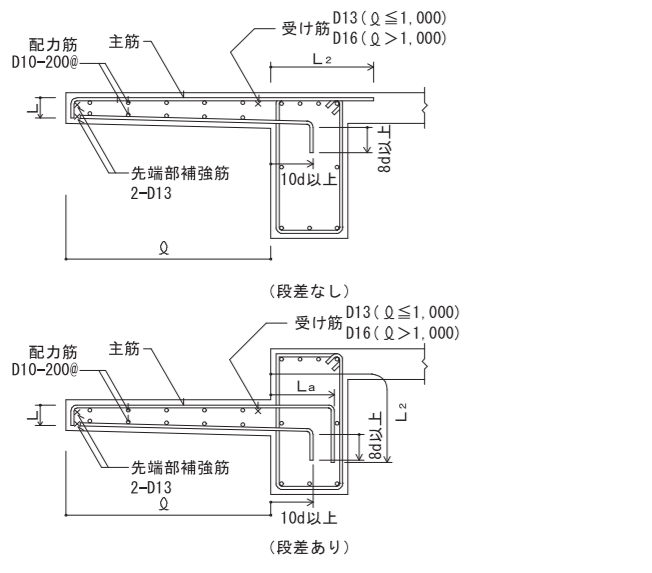
件名
 鳥取県消防学校
 実火訓練棟建替工事

図名
 構造関係共通事項(3)
 【新築(b6)実火訓練棟】

作図
 承認
 承認
 承認

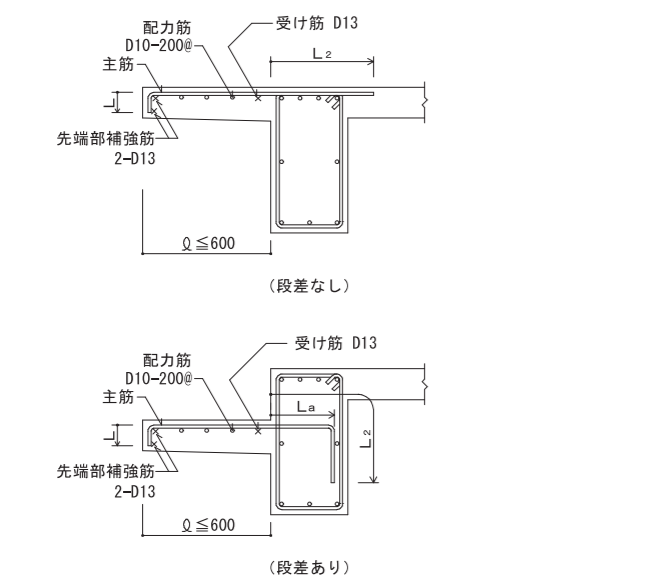
図番番号 S-03
 令和7年3月-日





(注) 1. 先端の折り曲げ長さ L_2 は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4 片持スラブの配筋 (CS1からCS5)



(注) 1. 先端の折り曲げ長さ L_2 は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブの配筋 (CS6及びCS7)

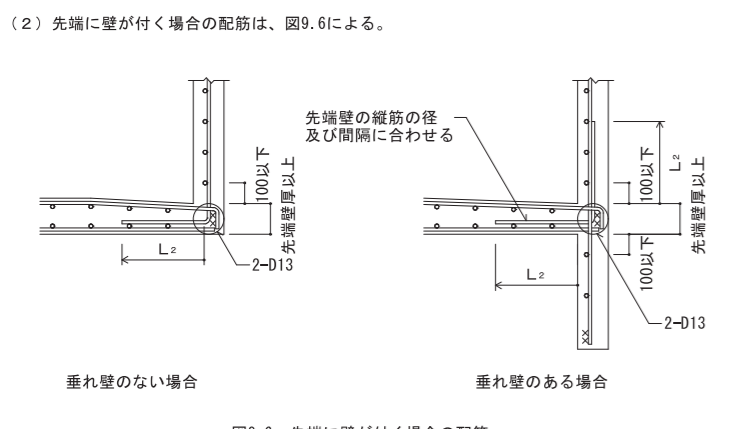


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

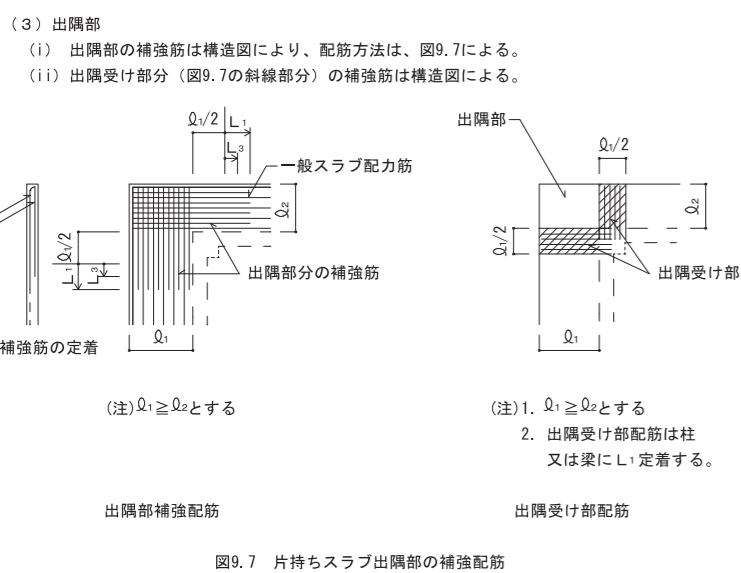


図9.7 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

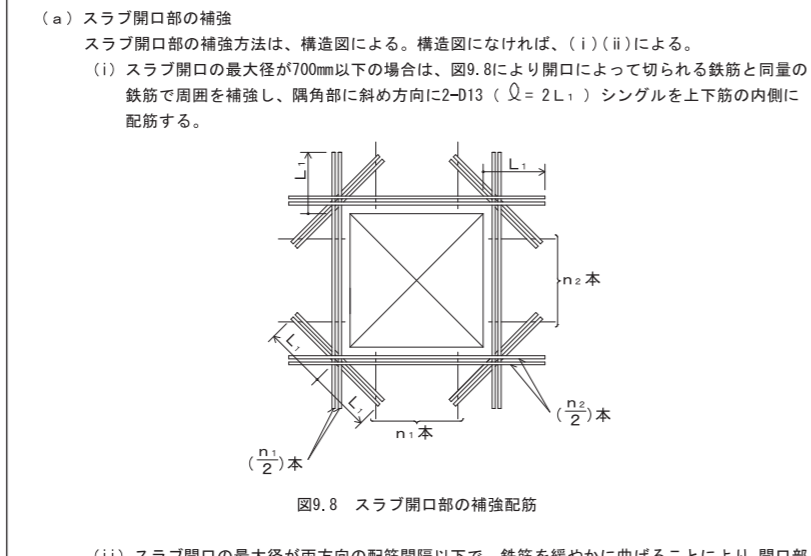


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

(a) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、構造図による。構造図になければ、(i)(ii)による。
(i) スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合、図9.8により開口部によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($Q = 2L_1$) シングルを上下筋の内側に配筋する。

(ii) スラブ開口部の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

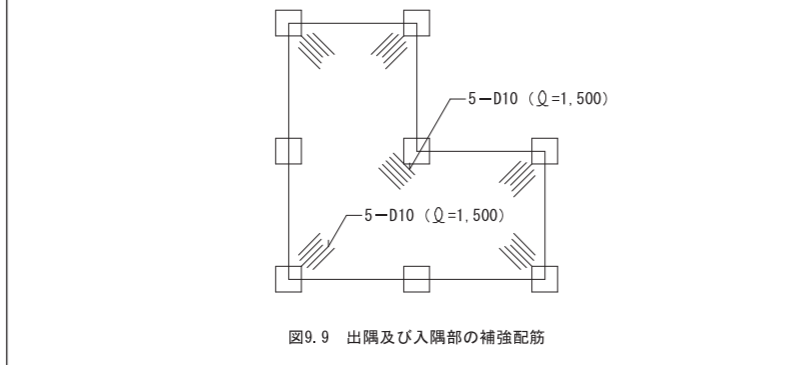


図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

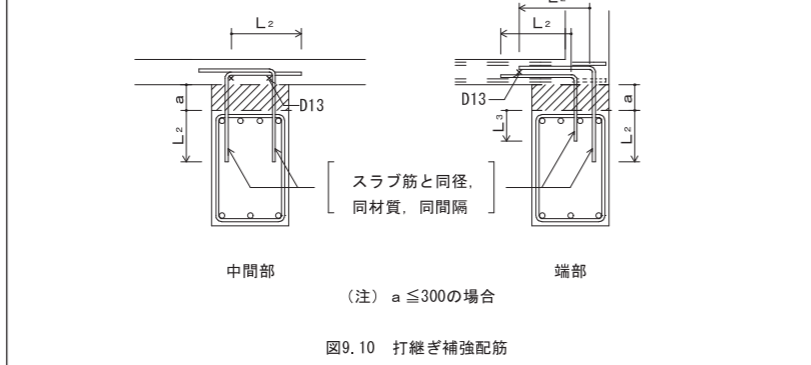


図9.10 打継ぎ補強配筋

(c) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしない、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

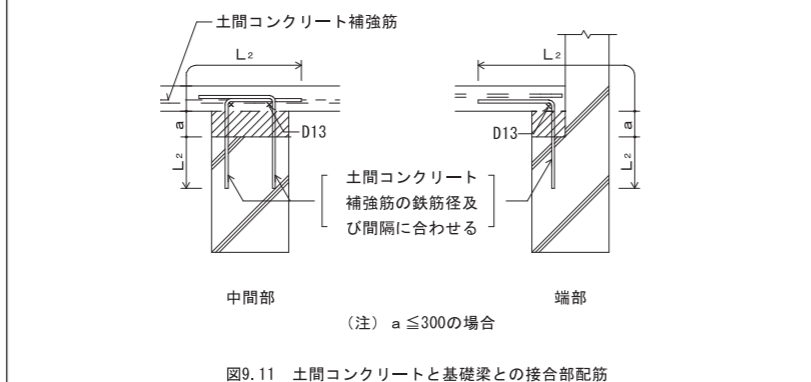


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

配筋種別	KA1	KA2	KA3	KA4
配筋図				
配筋種別	D13, D10-300#, D10-300#	D13, D10-300#, D10-300#	D10-300#, D13	D10-300#, D13, 2-D13
配筋図				
配筋種別	D10-300#, D13	D10-300#, D13		

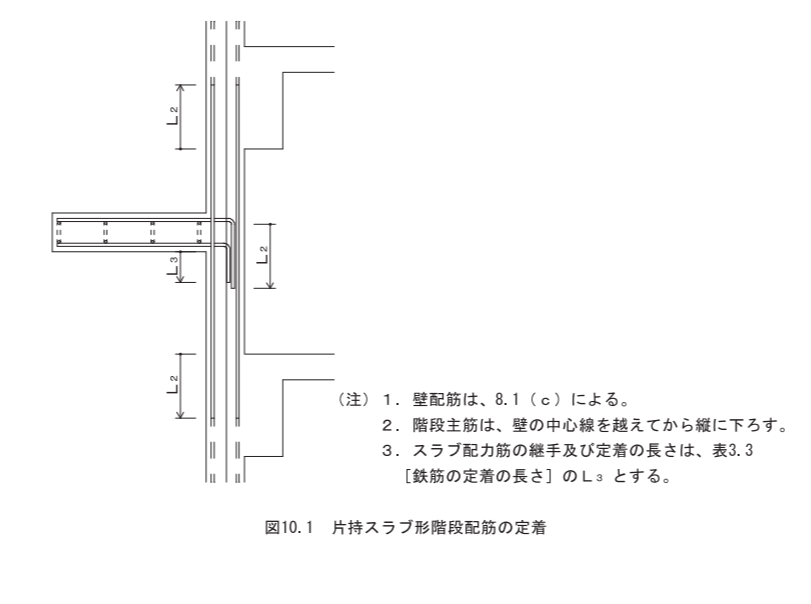


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 壁配筋は、8.1(c)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、表3.3 [鉄筋の定着の長さ]の L_2 とする。

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合は全体の接続方法は構造図による。二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-2000#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

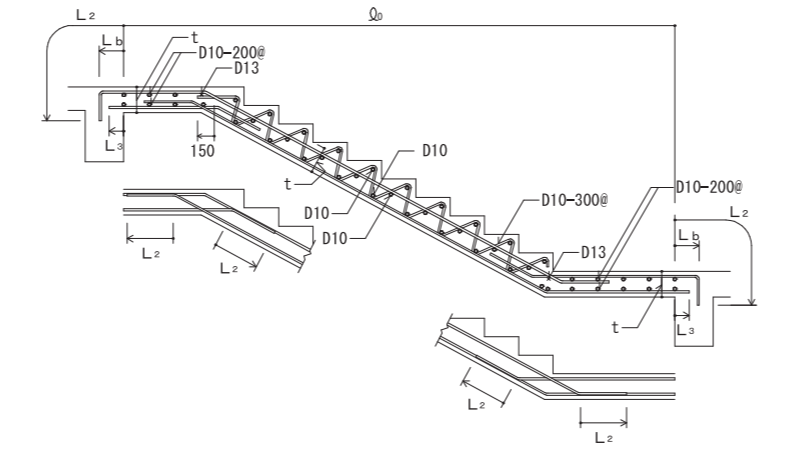


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

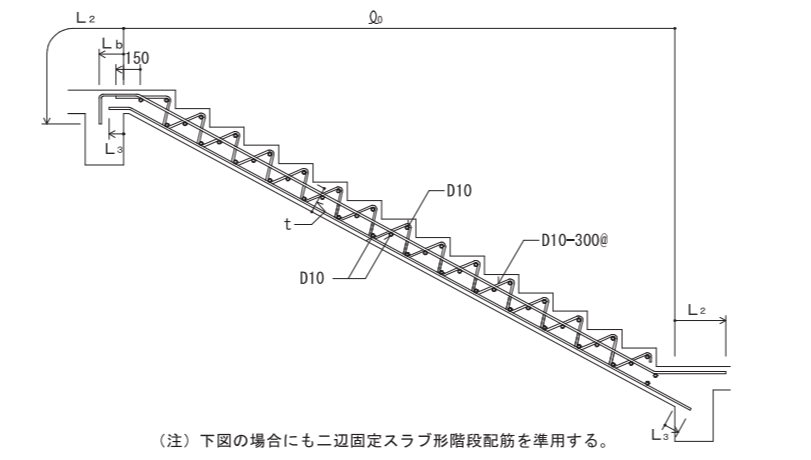


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

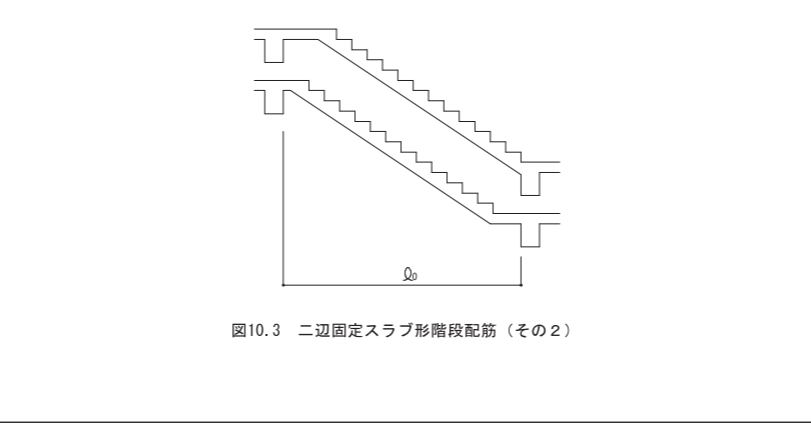


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

11.1 梁貫通孔

(a) 梁貫通孔は、次による。
(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
(2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
(3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲には孔を設けてはならない。
(4) 孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋でき、かつ、構造図に特記された場合において、補強を省略することができる。
(9) 溶接金網の余長は1倍子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

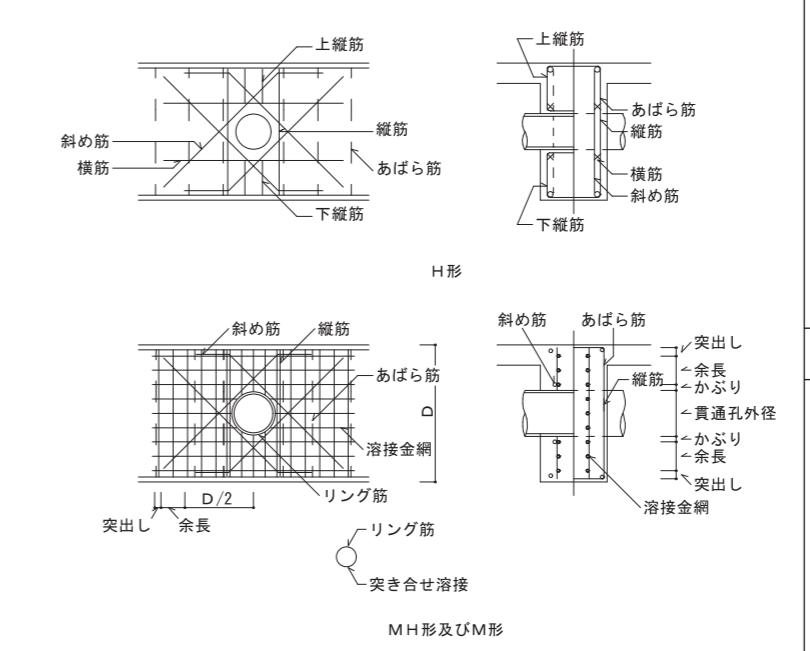


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

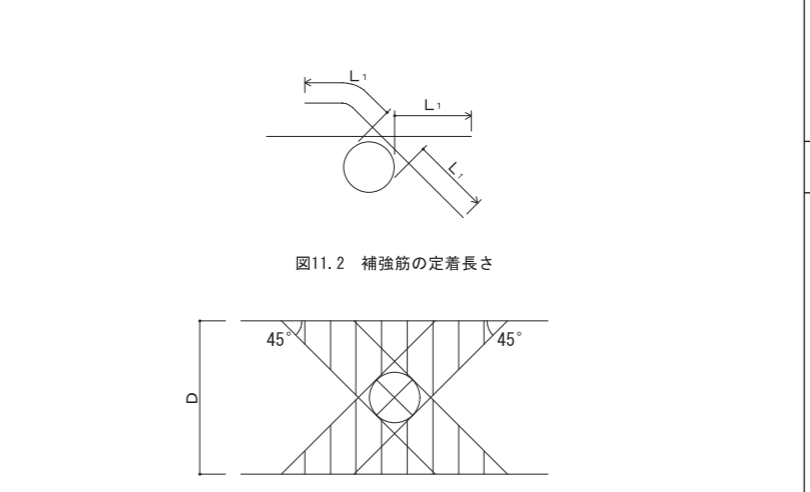


図11.2 補強筋の定着長さ

(b) 梁貫通孔の補強形式は表11.1~表11.3により、配筋種別は構造図による。

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1		なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16				
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22				

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック帳壁との取合い

(a) 控壁は、次による。
(1) 控壁の配置は、構造図による。
(2) 配筋は、図11.4による。

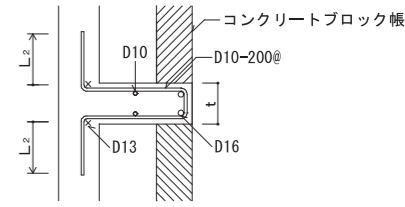


図11.4 控壁の配筋 (水平、垂直とも)

(b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

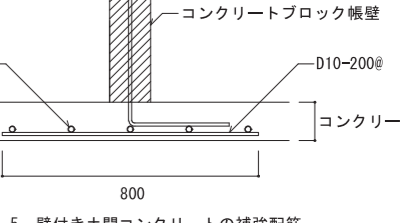


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 パラベット

パラベットの配筋は図11.6による。

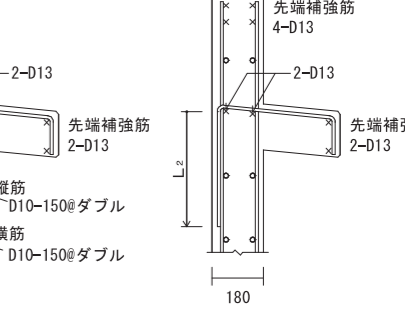


図11.6 パラベットの配筋

11.4 メッシュ型枠

(1) 使用箇所
使用部位は、基礎・地中梁及び関連する柱部分とする (見えがかりで、仕上げのない部分及びビット部分は除く)
(2) 材料及び構造
・メッシュ材質 鋼板: JIS G3302、板厚0.5mm以上、めっき80kg/m²以上
・鉄用パイプ材質 JIS G8305、直径2.5mm以上、厚さ1.2mm以上
・締付材はボルト式又は巻線式とし、付属材料は監督職員の承諾を受ける
(3) 組立て
・組立て用パイプの立て込み間隔は300mm以下とする
・組立ては製造所の施工要領書に従う
(4) 型枠の取り外し
・型枠用メッシュの取付期間は標準仕様書6.8.4により、型枠用メッシュは取り外さない
(5) 鉄筋の最小かぶり厚さ
表4.1による
ただし、地中梁・柱は設計寸法に10mmを加える



壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
 d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 D…部材の成 R…直径
 @…間隔 r…半径 e…中心線 Lo…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ
 ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S.HOOP…補強帯筋 φ…直径

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まひ角度θはスラブ・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

鉄筋は、SD295A、SD295B、SD345密帯筋。
 折曲げ内法寸法Rは、D16以上は、3d以上、D19以上は4d以上

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲り内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295 SD345	D16以下	3d以上
	上記以外の鉄筋	SD295 SD345	D16以下	4d以上
			D19~D25	6d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

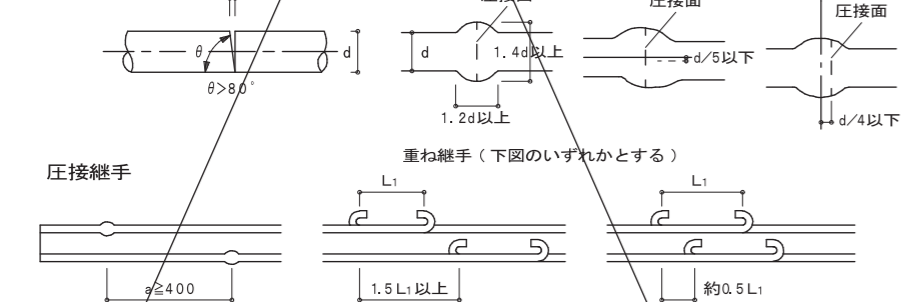
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L ₁)
		一般(L ₂)	下ば筋(L ₃) 小・梁 スラブ	
SD295	21・22.5・24	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm止	40d または 30d フックつき
SD345	18	40d または 30d フックつき	15d フックつき	45d または 35d フックつき

コンクリートは普通 F_c=18N/mm² 以上24N/mm²以下、軽量 F_c=18N/mm²以上22.5N/mm²以下

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

ガス圧接形状



(4) 鉄筋のかぶり厚さ(単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ [※] ・非耐力壁	20 [※]	30 [※]
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30 [※]	40 [※]
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎なごり梁	40	50
基/礎(捨コンクリート部分を除く)	60	70

[注] ※ 耐久性上有効な仕上げがない場合は、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 ※※ 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。[8-(1)の@参照]

(5) 鉄筋のあき

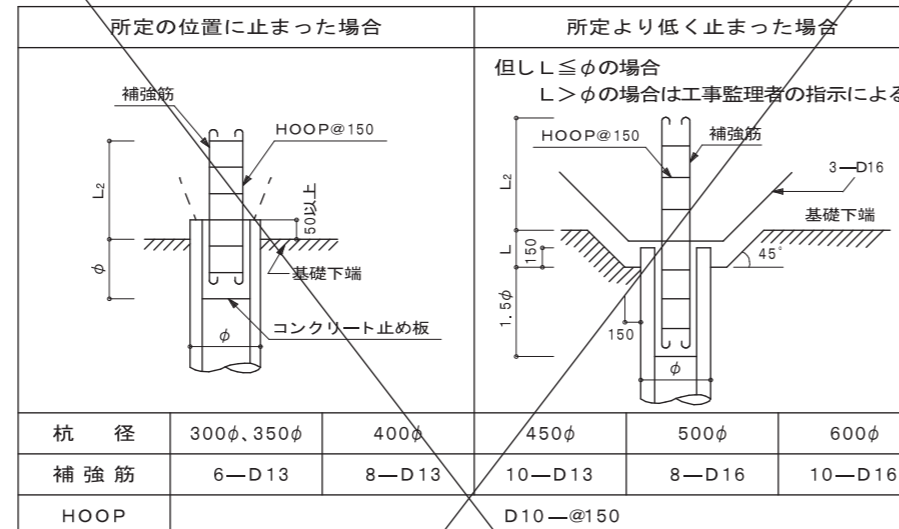
- 異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックをつける。)

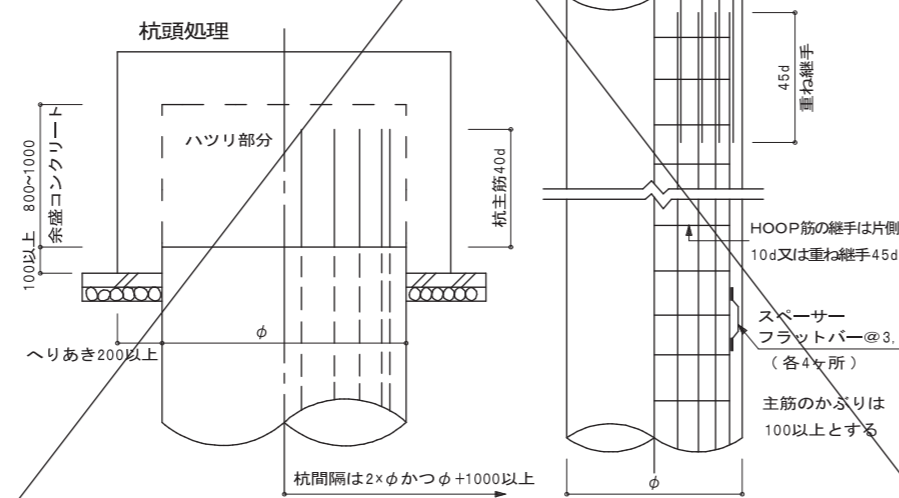
- 壁長が1m以下の壁横筋の末端
- あばら筋、帯筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁(基礎梁は除く)の出す部分の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準図に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

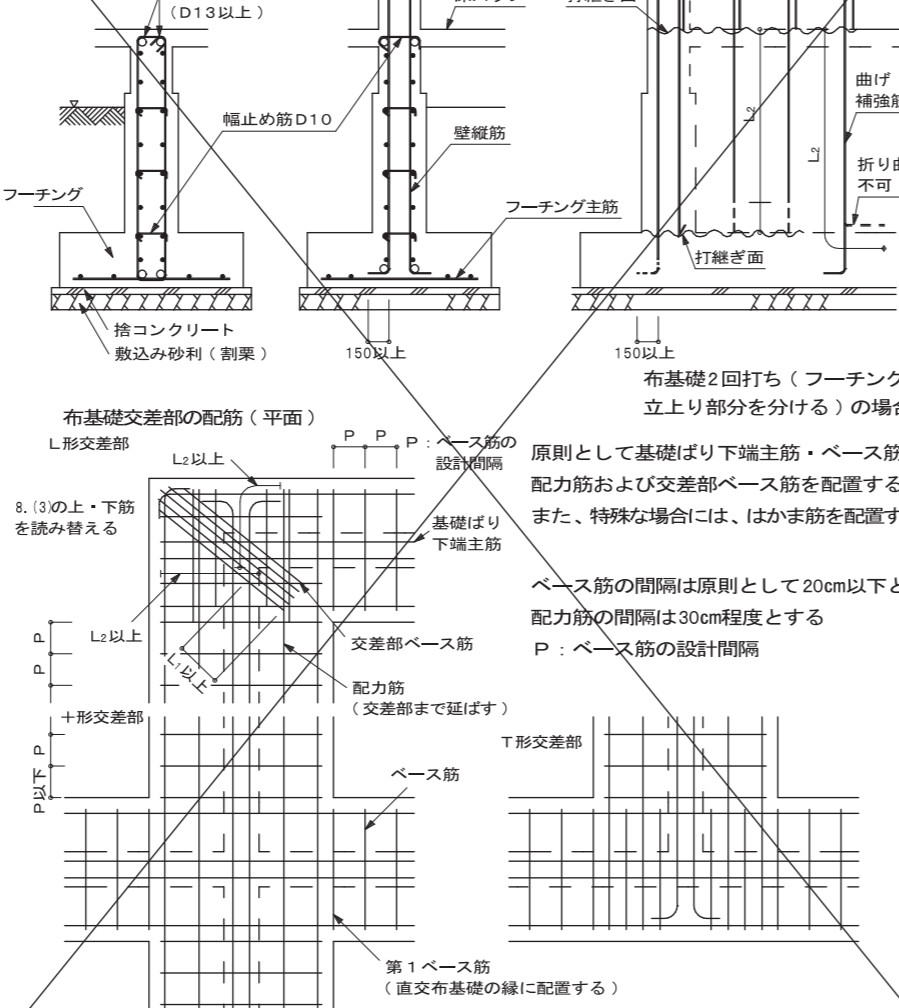


(2) 現場打ちコンクリート杭

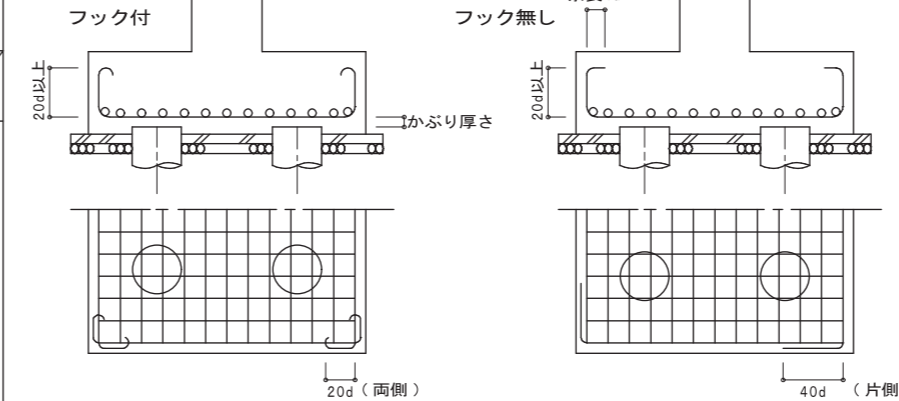


4. 基礎

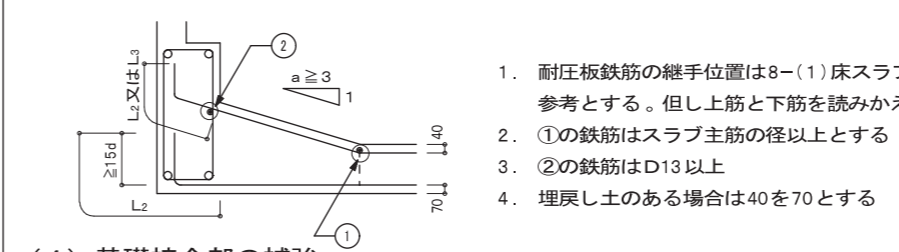
(1) 布基礎



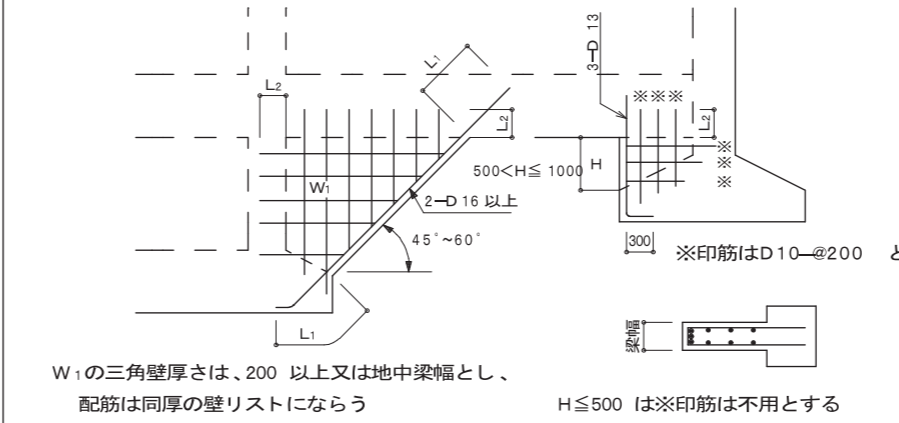
(2) 杭基礎



(3) べた基礎

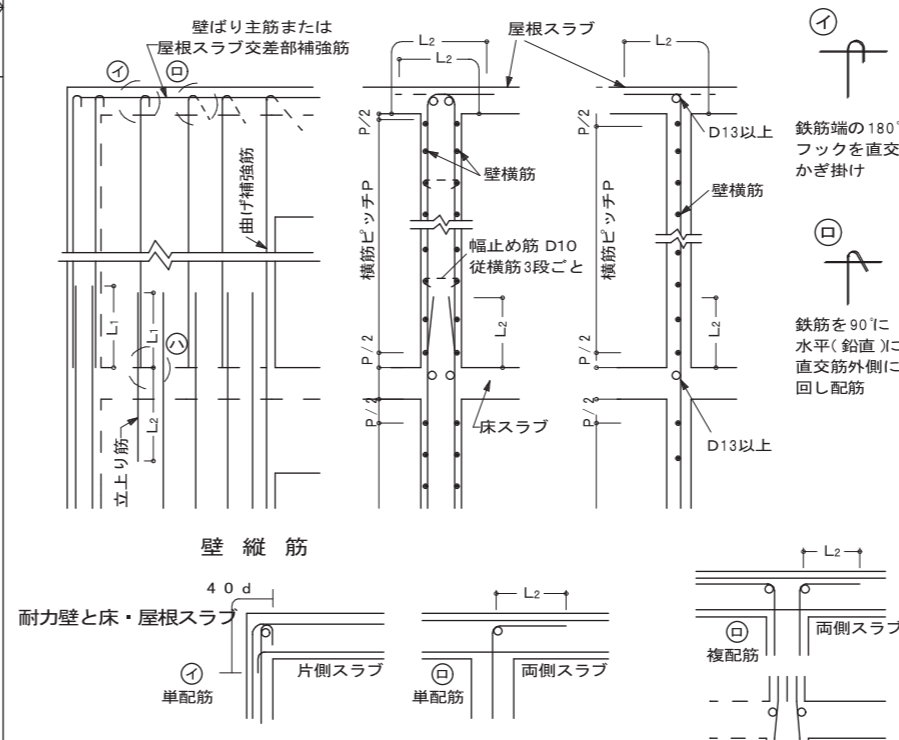


(4) 基礎接合部の補強

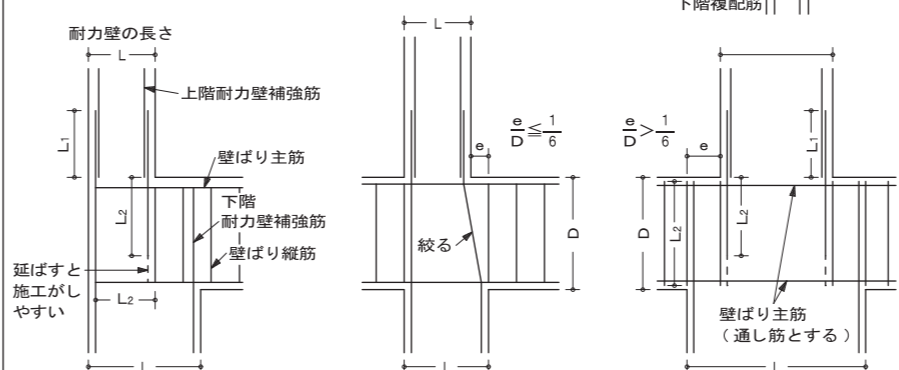


5. 耐力壁

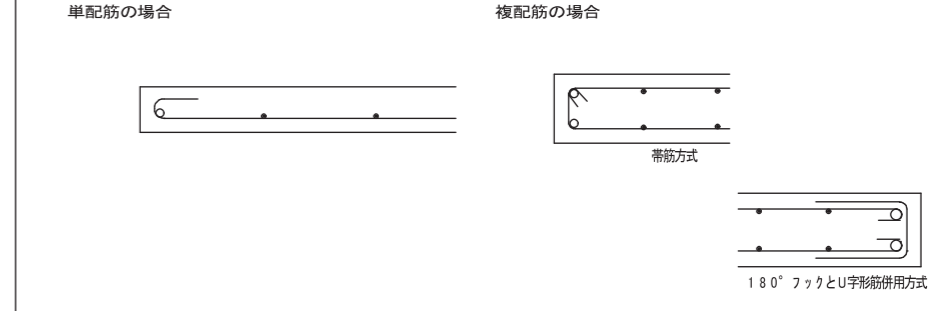
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



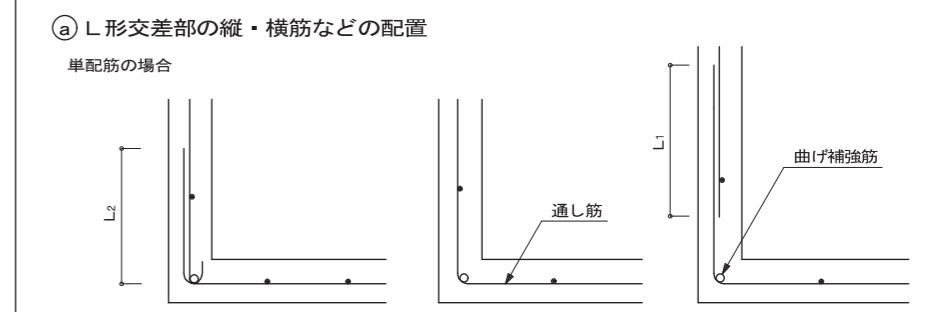
(2) 上・下階耐力壁の各種配置



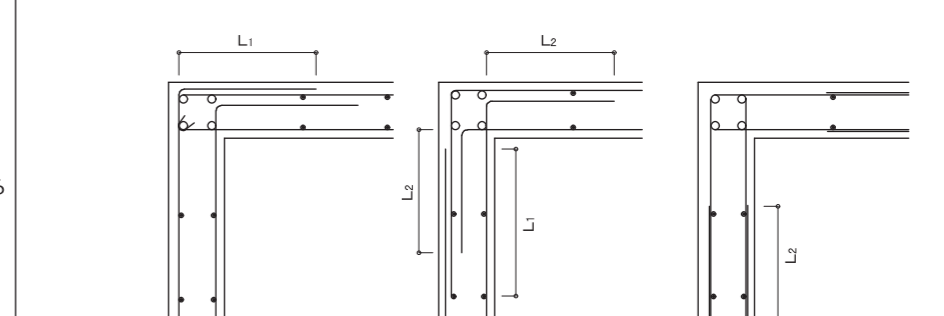
(3) 耐力壁の縦・横筋の配置



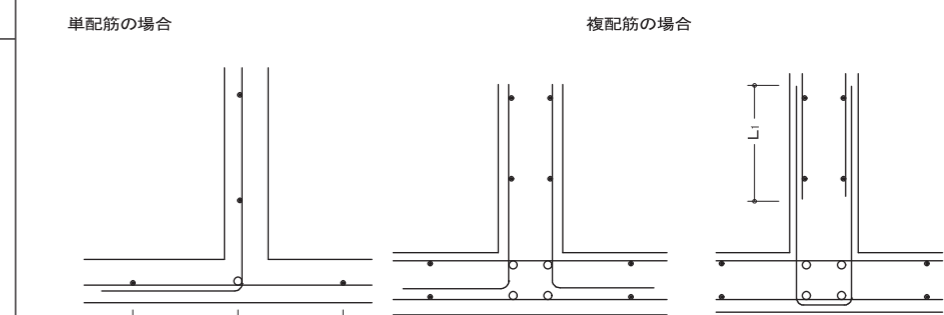
(4) 耐力壁が交差する場合(平面)



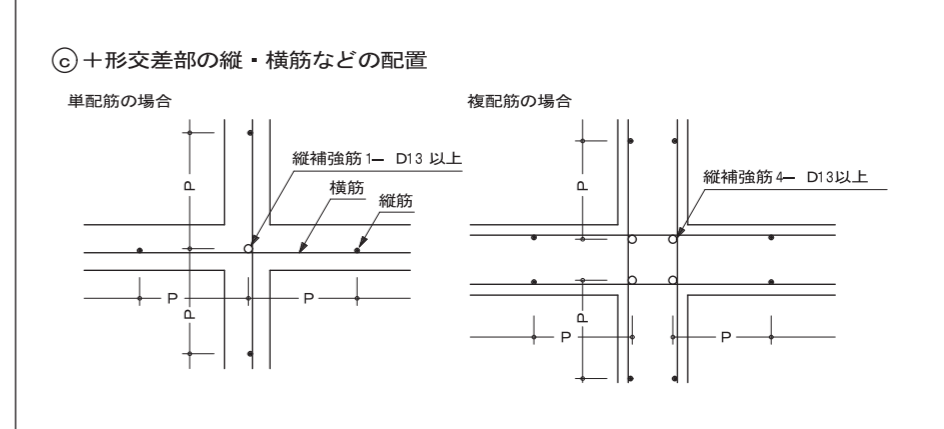
(5) T形交差部の縦・横筋の配置



(6) +形交差部の縦・横筋の配置



(7) 耐力壁の縦・横筋の配置



6. 使用可能な鉄筋の最大径(標準)

部位	耐力壁	壁がりよう小梁	布基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
構造種別	壁式鉄筋	壁式鉄筋	壁式鉄筋	壁式鉄筋	壁式鉄筋	壁式鉄筋
コンクリート造	D22	D22	D25	D16	D16	D16

その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名

壁式構造配筋標準図(1)

【新築(b6)実火訓練棟】

作図

長谷川

承認

常

承認

山

承認

山

図面番号

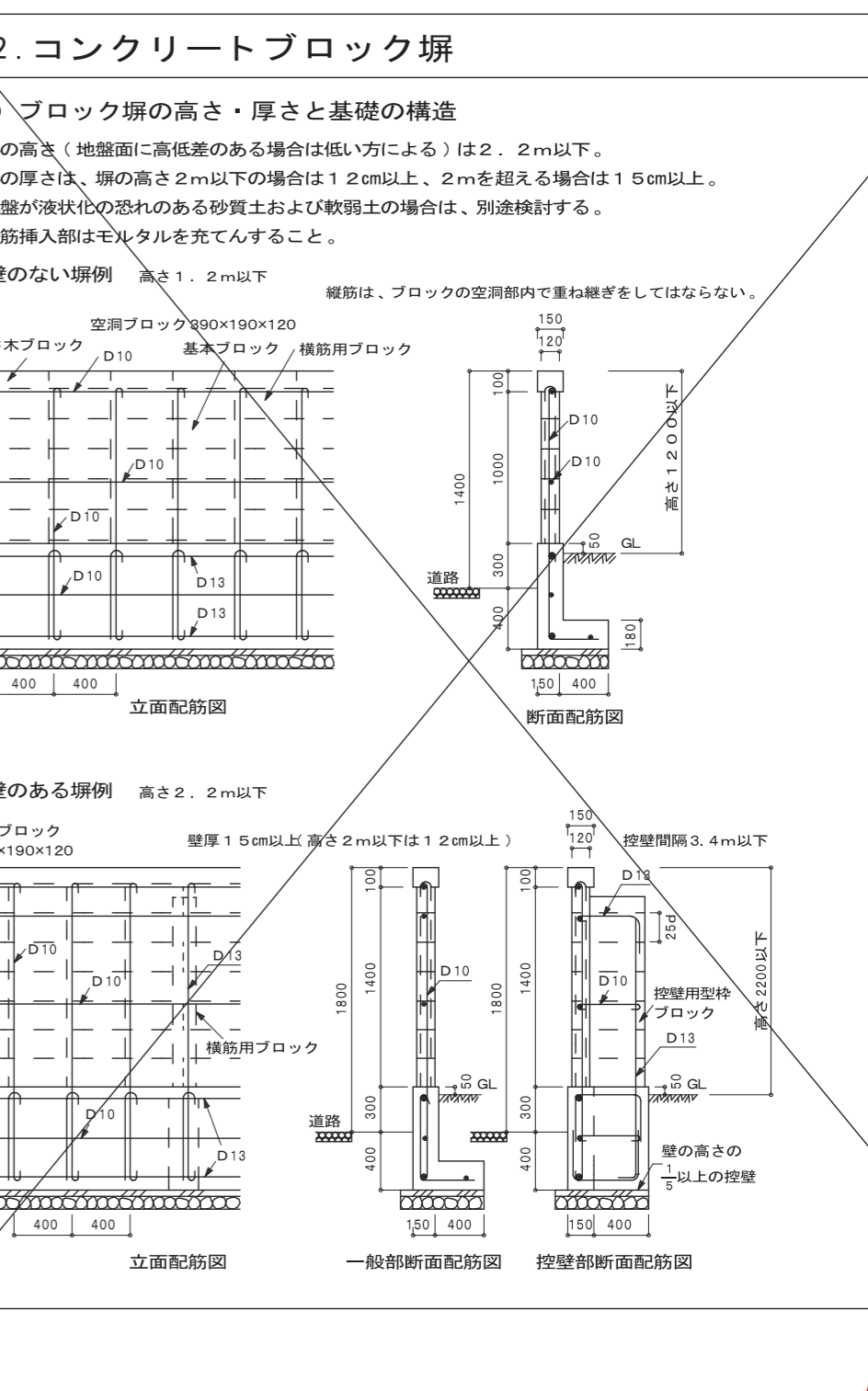
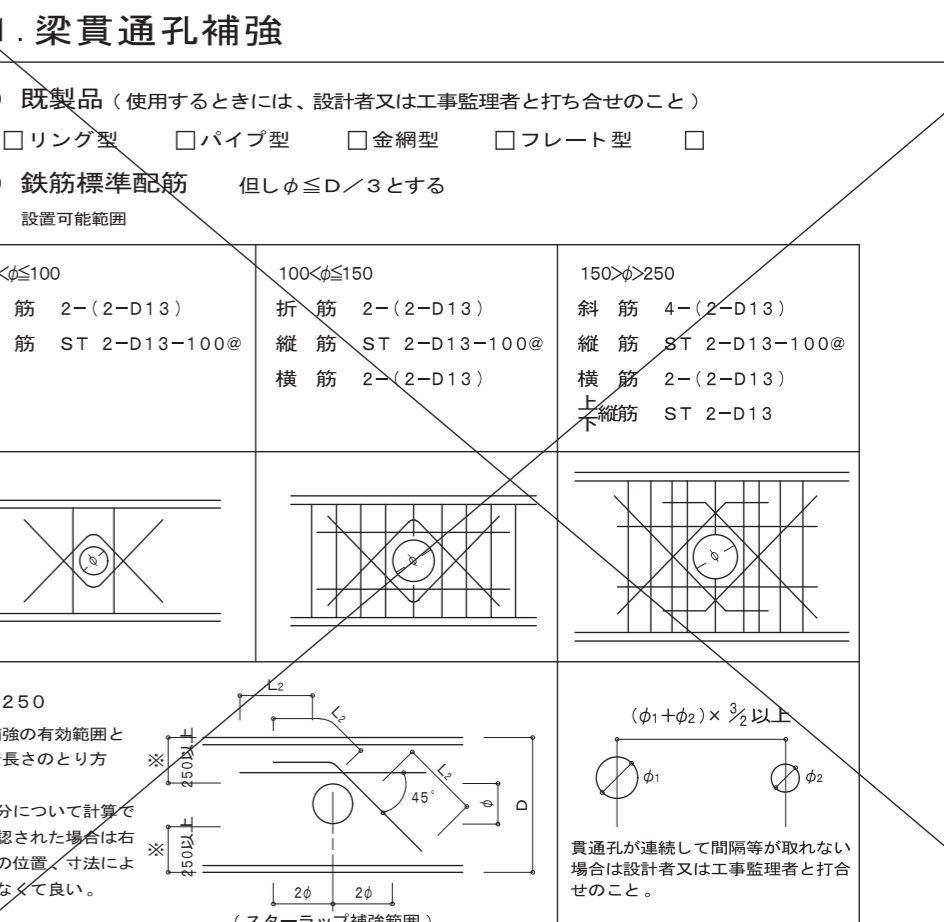
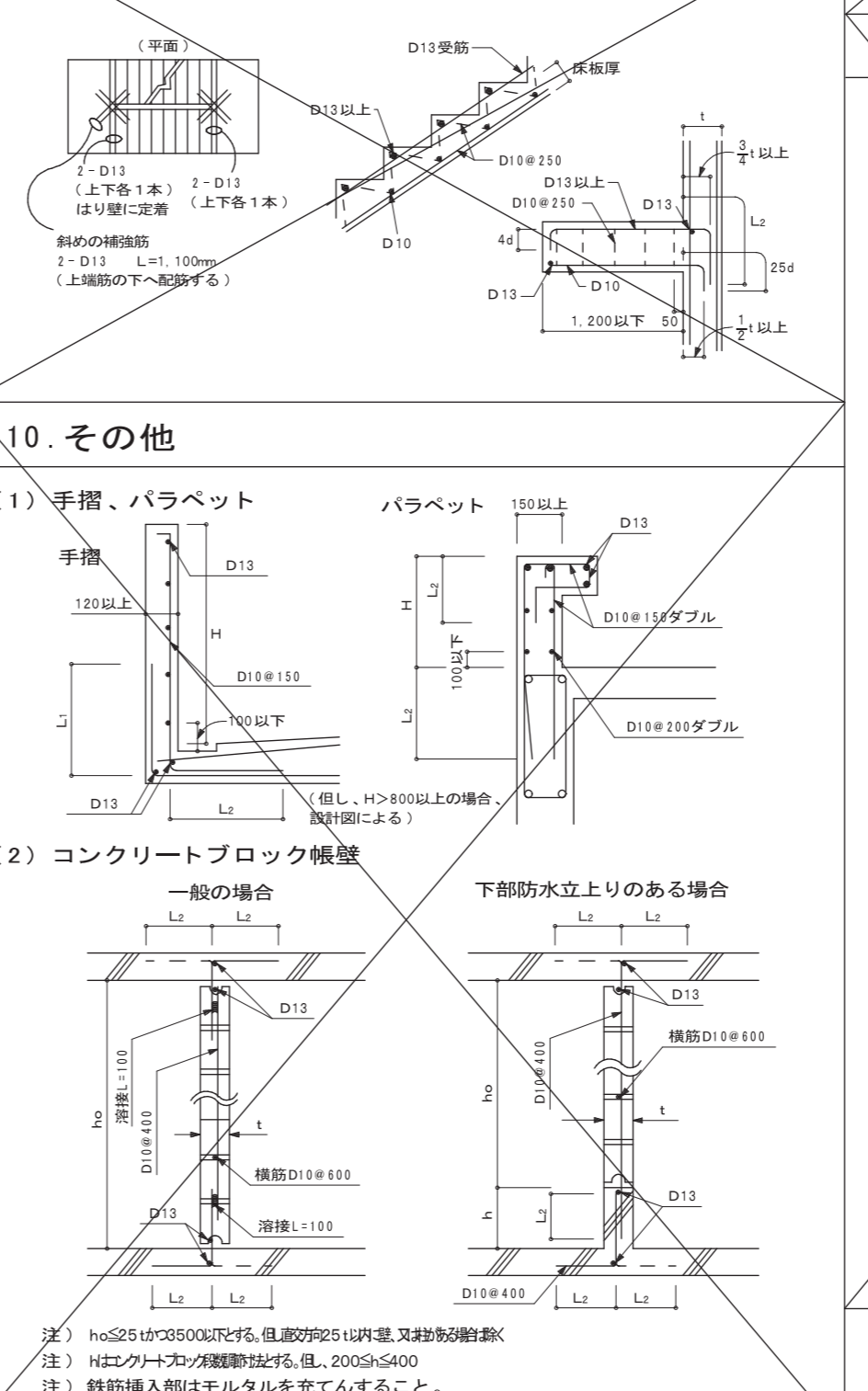
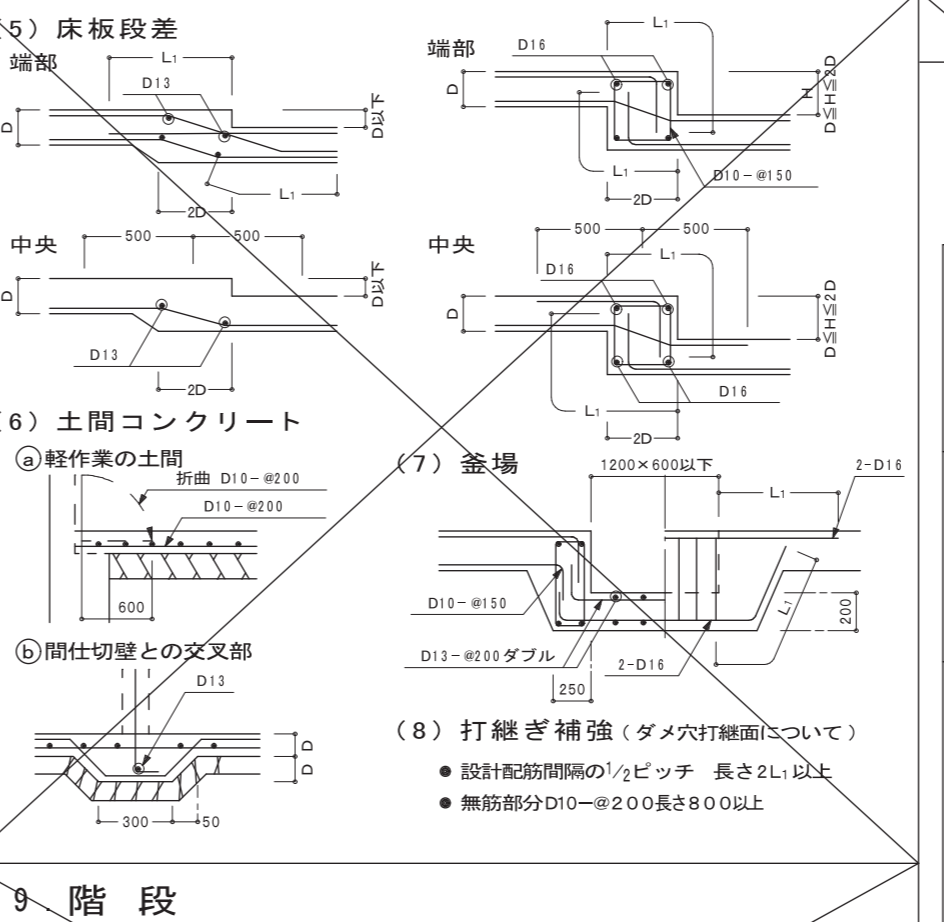
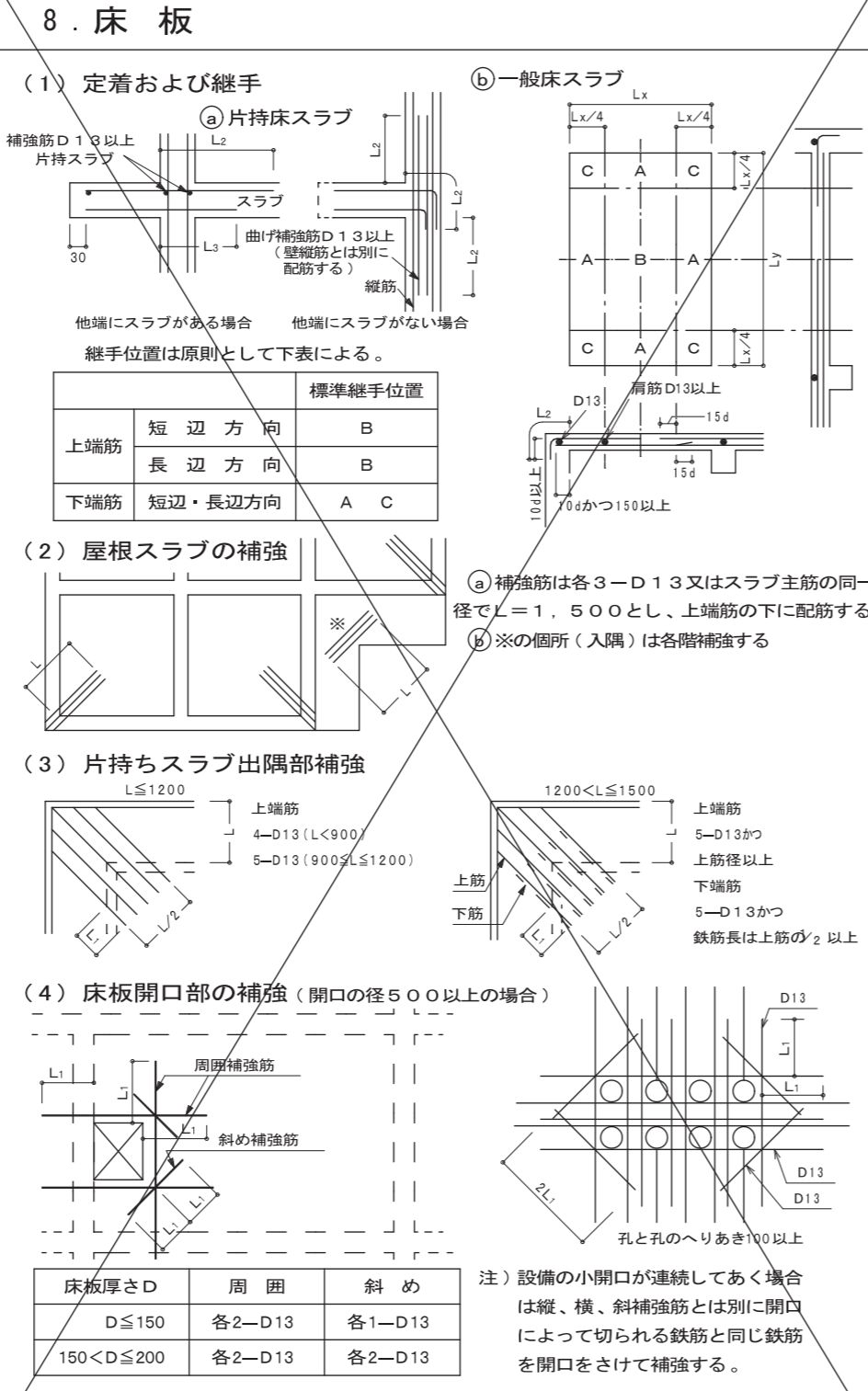
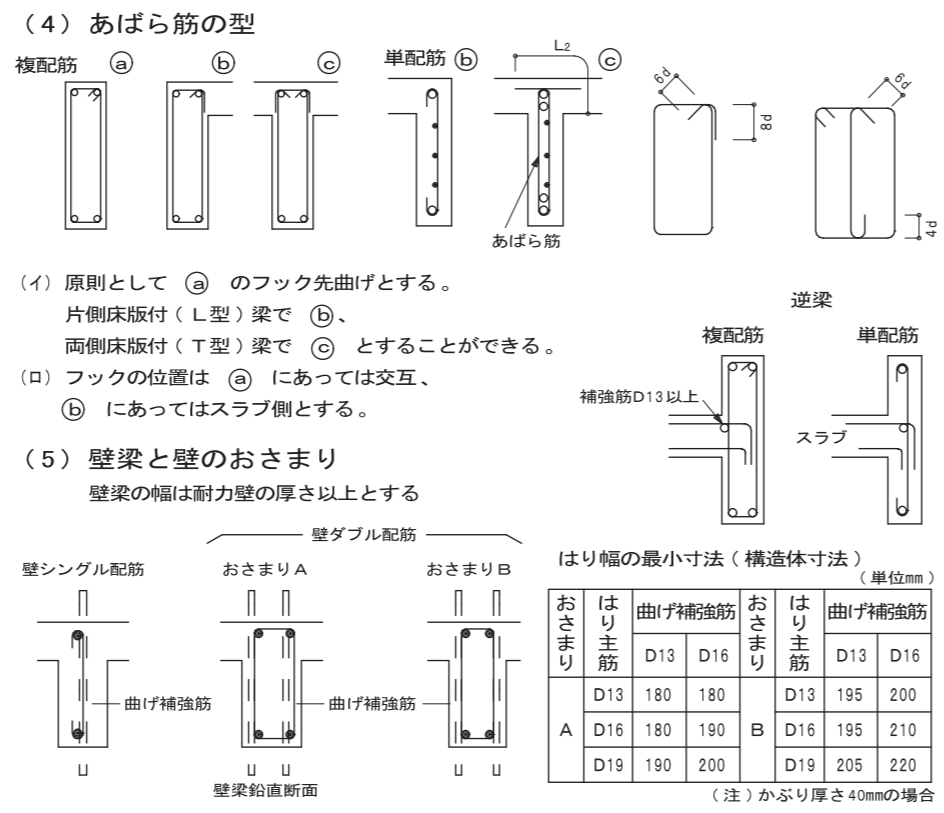
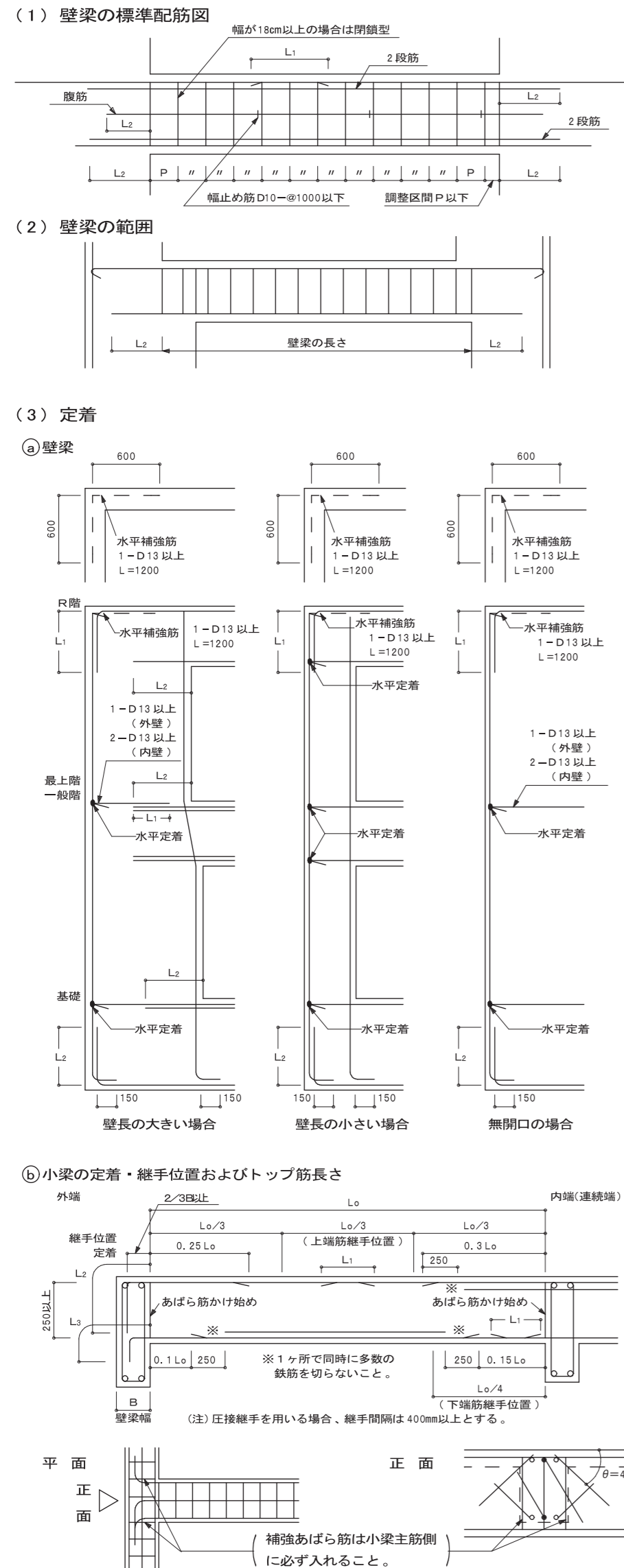
S-05

令和7年3月 - 日

鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部営繕課

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

7. 壁梁、小梁



その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号
 〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
 TEL0859-30-0100
 一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹
 FAX0859-30-0101

件名

鳥取県消防学校
 実火訓練棟建替工事

図名

壁式構造配筋標準図(2)
 【新築(b6)実火訓練棟】

作図

承認

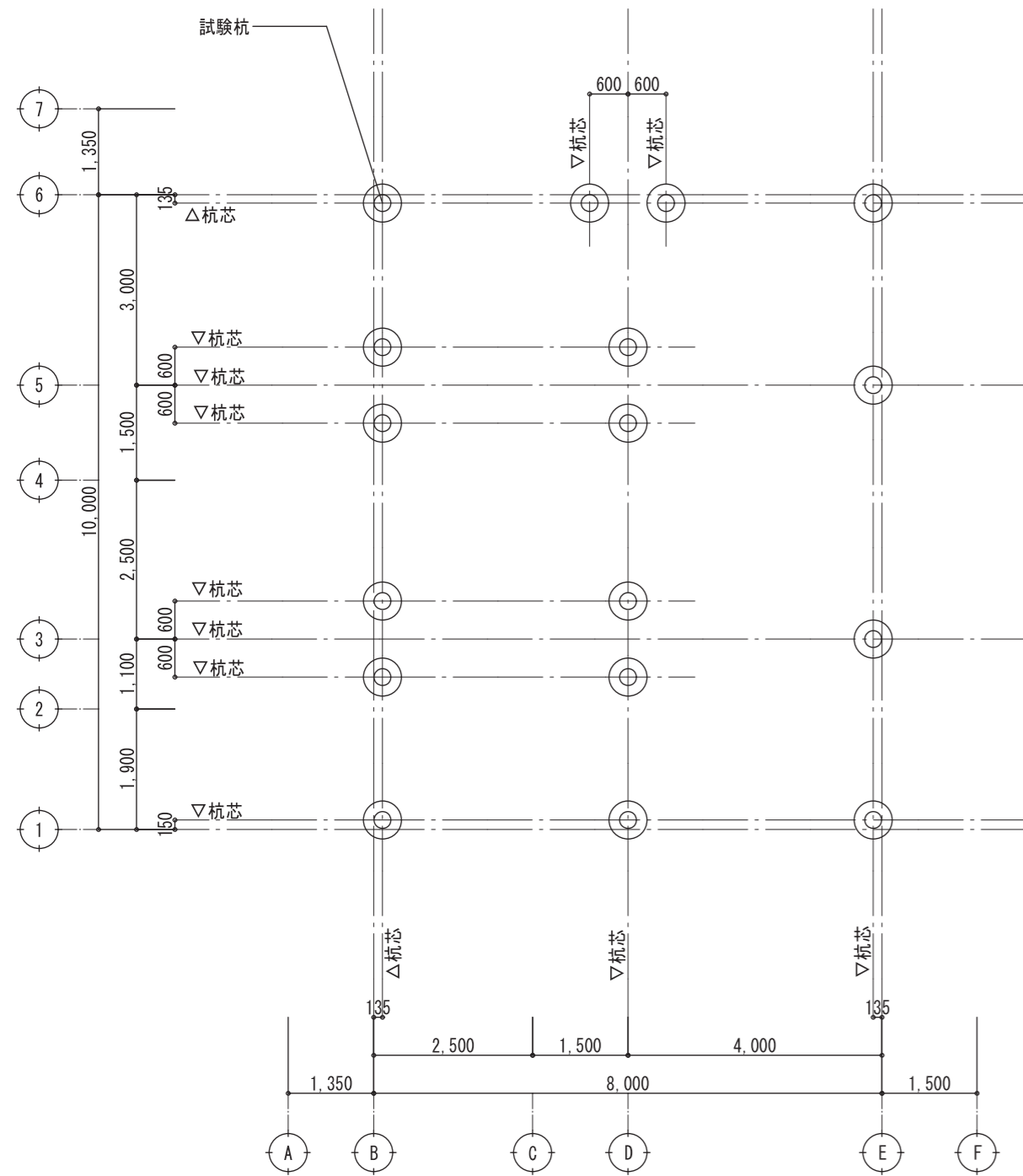
図番

S-06
 令和7年3月-日

鳥取県
 令和6年度
 J2400101
 総務部営繕課

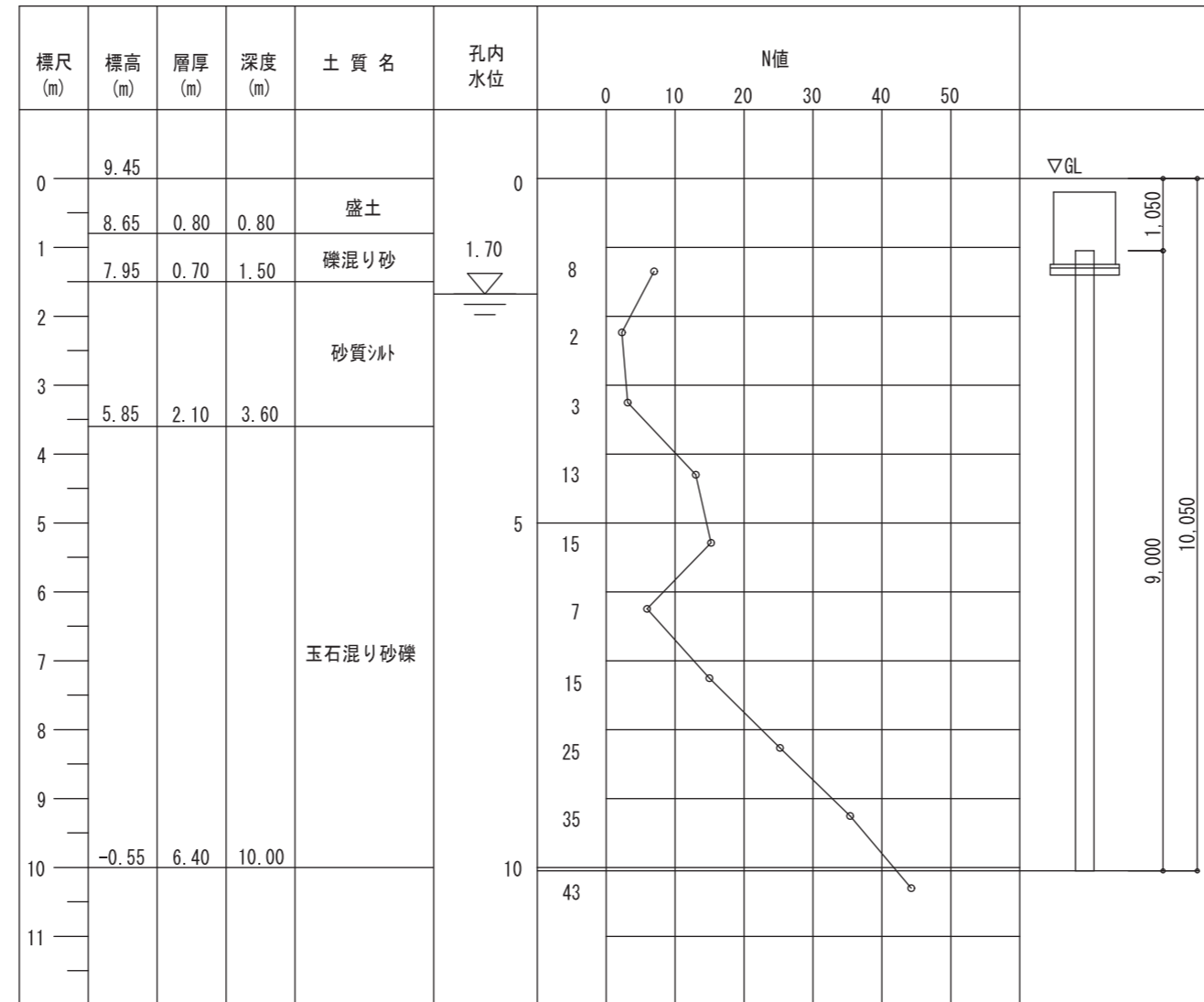
杭伏図

Scale
1:100



共通事項
 杭天端はGL-1,050mm 杭先端はGL-10,050mm
 杭は全てP1(17セット) 支持層 砂礫 N値=35以上
 杭の偏芯は100mmまで許容する
 先行掘削を行う

土質柱状図 (BP-1)

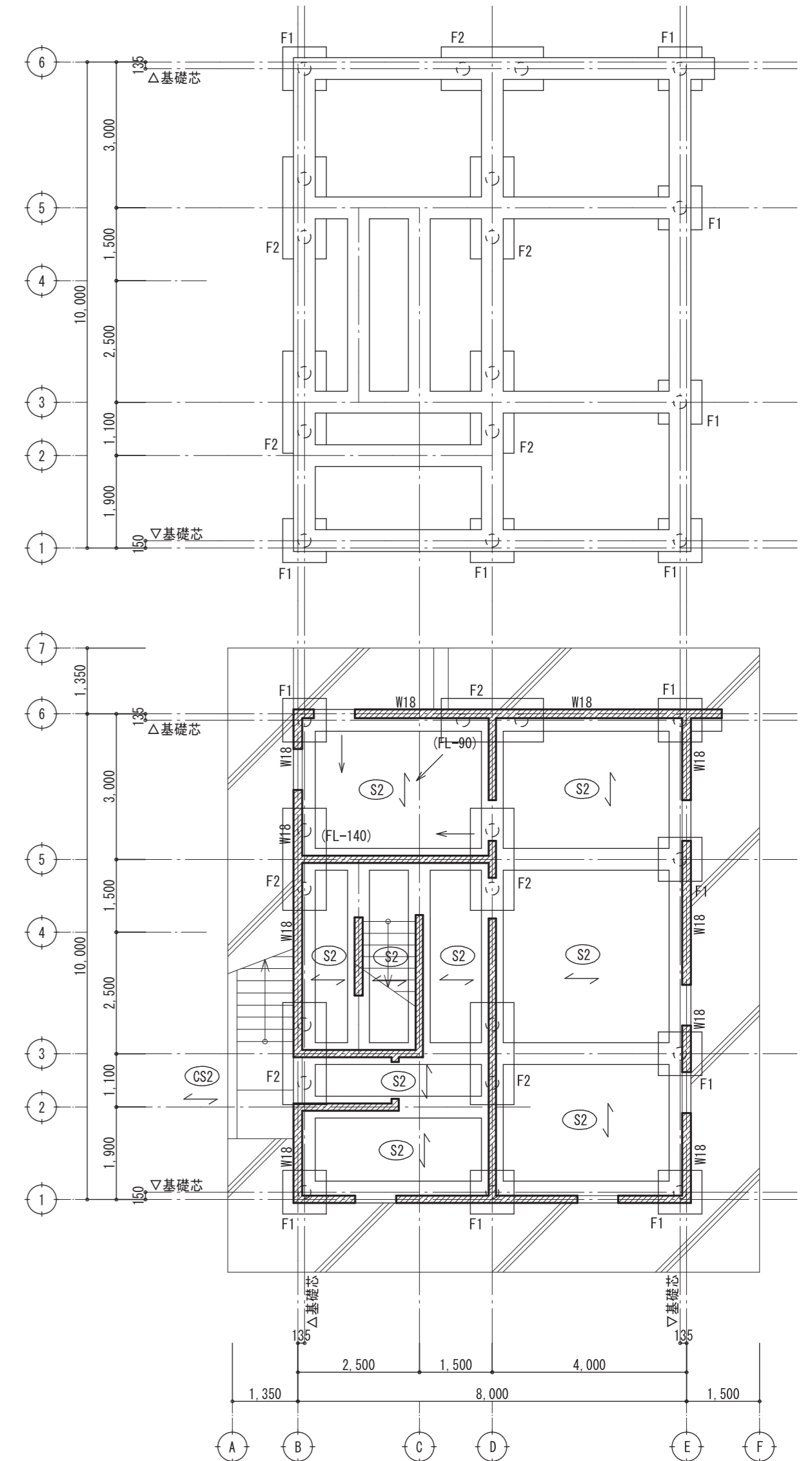


杭リスト 工法: 鋼管杭回転貫入工法 ※継手は溶接継手とする

杭符号	杭記号	杭長 (m)			杭径 (mm)	羽根径 (mm)	杭種	本数 (本)	長期支持力 Ra	
		上杭	下杭	全長						
P1	◎	杭長	4.0m	5.0m	9.0m	鋼管267.4	650	[SEAH590] STKT590	17	580kN/本
		肉厚	8mm	8mm						

1階壁1階床伏図

Scale
1:100



共通事項
 RC壁を示す 特記なきはW15とする
 土間コンクリート t=150を示す
 一般部スリット天端FL±0 ()はスリット天端高さを示す
 ← 勾配方向を示す → スリット主筋方向を示す
 基礎梁はFG1とする 梁貫通孔補強はH2とする

鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部管轄課

その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号
 一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

〒683-0852
 鳥取県米子市河崎1746-17
 TEL0859-30-0100
 FAX0859-30-0101

件名
 鳥取県消防学校
 実火訓練棟建替工事

図名
 構造伏図 (1)
 【新築 (b6) 実火訓練棟】

作図



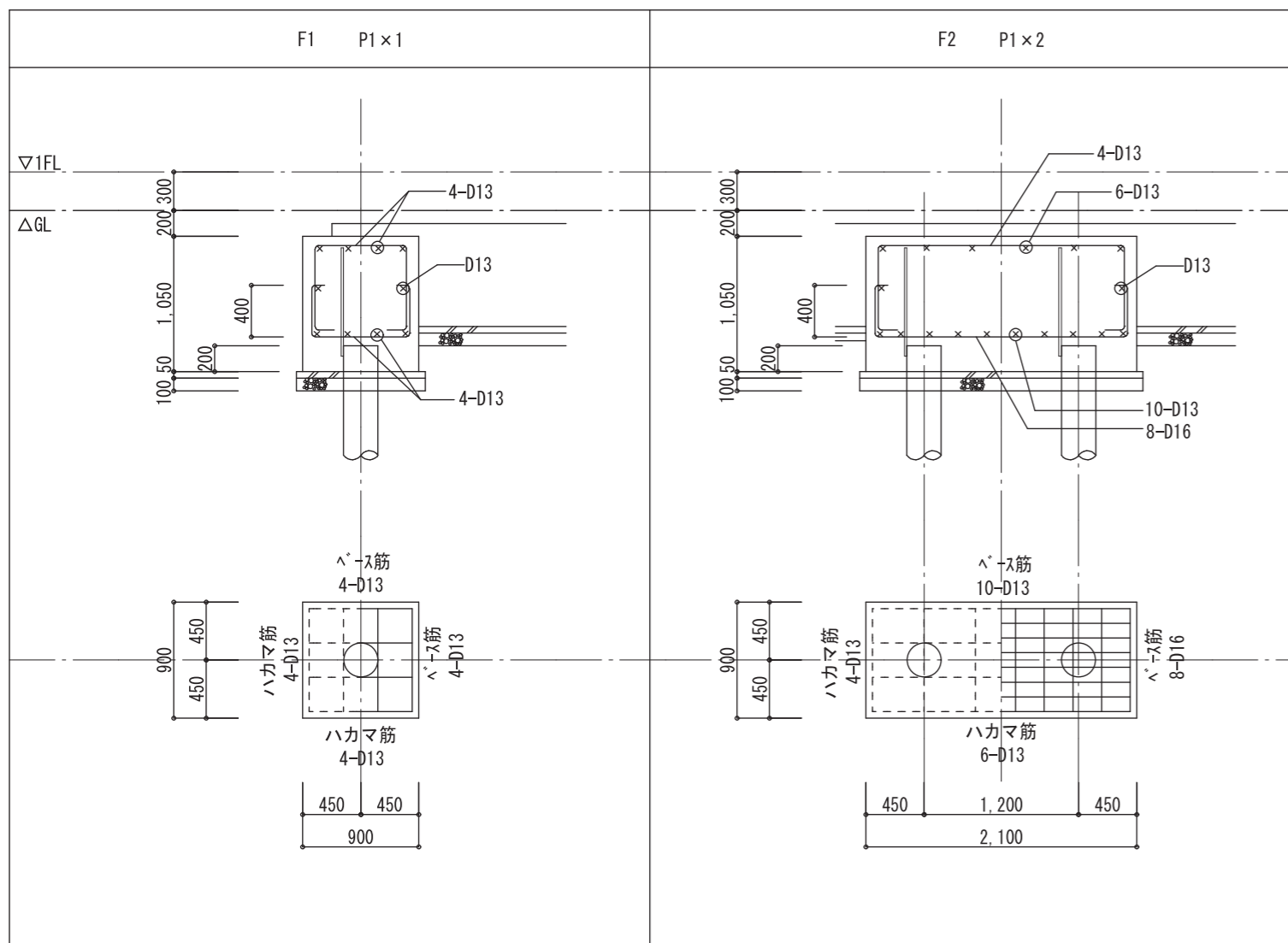
承認 承認 承認



図面番号 S-07

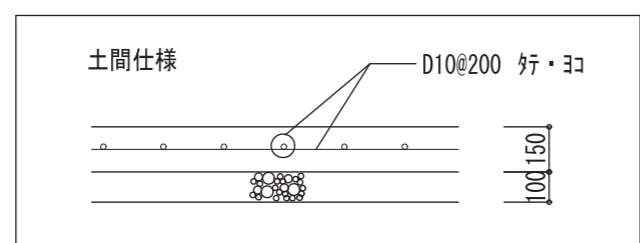
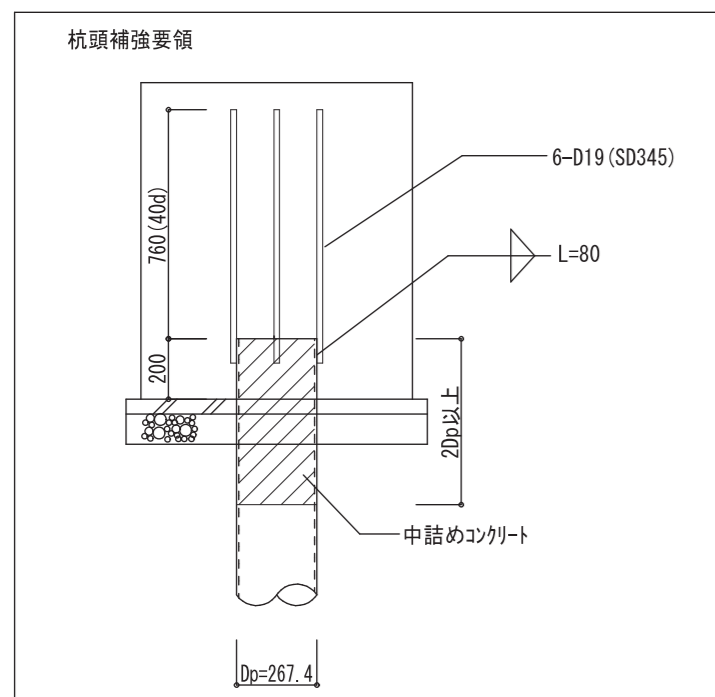
令和7年3月 - 日

基礎リスト Scale 1:50



地中梁リスト Scale 1:50

符号	FG1
位置	全断面
断面	
上端筋	3-D22
下端筋	3-D22
スラブ	□-D13@200
腹筋	2-D10
巾止め筋	1-D10@1,000



使用材料	
鉄筋	: SD345 (D19以上) SD295 (D16以下)
D19以上の鉄筋の継手は、圧接継手とする。	
コンクリート	: Fc=24N/mm ² (基礎・地中梁・壁・スラブ)



その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号
一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

【新築(b6)実火訓練棟】

図名
基礎リスト

作図



承認



承認



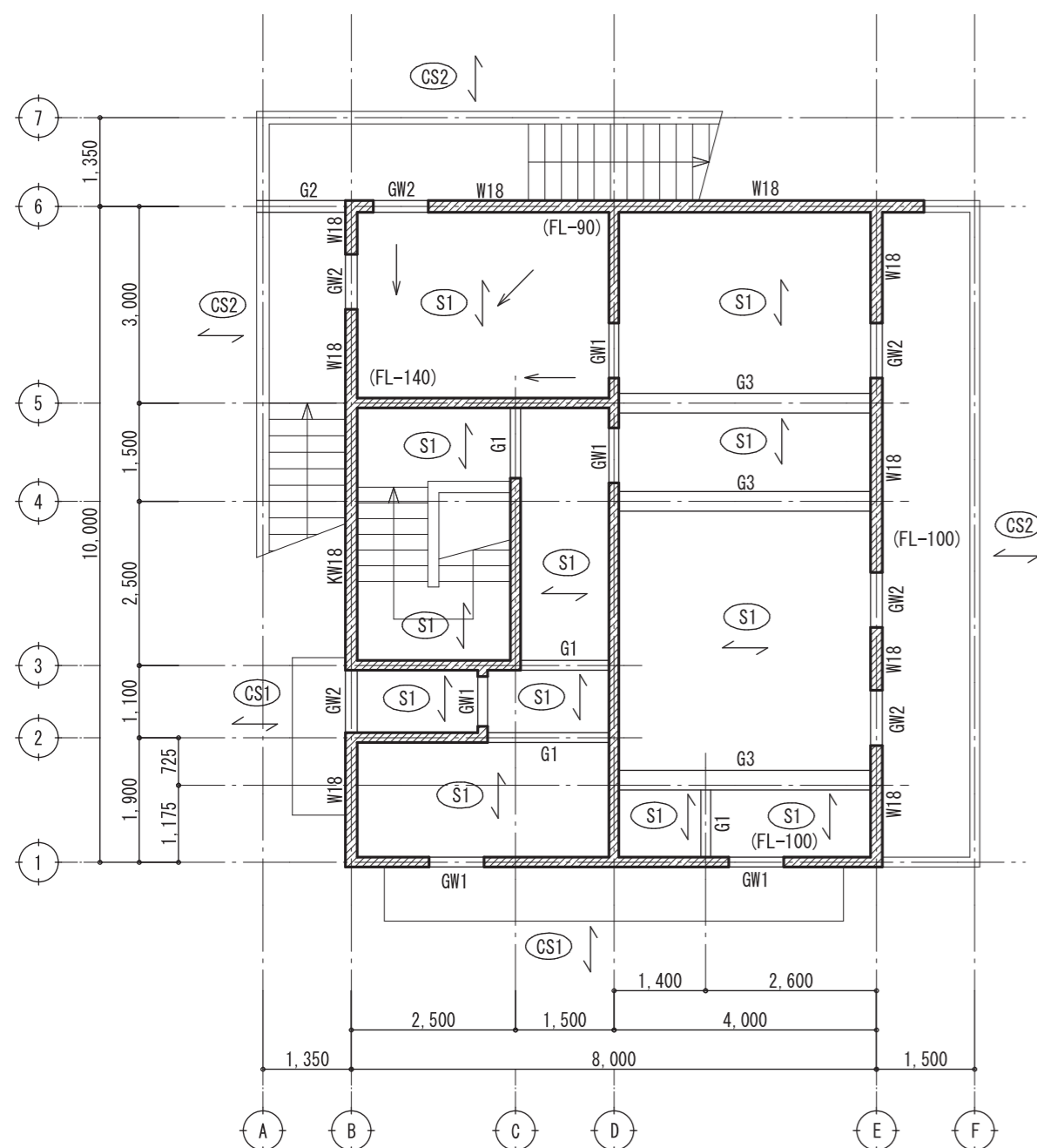
承認

図面番号 S-08

令和7年3月 - 日

1階壁2階床伏図

Scale
1:100

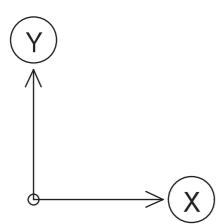


共通事項

RC壁を示す 特記なきはW15とする

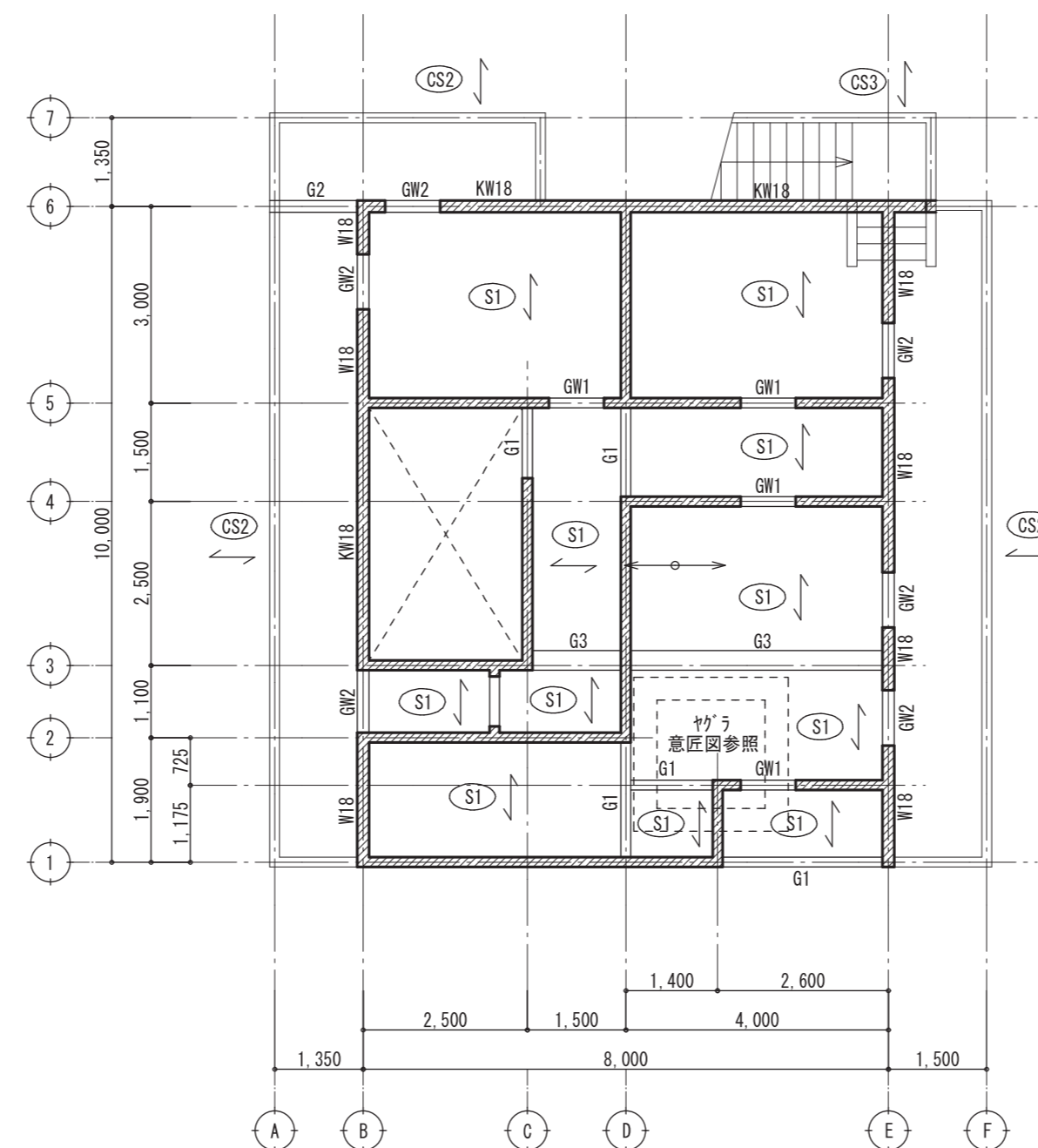
一般部スリット天端FL±0 ()はスリット天端高さを示す

← 勾配方向を示す → スリット主筋方向を示す



2階壁R階床伏図

Scale
1:100



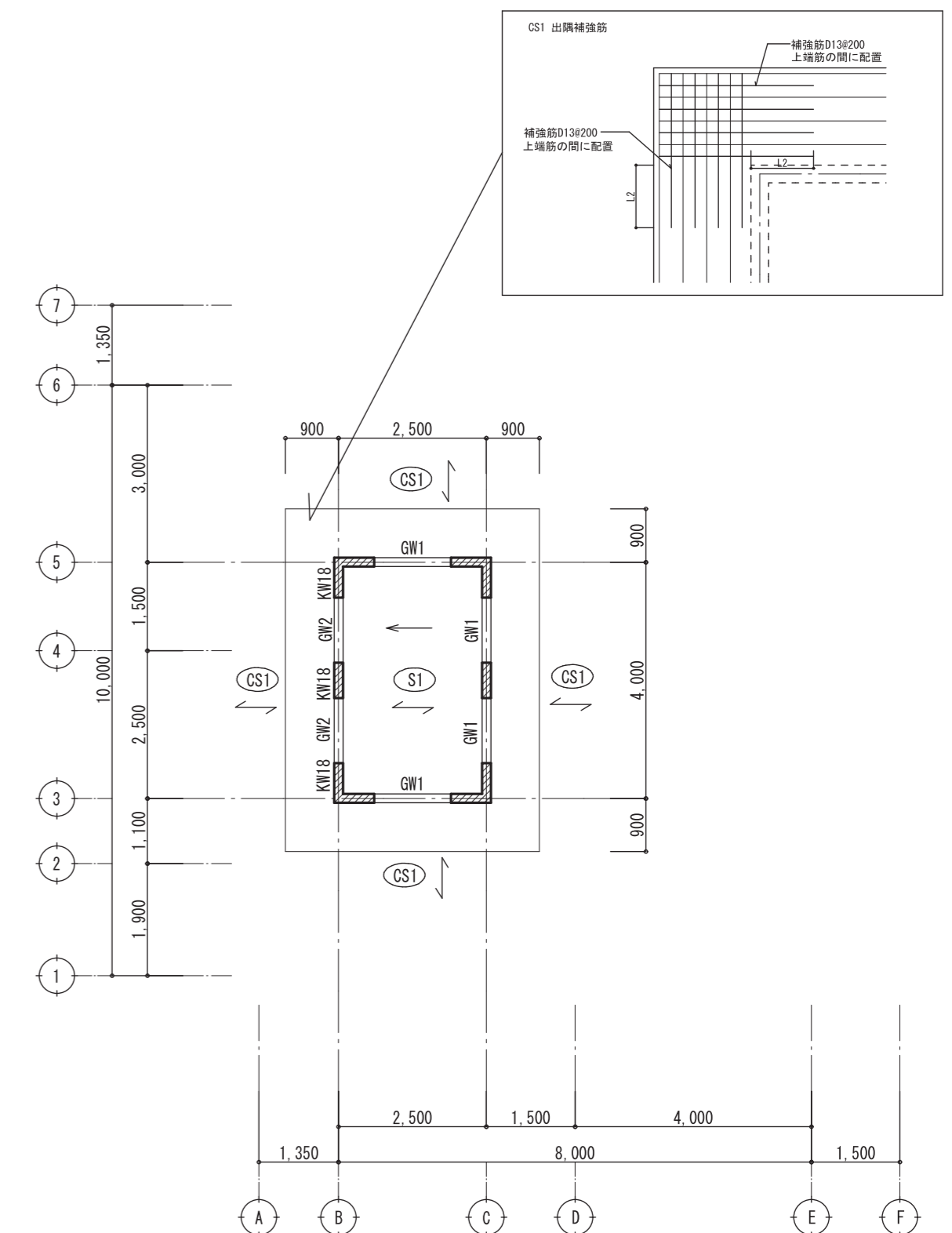
共通事項

RC壁を示す 特記なきはW15とする

← 勾配方向を示す → スリット主筋方向を示す

R階壁PH階床伏図

Scale
1:100



共通事項

RC壁を示す 特記なきはW15とする

← 勾配方向を示す → スリット主筋方向を示す

その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号
〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101
一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
構造伏図(2)
【新築(b6)実火訓練棟】

作図



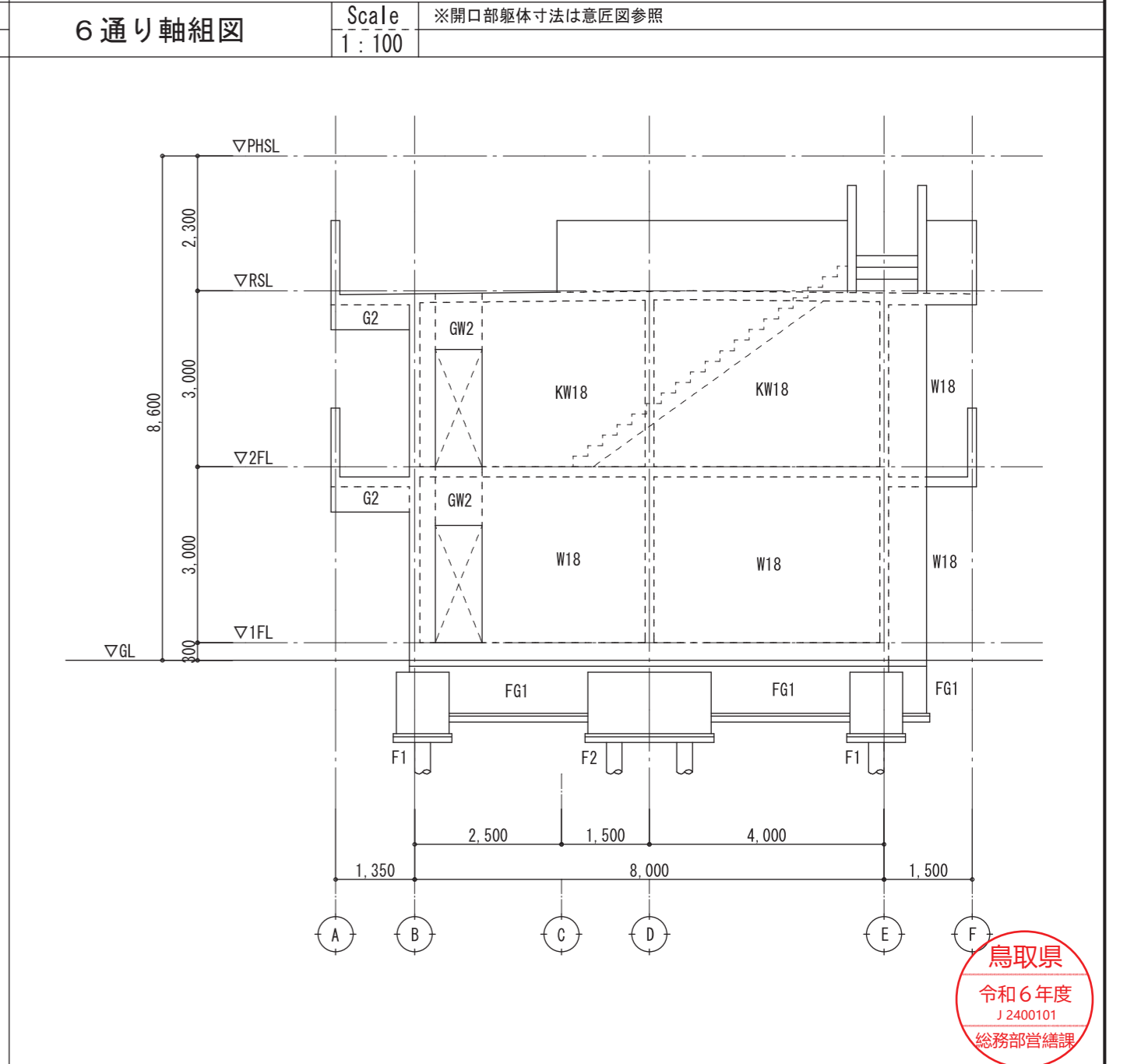
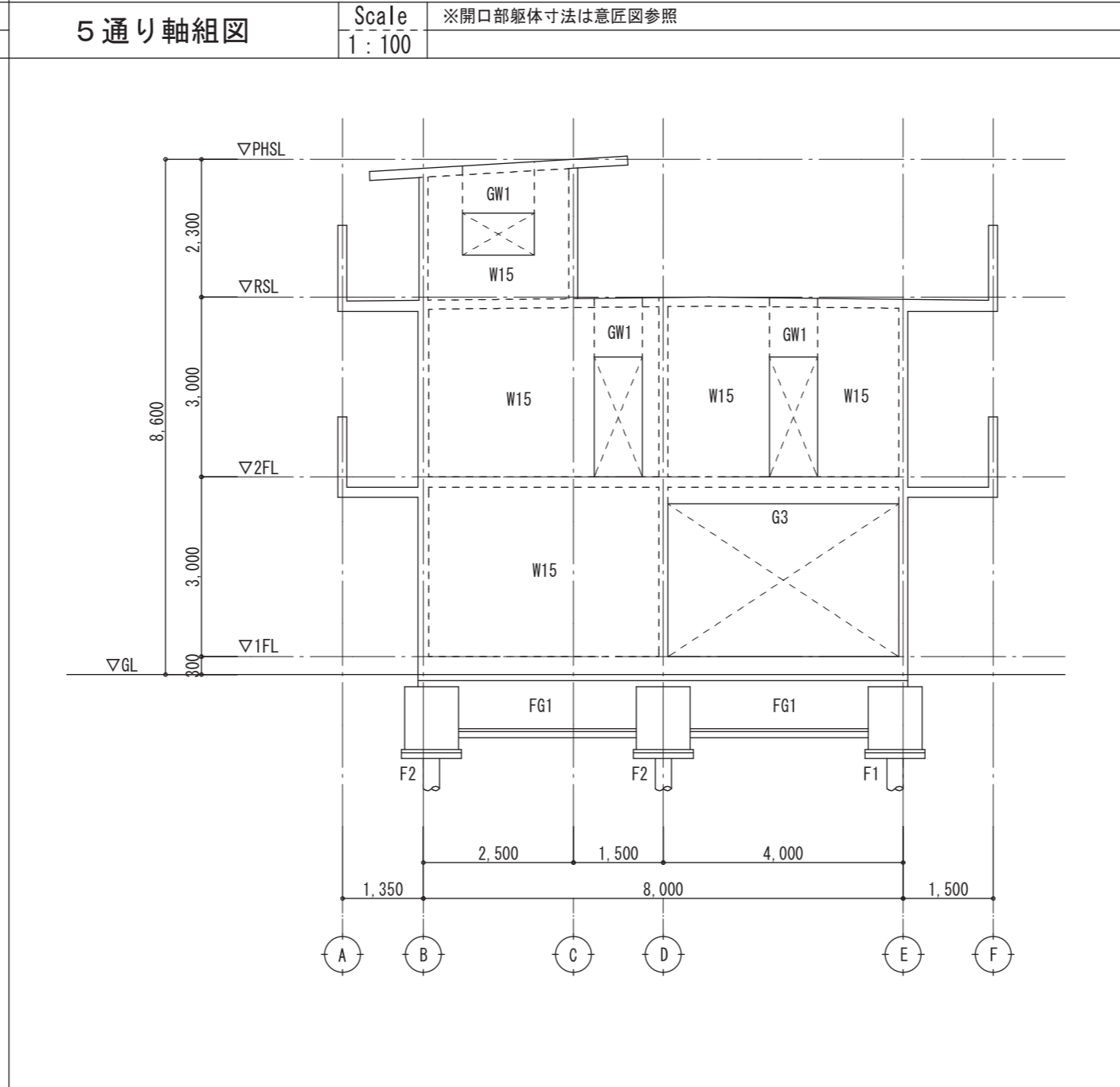
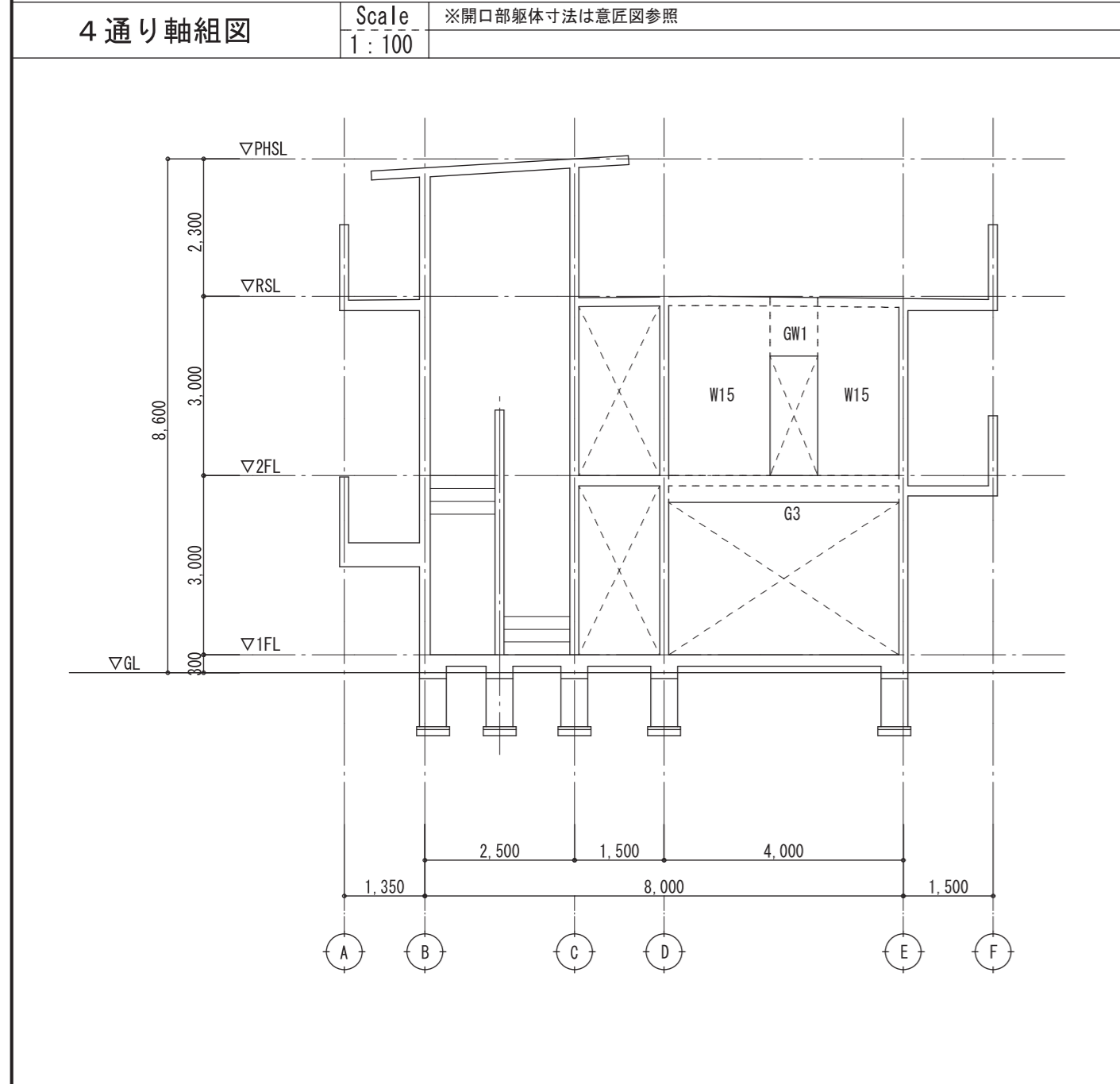
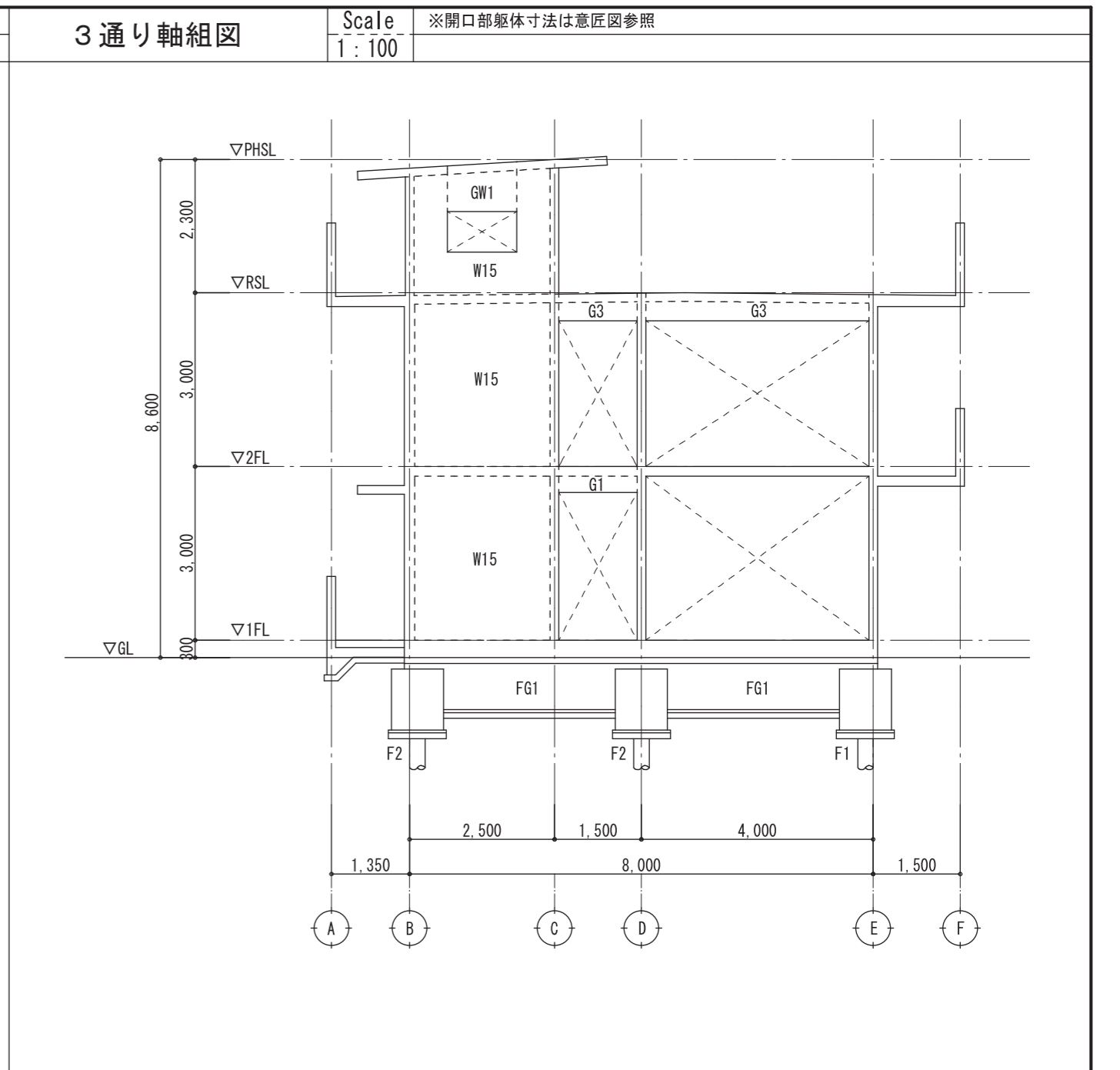
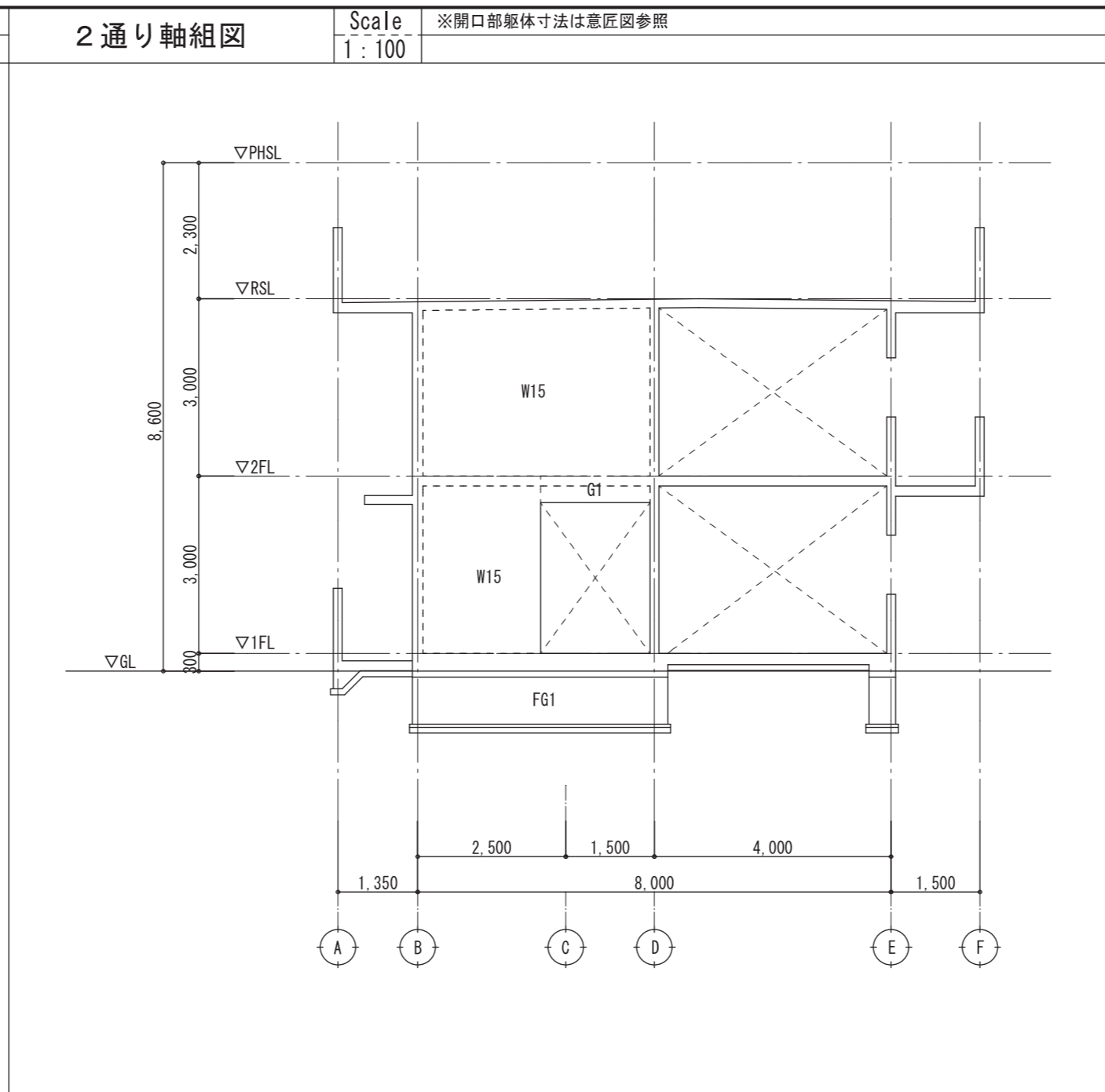
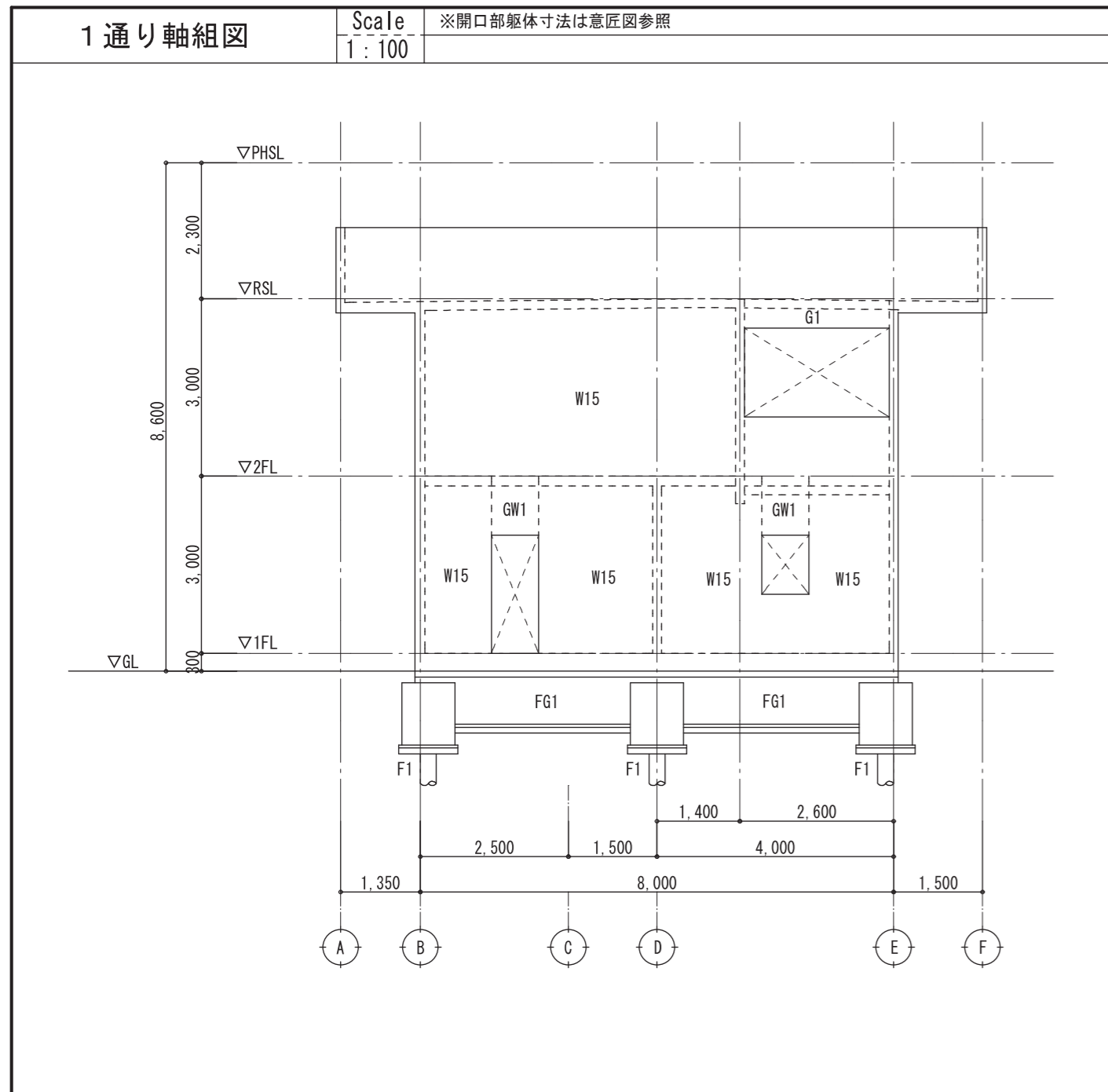
承認 承認 承認



図面番号 S-09

令和7年3月 - 日





その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101

件名 鳥取県消防学校 実火訓練棟建替工事

図名 軸組図(1)

【新築(b6)実火訓練】

作図



承認



承認

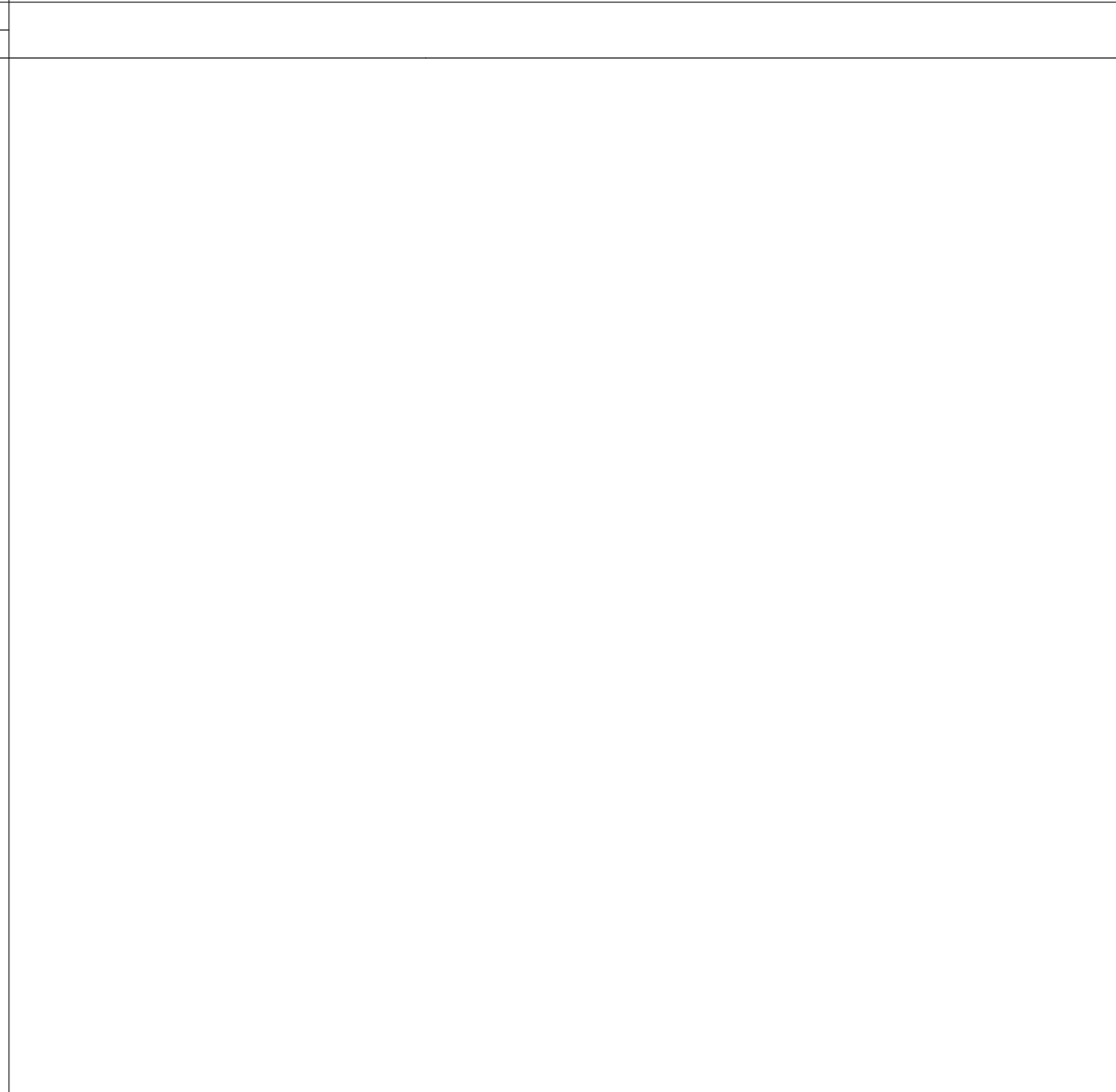
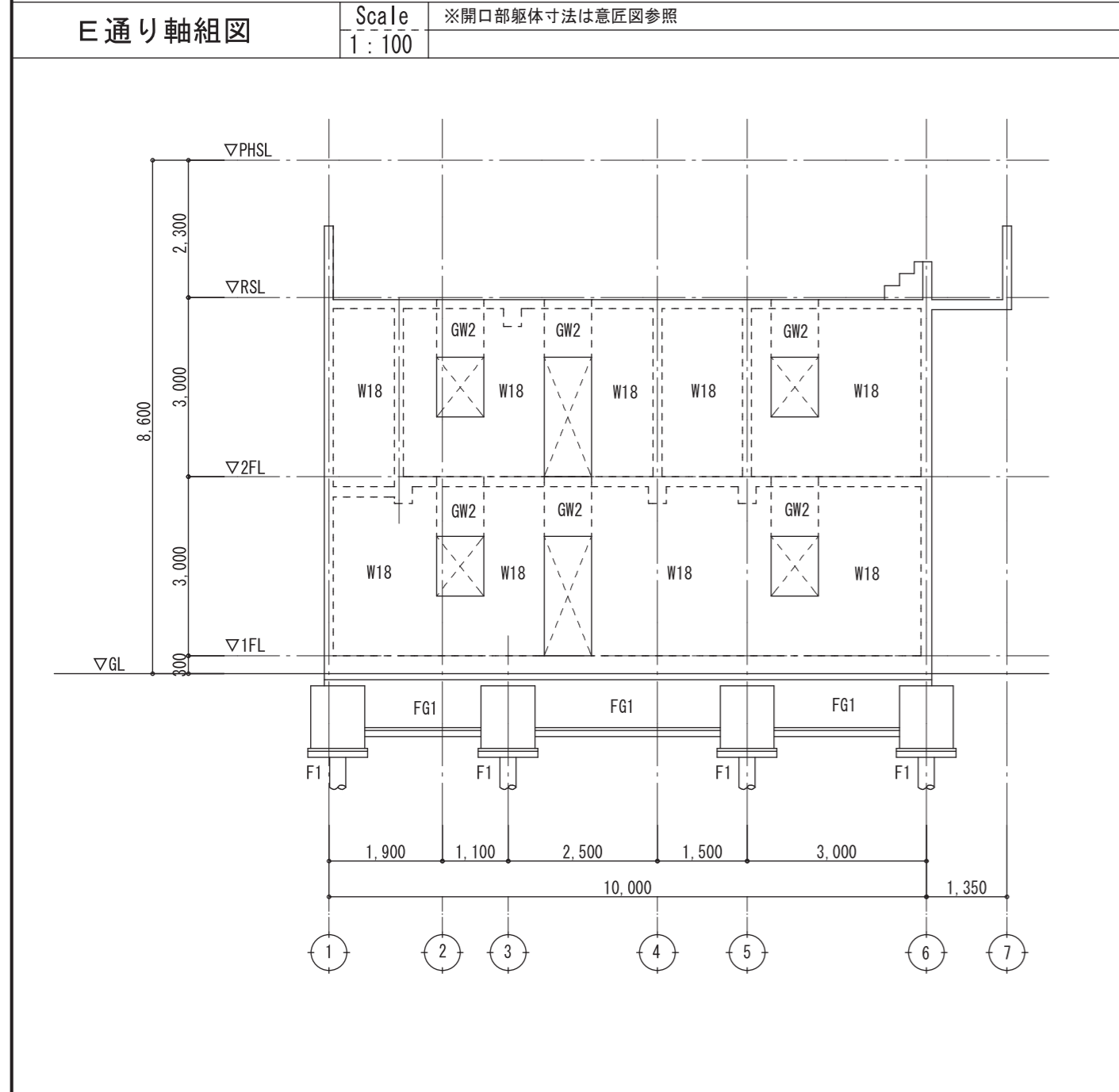
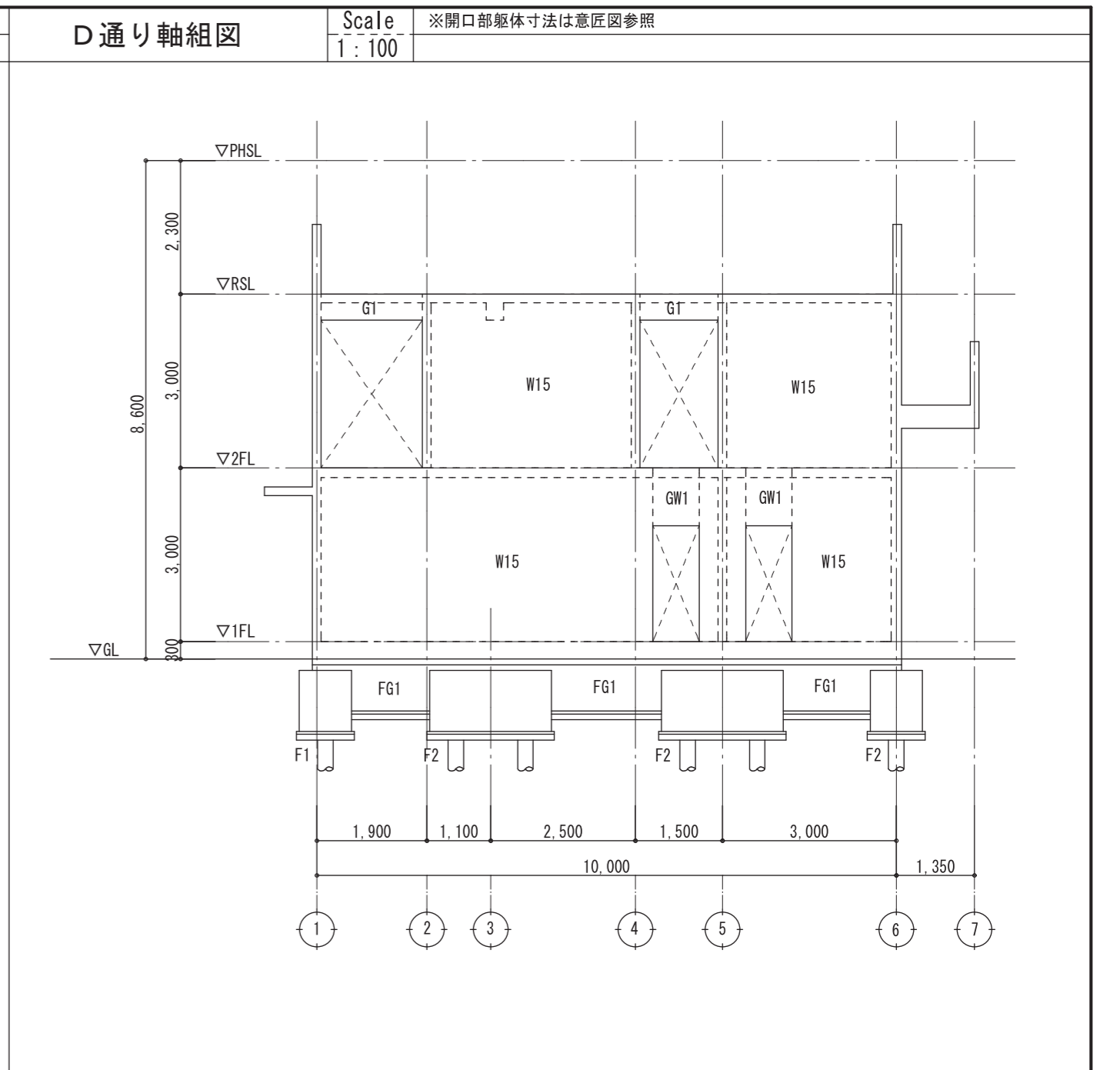
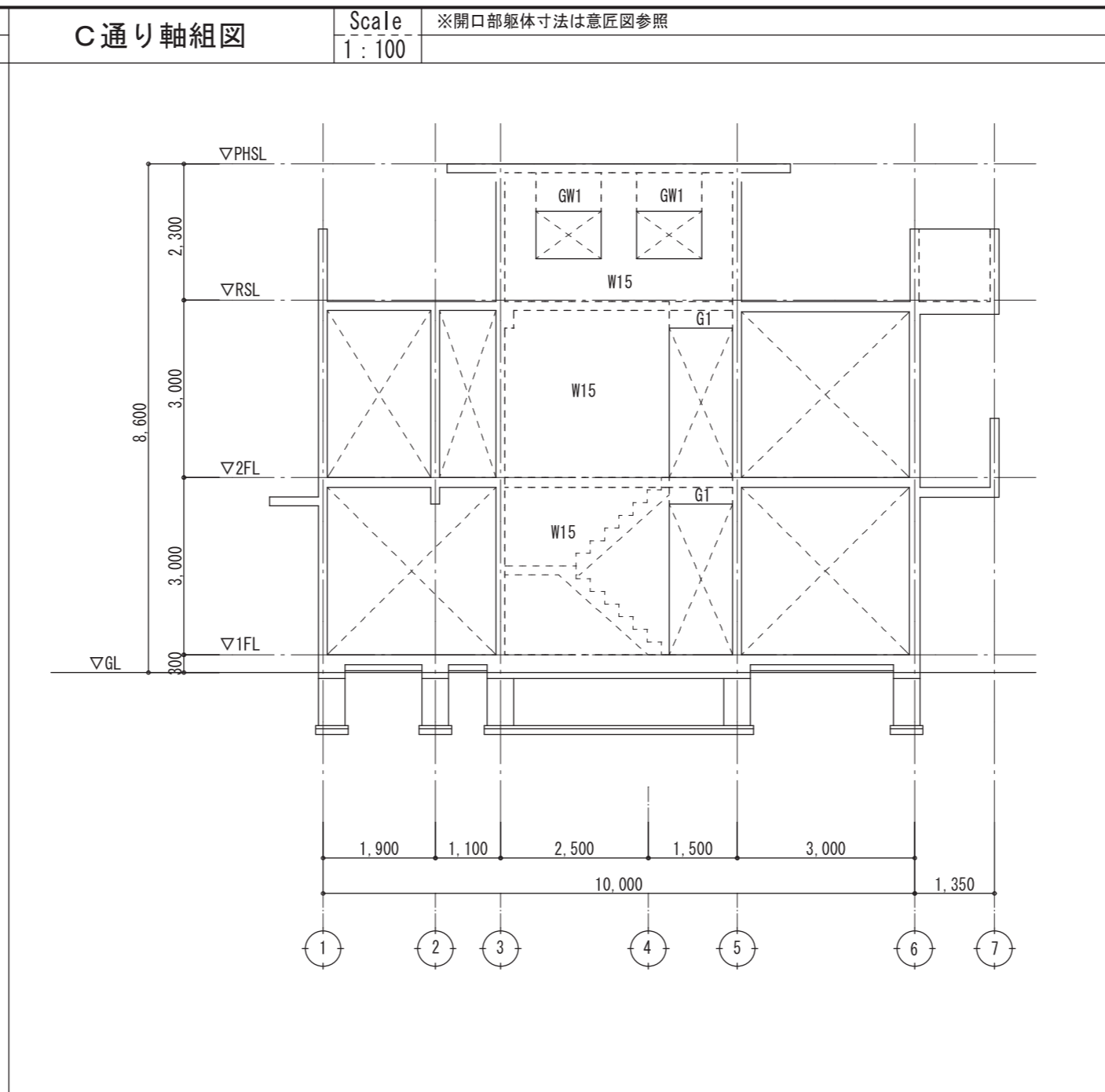
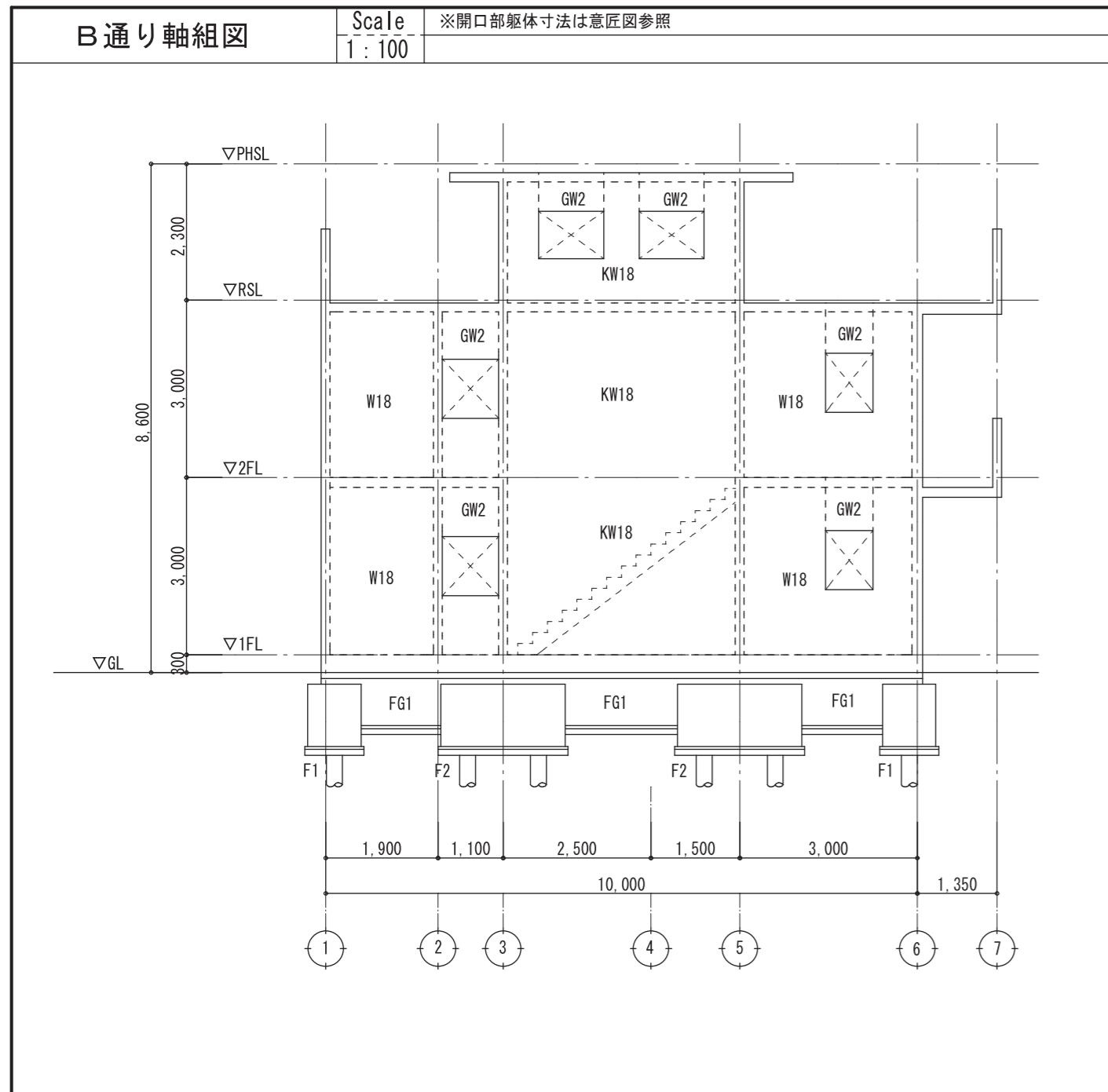


承認

図面番号 S-10

令和7年3月 - 日





その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
軸組図(2)

【新築(b6)実火訓練棟】

作図



承認



承認



承認

図面番号 S-11

令和7年3月 - 日



スラブリスト Scale 1:30

符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋方向)		長辺方向 (配筋方向)	
			端部	中央	端部	中央
S1	150	上端筋	D13@200	←	D13@200	←
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←
S2	170	上端筋	D13@200	←	D13@200	←
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←
CS1	150	上端筋	D13@200	←	D13@200	←
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←
CS2	180	上端筋	D13@100	←	D13@200	←
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←
CS3	200	上端筋	D13@100	←	D13@200	←
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←

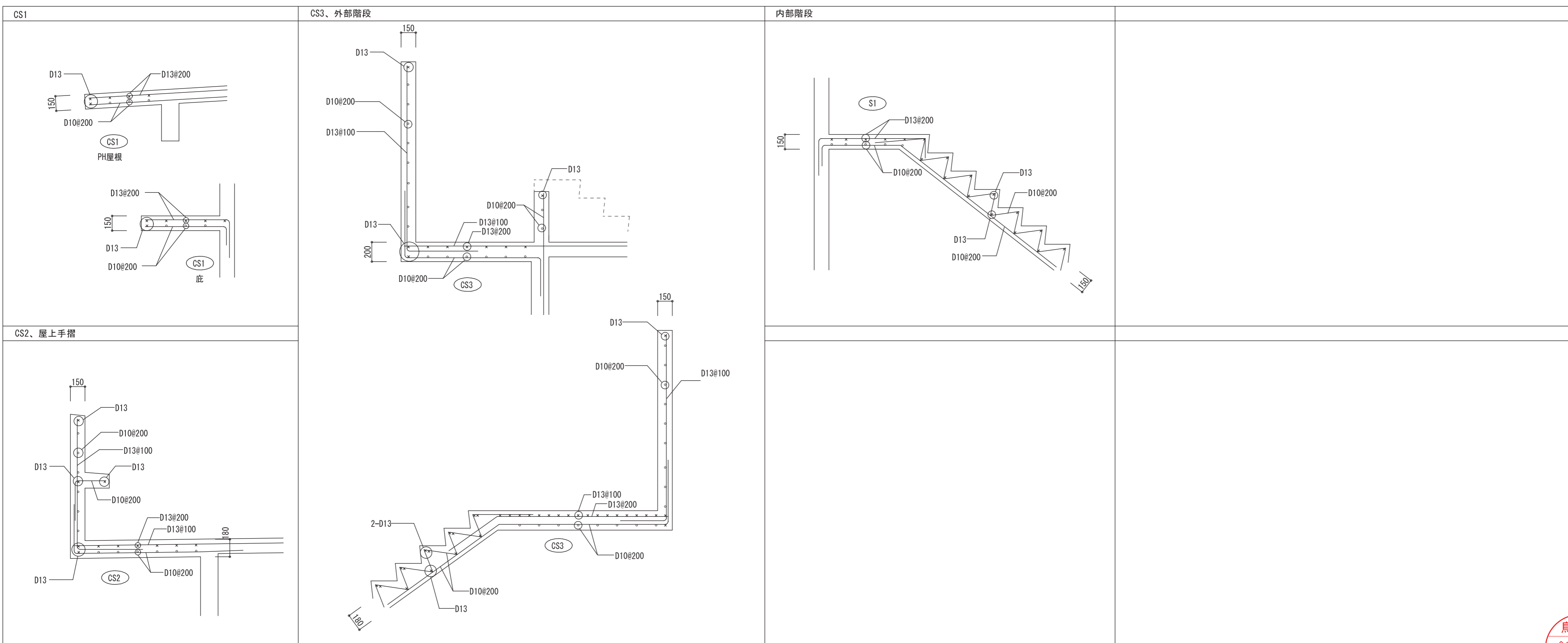
梁リスト Scale 1:30

符号	GW1	GW2	G1	G2	G3
	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面					
上端筋	1/1-D13	1/1-D13	1/1-D13	1/1-D13	3-D13
下端筋	1/1-D13	1/1-D13	1/1-D13	1/1-D13	3-D13
あばら筋	-D13-@200	-D13-@200	-D13-@200	-D13-@200	□ -D10-@200
腹筋	壁横筋を通す	壁横筋を通す	壁横筋を通す	壁横筋を通す	—

壁リスト Scale 1:30

符号	W15	W18	KW18
	断面	断面	断面
断面			
壁厚	150	180	180
縦筋	D13@200	D13@200	D13@100
横筋	D10@200	D10@200	D10@200
開口補強	縦筋	1-D13	1-D13
	横筋	1-D13	1-D13
	斜筋	1-D13	1-D13

部分詳細図 Scale 1:30



その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

【新築 (b6) 実火訓練棟】

図名

部材断面リスト

-

作図



承認



承認



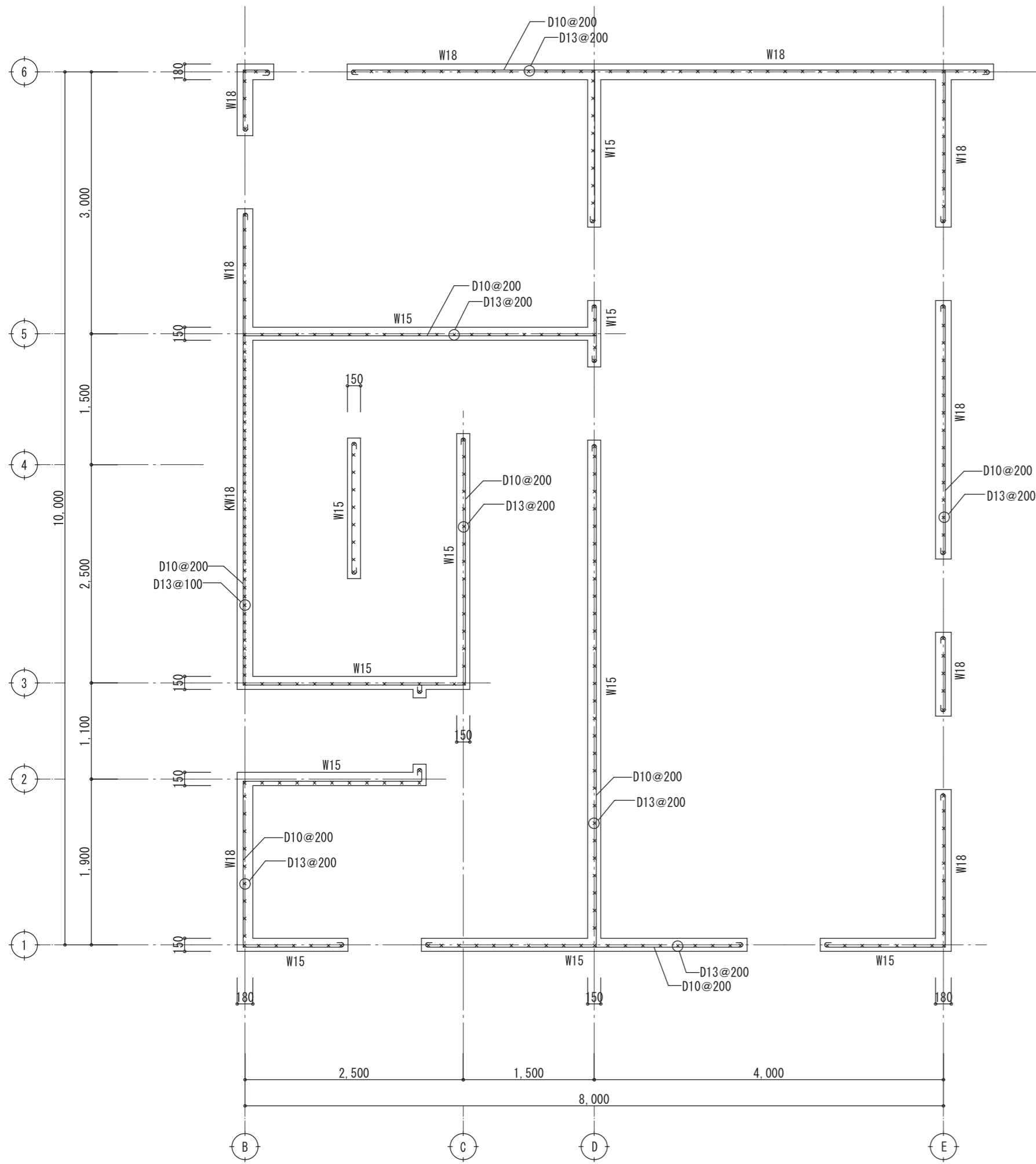
承認

図面番号

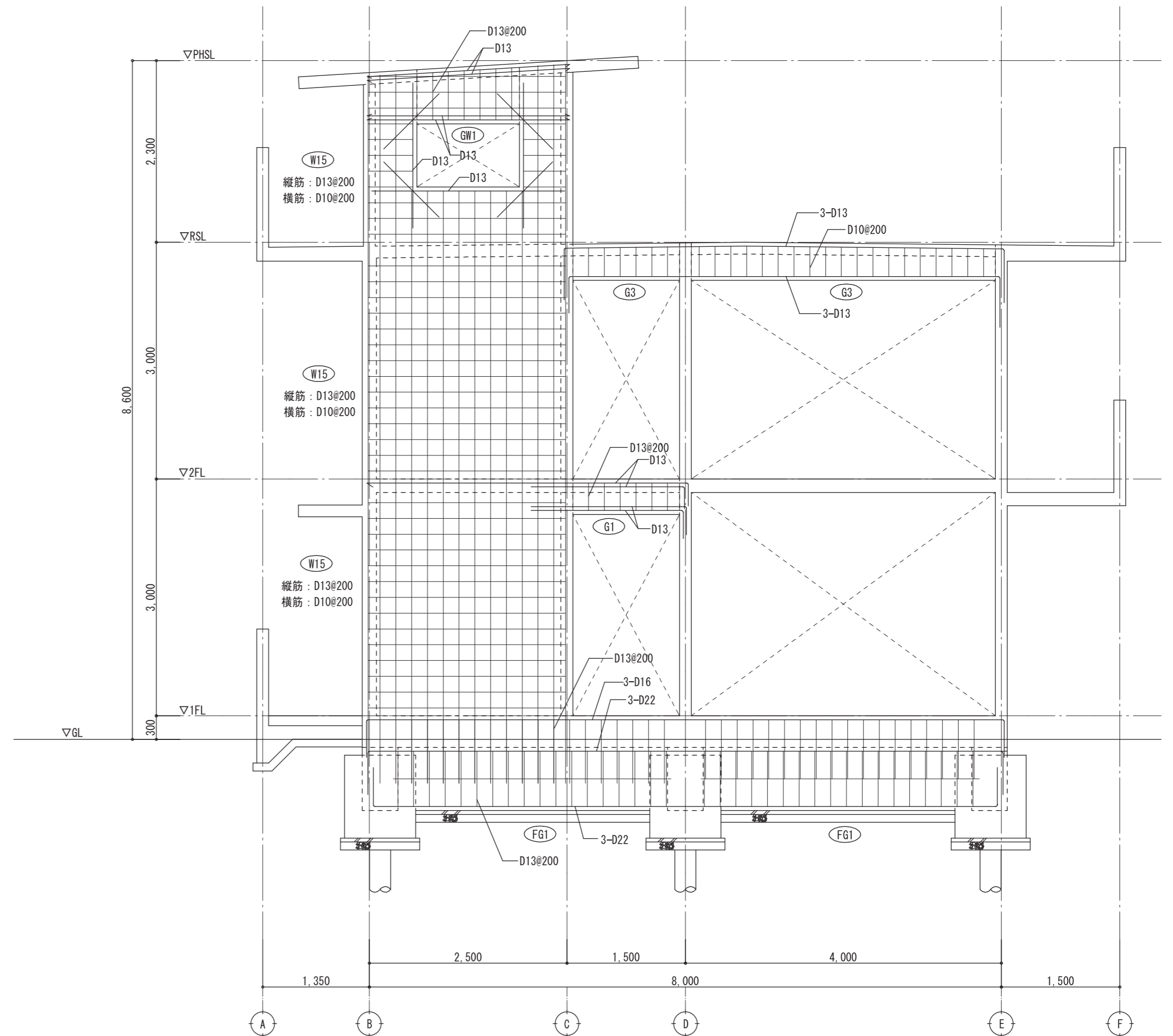
S - 12

令和 7 年 3 月 - 日





1階配筋詳細図 Scale 1:50



3通り配筋詳細図 Scale 1:50

その建築設計事務所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

【新築 (b6) 実火訓練棟】

図名
配筋詳細図

作図



承認



承認



承認

図面番号 S - 13

令和 7 年 3 月 - 日

鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部管轄課

電気設備工事特記仕様書

I. 工事概要

1 工事場所 米子市流通町

2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	突火訓練棟	RC	2階	160	() 項	
2					() 項	
3					() 項	
4					() 項	
5					() 項	
6					() 項	
7					() 項	

3 工事種目 (◎印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	6	7	屋外	備考
◎電灯設備	○									照明改修一式
●動力設備										
●電熱設備										
●雷保護設備										
●受変電設備										
●電力貯蔵設備										
●発電設備										
●構内情報通信網設備										
●構内交換設備										
●情報表示設備										
●映像・音響設備	通									
●拡声設備	情									
●誘導支援設備	報									
●テレビ共同受信設備	設									
●監視カメラ設備	備									
●駐車場管制設備										
●防犯・入退室管理設備										
●火災報知設備										
●中央監視制御設備										
●医療関係設備										
●構内配電線路										
●構内通信線路										
●テレビ電波障害防除設備										
●機械設備工事										
●建築工事										

4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

◎の付いたものを適用する。

項目	特記事項	
電力貯蔵設備	● 直流電源装置 用途 ● 非常用照明器具電源および受変電設備制御電源共用 ● 受変電設備制御電源専用 ● 非常用照明器具電源専用 蓄電池 ● H S形鉛蓄電池 ● M S E形鉛蓄電池 ● (A h) ● 交流無停電電源装置 (UPS) 形式 ● 標仕による UPS ● 簡易形 UPS 用途 ● 電算機用 ●	
発電設備	● 自家発電装置 電気方式 三相3線式 ● 6. 6 k V ● 210 V 機器類 形式 ● キュービクル形 ● 簡易形 ● オープン形 発電機 (k V A以上) 原動機 ● ディーゼル ● ガスタービン 防油堤 ● コンクリート製 ● 鉄板製 (● 本工事 ● 別途工事) モジュール ● 結晶シリコン ● 薄膜 ● 風車 ● プロペラ形 ●	
通信情報設備	● 構内情報通信網設備 ● 構内交換設備 ● 情報表示設備 ● 映像・音響設備 ● 拡声設備 ● 誘導支援設備 ● テレビ共同受信設備 ● 監視カメラ設備 ● 駐車場管制設備 ● 防犯・入退室管理設備 ● 火災報知設備	● 機器 ● 配管のみ ● 配管及び配線 ● 交換機 ● 局線中継台 ● 電話機 ● ボタン電話装置 ● 配管のみ ● 配管及び配線 ● マルチサイン装置 ● 出退表示装置 ● 時刻表示装置 ● 増幅器 ● スピーカー ● プロジェクタ ● スクリーン ● その他 () 用 途 ● 一般放送 ● 非常放送 ● 個別放送 ● 音声誘導装置 ● 身体障害者用インターホン装置 ● トイレ等呼出し装置 ● インターホン ● テレビインターホン ● ナースコール ● アンテナ (● UHF ● BS ● CS) ● CATV ● カメラ ● ビデオモニタ ● タイムラプス V T R ● 配管のみ ● 配管及び配線 車両検知方式 ● 光線式 ● ループコイル式 機器 (● 本工事 ※ 別途工事) 配管 (※ 本工事 ● 別途工事) 配線 (● 本工事 ※ 別途工事) ● 受信機 (● P型 ● R型) ● 副受信機 ● 中継器 ● 感知器 ● 連動制御器 (回線 ● 単独 ● 火報受信機と一体) 感知器 (● 共用 ● 専用) 複合装置 ● 一体形 (※ 一般型 ● 防雨型) ● 単独 受信機 (回線 ● 単独 ● 火報受信機と一体 ● L Pガス用 ● 都市ガス用)
中央監視設備	● 形式 ● 監視制御対象設備 ● 伝送方式	● 警報盤 ● 表示操作盤 ● 監視制御装置 ● 動力設備 ● 受変電設備 ● 自家発電設備 ● 防災設備 ● 照明制御 ● 給排水設備 ● 空調設備 ● アナログ方式 ● デジタル方式
構内配電線路	● 電気方式 ● 施工方法 ● 外灯点滅方式	三相3線式 (● 6. 6 k V ● 200 V) ● 単相3線式 100 / 200 V ● 単相2線式 (● 100 V ● 200 V) ● 地中埋設式 ● 架空線式 ● 手動 ● 自動 (● タイマー ● 自動点滅器 ● 中央監視)
構内線路	● 用途 ● 施工方法	● 電話用 ● 時計拡声用 ● 火災報知用 ● インターホン用 ● 情報通信網用 ● CATV ● 地中埋設式 ● 架空線式
テレビ電波防	● 対策方針 ● 責任分界点	● 都市形 CATVへの加入 ● 共同受信方式 (● 共同アンテナ ● 館内用アンテナ用) ● 各戸の保安器一次側 ●

II. 特記仕様

1 一般事項

- 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書のうち、◎印の付いたものによる。
 - ◎ 公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下、「標準仕様書」という。)
 - ◎ 公共建築改修工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下、「改修標準仕様書」という。)
 - ◎ 公共建築設備工事標準図 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下、「標準図」という。)
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「電気設備工事監理指針 (令和4年版)」 (以下「監理指針」という。) を適用する。
- 機械設備工事及び建築工事を本工事を含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

2 特記事項

- 項目は番号に ○印の付いたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は ◎の付いたものを適用する。
 - ◎の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。◎と※の付いた場合は共に適用する。
- 一般共通事項のうち () 項は、● 建築 ● 機械設備 工事特記仕様書による。

項目	特記事項
◎ 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。
◎ 電気保安技術者	工事現場における電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。 なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節1. 3. 2によるものとし、一般用電気工作物に係る工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。 契約電力500kW以上の場合、第1種電気工事士により施工を行う。 建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。 引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り () 引渡しを要するもの以外は、構外撤出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ● 本工事において調査を行う (● PCB使用機器 ● アスベスト含有設備資機材 (● 配線用遮断機 ●)) PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 撤去予定機器の微量PCB分析 ※ 無し ● 有り
3 電気工事士	
4 工事安全計画書等	
◎ 発生材の分析及び処理	

◎ 機械等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。また、製造者等が定められている機材については、Ⅲ 機材によるほかこれらと同等以上のものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。 なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。 使用する機材がⅢ 機材による場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1. 4. 2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを出す。 区分 分類・規格 撮影箇所 部数 電子データの提出 工事写真 カラーサービス判 各工種工程毎 ※ 1部 ● 部 ◎ 要 ● 不要 完成写真 カラーサービス判 監督職員の指示による ※ 2部 ● 部 ◎ 要 ● 不要
◎ 機材の品質・性能証明	
◎ 施工図等	
◎ 完成写真等	
◎ 完成図等	
11 他工事との取合い	他工事との取合い 電気設備 機械設備 建築 ● コンクリート壁、床、梁貫通部 補 強 ● ● ● ※ スリープ・箱入 ※ ● ● ● ● 鉄骨造の開口及び補強 ● ● ● ※ ● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート (くぎ処理共) ※ ● ● ● ● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地 ※ ● ● ● ● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強 仮 枠 ※ ● ● ● 補 強 補 強 ● ● ● ※ ● O Aフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強 ● ● ● ※ ● 埋込形機器取付用の天井、壁の下地材・仕上げ材 切 り 込 み ※ ● ● ● 補 強 補 強 ● ● ● ※ ● 自動開閉装置を付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ ● ● ● ※ ● 電気室、自家発電機室などの基礎及びピット (蓋を含む) ● ● ● ※ ● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線 ● ● ※ ● ● 機器用コントロールスイッチ (空調機、給湯器等) の取付及び配線 ● ● ※ ● ● テレビアンテナ 基 礎 ● ● ● ※ アンカーボルト ※ ● ● ● ● 天井点検口 ● ● ● ※ ● 自立型制御盤の基礎 ※ ● ● ● ● 機器類のコンクリート基礎 屋内・屋外設置 ※ ● ● ● 屋 上 設 置 ● ● ● ※
◎ 工事用電力・水・その他	本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。 設ける。(寸法等は下図による。建築工事、機械設備工事等と一緒に表示する) ※ 工事表示板 ● お願い表示板
◎ 表示板	900 1,200 1,200 1,800 建築工事中 御通行中の皆様へ 工事名 ○○○○新築工事 地色 白 構造・規模 鉄筋コンクリート造 ○階建 地色 延べ面積○○○㎡ 7474記号 工事期間 令和○年○月から○年○月まで 5176 5/11 設計者 ○○○○設計 地色 白 監理者 ○○環境建築局建築住宅課 ○○○○設計 施工者 ○○○○建設 連絡先 連絡先 ○○-○○○ 地色 白 現場責任者 ○○ ○○ 鳥取県 ○○総合事務環境建築局 建築住宅課 ○○担当 連絡先 ○○-○○○
◎ 足場	記入要領 1. 書体は角ゴシックとする。 2. お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督員が指示するものとする。 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり握え置き方式又は(3)手すり先行専用足場を用いる。

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
突火訓練棟建替工事

図名
電気設備工事
特記仕様書(1)

作図
小谷

承認
承認
承認

図面番号
E - 01 / 05

令和7年3月 - 日



- 15 工事用仮設物
- 16 土工事
- 17 電線類
- 18 電線本数・管路等
- 19 屋外露出配管の仕上げ
- 20 露出配管の塗装（付属品含む）
- 21 波付硬質合成樹脂管（FEP）
- 22 フラッシュプレート の材質
- 23 カバープレート の表示
- 24 プルボックス の塗装
- 25 耐震施工

構内につくることが ※ できる ● できない

埋め戻し土 ※ 根切土の中の良質土 ● 山砂の類 () ● 真砂土 ()

建設発生土の処理 ● 構外へ搬出し適切に処理 ※ 構内敷きならし ● 構内の指示する場所に堆積

本工事では環境配慮の観点から、原則としてEMケーブルを使用するものとする。

EM電線類で規格等の定めのないものはハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。

通信ケーブルJCS規格にない対数のケーブルはJCS規格に準じたものとする。

盤内配線はEM電線を使用する。ただし、製造者標準品と特記したものは除く。

ハネスジョイントボックス用OAタップのケーブルはハロゲン及び鉛を含まない材料とする。

分電盤、制御盤、端子盤などの2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。

屋外露出配管（厚鋼電線管）で塗装を行わない場合は、溶融亜鉛めっき仕上げ [めっき付着量 300g/m以上] とする。

塗装する部分 ● 屋上 ● 屋側 ● 屋外 ● 廊下 ● 機械室 ● 居室 () ●

波付硬質合成樹脂管（FEP）を使用する場合は不燃又は難燃性とする。

● 金属製（ステンレス、新金属も含む） ● 樹脂製

シール等を貼付し、用途を表示する。

ステンレス製プルボックスの塗装 ※ 無（素地仕上） ● 有（指定色仕上）

設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。

1) 機器の据付け及び取付け

設計用水平地震力は、機器重量 [kN] に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

設置場所	機器種別	● 特定の施設		● 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機 器	2.0	1.5	1.0	
	防振支持の機器		2.0	1.5	
	水 槽 類		1.5	1.0	
中間階	機 器	1.5	1.0	0.6	
	防振支持の機器		1.5	1.0	
	水 槽 類		1.0	0.6	
地下及び1階	機 器	1.0	0.6	0.4	
	防振支持の機器		1.0	0.6	
	水 槽 類		1.5	0.6	

上層階の定義 2～6階建：最上階、7～9階建：上層2階、10～12階建：上層3階、13階以上：上層4階

中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの

水槽類には燃料小出槽を含む

重要機器 (● 配電盤 ● 非常用発電装置 ● 交換装置 ● 直流電源装置 ● UPS装置 ● 火災報知受信機 ● 中央監視制御装置 ● 通信総合盤 ●)

2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（一財）日本建築センター）を参考にする。

接地極の材料は次による。

接地の種類	記 号	接地抵抗値	接 地 極
● 共同接地	E A E D	10Ω以下	E B × 3 連-2組
● 共同接地	E A E C E D	10Ω以下	E B × 3 連-2組
● A種	E A	10Ω以下	E B × 3 連-2組
● B種	E B	Ω以下	E B × 2 連-2組
● C種	E C	10Ω以下	E B × 3 連-2組
● D種	E D	100Ω以下	E B × 1
● 高圧避雷器	E L H	10Ω以下	E B × 3 連-2組
● 交換機用	E t	Ω以下	E B × 3 連-1組
● 通信用	E A t	10Ω以下	E B × 3 連-2組
● 通信用	E D t 及び E D a	100Ω以下	E B × 1
● 電話引込口の保安器用	E L t	100Ω以下	E B × 1
● 測定用	E o	-	E B × 1

(連結の場合、EBはD=14 L=1500 または W=40 L=1200とする)

(E D E D t, E D a, E L t, E o の場合、EBはD=10 L=1000 または W=30 L=900 以上とする)

(その他単独の場合、EBはD=14 L=1500 または W=40 L=1200とする)

ステンレス製または鋼材に溶融亜鉛メッキを施したのとする。

外気に面する壁、スラブ等で打ちこみとなる位置ボックスは保温、結露防止処理を行う。

公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。

処理を行うアスベスト含有建材の仕様等

建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲

※ 県有施設石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録業者を活用するものとする。

※ 官公署その他への手続きは、同仕様書によるほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。

- 施工調査（分析によるアスベスト含有建材の調査）を行う。
 - 分析方法はJIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。
- アスベスト粉じん濃度測定を行う。
 - (測定時期：) (測定場所：) (測定点：)
- 洗浄設備（洗眼、うがいの設備）及び更衣設備を設ける。
- 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。対象箇所 ()

- 19 補修など
- 20 はつり
- 21 はつり工事における非破壊検査
- 33 あと施工アンカー
- 34 室内空気中の化学物質の濃度測定
- 35 火災保険等
- 36 鳥取県公共事業環境配慮指針
- 37 建築物省エネ法

- 1 照明器具
 - 1) LEDの光源色は別図面に指定がある場合を除き下記による。
 - LEDの光源色 (※ 昼白色 ● 温白色 ● 電球色)
 - 測定結果を監督職員に提出する。(測定箇所等は、監督職員の指示による。)
 - 設置した各部屋2箇所以上 ●
 - 明るさセンサーによる照明制御を行う部屋は照度測定を行い測定表を監督職員に提出する。なお、測定箇所は監督職員の指示による。
 - 照度測定時期 100%点灯時 (※ 夜間 ● 昼間)
 - 調光制御点灯時 (※ 夜間 ● 昼間)
- 2 機器への接続
 - ※ 電動機などへの接続は本工事とする。 ● 別途工事
- 3 電保護設備
 - 1 大地抵抗率の測定
 - 工事着手前に大地抵抗率を測定し、測定表及び接地極省略判定記録書を監督職員に提出する。
 - 構造体利用接地極 ● A型接地極 ● B型接地極
 - 2 変圧器移動車輪
 - 75kVA以上に取付。
 - 本工事 ● 別途工事
 - 3 テマド監視装置
 - 3 盤内照明
- 4 受変電設備
 - 1 変圧器移動車輪
 - 75kVA以上に取付。
 - 本工事 ● 別途工事
 - 2 テマド監視装置
 - 3 盤内照明
- 5 電力貯蔵設備
 - 1 交流無停電電源装置 (UPS)
 - 停電補償時間 (分)
 - 方式 (● 常時インバータ給電方式 ● ラインインタラクティブ方式 ● 常時商用給電方式)

- 6 発電設備
 - 1 自家発電装置
 - 運転時間 (h) 系統連系 (● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無)
 - 出力 (kW) 配電盤外箱 (● 有 ● 無)
 - 保安装置 (重故障項目特記 ● 有 ● 無) 外部用端子 (● 要 ● 不要)
 - 減圧水槽及び初期注水槽の材質 (● 鋼板製 ● ステンレス鋼板製)
 - オイルタンク (● 地下 ● 屋内)
 - 据付：機械設備工事標準図 (● 施工30、32 (タンク室無し) ● 施工31、33 (タンク室有り))
 - 燃料小出槽 (注)：返油ポンプのあるシステムでフロートスイッチの上層フロートは通過形接点とする。
 - 材質 (● 鋼板製 ● ステンレス製)
 - 燃料油等 (● 灯油 ● 軽油 ● 重油 ● 燃料ガス ())
 - 排気系統配管断熱材の厚さ (mm) ばい煙測定口 (● 設ける ● 設けない)
 - 排気ガスに含まれる窒素酸化物 (以下) 運転音 (dB以下)
 - 系統連系 (● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無)
 - 公称最大出力 (kW) 耐風速 (m/s)
 - パワーコンディショナ (相 線式 V) 定格容量 (kW)
 - 自立運転機能 (● 有 ● 無)
 - 表示装置 (● 有 ● 無) 方式 (※ 液晶 ●)
 - 系統連系 (● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無) 定格出力 (kW)
 - 2 太陽光発電装置
 - 局線応答方式 (● 局線中継台方式 ● 分散中継台方式 ● ダイアライン方式 ● ダイレクトインダイヤル方式 ● ダイレクトインライン方式)
 - 停電補償時間 (分)
 - ※ 本工事 ● 別途工事
 - ※ モジュラージャック ● 電話用プレート
 - 内線 / / 回線 局線 / / 回線 (現用/実装/容量)
 - 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台
 - デジタルコードレス電話機 台 ● IP電話機 台
 - 卓上電話機1台につき次のものを見込む。
 - ボタン電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - 内線電話機 (● EM-TIEE 0.65-2C ● TIVF 0.65-2C) (※ 15m ●)
 - 多機能電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - IP電話機 (● EM-UTP 0.5-4P ●) (※ 15m ●)
 - 3 風力発電装置
 - 局線中継台方式 (● 局線中継台方式 ● 分散中継台方式 ● ダイアライン方式 ● ダイレクトインダイヤル方式 ● ダイレクトインライン方式)
 - 停電補償時間 (分)
 - ※ 本工事 ● 別途工事
 - ※ モジュラージャック ● 電話用プレート
 - 内線 / / 回線 局線 / / 回線 (現用/実装/容量)
 - 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台
 - デジタルコードレス電話機 台 ● IP電話機 台
 - 卓上電話機1台につき次のものを見込む。
 - ボタン電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - 内線電話機 (● EM-TIEE 0.65-2C ● TIVF 0.65-2C) (※ 15m ●)
 - 多機能電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - IP電話機 (● EM-UTP 0.5-4P ●) (※ 15m ●)

- 7 構内交換設備
 - 1 交換装置
 - 局線応答方式 (● 局線中継台方式 ● 分散中継台方式 ● ダイアライン方式 ● ダイレクトインダイヤル方式 ● ダイレクトインライン方式)
 - 停電補償時間 (分)
 - ※ 本工事 ● 別途工事
 - ※ モジュラージャック ● 電話用プレート
 - 内線 / / 回線 局線 / / 回線 (現用/実装/容量)
 - 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台
 - デジタルコードレス電話機 台 ● IP電話機 台
 - 卓上電話機1台につき次のものを見込む。
 - ボタン電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - 内線電話機 (● EM-TIEE 0.65-2C ● TIVF 0.65-2C) (※ 15m ●)
 - 多機能電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - IP電話機 (● EM-UTP 0.5-4P ●) (※ 15m ●)
 - 2 保安器用接地
 - ※ 本工事 ● 別途工事
 - ※ モジュラージャック ● 電話用プレート
 - 内線 / / 回線 局線 / / 回線 (現用/実装/容量)
 - 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台
 - デジタルコードレス電話機 台 ● IP電話機 台
 - 卓上電話機1台につき次のものを見込む。
 - ボタン電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - 内線電話機 (● EM-TIEE 0.65-2C ● TIVF 0.65-2C) (※ 15m ●)
 - 多機能電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - IP電話機 (● EM-UTP 0.5-4P ●) (※ 15m ●)
 - 3 壁付電話機との接続
 - 4 回線数
 - 5 電話機
 - 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台
 - デジタルコードレス電話機 台 ● IP電話機 台
 - 6 電話機への配線
 - 卓上電話機1台につき次のものを見込む。
 - ボタン電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - 内線電話機 (● EM-TIEE 0.65-2C ● TIVF 0.65-2C) (※ 15m ●)
 - 多機能電話機 (● EM-BTIEE 0.4-2P ●) (※ 15m ●)
 - IP電話機 (● EM-UTP 0.5-4P ●) (※ 15m ●)

- 8 情報表示設備
 - 1 マルチサイン装置
 - 2 出退表示装置
 - 3 時刻表示装置
- 9 映像音響設備
 - 1 プロジェクタ
 - 光出力 (● I形 ● II形 ● III形) 解像度 (● A形 ● B形 ● C形)
 - コントラスト比 (● X形 ● Y形)

- 10 拡声設備
 - 1 増幅器
 - 形式 (● 卓上形 ● ラック形) 定格出力 (W) 性能 (● Hi形 ● Lo形)
 - 増幅器の入出力配線と外部配管 (壁ボックス等) の接続はコネクタによる。
 - 11 誘導支援
 - 1 音声誘導装置
 - 検出方式 (● 磁気方式 ● 無線方式 ● 画像認識方式)
 - 12 火災報知設備
 - 1 自動火災報知設備
 - 受信機 (● 型 級 回線 (蓄積型) ● 複合形 ● 単独形)
 - 防火戸用 (※ ラッチ式 ● 電磁式)
 - 防煙ダンパー用 (※ 電動復帰 ● 手動復帰)
 - 防火シャッター用 (※ 別途工事 ● 本工事)
 - 2 自動閉鎖設備
 - 3 ガス漏れ火災警報設備
 - 検知器 (● 天井取付形 ● 壁取付形)
 - 13 構内配電線路
 - 1 施工方法
 - 埋設深さ ※ GL-300以上、舗装のある場合は路盤下-300以上とする。
 - GL-600以上 (● 車路 ● 高圧配線 ● 幹線 ●)
 - 蓋の記号表示は鋳型流込み (鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入) とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。
 - 閉鎖形 (● 軽耐塩形 ● 重耐塩形) ● 地絡継電器付 (※ 方向性 ● 無方向性)
 - 避雷器内蔵
 - ※ 別置制御装置までの制御ケーブルを付属する。
 - 高圧ケーブルの高端部にシースの幅み対策 (熱伸縮テープによるシースずれ止め対策等) を行う。
 - 一般形 ● 耐塩形
 - 2 地中箱
 - 3 高圧負荷開閉器
 - ※ 高圧 ● 低圧 ● 低圧
 - 4 高圧ケーブルの端末部
 - 5 高圧ケーブルの屋外端末処理
 - 6 標識シート
 - 7 照明用ポール
 - 照明用ポールには配線用遮断器 (トリップ機能なし) 又はカットアウトスイッチ (兼通ヒューズ) を内蔵する。ただし、ガーデンライトは除く。
 - 14 構内通信線路
 - 1 施工方法
 - 埋設深さ ※ GL-300以上、舗装のある場合は路盤下-300以上とする。
 - GL-600以上 (● 車路 ● 高圧配線 ● 幹線 ●)
 - 蓋の記号表示は鋳型流込み (鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入) とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。
 - データ回線 ● 電話 ● CATV ●
 - 2 地中箱
 - 3 標識シート
 - 15 テレビ電波受信障害調査
 - 1 調査仕様
 - 図面に記載されていない事項は、すべて(一社)日本CATV技術協会の「建造物によるテレビ受信障害調査要領」及び「建造物によるテレビ受信障害調査要領(地上デジタル放送)」の最新版により調査を行い、同協会の技術審査を受けるものとする。
 - ※ 事前 ● 中間 ※ 事後
 - 2 テレビ電波受信障害調査時期
 - 3 受信する受信波及び地点数
 - 中継局 波： 地点
 - 中継局 波： 地点
 - 4 報告書提出部数
 - ※ 事前 3部 ● 中間 部 ※ 事後 3部

1) 機器取付高

機器取付高は下記を標準とする。ただし、天井高3m以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は監督職員と協議する。

名 称	測 点	取付高 (mm)
電力共通	取引閉器	地上~窓中心 1,800~2,000
	引込閉器	地上~中心 1,800~2,200
電 灯	分電盤・OA室・実験室	床上~中心 1,500 (上端1,900以下)
	スイッチ	1,300
	” (多機能トイレ)	1,100
	コンセント (一般)	300
	” (和室)	150
	” (台上)	台上~中心 150
	” (土間)	床上~中心 800~1,300
	” (車椅子用)	900
	ブラケット (一般)	2,100~2,300
	” (講場)	2,000~2,500
” (鏡上)	鏡上端~中心 150	
動 力	壁掛形制御盤	床上~中心 1,500 (上端1,900以下)
	手元開閉器	1,500
	操作スイッチ	1,300
構内交換	端子盤	床上~下端 300
	保安器箱	天井下~上端 200
	壁付アウトレット	床上~中心 300
	” (和室)	150
電気時計	壁掛形時計	床上~中心 1,500 (上限1,900以下)
	子時計	1,500 (上限1,900以下)
拡 声	壁掛形スピーカ	床上~中心 天井高×0.9
	壁付アンテナ	1,300

2) 工事のため送電線及び配電線の近くで作業するときは、事前に中国電力に連絡し、事故防止に努めるものとする。

- III. 機 材
 - 工事に使用する機器及び材料は、図面に仕様等が明記してあるものを除き、原則として標準仕様書に規定するもの及び(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による。
 - ただし、盤類は上記によるほか以下の製造業者とする。
 - 榊永井電機工業所 榊平木電機産業
 - 小林制電南 榊富士オートメーション
 - 勝英産業 榊増岡電機製作所

その 建 築 設 計 事 務 所

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17

TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件 名 鳥取県消防学校 実火訓練棟建替工事

図 名 電気設備工事 特記仕様書(2)

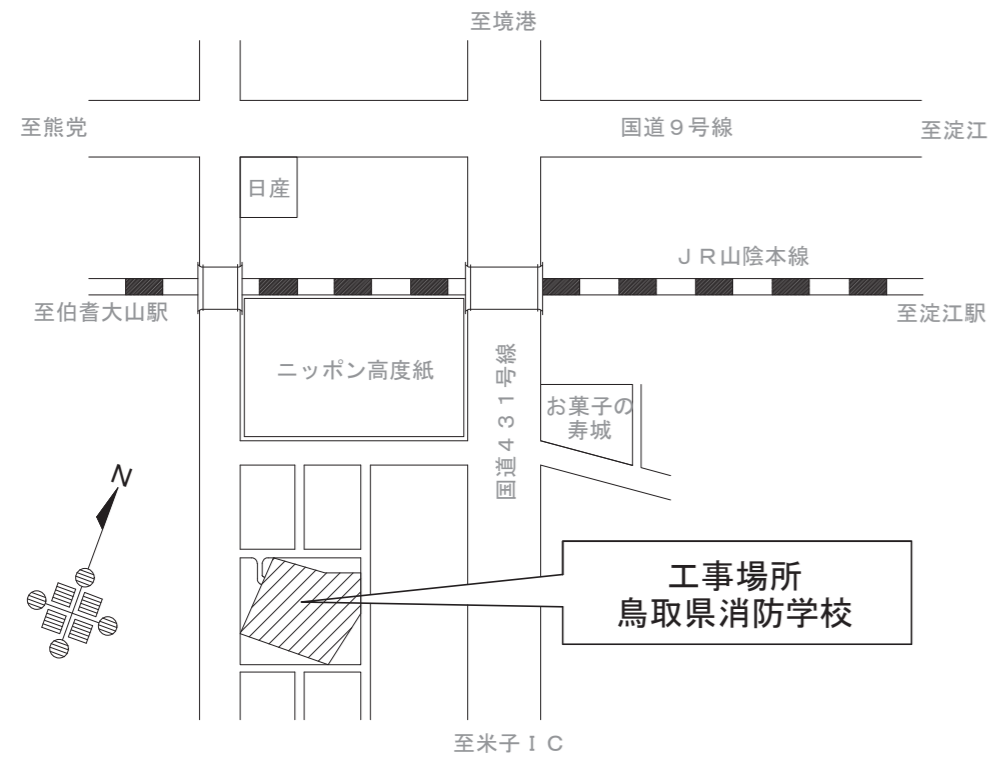
作 図 小 谷

承 認 承 認 承 認

図面番号 E - 02 / 05

令和 7 年 3 月 - 日





工事場所
鳥取県消防学校

至米子IC

付近見取図

建築物リスト 【敷地A】

No	名称	構造-階数	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	耐火要求	処置
a1	車庫・雨天練習場	S-1	442.48	442.48	準耐火	既存のまま
a2	訓練場	RC-8	115.63	559.05		
a3	危険物貯蔵庫	CB-1	8.10	8.10		
a4	物置1	S-1	9.30	9.30		
a5	屋外トイレ	RC-1	13.03	12.32		
a6	倉庫	S-1	34.66	34.66		
						新築

【敷地B】

No	名称	構造-階数	建築面積	延床面積	耐火要求	処置
b1	機械室(浄化槽)	RC-1	8.41	8.41	-	既存のまま
b2	実火訓練棟	S-2	34.76	64.78	-	解体
b3	自転車小屋	S-1	5.04	5.04	-	既存のまま
b4	物置2	S-1	5.88	5.88	-	基礎新設再取付
b5	少量危険物貯蔵取扱所	S-1	4.00	4.00	-	既存のまま
b6	実火訓練棟	RC-2	89.02	160.00	-	新築

【敷地C】

No	名称	構造-階数	建築面積	延床面積	耐火要求	処置
c1	本館	RC-2	997.93	1729.88		既存のまま
c2	渡り廊下	S-1	12.00	12.00		
c3	屋内練習場	S-1	727.37	690.00		
c4	補助訓練場	S-7	20.25	141.75		
c5	生徒用昇降口	RC-1	18.02	16.13		
c6	プロパン庫	CB-1	4.47	4.47		

工作物リスト 【敷地A】

No	名称	処置
A	門扉	既存のまま
aA	ホース洗場	
aB	貯水槽	

【敷地C】

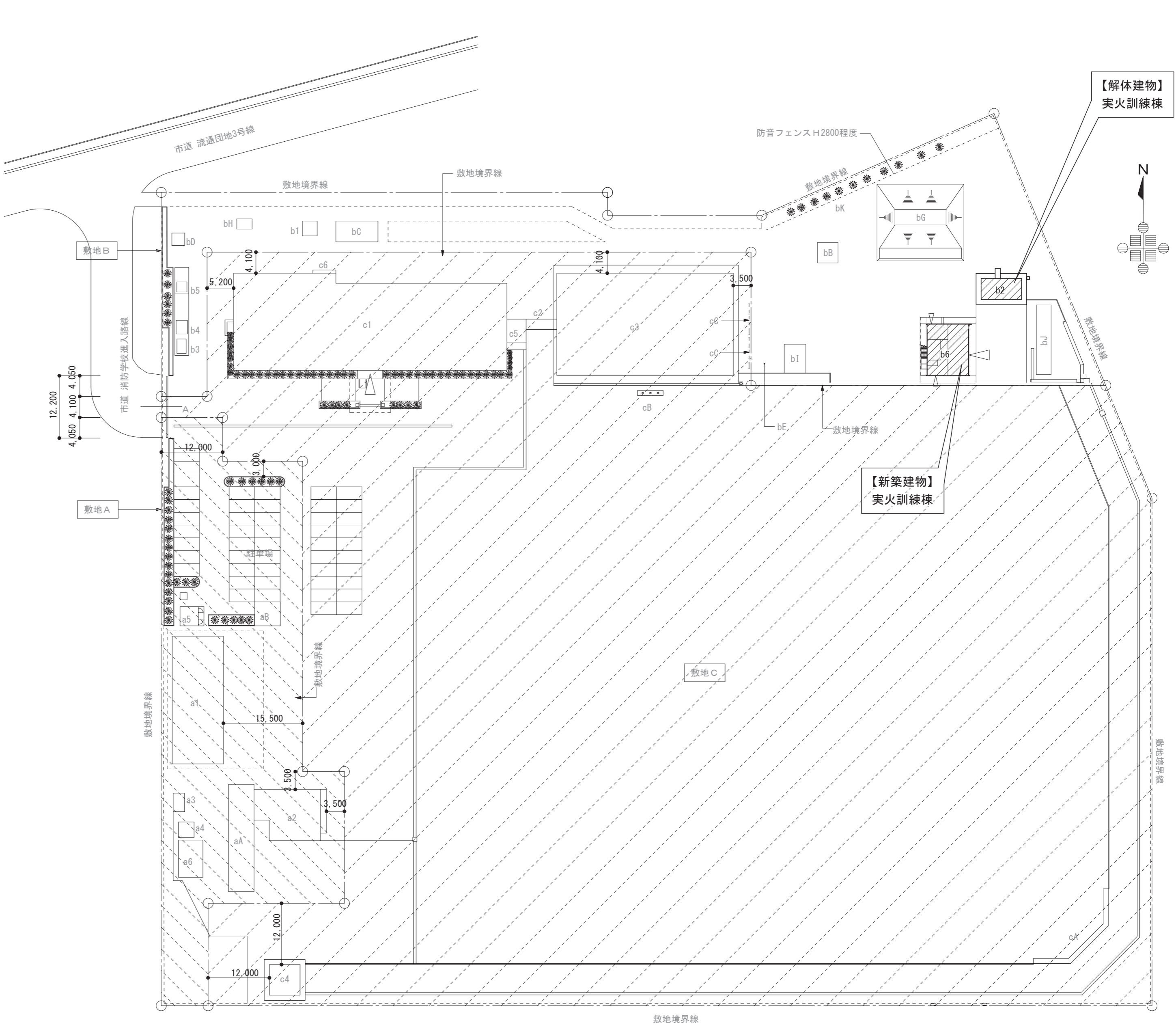
No	名称	処置
A	門扉	既存のまま
cA	バックネット	
cB	国旗掲揚ポール	

【敷地B】

No	名称	処置
A	門扉	既存のまま
bB	真砂土置場	既存のまま
bC	合併処理浄化槽	
bD	キュービクル	
bE	屋外消火栓	
bG	堤防	既存のまま
bH	ガスタンク	
bI	防火水槽	
bJ	火災体験訓練施設	
bK	防音フェンス	

工事概要
 ・実火訓練棟解体に伴うコンクリートの撤去
 ・実火訓練棟新設に伴う電灯コンクリートの新設

●印: 工事対象建築物を示す。



全体配置図 S=1:600

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号
 〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
 TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101
 一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

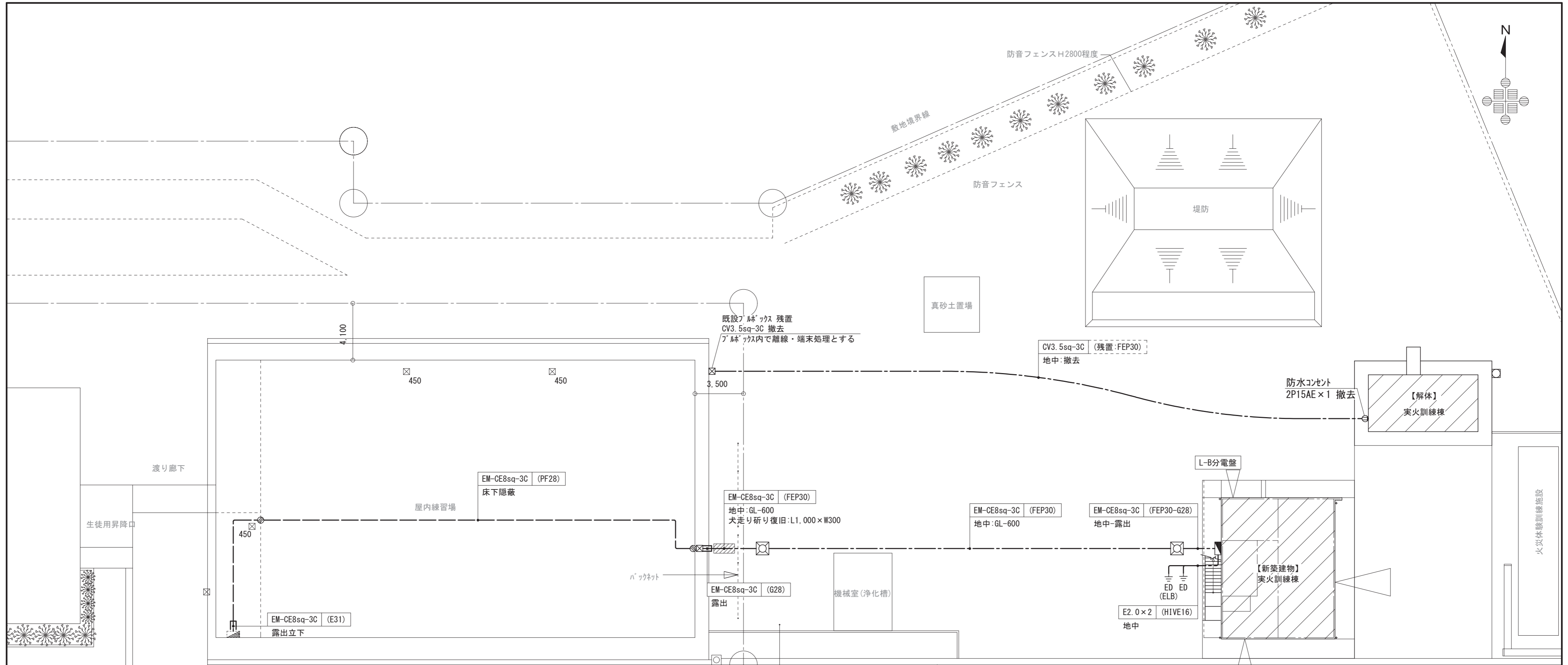
件名
 鳥取県消防学校
 実火訓練棟建替工事

図名
 電気設備工事
 付近見取図・全体配置図・工事概要

作図
 承認
 承認
 承認

図面番号 E-03/05
 令和7年3月-日





既設 L1C-L分電盤
MCCB3P30A×1増設
(取付台及び内扉ハ補助共)
(主幹7レーカ2次側より分岐)

国旗掲揚ポール

凡例			
記号	名称	摘要	
■	分電盤	E-05 盤結線図参照	新設
□	ハンドホール	H1-6 (R8K-60)	新設
⊠	プルボックス	200×200×200 SUS-WP	新設
▨	既設分電盤	MCCB3P30A×1増設	改造
⊙	代貫通	50φ 鉄筋探索共	
⊠ 450	床下点検口450×450		既設

その建築設計事務所

〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101
一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号
一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
電気設備工事
構内配線図

作図

小谷

承認

承認

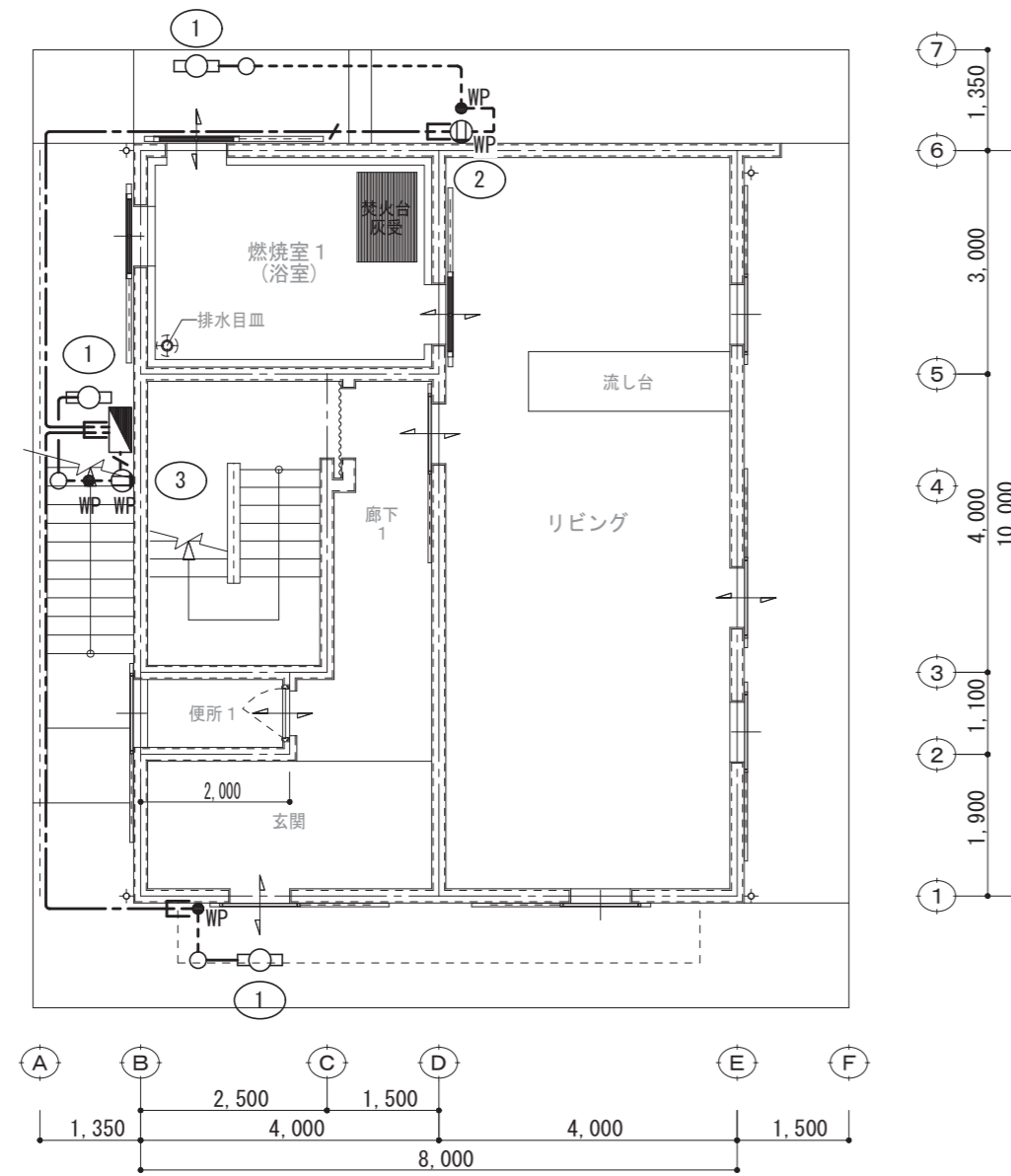
承認

図面番号 E-04

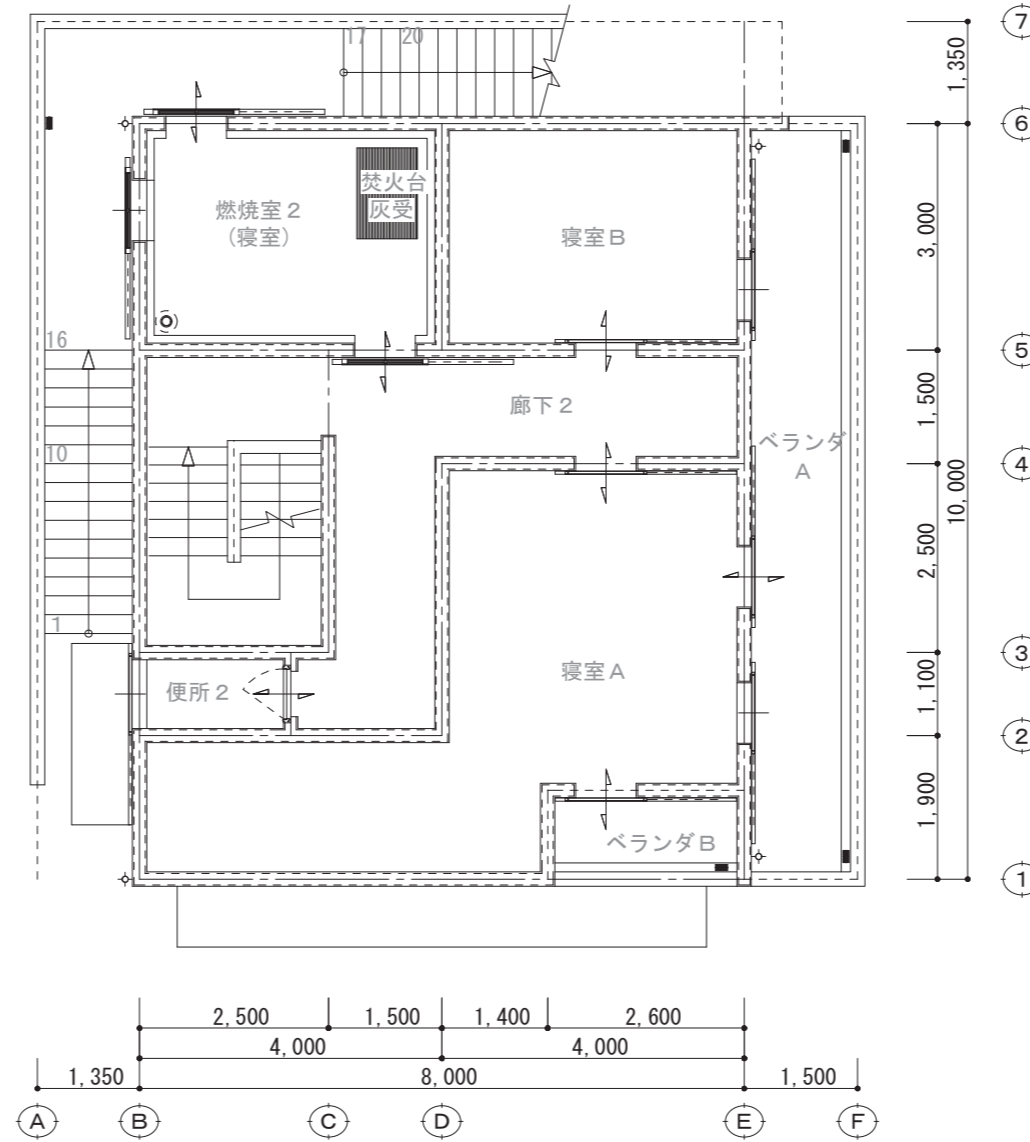
05

令和7年3月 - 日





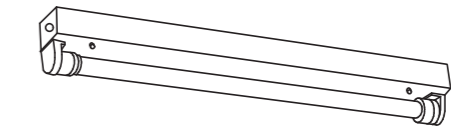
1階平面図(建替後) S=1:100



2階平面図(建替後) S=1:100

照明器具参考図
=注記=
1. 図中、形状・仕様等は参考とする。
2. 消費電力は、JIS C 8105-3 に依る。

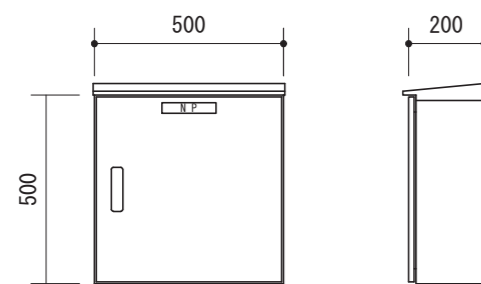
LDL20×1 高温用照明器具 ステンレス



ランプ 別売、適合ランプ：直管LED用ランプ
電源ユニット内蔵、防湿型
消費電力12W、定格出力型、電圧100～242V
本体：ステンレス(クリア塗装)
反射板：ステンレス(クリア塗装)
光束維持時間40000時間(光束維持率85%)
ランプ素材：ガラス管、Ra:84
使用温度5～60℃

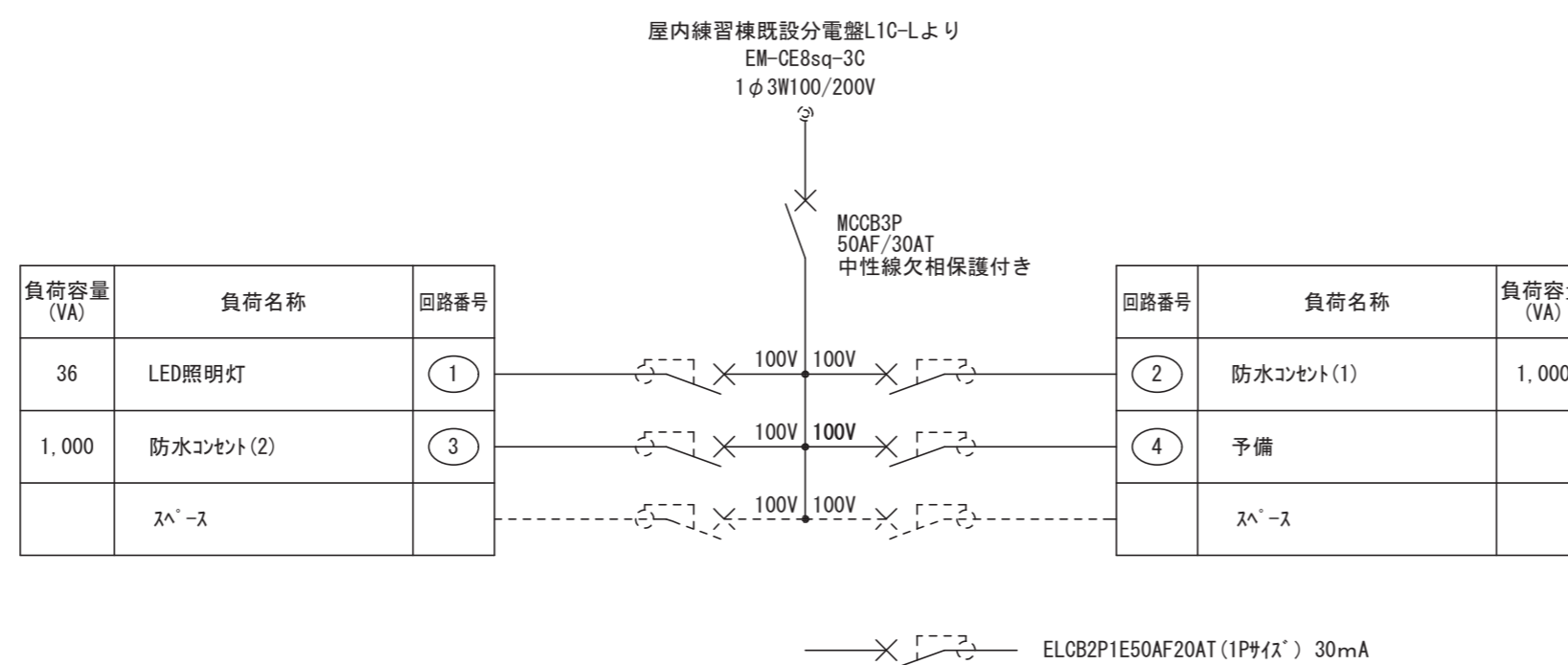
パナソニック NNFJ21300JLE9 相当品
ランプ (昼白色) LDL20S/N/11/12-K 相当品

L-B分電盤 参考図



屋外壁掛型 (SUS製)
*標準色塗装

L-B分電盤 結線図



凡例

記号	名称	摘要
■	電灯分電盤	結線図参照
● WP	防水スイッチ	1P15A
⊕ WP	防水コンセント	2P15AEEET×2 取付高さ:H=500
○	露出丸型スイッチ	G22-1方出
□	LED照明器具	照明器具参考図

注記

1. 図中、指示なき配管配線は下記による。		
---	EM-FP2.0-3C (FEP30)	地中 新設
---	EM-FP2.0-3C(1C7-ス)+EM-FP1.6-2C (FEP30-G28)	地中-露出 新設
---	EM-FP2.0-3C(1C7-ス)+EM-FP1.6-2C (G28)	露出 新設
---	EM-FP1.6-3C(1C7-ス) (G22)	露出 新設
---	EM-FP1.6-3C(1C7-ス) (PF16)	RC打込 新設
2. 熱の影響に考慮し、燃焼室の外壁を避けた位置で配管配線を行うこと。		

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
電気設備工事
電灯コンセント設備 1・2階平面図(建替後)

作図

小谷

承認
承認
承認

図面番号 E-05/05

令和7年3月-日

鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部営繕課

機械設備工事特記仕様書

I. 工事概要

1 工事場所 米子市流通町

2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積(m ²)	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	突火訓練棟	RC	2	160.0	() 項	
2					() 項	
3					() 項	
4					() 項	
5					() 項	

3 工事種目 (●印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
● 空調調和設備								
● 冷暖房設備								
● 換気設備								
● 排煙設備								
● 自動制御設備								
● 衛生器具設備								
● 給水設備								
● 排水設備	○						○	
● 給湯設備								
● ガス設備								
● 浄化槽設備								
● 消火設備								
● さく井設備								
● 電気設備工事								
● 建築工事								

4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

項目	設備概要
● 空調調和設備	● 単一ダクト方式 ● 各階ユニット方式 ● ダクト併用ファンコイルユニット方式
● 冷暖房設備	● ファンコイルユニット方式 ● パッケージ方式
● 暖房設備	● 温水暖房 ● 蒸気暖房 ● 温風暖房 (● 局所式 ● 中央式) ● 床暖房
● 熱源	● 電気 ● 灯油 ● A重油 ● ガス ● バイオマス
● 主要熱源機器	● 鋼製ボイラー ● 鋳鉄製ボイラー ● 真空式温水発生機 ● 無圧式温水発生器 ● チリングユニット ● スクリュー冷凍機 ● 連心冷凍機 ● 吸収式冷凍機 ● 直置き吸収式冷水機 ● 小形吸収式冷水機ユニット ● バイオマスボイラー ● ルームエアコン ● ヒートポンプパッケージエアコン (マルチタイプ) ● 有 () ● 無 () ● 温風暖房機 ● F F 暖房機 ● その他 ()
換気設備	● 第一種 ● 第二種 ● 第三種
排煙設備	● 機械排煙 (適用法規 ● 建基法 ● 消防法)
自動制御設備	● 電気式 ● 電子式 ● デジタル式
● 給水設備	給水方式 ● 水道直結方式 ● 高置水槽方式 ● ポンプ直送方式 ● 増圧給水方式 水源 ● 水道水 ● 井水
● 排水設備	排水方式 ● 自然流下 ● ポンプ排水 (● 汚水 ● 雑排水 ● 雨水) 放流先 ● 汚水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 雑排水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 地下浸透 ● 雨水 ● 公共下水道 ● 側溝 ● 河川 ● 地下浸透 浄化槽 ● 処理方式 ● 小規模合併 ● 合併 ● 処理水放流先 ● 排水路 ● 側溝 ● 河川
● 給湯設備	● 局所式 (● ガス ● 油 ● 電気) ● 中央式 (● 油 ● ガス ● 電気)
● 消火設備	● 屋内消火栓 ● 屋外消火栓 ● 連結送水管 ● 連結散水 ● スプリンクラー ● 泡消火 ● 粉末消火装置 ● 不活性ガス消火 (● 窒素 ● 窒素系) ● ハロゲン化物消火
● ガス設備	● 都市ガス (MJ/Nm ³) ● 液化石油ガス

II. 特記仕様

1 一般事項

- 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、
 - 印の付いたものによる。
 - 公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)
 - 公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「改修標準仕様書」という。)
 - 公共建築設備工事標準 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準図」という。)
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針 (令和4年版)」 (以下「監理指針」という。) を適用する。
- 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

2 特記事項

- 項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は ● 印の付いたものを適用する。
 - 印の付かない場合は、● 印の付いたものを適用する。 ● 印と ● 印の付いた場合は両方を適用する。
- 一般共通事項のうち (3、11、12、13、15、16、17、18、36) 項は、● 建築 ● 電気設備 工事特記仕様書による。

項目	特記事項															
1 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。															
2 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節1. 3. 2によるものとし、一般用電気工作物にかかる工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。															
3 工事安全計画書等	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。															
4 発生材の分析及び処理	引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り () 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ● 本工事において調査を行う (● 廃石綿 (配管用保温材) ● PCB使用機器 ●) アスベスト含有設備資機材 (ガスケット、パッキン、たわみ継手等の石綿含有廃棄物) は関係法令に従い適切に処理を行う。 PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 撤去予定機器の微量PCB分析 ※ 無し ● 有り 再生資源化を図るもの ※ 無し ● 有り (● コンクリート塊 ● アスファルトコンクリート塊 ●)															
5 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するこの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。															
6 機材の品質・性能証明	J I S等のマーク及び評価書のある機材を使用する場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1. 4. 2 (3)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作用、試験成績等は除く。															
7 機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式集 (令和4年版) によるほか、監督職員の指示による。															
8 図形等の表示	機器類は、図示する形状、配管等などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。															
9 電気容量及び機器表示	機器類の能力、容量等は、原則として表示された値以上とする。 電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。															
10 技能士の適用	下記より適用する技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするとともに他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札 (下図参考) を常時着用する。 ● 配管 (● 1級 ● 2級) ● 熱絶縁施工 (● 1級 ● 2級) ● 冷凍空調調和機器施工 (● 1級 ● 2級) ● 建築板金 (● 1級 ● 2級)															
11 施工図等	提出した施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。															
12 完成写真等	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを出す。 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>分類・規格</th><th>撮影箇所</th><th>部数</th><th>電子データの提出</th></tr></thead><tbody><tr><td>工事写真</td><td>カラーサービス判</td><td>各工種工程毎</td><td>※ 1部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr><tr><td>完成写真</td><td>カラーサービス判</td><td>監督職員の指示による</td><td>※ 2部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr></tbody></table>	区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出	工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要	完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要
区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出												
工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要												
完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要												

一般共通事項

13 完成図等

区分	名称	部数
※ 完成図原因	完成図 ● 原紙 ※ CADデータ ※ PDFデータ 施工図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ	1部
※ 完成図 2つ折製本	※ 完成図 ※ 完成図 (縮小版) ● 施工図	※ 2部 ● 部
※ 完成図書 ※ A4版市販ファイル ● A4版黒表紙製本	● 完成図 (縮小版) ※ 主要機器図 ※ 試験成績書	※ 2部 ● 部
※ 保守用説明書 (A4版ファイル)	※ 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2部 ● 部
※ 保証書		1部
※ 官公署の届出書類		1部
● 原因ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。		

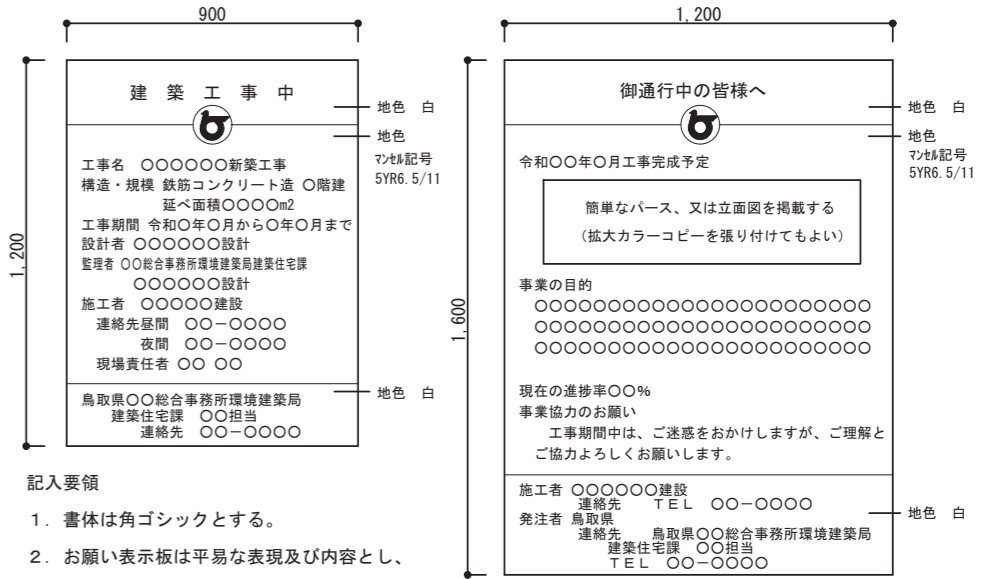
14 他工事との取合

他工事との取合い	建築	電気設備	機械設備
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入 補 強	● ● ●	※ ● ● ●
● 鉄骨造の開口及び補強		※ ● ● ●	● ● ● ●
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート (くぎ処理共)		● ● ● ●	● ● ● ●
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		● ● ● ●	● ● ● ●
● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮 枠 補 強	● ● ● ●	● ● ● ●
● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※ ● ● ●	● ● ● ●
● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切 り 込 み 補 強	● ● ● ●	※ ● ● ● ●
● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ		※ ● ● ● ●	● ● ● ● ●
● 電気室、自家発電室などの基礎及びビット (蓋を含む)		※ ● ● ● ●	● ● ● ● ●
● 天井点検口		※ ● ● ● ●	● ● ● ● ●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 屋 上 設 置	● ● ● ● ●	※ ● ● ● ● ●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		● ● ● ● ●	※ ● ● ● ● ●
● 機器用コントロールスイッチ (空調機、給湯器等)の取付及び配線		● ● ● ● ●	※ ● ● ● ● ●

15 工事用水・電力・その他

16 表示板

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。
設ける。(寸法等は下図による。建築工事、電気設備工事等と一緒に表示する。)
※ 工事表示板 ● お断り表示板



17 足場

18 工事用仮設物

19 土工

20 保温工事

「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置にあたっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

構内に作ることが ※ 出来る ● 出来ない

(ア) 埋め戻し土 ● 根切土のなかの良質土 (● コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類) ● 山砂の類 () ● 真砂土 ()

(イ) 建設発生土処分 ● 構外に搬出 ● 構内に敷ならし ● 構内の指示する場所に堆積

● 冷温水管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ●)
● 蒸気管 (● ロックウール ● グラスウール ●)
● 給水管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ●)
● 保温チューブ (厚さ@) ● エアコンドレン ● 保温チューブ(厚さ@10t))
● 排水管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ● 保温チューブ(厚さ@))
● 給湯管 (● ロックウール ● グラスウール ● 保温チューブ(厚さ@))
● 消火管 (● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ●)
● ダクト (● ロックウール ● グラスウール ●)
● 燃焼熱源等機械室内の配管 (● ロックウール ● グラスウール)
● 全熱交換機の給気ダクト (● 機器外気側 ● 機器室内側) は保温 (グラスウール2.5mm厚) する。
● 冷媒管の保温外装 屋内 (● 樹脂製化粧ケース ● 合成樹脂製シート ●)
● 屋外 (● 樹脂製化粧ケース ● S U S 鋼板 ●)

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録

大臣登録第236776号

山本博樹

TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名

鳥取県消防学校
突火訓練棟建替工事

図名

機械設備工事
特記仕様書(1)

作図

板倉

承認

承認

承認

承認

図面番号

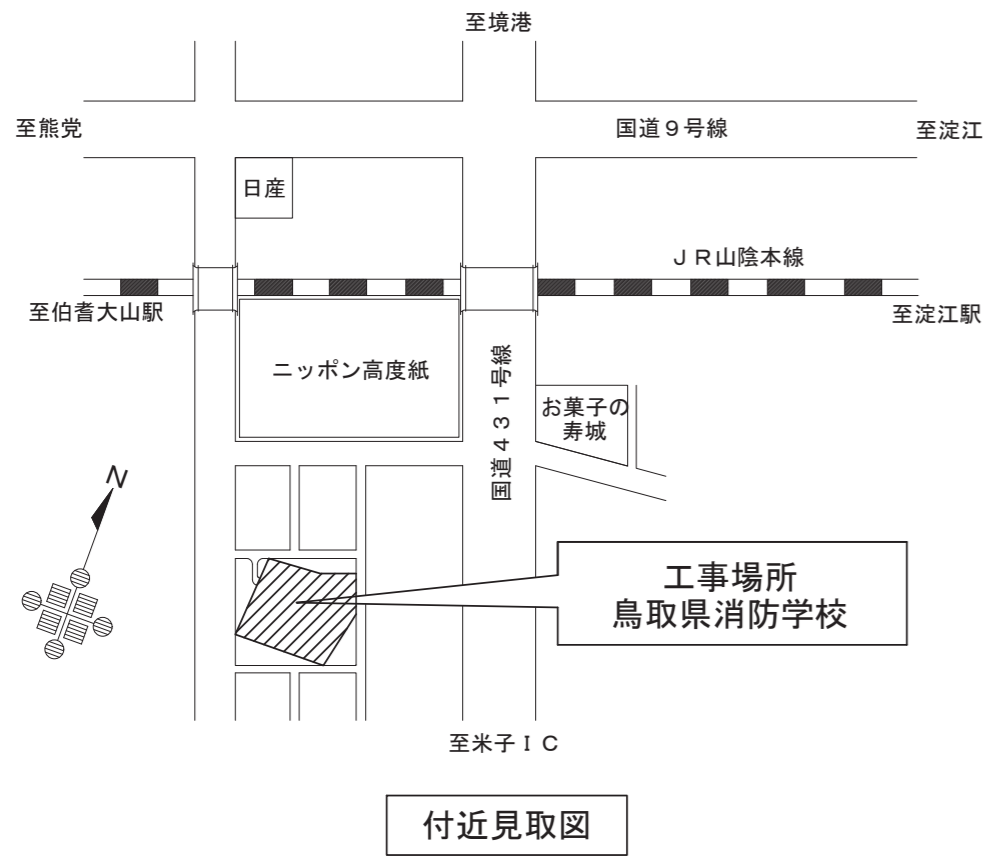
M - 01 / 05

令和7年3月 - 日

鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部営繕課

一 般 共 通 事 項	<p>① 鋼管類の防食処置</p> <p>22 絶縁継手</p> <p>23 防振継手</p> <p>24 伸縮管継手</p> <p>25 塗装</p> <p>26 ステンレス鋼管の接合方法</p> <p>27 溶接配管の検査</p> <p>28 埋設表示</p> <p>29 支持金物・固定金具</p> <p>30 総合試運転調整</p> <p>31 アスベスト含有建材の処理</p>	<p>地中埋設</p> <p>● ベトロラム系 ● プチルゴム系 ● 熱収縮チューブ及びシート</p> <p>● 標準図（施工3） ● (1)絶縁フランジ ● (2)絶縁シート ● (3)絶縁スリーブ ● (4)絶縁ユニオン</p> <p>※ 合成ゴム製（球形） ● ポリテトラフルオロエチレン製 ● ペローズ形（ステンレス製）</p> <p>※ ペローズ形 ● スリーブ形</p> <p>各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。（さび止め塗装は除く。）</p> <p>(ア)埋設されるもの（ただし、防食塗装部分を除く） (イ)垂鉛めっき以外のめっき仕上げ面</p> <p>(ウ)垂鉛めっきされたもので、常時隠ぺいされる部分 (エ)垂鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類</p> <p>(オ)樹脂コーティング等を行ったもので、常時隠ぺいされる部分 (カ)カラー垂鉛鉄板面</p> <p>(キ)アルミ、ステンレス、銅、溶融アルミニウム-垂鉛鉄板面、合成樹脂製等、特に塗装の必要を認められない面</p> <p>(ク)特殊な意匠の表面仕上げ処理を施した面</p> <p>(ケ)主・各階機械室等及び電気室内の垂鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管</p> <p>● 上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所（ ）</p> <p>呼び径60S u以下の継手は、SAS322を満足するものとする。</p> <p>● ガス配管 ● 冷水配管 ● 冷却水配管</p> <p>非破壊検査の適用（ ● 放射線透過検査 ● 浸透探傷検査又は磁粉探傷検査 ）</p> <p>抜 取 率（ ● 標準仕様書による ● % ）</p> <p>● 地中埋設機材を明示する箇所に設ける。</p> <p>● 埋設表示用テープを埋設する。（ ● ガス管 ● 屋外給水管 ● ）</p> <p>ボンパ、屋外設置機器及びビット内に使用するアンカーボルト、ナットはSUS304製とする。</p> <p>屋外及びビット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上げとする。</p> <p>下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。</p> <p>● 温度 ● 湿度 ● 風量 ● 騒音 ● 水量 ● 浄化槽放流水質</p> <p>● 風速 ● じんあい ● 飲料水水質（ ● 一般飲料水適否検査 ● ）</p> <p>● その他水質等（ ● 雑用水 ● 空調用流体 ● ）</p> <p>公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。処理を行うアスベスト含有建材の仕様等</p> <table border="1"> <tr> <th>建材の内容・箇所</th> <th>仕様等</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 現有施設の石綿除去に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。</p> <p>※ 官公署その他への手続きは、同じ仕様書ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。</p> <p>● 施工調査（分析によるアスベスト含有建材の調査）を行う。</p> <p>分析方法はJISA1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。</p> <p>● アスベスト粉じん濃度測定を行う。</p> <p>（測定時期： 測定場所： 測定点： ）</p> <p>● 洗浄設備（洗眼、うがいの設備）及び更衣設備等を設ける。</p> <p>● 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。</p> <p>対象箇所（ ）</p> <p>工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならぬ補修する。</p> <p>既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。</p> <p>探査方法 ※電磁誘導式 ●放射線透過検査</p> <p>実施する。</p> <p>工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。</p> <p>（保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期+21日]とする。）</p> <p>グリーン購入は次のものとする。</p> <p>● 空調用機器（ ） ● 衛生器具（ ）</p> <p>● 断熱材（ ） ● 配管材（ ●再生硬質ポリ塩化ビニル管 ）</p> <p>● その他（ ）</p> <p>対象工事</p> <p>対象工事</p> <p>設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。</p> <p>(1) 機器の据付け及び取付け</p> <p>設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）[kN]に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。</p> <table border="1"> <tr> <th>設計用標準水平震度</th> <th colspan="2">● 特定の施設</th> <th colspan="2">● 一般の施設</th> </tr> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>●重要機器</th> <th>●一般機器</th> <th>●重要機器</th> <th>●一般機器</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">上 層 階 屋上、塔屋</td> <td>機 器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水 槽 類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中 間 階</td> <td>機 器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>水 槽 類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地階・1階</td> <td>機 器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>水 槽 類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </table> <p>上層階の定義 2～6階建：最上階、7～9階建：上層2階、10～12階建：上層3階、13階建以上：上層4階</p> <p>中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの</p> <p>重要機器 ● 換気機器 ● 空調機器 ● 熱源機器 ● 防災機器 ● 監視制御設備 ● 危険物貯蔵装置</p> <p>● 火を使用する設備 ● 避難経路上に設置する機器 ● 水槽類（燃料小出槽を含む）</p> <p>●（ ）</p> <p>(2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。</p> <p>(3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（一財）日本建築センター）を参考にする。</p>	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲							設計用標準水平震度	● 特定の施設		● 一般の施設		設置場所	機器種別	●重要機器	●一般機器	●重要機器	●一般機器	上 層 階 屋上、塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5	水 槽 類	2.0	1.5	1.5	1.0	中 間 階	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6	防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6	地階・1階	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6	<p>1 空 気 調 和 設 備</p> <p>2 冷 暖 房 設 備</p> <p>3 換 気 設 備</p> <p>1 設計用温湿度条件</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">外気条件</th> <th colspan="4">室 内 （ 調 整 目 標 値 ）</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一 般</th> <th colspan="2">（ ）</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">温 度</th> <th rowspan="2">湿 度</th> <th>温 度</th> <th>湿 度</th> <th>温 度</th> <th>湿 度</th> </tr> <tr> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> </tr> <tr> <td>夏 季</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>28.0</td> <td>℃</td> <td>成り行き</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬 季</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>20.0</td> <td>℃</td> <td>成り行き</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>※SGP（白） ●SGP-V A ●SGP-P A</p> <p>※SGP（白） ●SGP-HVA ●ステンレス鋼管（SUS304）</p> <p>● 架橋ポリエチレン管（ファンコイル機器接続部に限る） ● ポリプテン管（ファンコイル機器接続部に限る）</p> <p>※SGP（白） ● ステンレス鋼管（SUS304）</p> <p>※SGP（黒）</p> <p>※STPG370-Sch40（黒） ● ステンレス鋼管（SUS304）</p> <p>一般配管 ※SGP（黒） 地中配管 ※合成樹脂被覆鋼管</p> <p>※断熱材被覆鋼管</p> <p>● ステンレス鋼管 ●SGP-V A ●</p> <p>※SGP（白） ●VP</p> <p>※5K ●10K</p> <p>※流量調整弁 ●定流量弁（ ●ダイヤフラム式流量可変式 ●カートリッジオリフィス形 ）を取付ける。</p> <p>(ア) 防煙ダンパー ※遠隔復帰式 ●電気式（動作用電圧、電流はDC24V、0.7A以下とする。）</p> <p>(イ) ビストンダンパー ※遠隔復帰式 ●</p> <p>※低圧ダクト ●高圧1ダクト ●高圧2ダクト</p> <p>●長方形ダクト ●コーナーボルト工法（ ● 共板工法 ● スライドオンフランジ工法 ）</p> <p>（長辺1500mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。）</p> <p>● 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板製とする。</p> <p>ボックス ※ 亜鉛鉄板製 ● グラスウール製</p> <p>シーリングデュファイザーの接続は、標準図（施工49）を参考とする。</p> <p>接続するダクトの施工が困難な場合はフレキシブルダクトを使用してもよい。</p> <p>線状吹出口には、（長さ+100）×300×300Hの接続チャンパーを設ける。</p> <p>外壁に面するガラリにチャンパー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるように勾配をつける。</p> <p>吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類に内貼する。</p> <p>内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。</p> <p>吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーには点検口（原則400×600）を取付ける。</p> <p>形式はビトー管式（コック付）とする。 ● 着脱式 ● 固定式</p> <p>下記の箇所、若しくは図示により取付ける。</p> <p>● 冷凍機類の冷水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング</p> <p>● 冷凍機類の冷却水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング</p> <p>● ポイラー又は熱交換器の温水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング</p> <p>● 冷水水ヘッダーの各送り管 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング</p> <p>● ユニット形空気調和機の冷水水入口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング</p> <p>● メカニカル形 ● 風速センサー形</p> <p>機器付属以外の温度計 ※工業用バイメタル式 ● ガード付L形温度計</p> <p>空気漏りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。</p> <p>※ 手動 ● 自動</p> <p>自動空気抜き弁装置は標準図による。（施工38（g））</p> <p>機械室の手動式空気抜き配管の保溫は分歧から2mの範囲とする。</p> <p>トラップ形式はフロートボール式（床置型） ※FRP製保溫型 ●FRP製 ●SUS製</p> <p>材質及び厚さ ●SS400（※3.2mm） ●4.5mm） ●SUS（※1.5mm ●2.0mm）</p> <p>煤煙濃度計 ● 取付ける ● 取付けない ● 取付けを付ける</p> <p>煤じん量測定口（80φ×2） ※ 取付ける ● 取付けない</p> <p>22 空調機用トラップ</p> <p>23 銅板製煙道</p> <p>24 オイルサービスタンク</p> <p>25 地下オイルタンク</p> <p>油面計はゲージ式（側圧計）とする。</p> <p>据付け方法 ● 標準図（施工32）（二重殻タンク・タンク室無し） ● 標準図（施工33）（タンク室有り）</p> <p>タンクの保護被覆 ※ 強化プラスチック ● エポキシ樹脂 ● アスファルト</p> <p>基礎杭 ※ 不要 ● 要（ ※ 別途工事 ● 本工事 ）</p> <p>土留め工事 ● 要 ● 不要</p> <p>タンクローリー用アース端子を設ける。</p> <p>油面制御装置の機能 ● 給油ポンプの起動停止 ● 満油警報 ● 減油警報 ●</p> <p>● 機器表特記による。</p> <p>● 空気調和機のフィルターは、ロールの場合は1本、ユニットの場合は1セットを付属品として納入する。</p> <p>28 パッケージ空調機の能力表示</p> <p>29 防振吊り及び支持金物</p> <p>※ 亜鉛鉄板製 ● 鋼板製（厚1.6mm）</p> <p>形状 ● パネル形 ● スリット形 ● ダンパー形</p> <p>取付け ● 天井取付 ● 壁取付</p> <p>電気式（遠隔操作 ※ 不要 ● 要）</p> <p>建築設備定期検査業務基準書2016年版（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の検査方法に準ずる。</p> <p>● 有り（構成機能は、図示による） ● 無し</p> <p>● 要（ ● 本工事 ● 別途工事 ） ● 不要</p> <p>取付高さ ※1300mm ● mm</p> <p>● 屋外、屋内露出の配線は、図面に表記のない限り金属管配線とする。</p> <p>● 天井隠ぺいの配線は、図面に表記のない限りケーブル配線とする。</p>	外気条件		室 内 （ 調 整 目 標 値 ）				一 般		（ ）		温 度	湿 度	温 度	湿 度	温 度	湿 度	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	夏 季	℃	%	28.0	℃	成り行き	%	℃	%	冬 季	℃	%	20.0	℃	成り行き	%	℃	%	<p>6 衛 生 器 具 設 備</p> <p>1 衛生器具の参考型番</p> <p>2 小便器用節水装置</p> <p>3 自動水栓</p> <p>4 大便器洗浄弁</p> <p>5 温水洗浄便座</p> <p>6 器具と排水管接続</p> <p>7 給 水 設 備</p> <p>8 排 水 設 備</p> <p>9 給 湯 設 備</p> <p>10 消 火 設 備</p> <p>11 ガ ス 設 備</p> <p>12 浄 化 槽 設 備</p> <p>型番変更等により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。</p> <p>※ 小便器一体型 ● 小便器分離型</p> <p>● 洗浄水量4リットル/回以下</p> <p>※ 個別感知方式（ ● AC電源 ● 自己発電 ● 乾電池 ） ● 手動式</p> <p>電源供給方式 ● AC電源 ● 自己発電 ● 乾電池</p> <p>操作方式 ● 電気開閉式（ ● センサー式 ● タッチスイッチ式 ）</p> <p>● 手動式</p> <p>洗浄用水加温方式 ● 瞬間式 ● 貯湯式</p> <p>※ 標準図（施工64） ● 標準図（施工65）</p> <p>1 量水器</p> <p>2 配管材料</p> <p>3 弁類</p> <p>4 水槽のマンホール</p> <p>⑧ 排 水 設 備</p> <p>1 配管材料</p> <p>2 満水試験継手</p> <p>3 バイブシャフト内配管の保溫</p> <p>4 煙試験</p> <p>1 配管材料</p> <p>2 弁類</p> <p>10 消 火 設 備</p> <p>4 屋内消火栓</p> <p>5 ガス系消火剤の種類</p> <p>6 ガス系消火の起動方式</p> <p>11 ガ ス 設 備</p> <p>2 配管材料</p> <p>3 ガスメータ</p> <p>4 バルク貯槽</p> <p>5 容器廻りの配管</p> <p>6 容器転倒防止</p> <p>7 ガス漏れ警報器</p> <p>12 浄 化 槽 設 備</p> <p>1 処理種別及び方式</p> <p>2 型式</p> <p>3 処理能力</p> <p>4 放流水の水質</p> <p>5 排水方式</p> <p>6 埋戻し土</p> <p>7 土留め工事</p> <p>8 マンホールふた</p> <p>9 消毒薬</p> <p>● 親メーター ※ 借用 ● 買取（ ※ 直読 ● 遠隔表示 ）</p> <p>● 子メーター ※ 買取 ● 借用（ ※ 直読 ● 遠隔表示 ）</p> <p>(ア)一般配管 ●SGP-VB ●SGP-PB ●SUS304 ●SUS316</p> <p>●H1VP ●保溫付架橋ポリエチレン管(保溫厚10t)</p> <p>(イ)土間下配管 ●SGP-VD ●SGP-PD ●H1VP ●SUS304 ●SUS316</p> <p>(ウ)地中配管 ●SGP-PD ●SGP-PD ●H1VP ●SUS304 ●SUS316</p> <p>●水道配水用ポリエチレン管(75~100A) ●水道用ポリエチレン二層管(50A以下)</p> <p>(エ)特記なき給水管の最小口径は20Aとする。</p> <p>(オ)ビニル管の接合方法 ※ 接着接合 ● ゴム輪接合（直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。）</p> <p>(カ)ポリエチレン管の接合方法 50A以下 ※ 金属製継手 ● 融着継手 75A以上 ※ 融着継手</p> <p>● 口径65A以上の仕切弁及び逆止弁は、ライニング弁とする。</p> <p>● 5K（受水槽以降の配管に使用） ● 10K（公営水道に直結する配管に使用）</p> <p>● 公営水道事業者指定の止水栓又は弁（給水引込部に使用）</p> <p>屋外に設置する水槽のマンホール蓋は保溫形（二重蓋含む）とする。</p> <p>(ア)屋内汚水管 ●VP ●RF-VP ●排水用塩ビライニング鋼管 ●耐火二層管</p> <p>(イ)屋内雑排水管 ●VP ●RF-VP ●SGP（白） ●排水用塩ビライニング鋼管</p> <p>●耐火二層管</p> <p>(ウ)ポンプ排水管 ●VP（水道用） ●H1VP ●排水用塩ビライニング鋼管（圧送排水管用継手）</p> <p>(エ)通気管 ●VP ●RF-VP ●SGP（白） ●排水用塩ビライニング鋼管</p> <p>(オ)屋外排水管 ●VP ●RF-VP ●VU（地中） ●REP-VU（地中）</p> <p>●RS-VU ●卵形管 ●コンクリート管 ●SGP（白）</p> <p>3階以上にわたる排水管立て管に満水試験継手を ※ 取付ける ● 取付けない</p> <p>※ 施工する ● 施工しない</p> <p>※ 行わなくてもよい ● 図示の系統のみ行う</p> <p>●SGP-HVA ●ステンレス鋼管 ●保溫付架橋ポリエチレン管(保溫厚10t)</p> <p>●保溫付被覆鋼管 ●鋼管</p> <p>湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。</p> <p>※5K ●10K</p> <p>(ア)一般配管 ●SGP（白） ●STPG</p> <p>(イ)土間下配管 ●SGP-VS ●STPG-VS</p> <p>(ウ)地中配管 ●SGP-VS ●STPG-VS</p> <p>※10K ●16K</p> <p>(ア)呼水タンク ※ 施工しない ● 施工する</p> <p>(イ)充水タンク ※ 施工しない ● 施工する</p> <p>(ウ)配管の保溫は次による。（屋外露出箇所は種別e3・(ハ)・(ロ)による）</p> <p>● 屋内消火栓用（ ※ 施工しない ● 施工する ） ● スプリンクラー用（ ※ 施工しない ● 施工する ）</p> <p>● 連結送水用（ ※ 施工しない ● 施工する ） ● 連結散水用（ ※ 施工しない ● 施工する ）</p> <p>● 広範囲型2号消火栓 ● 易操作性1号消火栓 ● 屋内消火栓（ ● 1号 ● 2号 ）</p> <p>● 窒素 ● IG-541 ● IG-55 ● HFC-227ea ● HFC-23</p> <p>※ 手動 ● 自動手動切替式</p> <p>都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。</p> <p>(ア)一般配管 ※SGP（白） ● 合成樹脂被覆鋼管</p> <p>(イ)土間下配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管</p> <p>(ウ)地中配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管 ● ガス用ポリエチレン管</p> <p>● 親メーター ※ 借用 ● 買取（取付け ※ 別途 ● 本工事 ）</p> <p>● 子メーター ※ 買取 ● 借用（取付け ※ 本工事 ● 別途 ）</p> <p>● 縦型 ● 横型 ● 借用 ● 買取</p> <p>● 標準図（施工73）の ● 要領(a) ● 要領(b) ● 要領(c)</p> <p>● 標準図（施工74）の ● 要領(a) ● 要領(b)</p> <p>● 不要 ● 要（ ※ 別途工事 ● 本工事 ）</p> <p>● 小規模合併処理（ ● 分離接触ばっ気方式 ● 嫌気ろ床接触ばっ気方式 ● 脱窒ろ床接触ばっ気方式</p> <p>● その他性能評価を受けた方式（ ）</p> <p>● 合併処理（ ● 接触ばっ気方式 ● 長時間ばっ気方式 ● 回転板接触方式 ）</p> <p>● ユニット型 ● 現場施工型</p> <p>● 処理対象人員 人 ● 処理水量 m³/d</p> <p>● 流入BOD 200mg/L ● 放流水質BOD 20mg/L以下</p> <p>● T-N mg/L以下 ● T-P mg/L以下</p> <p>※ 自然流下 ● ポンプ排水</p> <p>● 砂 ● 根切土の中の良質土</p> <p>● 不要 ● 要（図示による）</p> <p>※ 製造者標準仕様（ロック式） ● MHA型（ボルト式）</p> <p>3ヶ月相当分を納入する。</p>
	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲																																																																																																													
	設計用標準水平震度	● 特定の施設		● 一般の施設																																																																																																												
	設置場所	機器種別	●重要機器	●一般機器	●重要機器	●一般機器																																																																																																										
	上 層 階 屋上、塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0																																																																																																										
		防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																																																																																										
		水 槽 類	2.0	1.5	1.5	1.0																																																																																																										
	中 間 階	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																																										
防振設置機器		1.5	1.5	1.5	1.0																																																																																																											
水 槽 類		1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																																											
地階・1階	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4																																																																																																											
	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6																																																																																																											
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																																											
外気条件		室 内 （ 調 整 目 標 値 ）																																																																																																														
		一 般		（ ）																																																																																																												
温 度	湿 度	温 度	湿 度	温 度	湿 度																																																																																																											
		(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)																																																																																																									
夏 季	℃	%	28.0	℃	成り行き	%	℃	%																																																																																																								
冬 季	℃	%	20.0	℃	成り行き	%	℃	%																																																																																																								
その建築設計事務所	<p>一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号</p> <p>〒683-0852 鳥取県米子市河崎1746-17</p> <p>TEL0859-30-0100 FAX0859-30-0101</p> <p>一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹</p>	<p>件名</p> <p>鳥取県消防学校 実火訓練棟建替工事</p>	<p>図名</p> <p>機械設備工事 特記仕様書(2)</p>	<p>作図</p> <p>板倉</p>	<p>承認</p> <p>承認</p> <p>承認</p>	<p>図面番号</p> <p>M - 02 / 05</p>	<p>令和 7 年 3 月 - 日</p>																																																																																																									





●建築物リスト

No	名称	構造-階数	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	耐火要求	処置
a1	車庫・雨天練習場	S-1	442.48	442.48	準耐火	既存のまま
a2	訓練場	RC-8	115.63	559.05		
a3	危険物貯蔵庫	CB-1	8.10	8.10		
a4	物置1	S-1	9.30	9.30		
a5	屋外トイレ	RC-1	13.03	12.32		
a6	倉庫	S-1	34.66	34.66		
						新築

【敷地A】

●建築物リスト

No	名称	構造-階数	建築面積	延床面積	耐火要求	処置
b1	機械室(浄化槽)	RC-1	8.41	8.41	-	既存のまま
b2	実火訓練棟	S-2	34.76	64.78	-	解体
b3	自転車小屋	S-1	5.04	5.04	-	既存のまま
b4	物置2	S-1	5.88	5.88	-	基礎新設再取付
b5	少量危険物貯蔵取扱所	S-1	4.00	4.00	-	既存のまま
b6	実火訓練棟	RC-2	94.42	160.00	-	新築

【敷地B】

●建築物リスト

No	名称	構造-階数	建築面積	延床面積	耐火要求	処置
c1	本館	RC-2	997.93	1729.88		既存のまま
c2	渡り廊下	S-1	12.00	12.00		
c3	屋内練習場	S-1	727.37	690.00		
c4	補助訓練場	S-7	20.25	141.75		
c5	生徒用昇降口	RC-1	18.02	16.13		
c6	プロパン庫	CB-1	4.47	4.47		

【敷地C】

●工作物リスト

No	名称	処置
A	門扉	既存のまま
aA	ホース洗場	
aB	貯水槽	

【敷地C】

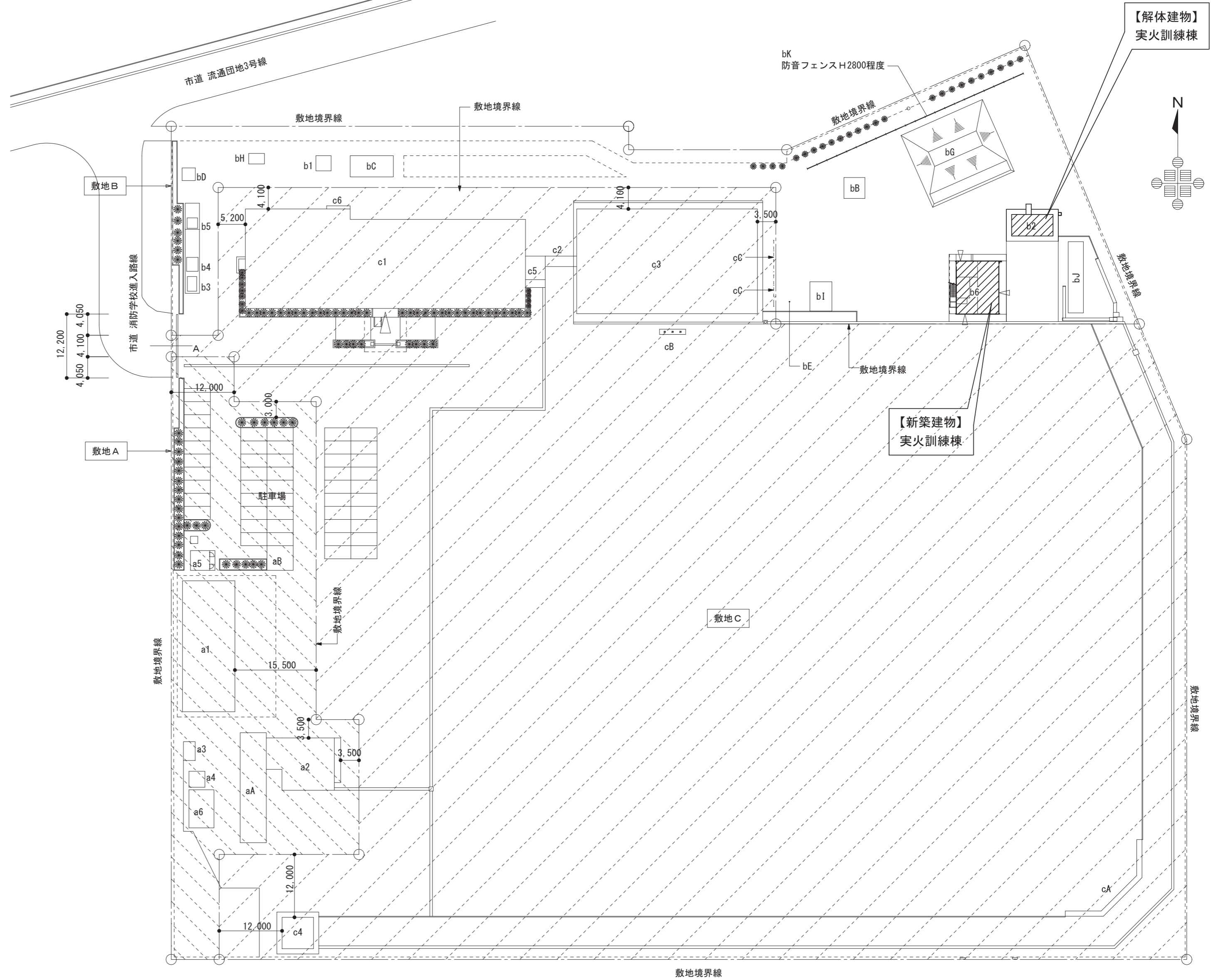
No	名称	処置
A	門扉	既存のまま
cA	バックネット	
cB	国旗掲揚ポール	

●工作物リスト

No	名称	処置
A	門扉	既存のまま
bB	真砂土置場	既存のまま
bC	合併処理浄化槽	
bD	キュービクル	
bE	屋外消火栓	
bG	堤防	既存のまま
bH	ガスタンク	
bI	防火水槽	
bJ	火災体験訓練施設	
bK	防音フェンス	

工事概要

- ・実火訓練棟解体に伴う屋外排水管の撤去
- ・実火訓練棟新設に伴う屋外排水管の新設



全体配置図 S=1:600

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
機械設備工事
付近見取図・全体配置図・工事概要

作図

板倉

承認

承認

承認

承認

図面番号

M-03/05

令和7年3月-日

鳥取県

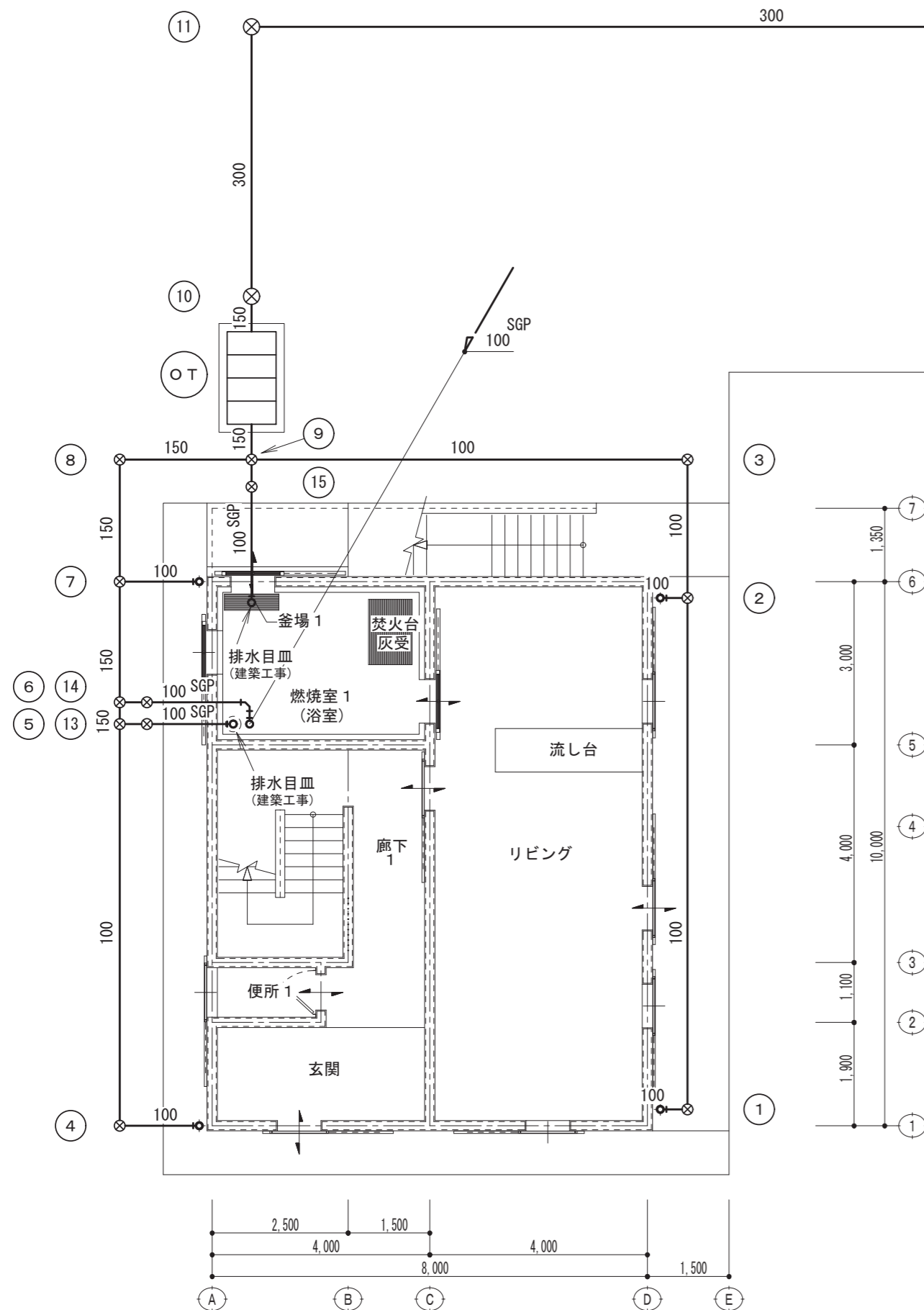
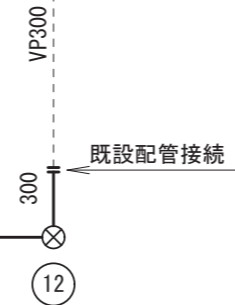
令和6年度

J2400101

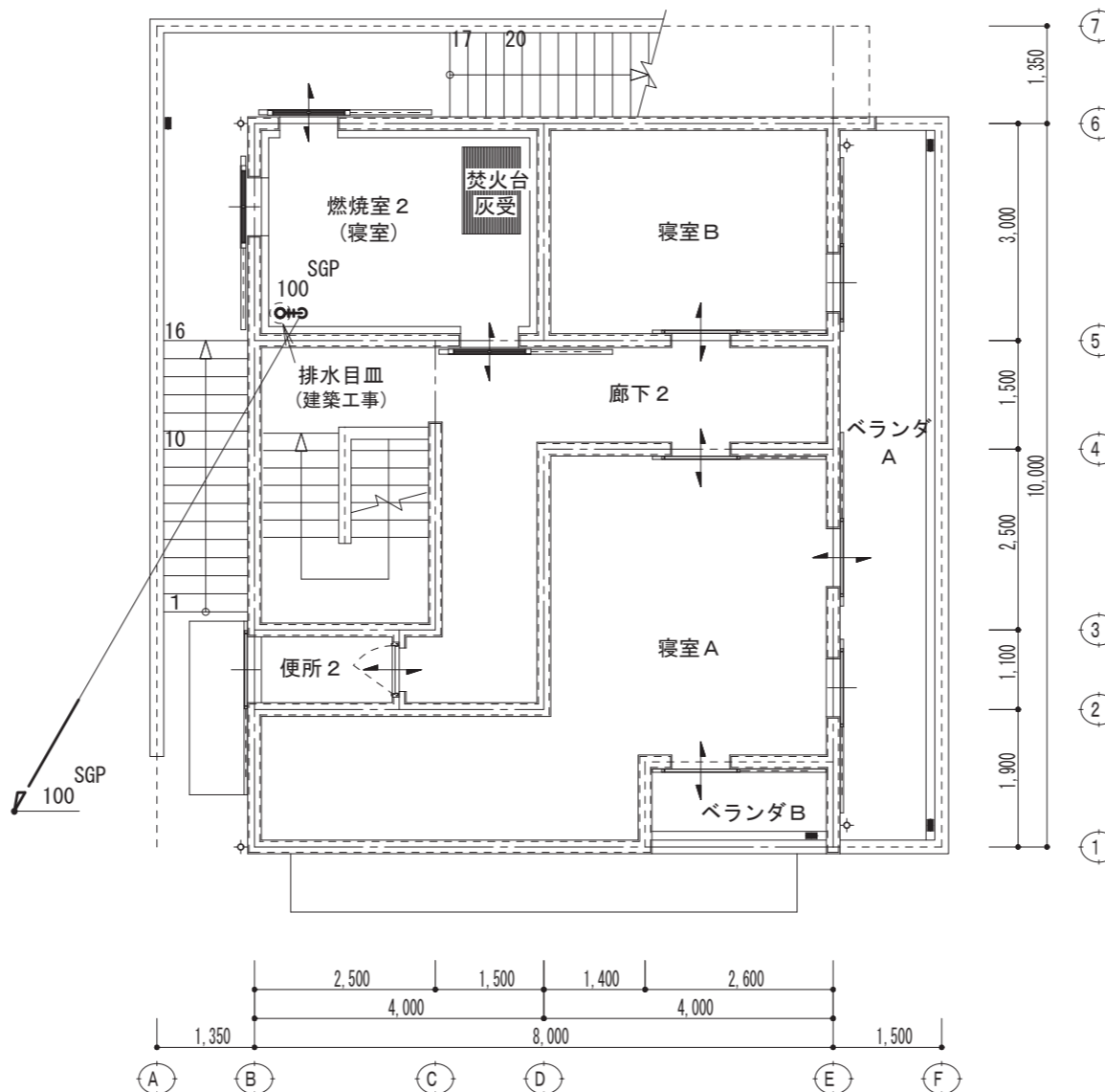
総務部営繕課



既設地下浸透式排水システム
1,000~1,480×10,000×1,200H



1階平面図(建替後) S=1:100



2階平面図(建替後) S=1:100

衛生機器表 (建替後)

記号	名称	機器仕様	数量	備考
○T	オイルトラップ	FRP製4槽式 地中埋設設置 バイプ式	1	設置場所: 屋外
		容量: 500L 許容流入流量: 375.0L/min 許容阻集オイル量25.0L		
		付属品: かさ上げ150H、銅板製防錆塗装蓋3.2t (耐荷重蓋T-6仕様、受枠共)		
		流入・流出口125A→150Aに変更		

各樹寸法表 (建替後)

記号	名称	寸法・蓋	数量	備考
①	雨水樹	100-200φ Lタイプ× 300H (300) 塩ビ蓋	1	小口径樹
②	雨水樹	100-200φ Yタイプ× 320H (320) 塩ビ蓋	1	小口径樹
③	雨水樹	100-200φ Lタイプ× 330H (330) T8蓋	1	小口径樹
④	雨水樹	100-200φ Lタイプ× 300H (300) T8蓋	1	小口径樹
⑤	雨水樹	150-200φ Yタイプ× 320H (320) T8蓋	1	小口径樹
⑥	雨水樹	150-200φ Yタイプ× 320H (320) T8蓋	1	小口径樹
⑦	雨水樹	150-200φ Yタイプ× 330H (330) T8蓋	1	小口径樹
⑧	雨水樹	150-200φ Lタイプ× 340H (340) T8蓋	1	小口径樹
⑨	雨水樹	150-200φ WYタイプ× 350H (350) T8蓋	1	小口径樹
⑩	雨水樹	300-300φ Yタイプ× 540H (540) T8蓋	1	小口径樹 受口プラグ1個付
⑪	雨水樹	300-300φ Yタイプ× 550H (550) T8蓋	1	小口径樹 受口プラグ1個付
⑫	雨水樹	300-300φ Yタイプ× 500H (590) T8蓋	1	小口径樹 受口プラグ1個付
⑬	雨水フィルター樹	100-200φ WYタイプ× 300H (300) T8蓋	1	小口径樹 受口プラグ2個付
⑭	雨水フィルター樹	100-200φ WYタイプ× 300H (300) T8蓋	1	小口径樹 受口プラグ2個付
⑮	雨水フィルター樹	100-200φ WYタイプ× 300H (300) T8蓋	1	小口径樹 受口プラグ2個付

凡例

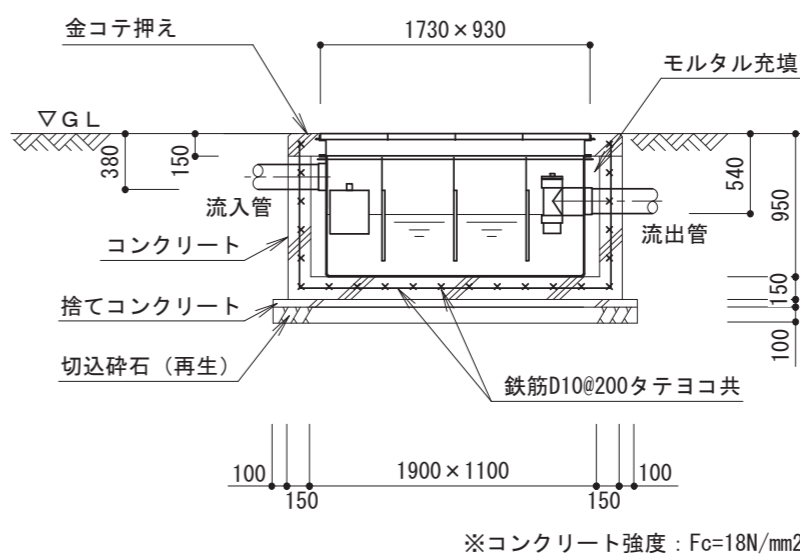
記号	名称	管種
	排水管	屋内一般: SGP-白 (JIS G 3452) 土間下配管: SGP-白 (JIS G 3452) 屋外地中(屋内から第一樹まで): SGP-白 (JIS G 3452) 屋外地中: VP (JIS K 6741)

仕上げ表

管種	場所	仕様
排水管	屋内露出	塗装

特記

- T8は防護蓋とし内蓋共とする。
- ()内は設計GL±0からの深さを示す。
- は新設配管を示す。
- は既設配管を示す。
- ||---は既設配管接続部分を示す。
- 排水目皿(建築工事)接続は本工事とする。
- 既設配管300Aは排水システムまで管内清掃を行うこと。



オイルトラップ据付参考図 S=1:50

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名

鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名

機械設備工事
排水設備 1・2階平面図(建替後),各樹寸法表

作図

板倉

承認

承認

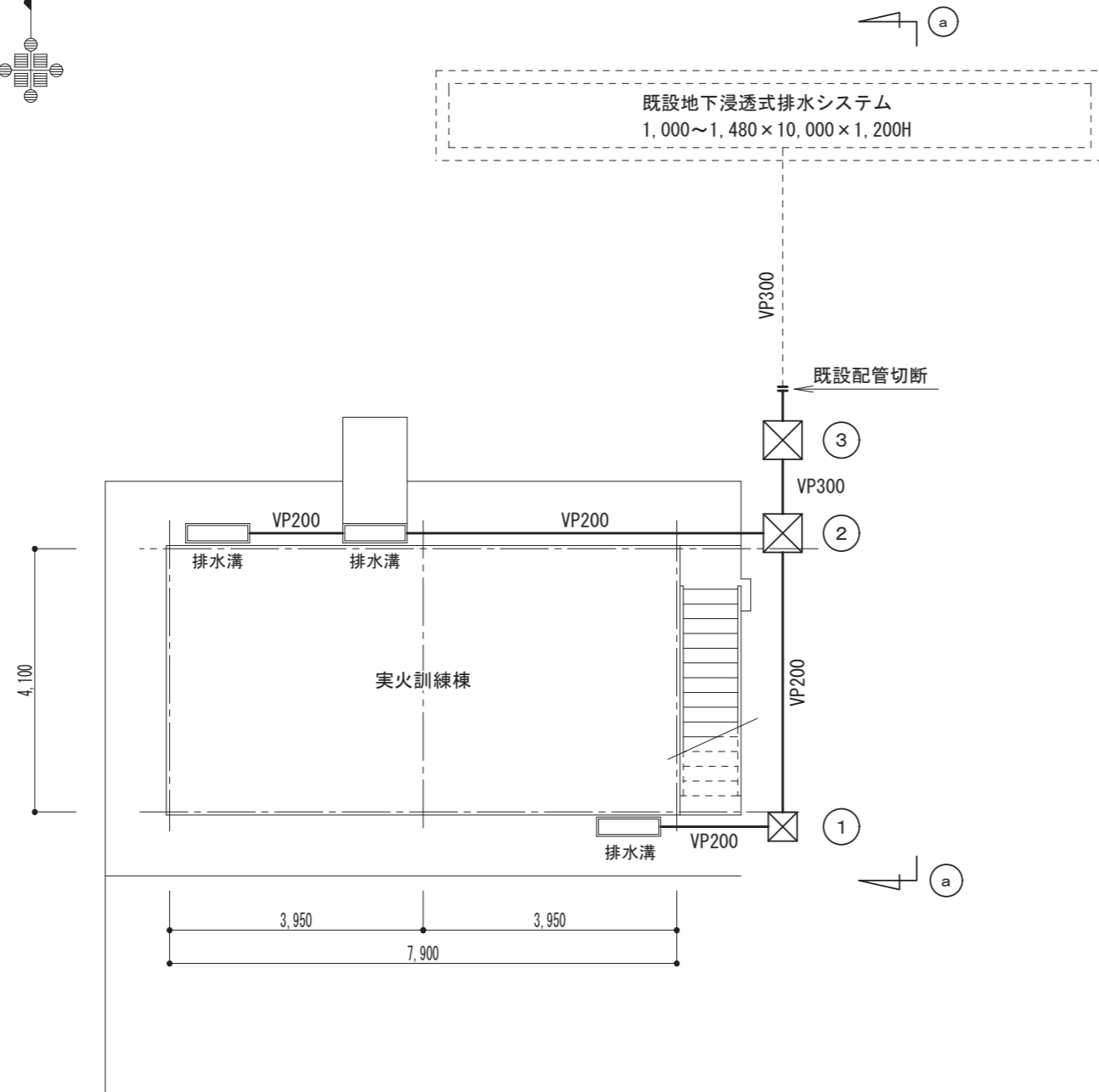
承認

図面番号

M-04/05

令和7年3月-日

鳥取県
令和6年度
J2400101
総務部管轄課



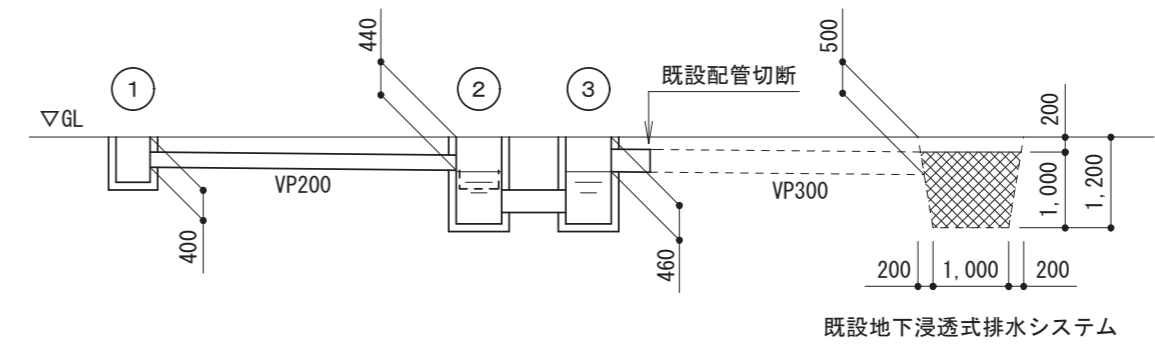
1階平面図(建替前) S=1:100

各樹寸法表 (建替前)

記号	名称	寸法・蓋	数量	備考
①	排水樹	450×450×450H MHA	1	RC樹
②	浮ゴミ樹	600×600×1,000H MHA	1	RC樹
③	沈殿樹	600×600×1,000H MHA	1	RC樹

特記

- 1. ——— は撤去配管を示す。
- 2. - - - - は既設配管を示す。
- 3. - - - | は既設配管切断部分を示す。



① - ① 配管断面図(建替前) S=1:100

その建築設計事務所

一級建築士事務所鳥取県知事登録 第03-1035号

一級建築士登録 大臣登録 第236776号 山本博樹

〒683-0852
鳥取県米子市河崎1746-17
TEL0859-30-0100
FAX0859-30-0101

件名
鳥取県消防学校
実火訓練棟建替工事

図名
機械設備工事
排水設備 1階平面図(建替前)

作図



承認



承認



承認

図面番号 M - 05 / 05

令和 7 年 3 月 - 日

